柏倉芳見沢遺跡柏倉落合遺跡

2 0 0 5

群馬県前橋市教育委員会

柏倉芳見沢遺跡柏倉落合遺跡

2 0 0 5



柏倉芳見沢遺跡の旧石器時代出土石器

柏倉遺跡群は県営柏倉地区土地改良事業に先立って調査が行われたもので、今回は柏倉芳見沢遺跡及び柏倉落合遺跡の報告を行います。柏倉芳見沢遺跡では旧石器時代の文化層や縄文時代前期前半の集落址、古代の炭窯などが、また柏倉落合遺跡では縄文時代の所産とみられる陥し穴など数多くの遺構や遺物が発見され、地域の歴史を知るにあたり貴重な資料が提示できたものと考えます。本報告書が地域の歴史や文化を解明する上での一助となれば幸いかと存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり終始ご指導、ご協力をいただき ました多くの関係者の皆様に厚く感謝の意を表し、序にかえさせていただきます。

平成17年3月

前橋市教育委員会 教育長 中 澤 充 裕

例 言

- 1. 本書では、県営柏倉地区土地改良事業に伴い発掘調査を実施した柏倉遺跡群のうち、群馬県前橋市柏倉町落 合2119ほかに所在する柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡の報告を行う。
- 2. 発掘調査は平成2年度に実施した。本書の作成に係る整理作業は発掘調査終了後断続的に実施し、平成16年 度に報告書の作成を行った。
- 3. 群馬県勢多郡宮城村は、平成16年12月5日に前橋市と合併した。このため、地名等の変更があったが、本文 中では旧地名を用いて表記する。
- 4. 発掘調査並びに整理作業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・前橋土地改良事務所委託金・村費・市費を 使用して実施した。
- 5. 調査組織は次のとおりである。

合併前(~平成16年12月4日)

合併後(平成16年12月5日~)

宮城村教育委員会事務局

前橋市教育委員会事務局

育 長 平林 始

教 育 長 中澤充裕

事 務 局 長 六本木庫一

管 理 部 長 中原惠治(1月1日より課長を兼務)

係 長 内山信也 文化財保護課長 高橋正男(~12月31日)

埋蔵文化財係長 前原 豊

È 任 小川卓也

6. 本書の編集は小川が担当した。執筆については以下の通りである。

第3章第1節第1項・第5章第1節

萩谷千明

第3章第1節第2項3・7~11 第3章第1節第2項1・2・6

阿久澤智和 山崎芳春

第3章第1節第2項4·5

山崎芳春・沼尾真二

第4章

パリノサーヴェイ㈱

上記以外

小川

- 7. 旧石器時代の石器の図化及び旧石器時代の原稿の執筆は、萩谷千明氏(笠懸野岩宿文化資料館)・阿久澤智和 氏・山崎芳春氏・沼尾真二氏が中心となって行っていただいた。
- 8. 旧石器時代及び縄文時代の石器の実測にあたっては、技研測量設計株式会社に一部委託した。
- 9. 縄文時代の石器の石材鑑定は阿久澤智和氏による。
- 10. 自然科学分析はパリノサーヴェイ株式会社による。
- 11. 現場における遺跡の写真撮影は細野高伯氏(現:株式会社シン技術コンサル)が行い、遺物写真は小川がこ れを行った。
- 12. 本報告にかかる出土品・調査記録図面及び写真等は前橋市教育委員会が保管している。
- 13. 本書の作成にあたっては次の諸氏・諸機関より貴重な御指導・御教示を賜った。ここに記して感謝の意を表 します。 (五十音順、敬称略)

相京建史、新井喜昭、有山径世、伊藤順一、井上慎也、今井和久、大川明子、大平理恵、笠原仁史、 加部二生、壁 伸明、川田 強、蔵持大輔、小菅将夫、小林 修、櫻井和哉、斉藤 準、島田志野、 嶋村一志、鈴木徳雄、関根慎二、早田 勉、高橋 敦、高橋清文、谷藤保彦、千葉博俊、富田孝彦、 中里正憲、中島直樹、中島広顕、沼尾真二、萩谷千明、長谷川福次、日沖剛史、福田貫之、保阪太一、 松田 哲、水谷貴之、諸星良一、矢内 勲、山口逸弘、綿田弘美、

技研測量設計株式会社、群馬県教育委員会文化課、助群馬県埋蔵文化財調査事業団、

パリノサーヴェイ株式会社

凡例

- 1. 本書の挿図中の方位記号は座標北を示す。
- 2. 本書に掲載した遺構図・遺物図の縮尺は概ね下記の通りだが、詳細については各図版中のスケールを参照されたい。

遺構全体図 1/400 住居址・土坑 1/60 住居址炉址 1/20 屋外炉 1/40 炭窯 1/80 遺物実測図 $1/1\sim1/4$

- 3. 事実記載中の遺物出土量は、接合関係のあるものは1点とカウントし、同一個体でも接合関係のないものはそれぞれ1点とカウントした。
- 4. 第3図は国土地理院発行1/25,000「鼻毛石」に加筆して使用した。
- 5. 事実記載・土坑一覧表中の数値で、() 付きのものは推定値を表す。また、遺物観察表中の() 付きのものは残存値を表す。
- 6. 第110~112号土坑はスライス調査法を用いて調査を行ったため、平面図は上面半截図と断面図より復元した ものである。このため実際の平面形状とは異なる可能性がある。
- 7. 図版中の表示は次のことを意味し、この他の表示については図中にその意味を記した。

【土器実測図】 ● 繊維混入

目 次

ונע 🗀			
凡例	Ŋ		
hele a str	Streets on Internet		
第1章			•
第1節			1 1
第2質	□ 調査の万法	••••••	1
第2章	遺跡の立地と環境		
第1貿			1
第2頁			3
第3頁			6
2,0 0 2,	1 / Fed / W		•
第3章	検出された遺構と遺物		
第1頁	6 旧石器時代		17
第 1	項 旧石器時代の石器群とその分布		17
第2			20
第2頁			59
第1			59
第 2			80
第3	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		80
第4			113
第3頁			124
第4負	, , , , ,		124
第]	項 炭 窯	•••••	124
加工工	수 사가 수 가 나		
	- 自然科学分析 治倉芳見沢遺跡の台地部のテフラ層序		197
	5部堆積層の堆積年代と古植生の推定		
	最終から出土した炭化材の樹種		
III. 19	(無から田上した)次に何の個個		131
第5章	まとめ		
	5 日石器時代		134
第2頁			135
	挿 図	目 次	
क्ष्य । जिल	细木地上网 9	ない (2017)	净性人体网 1
第1図 第2図	調査地点図2 柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡グリッド	第 6 図 第 7 図	遺構全体図 I ······· 8 遺構全体図 II ······ 9
兎 4 凶	竹昌万見が退跡・竹昌裕台退跡/ リット 設定図3	第8図	遺構全体図III10
第3図	遺跡の位置と周辺の遺跡5	第9図	
第4図	基本土層6	第10図	遺構全体図V
	柏倉芳見沢遺跡·柏倉落合遺跡全体図7		遺構全体図VI······13

第12図	遺構全体図VII14	第52図	第 3 号住居址68
第13図	遺構全体図Ⅷ⋯⋯⋯15	第53図	第3号住居址出土遺物69
第14図	遺構全体図IX16	第54図	第 4 号住居址①71
第15図	旧石器時代試掘坑配置図18	第55図	第 4 号住居址② · · · · · · · 72
第16図	旧石器時代石器分布図20	第56図	第 4 号住居址出土遺物① ······73
第17図	石器分布図①21	第57図	第 4 号住居址出土遺物② ······74
第18図	石器分布図②22	第58図	第 4 号住居址出土遺物③ · · · · · · 75
第19図	細石刃・細石核・接合資料 124	第59図	第 4 号住居址出土遺物④ · · · · · · 76
第20図	細石核原形•石核25	第60図	第 4 号住居址出土遺物⑤77
第21図	削器(1)27	第61図	第 1 号屋外炉80
第22図	削器(2)28	第62図	土坑①82
第23図	削器(3)•搔器29	第63図	土坑②84
第24図	二次加工痕を有する剝片(1)31	第64図	土坑③
第25図	二次加工痕を有する剝片(2)32	第65図	土坑④90
第26図	二次加工痕を有する剝片(3)33	第66図	土坑⑤92
第27図	二次加工痕を有する剝片(4)34	第67図	土坑⑥94
第28図	二次加工痕を有する剝片(5)・微細な剝離	第68図	土坑⑦96
	痕を有する剝片35	第69図	土坑⑧98
第29図	剝片(1)36	第70図	土坑⑨100
第30図	剝片(2)37	第71図	土坑⑩102
第31図	剝片(3)38	第72図	土坑⑪103
第32図	剝片(4)39	第73図	土坑出土土器①106
第33図	剝片(5)40	第74図	土坑出土土器②108
第34図	剝片(6)41	第75図	土坑出土土器③109
第35図	剝片(7)42	第76図	土坑出土石器110
第36図	剝片(8)43	第77図	遺物包含層・遺構外出土土器①114
第37図	剝片(9)44	第78図	遺物包含層・遺構外出土土器②115
第38図	剝片(10)45	第79図	遺物包含層・遺構外出土土器③117
第39図	剝片(11)46	第80図	遺物包含層・遺構外出土土器④ ·······118
第40図	敲石・剝片(12)・接合資料 249	第81図	遺物包含層·遺構外出土土器⑤ ·······119
第41図	接合資料 3 • 4 ·······50	第82図	遺物包含層・遺構外出土土器⑥120
第42図	接合資料 5 • 6 ······51	第83図	遺物包含層・遺構外出土土器⑦121
第43図	接合資料7・852	第84図	遺物包含層·遺構外出土土器® ·······123
第44図	第 1 号住居址60	第85図	遺物包含層・遺構外出土土製品123
第45図	第 1 号住居址出土遺物61	第86図	弥生時代の遺物124
第46図	第 2 号住居址①62	第87図	第 1 号炭窯125
第47図	第 2 号住居址② ·······63	第88図	第 2 号炭窯126
第48図	第 2 号住居址出土遺物①64	第89図	縄文時代前期住居址の規模138
第49図	第 2 号住居址出土遺物② · · · · · · · · · · · · · · · · · 65	第90図	村内縄文時代前期住居址集成①139
第50図	第 2 号住居址出土遺物③66	第91図	村內縄文時代前期住居址集成②140
第51図	第 2 号住居址出土遺物④	\\101E	
VACTE	No - 4 m/H minimality 01		
	挿 表	日歩	•
	1中 42	ログ	•
第1表	旧石器時代石器観察表①54	第3表	旧石器時代石器観察表③56

第 2 表 旧石器時代石器観察表②······55 第 4 表 旧石器時代石器観察表④······57

第5表	旧石器時代石器観察表⑤58	第11表	住居址出土石器観察表② ·····80
第6表	第1号住居址ピット深度計測表59	第12表	土坑出土石器観察表①109
第7表	第 2 号住居址ピット深度計測表63	第13表	土坑出土石器観察表②110
第8表	第3号住居址ピット深度計測表68	第14表	土坑一覧表(1)111
第9表	第 4 号住居址ピット深度計測表70	第15表	土坑一覧表(2)112
第10表	住居址出土石器観察表①79	第16表	縄文時代前期住居址計測表138
第4章		表1 相	白倉芳見沢遺跡L-17グリッドの軽鉱物
	柏倉芳見沢遺跡L-17グリッドの層序およ		且成128
	び試料採取位置127		白倉芳見沢遺跡谷部のテフラ分析結果129
	柏倉芳見沢遺跡L-17グリッドの軽鉱物組		予部埋積物の¹⁴℃年代測定結果 ·····129
	成128		白倉芳見沢遺跡谷部の花粉分析結果130
	柏倉芳見沢遺跡谷部の層序および試料採取		植物珪酸体分析結果130
	位置129	図版 1	柏倉芳見沢遺跡第2号炭窯出土炭化材 …133
図 4	柏倉芳見沢遺跡谷部の植物珪酸体組成130		
	क्ट के का	not or v	.
	写真図	灰日グ	K
P L —	1 1 协会类目沿来时,协会装入来时人具		2
PL-			3. 第10号土坑
PL-	2. 柏倉芳見沢遺跡旧石器時代調査区全景 2 1. 第1号住居址		4. 第11号土坑 5. 第12号土坑
L 17	2. 第1号住居址土層観察状況		6. 第13号土坑
	3. 第1号住居址遺物出土状況		7. 第14号土坑
	4. 第1号住居址炉址		8. 第15号土坑
	5. 第 2 号住居址	P L – 6	
	6. 第2号住居址土層観察状況	I D	2. 第17号土坑
	7. 第2号住居址遺物出土状況		3. 第18号土坑
	8. 第2号住居址炉址		4. 第19号土坑
PL-			5. 第20号土坑
	2. 第3号住居址土層観察状況		6. 第21号土坑
	3. 第3号住居址炉址		7. 第22号土坑
	4. 第4号住居址		8. 第23号土坑
	5. 第4号住居址土層観察状況①	P L — 7	7 1. 第24号土坑
	6. 第4号住居址土層観察状況②		2. 第26号土坑
	7. 第4号住居址遺物出土状況		3. 第29号土坑
	8. 第4号住居址炉址		4. 第31号土坑
PL-	4 1. 第1号屋外炉		5. 第32号土坑
	2. 第1号土坑		6. 第33号土坑
	3. 第2号土坑		7. 第34号土坑
	4. 第3号土坑		8. 第35号土坑
	5. 第4号土坑	P L — 8	3 1. 第36号土坑
	6. 第5号土坑		2. 第37号土坑
	7. 第6号土坑		3. 第38号土坑
	8. 第7号土坑		4. 第40号土坑
PL-	5 1. 第8号土坑		5. 第41号土坑
	2. 第9号土坑		6. 第42号土坑

	8.	第44号土坑
PL-9	1.	第45号土坑
	2.	第47号土坑
	3.	第48号土坑
	4.	第49号土坑
	5.	第50号土坑
	6.	第51号土坑
	7.	第52号土坑
	8.	第53号土坑
PL-10	1.	第54号土坑
	2.	第56号土坑
	3.	第58号土坑
	4.	第59号土坑
	5.	第63号土坑
	6.	第64号土坑
	7.	第66号土坑
	8.	第67号土坑
P L —11	1.	第68号土坑
	2.	第70号土坑
	3.	第72号土坑
	4.	第73号土坑
	5.	第75号土坑
	6.	第76号土坑
	7.	第77号土坑
	8.	第78号土坑
P L —12	1.	
	2.	第80号土坑
	3.	第81号土坑
	4.	第82号土坑
	5.	第83号土坑
	6.	第84号土坑
		第85号土坑
	-	第86号土坑
P L —13		第87号土坑
	2.	第88号土坑
	-	第89号土坑
	-	第90号土坑
		第91号土坑
	6.	第100号土坑

7. 第43号土坑

	1. 分101 ケエグ
	8. 第102号土坑土層観察状況
P L -14	1. 第102号土坑
	2. 第103号土坑
	3. 第104号土坑
	4. 第105号土坑
	5. 第107号土坑
	6. 第108号土坑
	7. 第109号土坑
	8. 第111号土坑土層観察状況
P L —15	1. 第112号土坑
	2. 第1号炭窯
	3. 第1号炭窯土層観察状況①
	4. 第1号炭窯土層観察状況②
	5. 第1号炭窯煙道
	6. 第1号炭窯壁面地割れ痕
	7. 第2号炭窯
	8. 第2号炭窯土層観察状況
P L —16	1. 細石刃核
	2. 細石刃
	3. 細石刃核の接合①
	4. 細石刃核の接合②
P L —17	1. 削器①
	2. 削器②
P L —18	1. 搔器
	2. 二次加工痕を有する剝片
P L —19	1. 微細な剝離痕を有する剝片
	2. 細石核原形
P L —20	1. 接合資料 5
	2. 接合資料2
	3. 接合資料8
P L —21	1. 接合資料7
	2. 接合資料 6
	3. 接合資料3
	4. 接合資料 4
P L —22	1. 第1号住居址出土遺物
	2. 第2号住居址出土遺物
P L —23	1. 第3号住居址出土遺物
	2. 第4号住居址出土遺物

7. 第101号土坑

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

柏倉遺跡群は、大字柏倉及び大字市之関の一部を対象として昭和59年度から実施された県営柏倉地区圃場整備事業に伴って発掘調査が行われた遺跡である。すでに、大字市之関地内の前田地区を対象とした土地改良事業に伴って、昭和62年度~平成元年度にかけて市之関前田遺跡の発掘調査が行われた。平成2年度に土地改良事業が予定されている落合・堀久保地区やその周辺も埋蔵文化財包蔵地が点在しており、事業予定地内の遺構の有無や分布状況を事前に把握するため、平成元年度末に試掘調査を行ったところ、台地のほぼ全面にわたって縄文時代を中心とする遺構が検出され、埋蔵文化財包蔵地であることが確認された。このため、土地改良事業により遺構が破壊されるおそれのある箇所を中心として、村教育委員会により平成2年度に記録保存の措置を講ずることとなった。そして平成2年4月~11月の約7ヶ月の期間を費やして発掘調査を行った。

なお平成2年度の調査対象地が大字柏倉地内の落合・芳見沢の各小字を跨ぐことから、両小字を区切る谷地形 を遺跡の境界とし、谷の東の台地を柏倉落合遺跡、谷の西の台地を柏倉芳見沢遺跡として遺跡名称を付した。

第2節 調査の方法

調査にあたっては、国家座標IX系に準拠したグリッドを設定した。柏倉落合遺跡は $10m \times 10m$ 、柏倉芳見沢遺跡は $5m \times 5m$ のグリッドを設定している。グリッド名は、各遺跡毎に東西方向は $A \cdot B \sim Z \cdot a \cdot b$ …のように大文字アルファベット及び小文字アルファベットを用いて設定し、南北方向では $1 \cdot 2 \cdot 3$ …のように算用数字を用いて設定した。そしてグリッド名は、【Y軸上の大(小)文字アルファベット】一【X軸上の算用数字】、D-13のように表現した。なお柏倉落合遺跡の東西方向のグリッドは西→東へと $A \cdot B$ …と設定したのに対し、柏倉芳見沢遺跡は東→西へと $A \cdot B$ …と設定している。このためグリッド名称は、柏倉落合遺跡では北西隅の杭をもって呼称し、柏倉芳見沢遺跡は北東隅の杭をもって呼称した。また両遺跡とも同様なグリッド名を設定していて混同しやすいため、本報告では柏倉落合遺跡のグリッド名はゴシック体を用いて表記し、柏倉芳見沢遺跡のグリッド名は明朝体を用いて表記した(第2図参照)。なお各調査区は発掘調査時には名前を付さず、整理作業時に便宜上柏倉落合遺跡1区 \cdot 2 区、柏倉芳見沢遺跡 1 区 \cdot 2 区 \cdot 3 \cdot 3 \cdot 3 \cdot 3 \cdot 5 \cdot 3 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 5 \cdot 7 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 7 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 9

調査は、まず重機を使用して表土除去を行い、その後ジョレンがけにより遺構検出・プランの確認につとめ、 土層観察用のベルトを設定して各遺構の調査を行った。

旧石器時代の調査は柏倉芳見沢遺跡1区を対象としてテストピットをあけ、遺物が検出された箇所は随時拡張 する方法をとった。

遺跡の記録図面は、遺構の実測図はS=1:20を基本として、必要に応じてS=1:10の詳細図を作成した。また、調査区の全体図はS=1:200で作成した。

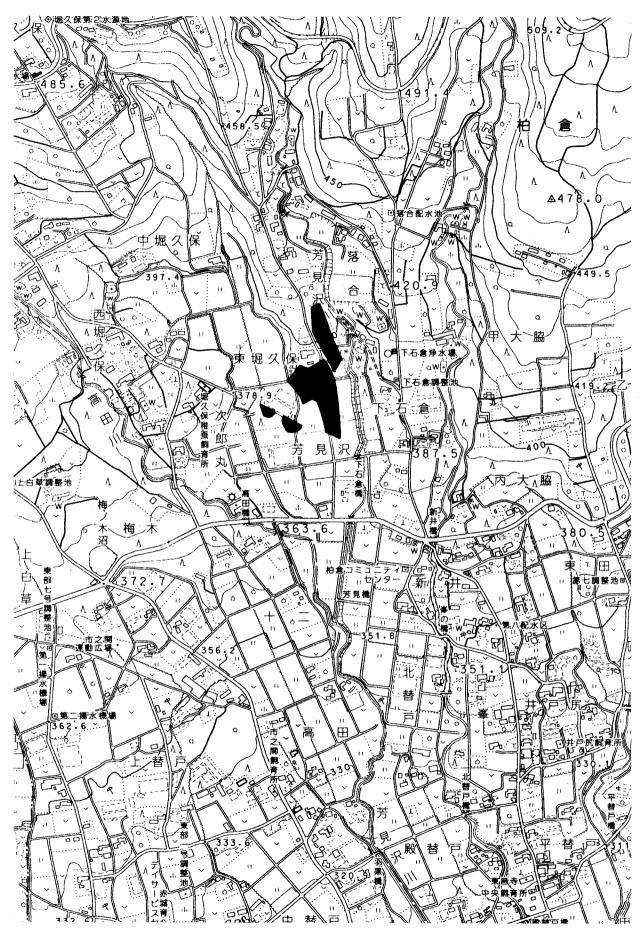
遺構の記録写真は35㎜のモノクロ・カラースライドの2種類のフィルムを用いて逐次撮影を行った。また遺跡全体の航空写真の撮影も行った。

また遺跡の性格や内容の具体化を図るため、①柏倉芳見沢遺跡台地部のテフラ層序②谷部堆積層の堆積年代と古植生の推定③柏倉芳見沢遺跡検出の炭窯出土炭化材の樹種同定について、自然科学分析を行った。分析結果報告は第4章に掲載した。なお調査より十数年が経過しており、自然科学分野も当時と比較して著しい研究の進展がみられる。そこで当時の分析結果に新たな知見を盛り込むため、本報告にあたっては、分析を依頼したパリノサーヴェイ株式会社に再校正を行っていただいた。

第2章 遺跡の立地と環境

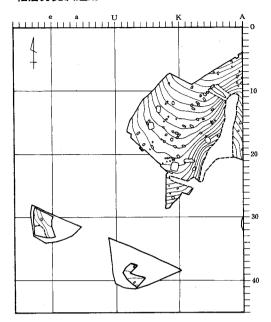
第1節 遺跡の位置

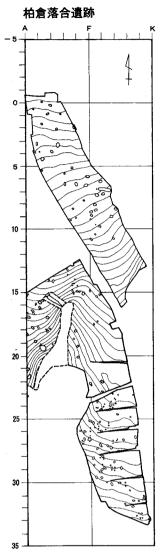
柏倉落合遺跡及び柏倉芳見沢遺跡の所在する群馬県勢多郡宮城村は、上毛三山の一つに数えられる赤城山南麓のほぼ中央に位置し、西~南西を大胡町と、東~南東で粕川村と、北で富士見村とそれぞれ接している。東西5.5



第1図 調査地点図(S=1:10,000)

柏倉芳見沢遺跡





第2図 柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡グリッド設定図 (S=1:3,000)

km・南北18.0kmの南北に長く伸びた村で、総面積は48.15kmである。

宮城村の地形を概観すると大きく二大別される。河川の浸食がさかんに行われ、急傾斜な山稜をなす山腹部と、火山噴出物や河川の堆積物によって形成され、放射谷が発達しその間に原形面が残る、緩傾斜をなす山麓部とに分けられ、およそ標高550mほどの傾斜変換点をその境とする。山麓部では、カルデラ内の小沼より流出して宮城村と粕川村の境界を南下する粕川や、荒山下から流出する荒砥川によって運ばれた岩屑や砂礫が堆積して扇状地を形成している。また大穴川や芳見沢川など多くの中小河川によって形成された開析谷が発達している。

柏倉落合遺跡・柏倉芳見沢遺跡は、その東側を芳見沢川により、また西側〜南側を高田川とその支流によって挟まれた、標高380〜410m程の南傾斜する舌状台地上に占地し、台地南側にて芳見沢川と高田川が合流する。また台地中央には湧水により開析された谷地形が認められ、この谷地形の東側に柏倉落合遺跡が、西側に柏倉芳見沢遺跡がそれぞれ占地する。

第2節 周辺の遺跡

本村では、相沢忠洋氏により発見された桝形遺跡の調査や群馬大学尾崎研究室による発掘調査、群馬県遺跡台帳作成に伴う分布調査を経て、昭和62年度に行われた土地改良事業に伴う柏倉遺跡群の発掘調査を皮切りに、村内遺跡発掘調査事業がスタートし、現在までに多くの遺跡が次々と発見・調査されている。ここでは本遺跡周辺の歴史環境を構成する遺跡を概観したい(第3図参照)。

【旧石器時代】

本書にて報告を行う柏倉芳見沢遺跡(2)と同様、旧石器時代最終末の細石器文化の遺跡が発見・調査されている。故相沢忠洋氏により発見され、学史的にも著名な桝形遺跡(3)をはじめとして、苗ヶ島大畑遺跡(4)、市之関前田遺跡(5)、市之関吉ヶ沢遺跡(6)等がある。

【縄文時代】

本村では縄文時代の遺跡が最も多く、集落として、また安定した生産域として、本村全体を活発に利用していたことが窺える。その要因としては、本村が、狩猟採集活動において良好な食物提供空間である赤城山南麓に位置していることや、宮城村南部では関東周辺地域まで眺望が可能で、周辺のあらゆる地域との交流が容易であったことが挙げられよう。時期毎の遺跡の分布をみてゆくと、前期までの遺跡は、本村中部の標高300m以上の地域に分布しているのに対し、中期以降は、本村南部の標高300m以下の比較的低標高の地域に分布する傾向が窺える。時期を追って代表的な遺跡を概観したい。

草創期:僅か1遺跡のみで、市之関前田遺跡(5)にて爪形文土器や柳葉形の槍先形尖頭器が出土しているのみである。

早期:草創期に較べ、時期が下るに従って遺跡数は大きく増加する。代表的な遺跡としては、苗ヶ島大畑遺跡(4)や柏倉落合遺跡(1:本報告)が挙げられる。前者は、条痕文系土器期の住居址や炉穴・袋状土坑・集石土坑・陥し穴等が検出され、田戸下層式土器等の沈線文系土器や押型文土器、鵜ガ島台式~茅山上層式の条痕文系土器が多量に出土している。また後者では、包含層遺物ながら撚糸文土器や鵜ガ島台式土器等の条痕文系土器が多量に出土している。その他市之関前田遺跡(5)や苗ヶ島白山遺跡(7)・同Ⅲ遺跡(8)等で沈線文~条痕文期の土器が少量ながら出土している。

前期:早期に続き遺跡の数が多いが、前期前葉~中葉の遺跡が多く、後半期の集落は発見されていない点に特徴がみられる。前葉の二ツ木式期では柏倉芳見沢遺跡(2:本報告)等があり、該期の住居址4軒が検出されている。後続する関山式期では、村指定史跡で学史上著名な市之関遺跡(指定名称:市之関縄文前期遺跡/10)や、その南方に位置する市之関前田遺跡(5)等があり、それぞれ住居址等が検出されている。中葉の黒浜・有尾式期では、該期の住居址や土坑等が検出された柏倉大沢遺跡(11)がある。後半の諸磯式期の遺跡としては市之関前田遺跡(5)があり、諸磯a式土器が僅かに出土している。その他数遺跡にて前期末葉~中期初頭の遺物が少量出土している。

中 期:大規模な集落がみられるようになる。中期前半~中葉の代表的な遺跡としては鼻毛石中山遺跡(13)がある。環状を呈する集落で、翡翠製の大珠が検出された中央広場を中心として、土坑群が環状に配置され、その外側に住居址が巡る構成をとる。また遺跡の南半部において、盛土遺構も確認されている。中期後葉の遺跡としては鼻毛石鎌田 II 遺跡(14)や市之関前田遺跡(5)があり、前者は加曽利 E I ~ E II 式期の集落とみられ、後者では加曽利 E III~ E IV 式期の住居址が24軒検出され、それぞれ拠点的な集落の一つと考えられる。その他大前田上十二遺跡(15)や大前田天神遺跡(16)でも中期の土坑等が検出されている。

後 期:中期に較べて遺跡数は減少するが、馬場東矢次 $I \cdot II 遺跡$ (18) より、包含層遺物ながら堀之内式〜安行式期の遺物が多量に出土している。また、市之関前田遺跡 (5) や鼻毛石中山遺跡 (13) からも後期の遺物が少量出土している。

晩 期: 晩期の遺跡の調査は行われていないが、大字鼻毛石地内の荒砥川沿いの本郷地区にて少量表採されている。

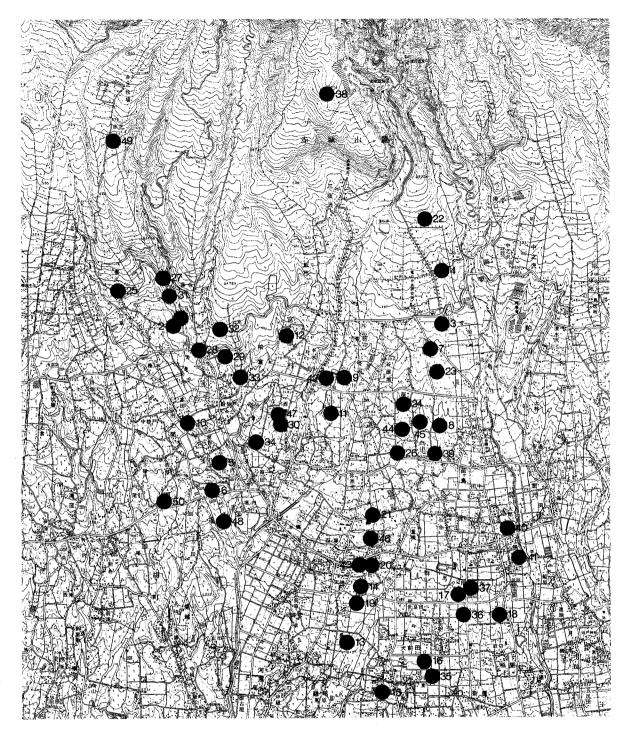
なお縄文時代の所産と見られる陥し穴は村内各地で検出されており、上述の苗ヶ島大畑遺跡(4)をはじめとして、苗ヶ島大畑II遺跡(22)・苗ヶ島白山II・III遺跡(23・8)・柏倉落合遺跡(1:本報告)・柏倉芳見沢遺跡(2:本報告)・柏倉相吉遺跡(27)・柏倉下石倉遺跡(28)・柏倉大沢遺跡(11)・柏倉(市之関)十文字遺跡(25)・市之関前田遺跡(5)・市之関吉ヶ沢遺跡(6)・鼻毛石弥源司遺跡(26)・鼻毛石赤坂 I 遺跡(21)・鼻毛石鎌田 I 遺跡(19)・鼻毛石鎌田III遺跡(20)・鼻毛石中山遺跡(13)等多くの遺跡で検出されている。

【弥生時代】

弥生時代の遺跡は発見されていないが、柏倉芳見沢遺跡(2:本報告)や柏倉(市之関)十文字遺跡(25)で 中期後半〜後期の土器片が出土している。

【古墳時代】

古墳時代に入っても遺跡数はあまり増加しないが、中期の祭祀遺跡であり、群馬県指定史跡である櫃石遺跡(38)



- 1 柏倉落合遺跡 2 柏倉芳見沢遺跡 3 桝形遺跡 4 苗ヶ島大畑遺跡 5 市之関前田遺跡
- 6 市之関吉ヶ沢遺跡 7 苗ヶ島白山遺跡 8 苗ヶ島白山III遺跡 9 柏倉大沢II遺跡 10 市之関遺跡
- 11 柏倉大沢遺跡 12 柏倉殿林遺跡 13 鼻毛石中山遺跡 14 鼻毛石鎌田II遺跡 15 大前田上十二遺跡
- 16 大前田天神遺跡 17 馬場西山遺跡 18 馬場東矢次 $I \cdot II 遺跡$ 19 鼻毛石鎌田 I 遺跡 20 鼻毛石鎌田 III 遺跡
- 21 鼻毛石赤坂 I 遺跡 22 苗ヶ島大畑 II 遺跡 23 苗ヶ島白山 II 遺跡 24 苗ヶ島片並木 II 遺跡
- 25 柏倉(市之関)十文字遺跡 26 鼻毛石弥源司遺跡 27 柏倉相吉遺跡 28 柏倉下石倉遺跡
- 29 柏倉新井橋遺跡 30 柏倉西房遺跡 31 No.2227遺跡 32 No.2228遺跡 33 No.2229遺跡 34 No.2230遺跡
- 35 No.2236遺跡 36 No.2237遺跡 37 No.2250遺跡 38 櫃石遺跡 39 白山古墳 40 新山 I · II号墳
- 41 古屋敷古墳 42 №2239遺跡 43 一本木土師遺跡 44 苗ヶ島片並木遺跡 45 苗ヶ島山王遺跡
- 46 鼻毛石赤坂II遺跡 47 柏倉甲大前遺跡 48 市之関吉沢遺跡 49 No2238遺跡 50 No2251遺跡

第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡(1:50,000)

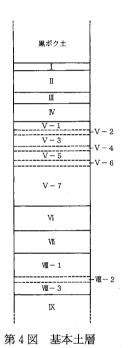
では、手捏ね土器や滑石製模造品等の祭祀遺物が豊富に出土している。また古墳としては、白山古墳 (39)・新山 I・II号墳 (40)・古屋敷古墳 (41) があり、白山古墳では佐波理鋺や和同開珎・蕨手太刀等の特異な遺物が出土している。

【奈良・平安時代】

奈良・平安時代になると遺跡数は若干ながら増加し、再び生活域・生産域として本村が利用されるようになる。 集落遺跡としては、苗ヶ島片並木遺跡(44)や苗ヶ島山王遺跡(45)・市之関(柏倉)十文字遺跡(25)・市之関 前田遺跡(5)・一本木土師遺跡(43)等があり、いずれも9~10世紀を中心とした集落である。また市之関(柏 倉)十文字遺跡は、付近で小金銅仏が表面採集されているなど、その集落の性格に特異性がみられる。生産址遺跡としては、県内の生産址遺跡の先駆的調査ともなった、村指定史跡の苗ヶ島片並木遺跡(指定名称:片並木製鉄跡/44)があり、製鉄炉や住居址等が検出されている。また炭窯は多くの遺跡で検出されており、柏倉芳見沢遺跡(2:本報告)や柏倉甲大前遺跡(47)・市之関吉沢遺跡(48)等で検出されている。

【中近世】

中近世の遺跡としては市之関前田遺跡(5)があげられ、中近世の所産と見られる堀跡・溝跡や近世の掘立柱 建物跡等が検出されている。また村内数箇所で城跡・砦跡等が発見されている。



第3節 基本層序

柏倉芳見沢遺跡L-17グリッドの土層観察図をもとに、パリノサーヴェイ株式会社による自然科学分析結果報告を参考にして作成した本遺跡の基本層序を第4図に示す。詳しくは第4章を参照されたい。なお黒ボク土より上位の層序は不明のため、ローム層中の基本層序のみを示すこととする。

I層 As-YP。

II層 As-YP · As-SP 混。

III層 As-SP。

IV層 As-SP · As-BP 混。

V層 As-BP グループ。軽石の粗密等により 7 層に分層が可能。中でも V -3 層は最も顕著に As-BP を含む。

VI層 色調の薄い暗色帯。粘性強く、スコリア・小礫を多く含む。分析の結果、下位に AT を含む。

VII層 暗色带。

VⅢ層 ローム層。色調等により3層に分層が可能。

IX層 Hr-HP。

引用・参考文献

群馬県教育委員会 1973 『群馬県遺跡地図』

群馬県教育委員会 1991 『柏倉大沢遺跡』

群馬県教育委員会ほか 1999 『馬場東矢次Ⅱ遺跡・新川鏑木遺跡・井出二子山古墳・保渡田八幡塚古墳』

群馬県史編さん委員会 1986 『群馬県史 資料編2 原始古代2』

群馬県史編さん委員会 1988 『群馬県史 資料編1 原始古代1』

群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編1 原始古代1』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『年報11』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 『年報12』

宮城村誌編集委員会 1966 『宮城村の古墳』

宮城村誌編集委員会 1969 『片並木遺跡―赤城山南面の製鉄遺跡―』

宮城村 1973 『宮城村誌』

宮城村教育委員会 1954 『市之関遺跡』

宮城村教育委員会 1981 『桝形遺跡調査報告書』

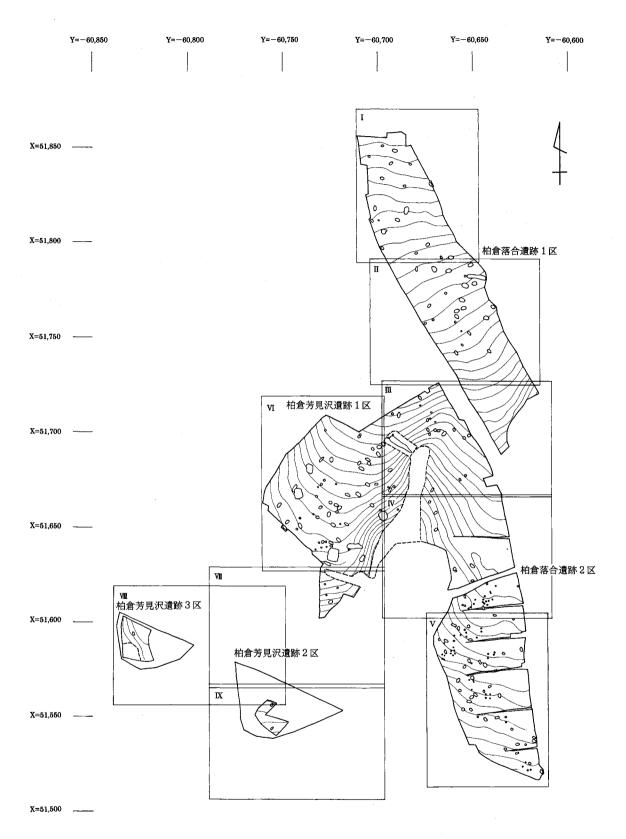
宮城村教育委員会 1991 『市之関前田遺跡 I 』

宮城村教育委員会 1992 『市之関前田遺跡III』

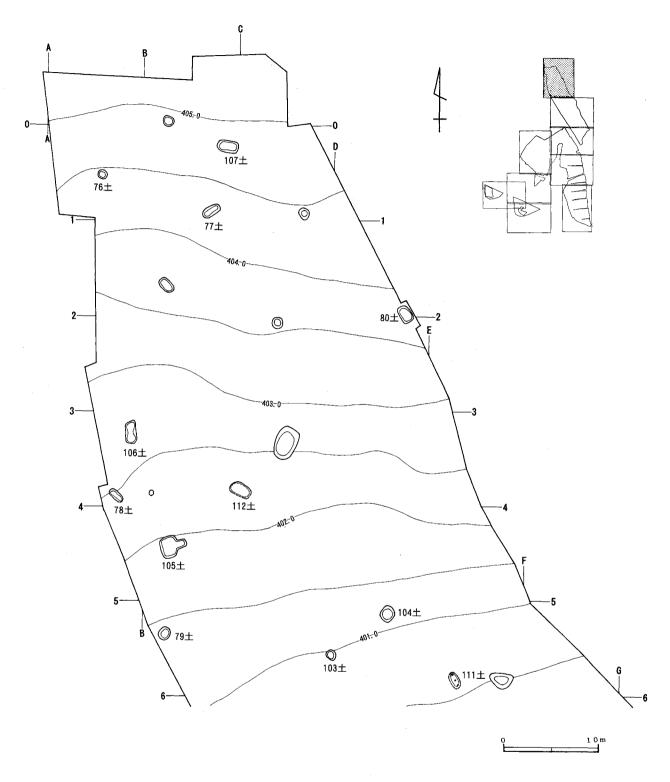
宮城村教育委員会 1994 『苗ヶ島大畑遺跡』

宮城村教育委員会 1994 『田ヶ島人畑遺跡』 宮城村教育委員会 1996 『鼻毛石中山遺跡』

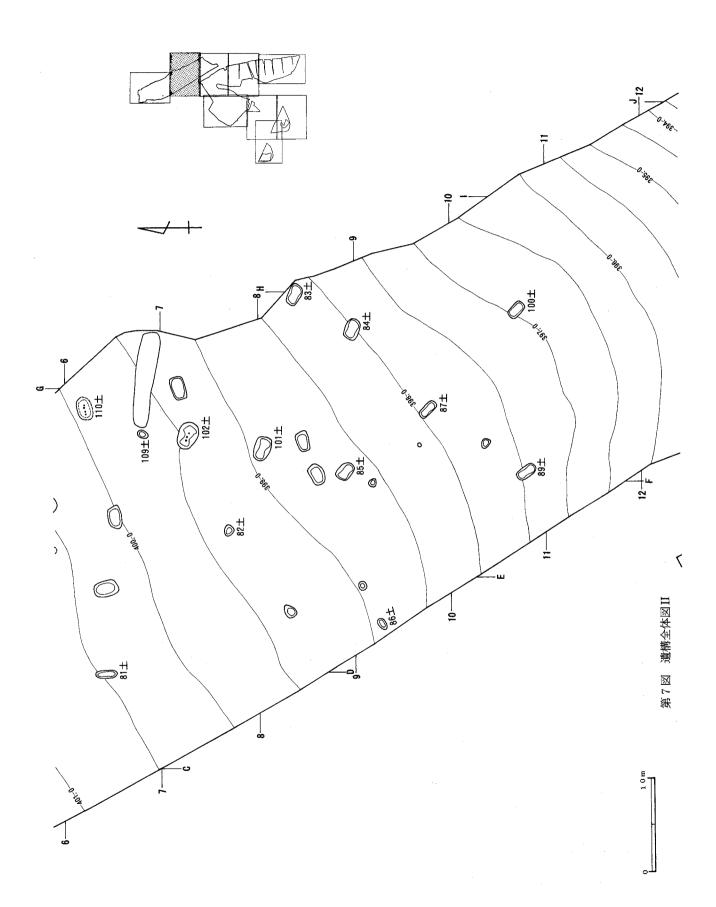
宮城村教育委員会 2004 『鼻毛石赤坂遺跡』

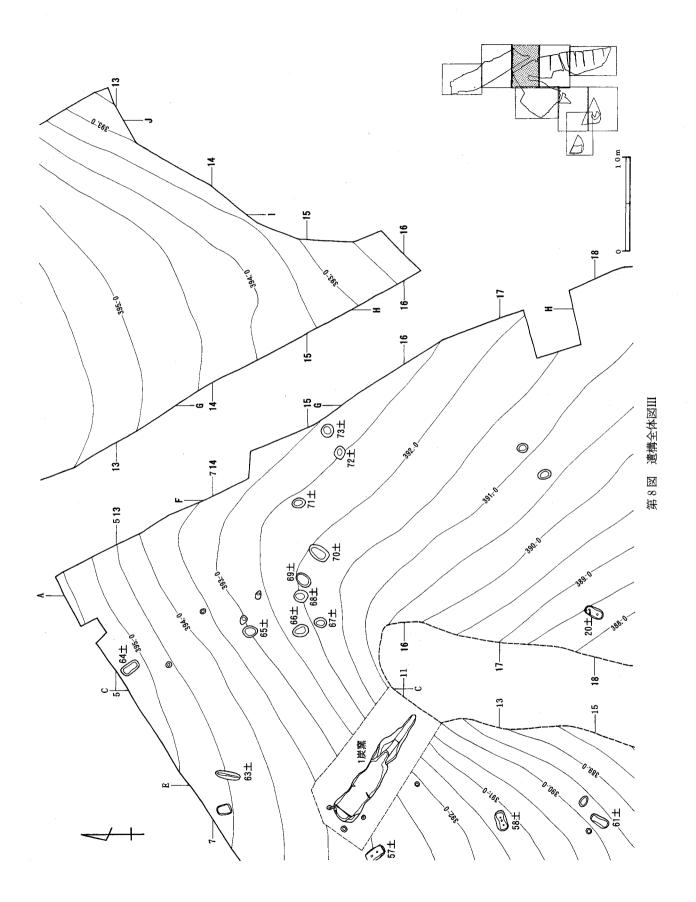


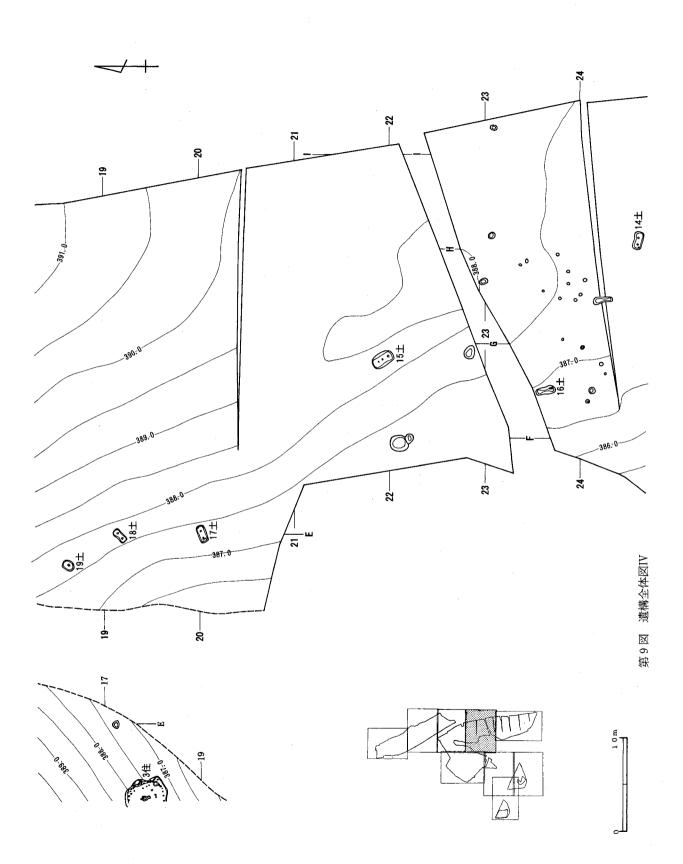
第5図 柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡全体図(S=1:2,000)

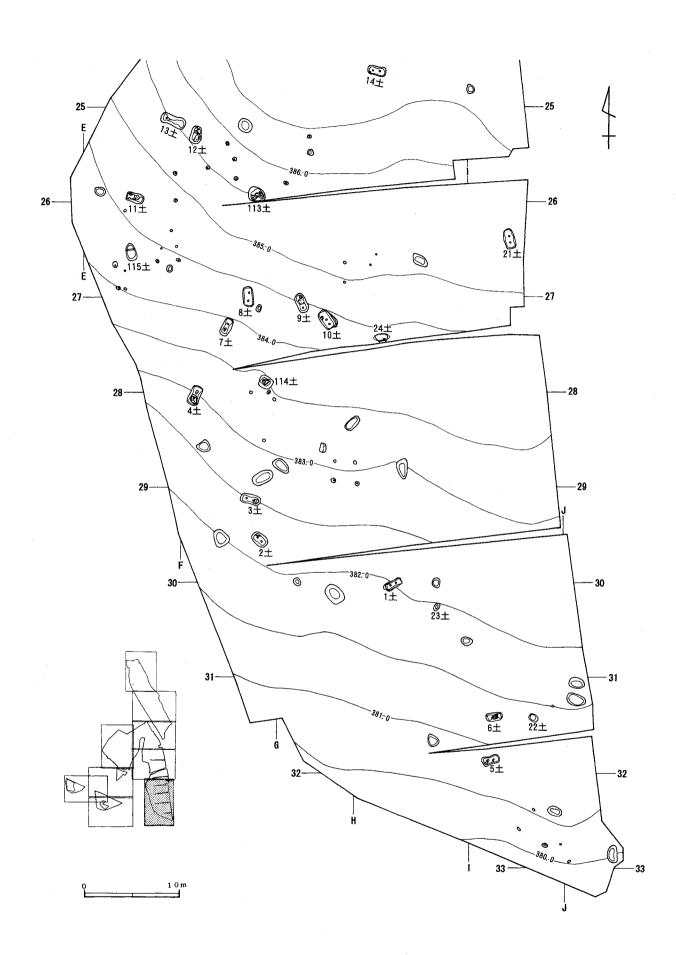


第6図 遺構全体図I

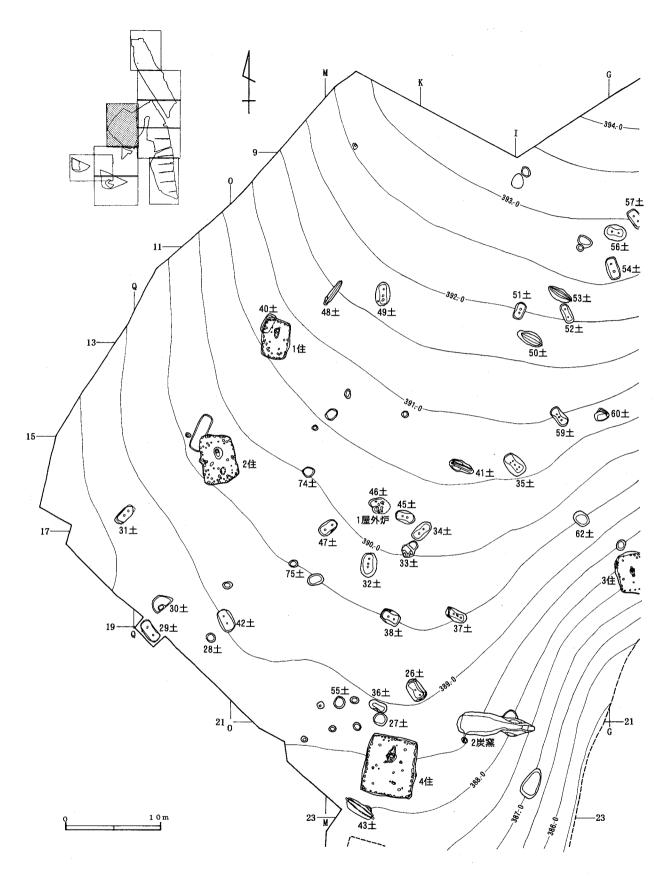




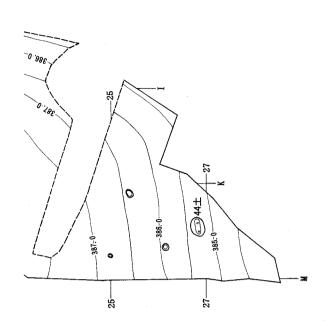


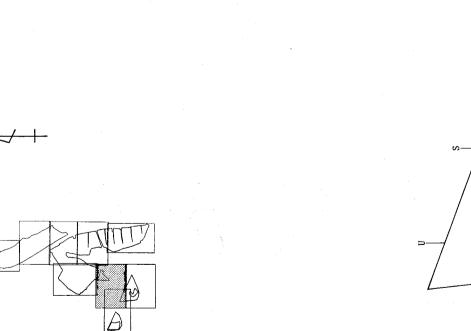


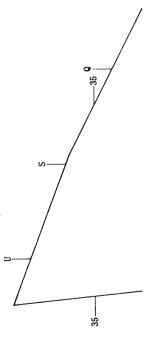
第10図 遺構全体図V

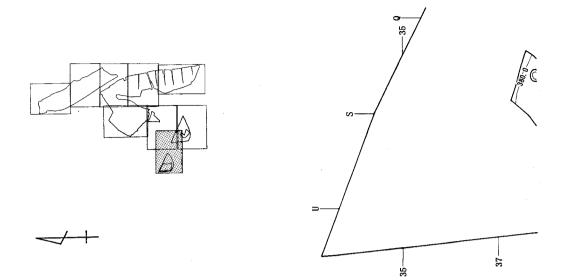


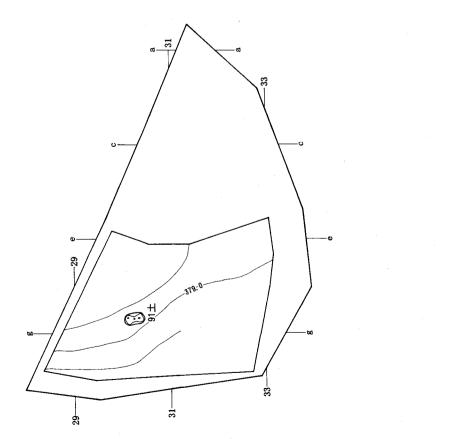
第11図 遺構全体図VI

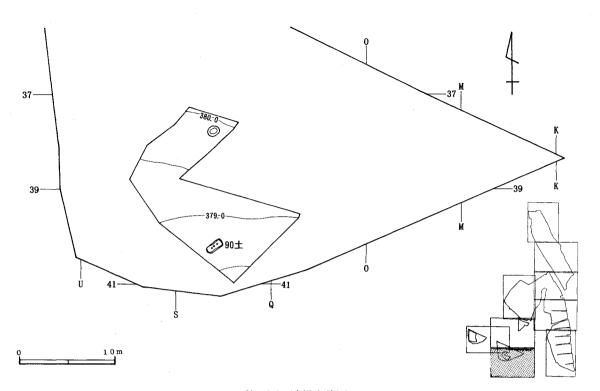












第14図 遺構全体図IX

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代

第1項 旧石器時代の石器群とその分布

旧石器時代の調査により関東ローム層から検出した資料は249点である。このうち、火山ガラスやイモ石と俗称される小礫のように火山の噴火や風など自然の営力によりもたらされた可能性の高い資料を除いた遺物は総数189点である。その内訳は、細石刃3点、細石刃核6点(細石刃核原形4点を含む)、石鏃1点、削器10点、掻器2点、二次加工痕を有する剝片および微細な剝離痕を有する剝片13点、礫器1点、剝片・砕片140点(うち石刃状を含む縦長剝片が50点)、敲石2点、石核1点の以上が石器群、土器片1点、そして9点の礫である。そのほか、縄文時代以降の遺構から出土した削器1点が旧石器時代のものと考えられる。

K18グリッドからは石鏃が出土している(第16図)。この資料は発掘調査当初は石槍の先端部の可能性があると思われたものである(細野1990)。素材となる剝片に周辺加工を施し整形されたもので、基部の横断面が三日月状をなし、基部にもわずかながら調整加工を施した痕跡が認められる。また、第3ブロック内からは土器片が1点出土している。この資料は胎土に植物繊維を含むもので、表面には棒状工具による刺突が3か所観察され、風化による剝落があるものの内面には潰しによる平滑調整が認められる。この土器片は縄文時代前期の二ツ木式土器として理解されるものである。旧石器時代の遺物の出土した平坦面を取り囲むように二ツ木式期の住居跡が4軒見つかっていることなどから、こうした石鏃や土器片は縄文時代の遺物が木の根や小動物などによる攪乱により関東ローム層最上部相当の深度に落ち込んだものと理解することができるものである。

その他ブロック外の出土遺物は小さな剝片・砕片を主とする。黒曜石製の砕片などもあるが、風化の度合いが 小さく、縄文時代の遺物が同様の理由で関東ローム層最上部相当の深度に落ち込んだ可能性も考えられる。

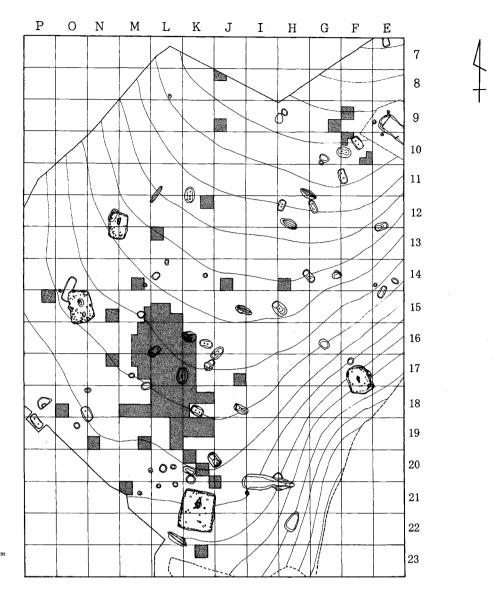
ブロック内外の遺物にはこうした縄文時代の資料も一部混在するが、柏倉芳見沢遺跡の石器群は、各ブロックに大形の石刃状の縦長剝片とそれを素材とした剝片石器が出土する共通性、第1ブロック・第2ブロックにおいて細石刃や細石刃核(原形を含む)といった特徴的な石器をもつことや、各ブロックにおける石器群が関東ローム層最上部に出土層準をもつことから旧石器時代終末期の石器群であるとするのが妥当であろう。以上の理由から、以下本稿では、各ブロックから出土した石器群167点および礫8点、ならびに包含層外出土の削器1点を中心に記述を行いたい。

各ブロックから出土した石器群は、剝片石器においては利根川水系上流の赤谷層に原産地をもつ黒色頁岩、武 尊山系に原産地をもつ黒色安山岩、頁岩、珪質頁岩、チャート、東北日本に産出地のある硬質頁岩を石器石材と しており、バラエティーに富んでいるが、黒色頁岩を主体とし167点中147点を占める。

これら黒色頁岩の石器群については個体別資料への分類を試みた。全点の分類は困難であったが、接合資料や単独出土の個体別資料を中心に a から y まで25個体に分類した。黒色頁岩以外の石材を用いた石器はチャートの砕片を除き、石刃状の縦長剝片や製品としての石器として、石器群内に単独の個体別資料として存在するもので搬入品と考えられるものである。なお、個々の石器の個体別資料分類については54~58頁に掲載された遺物観察表を参照されたい。

なお、遺物観察表には各グリッドにおける出土位置を×座標(東西)、У座標(南北)、Z座標(標高)として記載している。今後詳細な分析をする場合利用していただきたい。

各ブロック間の関係については、ブロック間で接合する資料が認められなかったこと、ブロック間に共有された個体別資料は、第2・第3ブロック間に1例(第36図73、74 黒色頁岩d)確認されたのみであるが、分類が



第15図 旧石器時代試掘坑配置図

困難であったものの中に複数ブロック間に共有された個体別資料が存在する可能性がある。

また、各ブロックを構成する石器群の器種の構成が大形の石刃状の縦長剝片とその加工品を主体とする点、第 1・第 2 ブロックに縦長剝片の頭部や末端を素材とした細石刃核および細石刃核原形が存在することのように細石刃技法にも共通する点が認められるため、各ブロック間の時間的関係は併存と理解してもよいだろう。

柏倉芳見沢遺跡で検出された石器群は、旧石器時代終末期細石刃文化期、群馬県における岩宿時代(旧石器時代)編年(岩宿フォーラム実行委員会編1994)における第IV期(萩谷1994)に比定される。

第1ブロック(第17図左)

L16グリッド中部から北部にかけて、西北西から東南東にかけて長径をもったほぼ楕円形状の石器群の分布を示す。ブロックの規模は長径3.5mほど、短径は北東から南西方向に2.5mほどと捉えられた。66点の遺物を検出したが、その内訳は、細石刃2点、細石刃核3点(細石刃核原形は2点)、二次加工痕および微細な剝離痕を有する剝片3点、礫器1点、剝片・砕片51点(うち縦長剝片4点)、敲石2点、礫4点である。

ブロック内には長径26~43cmの角礫および亜角礫3点が検出され、ブロックの中央から出土した2点は礫の稜上に剝離痕が認められた。東端から出土した1点には明瞭な潰れ痕や剝離痕を観察することができなかったが、それぞれ台石である可能性が考えられるが、ここでは配石として捉えておきたい。

石器群はブロックの中央と周辺とで極端な粗密の差は認められないものの、中央部 2 点の配石の北西側においては長幅 2 cm以下の小形の剝片・砕片等の出土量が多い。第 1 ブロックにおける長幅の最大値が 2 cm以下の剝片・砕片は31点を数え、このあり方は、後述する第 2 ・第 3 ブロックとは対照的である。縦長剝片の剝離工程上の石核調整剝片と解される剝片類の接合資料も認められる(黒色頁岩 h、接合資料 2 (第40図90~94))。

一方、ブロック中央部より西側には、削器、二次加工痕・微細な剝離痕を有する剝片等の狭義の石器がより多く出土する傾向が認められるほか、縦長剝片においても単独の個体別資料となるものはこの部分に多い傾向が認められる。

第2ブロック(第17図右)

M16・M17グリッドにまたがる長径 3 m、短径 2 mほどの楕円形の範囲のまとまりを第 2 ブロックとして理解したが、各々のグリッドに遺物のまとまりが認められた。個体別資料と接合資料のあり方から、ブロックの解釈によっては 2 つのブロックに弁別することも可能であったが、ここでは 1 つのブロックとして理解し、それぞれのまとまりについては第 2 ブロックの北群・南群とそれぞれ呼称することにする。石器群の構成は、削器 1 点、二次加工痕のある剝片および微細な剝離痕のある縦長剝片 3 点、剝片18点(うち石刃状の剝片10点)、大きさ 2 cm 以下の剝片・砕片はブロックの周辺部から 2 点出土しているにすぎない。そのほか礫 1 点が出土している。

北群・南群は大形の石刃状の縦長剝片やそれを素材とする石器などがあたかも並べたかのように出土している。 各々には、特定の個体別資料(黒色頁岩 b 〔第41図・接合資料 4〕、c 〔第41図接合資料 3〕、t 〔第42図・接合資料 5〕)がまとまり、それらの多くは接合関係もっている。

その他、単独の個体別資料(黒色頁岩 j 〔第26図30〕、頁岩 b 〔第37図75〕)と判別された縦長剝片が 1 点ずつ、本石器群において唯一複数のブロック間にまたがって検出された個体別資料(黒色頁岩 d 〔第36図74〕)のうち 1 点が本ブロックから出土している。

これらの個体別資料はいずれも形状や大きさから目的的な剝片やその加工品と考えられるもので、石核調整や二次加工の際生じた剝片や砕片は認められず、本ブロックにおいて石器製作が行われた根拠は乏しい。本ブロックは縦長剝片や狭義の石器がもたらされた場と考えることが妥当であろう。

第3ブロック(第18図)

L17・L18グリッドにまたがる長径 7 m、短径 5 mほどの楕円形の石器群のまとまりを第 3 ブロックとして捉えた。第 3 ブロックにおける遺物の集中状態は、L17グリッド南西部を中心とする遺物集中の核となる部分、L18グリッド北部を中心とする遺物集中の核となる部分をもっている。それぞれを第 3 ブロックの北群と南群と呼称することにする。なお、第 3 ブロック北群はさらに東西の支群に細別することが可能かもしれない。

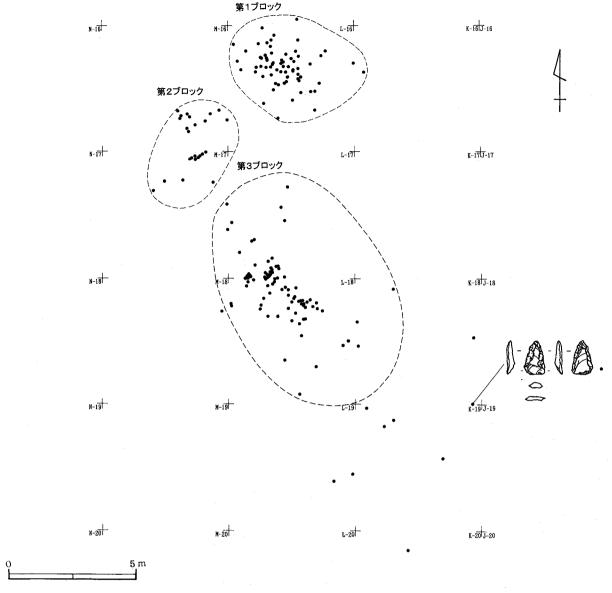
第3ブロックにおける石器群は、細石刃1点、細石刃核3点(うち2点は船底形細石刃核)、搔器2点、削器6点、二次加工痕を有する剝片および微細な剝離痕を有する剝片5点、剝片・砕片60点(うち縦長剝片35点、最大2cm以下の砕片類8点)、礫3点、そして縄文時代の遺物包含層から混在した土器片1点である。

北群・南群に共通する点は、核の周辺となる場所に削器・掻器など狭義の石器が分布する点、また単独の個体 別資料が分布する点が挙げられ、これらの個体別資料は細石刃・削器・掻器など狭義の石器や縦長剝片のような 目的的な剝片であることが多い。

接合資料は、縦長剝片どうしや縦長剝片素材の石器が接合する例が多いが、石核調整剝片との接合例はなく、本ブロック内において剝片剝離作業が行われた根拠に乏しい。接合資料中特筆されるものに、細石刃核どうしが接合する例があり(第19図 4・5、接合資料1)、当該期の船底形細石刃核による細石刃技法の解明に寄与するものとして興味深い。

各個体別資料や接合資料の分布は、北群・南群にまとまることを基本としているが、両群にまたがる個体別資料と接合資料も存在する。個体別資料黒色頁岩 a は第 3 グリッド北群の東支群において集中しているが、東支群の縦長剝片が 1 点、南群から出土した縦長剝片と接合関係にある(接合資料第43図・接合資料 7)。また、北群の西支群から出土した剝片が、南支群から出土した縦長剝片と接合関係にある(個体別資料 y 、第42図・接合資料 6)。接合資料は 2 例と少ないが、北群と南群との間に石器の移動があったことすることには蓋然性があろう。

また、北群においては熱を受けたと見られる資料が見受けられ、個体別資料黒色頁岩 a の縦長剝片や黒色頁岩 x の削器 (第24図26) には熱により表面が変質したものがある。また、黒色頁岩 a の 9 点のうち 5 点、南群から



第16図 旧石器時代石器分布図

出土した縦長剝片(第35図67)にもスス状の炭化物が付着していることが注意される。第2・第3ブロック間から出土した礫には、熱を受け赤化したものがありスス状の炭化物や微量ながら焼土が付着したものがある。炉跡等を検出することはできなかったが、火処が第3ブロックまたはその周辺部に存在した可能性がある。

第2項 旧石器時代の出土石器

1. 細石刃 (第19図1~3)

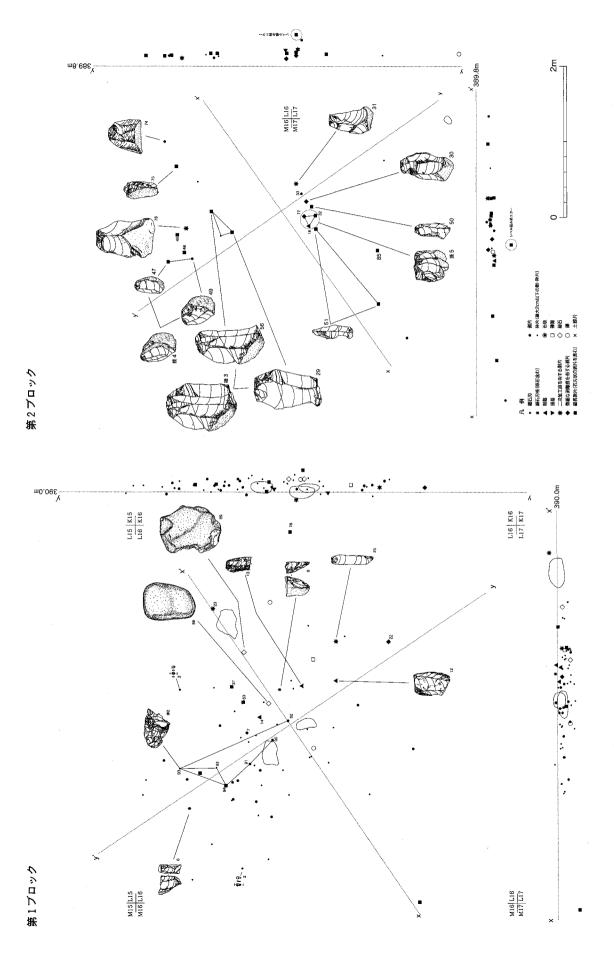
細石刃は3点出土している。器種の認定として、先行剝離面に細石刃が連続して作出された痕跡を残すものの みを細石刃とした。

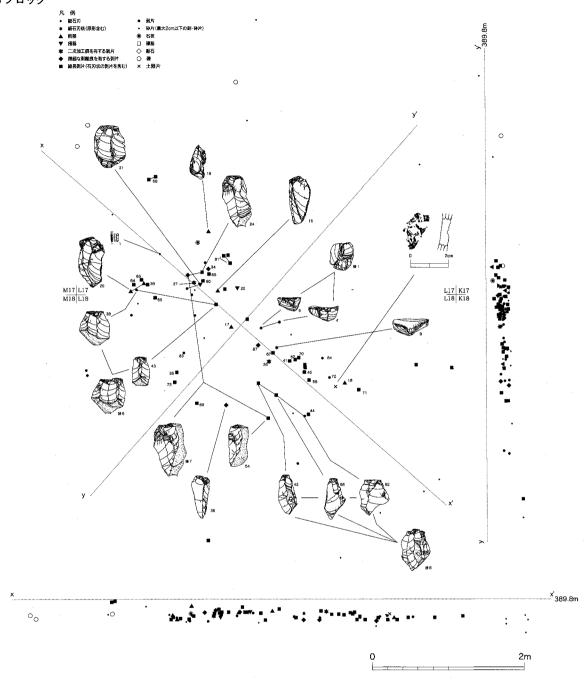
1は第3ブロックから出土した。頭部と末端が折れている。石材は硬質頁岩である。微小な剝離痕が、背面側では左側縁の一部に、腹面側では左側縁の一部に認められる。

2 は第1ブロックから出土した。頭部から上半にかけて欠損している。石材は黒色頁岩である。背面に節理面を残す。

3は第1ブロックから出土した。頭部と末端が折れている。石材は黒色頁岩である。

なお、 $2 \cdot 3$ は細石刃と分類したものの、剝片剝離工程において生じた剝片・砕片の可能性も考えられる資料である。





第18図 石器分布図②

2. 細石刃核および細石刃核原形 (第19図4~第20図9)

4 は第 3 ブロックから出土した。石材は黒色頁岩 i 、素材は厚手の縦長剝片である。素材の腹面を打面に設定した非削片系の細石刃核である。石核の打面は素材の平坦な腹面をそのまま利用している。石核は打面から周囲を巡るように加工され、船底形に整形される、いわゆるホロカ技法による細石核である。下縁部には石核調整は観察されなかった。実測図の正面図が作業面となり、2 条の細石刃状の剝片を剝離した痕跡が認められる。しかし、作業面はねじれており、整った細石刃は剝離されなかったであろう。第19図 5 と接合する。

5 は第 3 ブロックから出土した。石材は黒色頁岩 i 、素材は 4 を剝離した後の厚手の剝片または残核を利用している。石核の打面は原石を分割した際の大きな平坦面あるいは大形剝片の平坦な腹面を利用している。石核は打面から周囲を巡るように加工され、船底状となる。下縁調整は行われていない。実測図の正面図が作業面となるが、頭部調整を加えた段階で、剝片剝離の進行が止まっており、細石核原形と考えることもできる。第19図 4

と接合する。

6は第1ブロックから出土した。石材は黒色頁岩、厚手の縦長剝片の尾部を素材としている。素材となった厚手の剝片の左側縁方向からの力により折れたかあるいは切断したものの尾部を利用している。石核打面はこの折れ面を利用している。石核の整形は特に行われた痕跡はなく、その形状は側面からみるとU字あるいはV字形、その横断面は台形状である。剝片剝離は素材となった剝片の右側縁を作業面に設定して行われ、作業面には2条の細石刃状の剝片を剝離した痕跡が認められるため本資料を細石核に分類した。

接合資料1

第19図4と5の細石核2点の接合資料である。実測図正面図中の5にみられる右側縁方向からの大きな剝離面(5の打面である)を切って、打面が設定されていることから大きな分割礫を石核として剝片剝離が行われたと思われる。厚手の縦長剝片が4、5の順で剝離され、それぞれがホロカ型の船底形細石核として用いられている。本石器群からは接合資料より先行して剝離された剝片は出土しておらず、細石核に加工される時に生じる同一の個体別資料による調整剝片もみられない。このことから遺跡外で細石核まで整形され、細石核の状態で本遺跡に搬入されたと考えられる。

7~9は、第19図6と素材の用い方に共通性が認められ、細石刃核原形に分類した。

7は、厚手の剝片の右側縁からの力により打瘤直下で折れたかあるいは切断したものを用いたもので、この折れ面を打面として素材剝片の右側縁をあたかも裁ち落とすかのような剝離を行っている。なお、打面調整とは認められないが、打面の末端に微細な剝離がみられる。細石刃の剝離は行われておらず、また、剝片の頭部を利用する点においての差異は認められるが、剝片の折れ面を打面として、その側縁部を裁ち落とす作業を行っている点において、6・8・9とは技術的な共通性が認められるため、細石刃核原形と理解した。石材は黒色頁岩である。

8は、厚手の剝片の右側縁からの力により折れたかあるいは切断された尾部を用いたもので、この折れ面から右側縁の裁ち落としをおこない、また裁ち落とされた右側縁を打面として折れ面側を裁ち落とす作業とが交互に繰り返されたものである。剝片の折れ面を打面とし一方の側縁を裁ち落とすかのような剝離を行う作業は、6・7・9と共通しているものと捉え細石刃核原形として理解した。石材は黒色頁岩である。

9 も $6 \cdot 8$ と同様、右側縁から加わった力により切断した剝片の尾部を利用したものである。右側縁部はこの切断と同時に剝がれたものである。細石刃の剝離は行われていないが。打面の作出状況など $6 \sim 8$ との共通性があり細石核原形とした。石材は黒色頁岩である。

3. 石核 (第20図10)

石核は1点のみ出土している。10は90°方向の打面転移を繰り返したもので、石核の素材は厚手の剝片と考えられる。石核から剝離される剝片は小形の剝片で、石核から剝離された剝片は寸詰まりのものであるとみられ、本石器群を特徴付ける大形の剝片とは直接結びつかない。石材は黒色頁岩である。

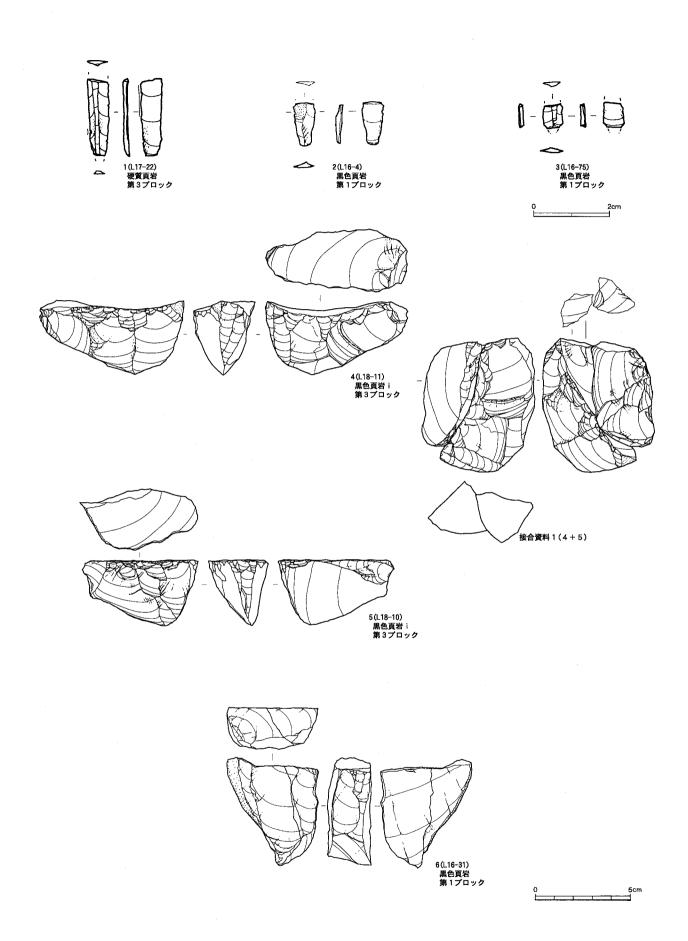
4. 削器 (第21図11~第23図19)

削器は10点出土しているが、折れた削器同士が接合して1つの削器となるため、ここでは9点として報告する。 素材に石刃状の縦長剝片を用いているものは8点、剝片を横位に用いているものは1点である。

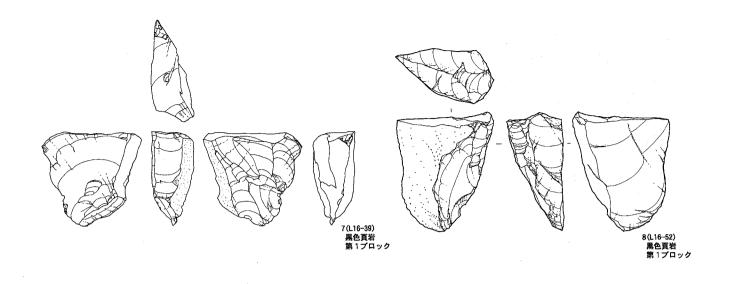
11は縄文時代以降の遺構覆土から出土した。素材となった剝片の頭部を欠損しているが、これは発掘時についた欠損である。石材は黒色頁岩、素材は石刃状の縦長剝片である。刃部は左側縁全体と右側縁の一部に作出され、左側縁の刃部角は54°~58°、右側縁の刃部角は、磨耗しているため製作時の刃角を示していない可能性があるが、78°~83°を測る。

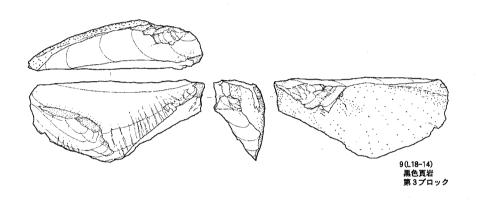
12は第1ブロックから出土した。素材となる剝片の頭部と末端が折れている。石材は黒色安山岩a、素材は石 刃状の縦長剝片である。刃部は素材の左側縁の一部と右側縁全体に作出している。左側縁の刃部角は56°~65°で、 右側縁の刃部角は54°~62°である。

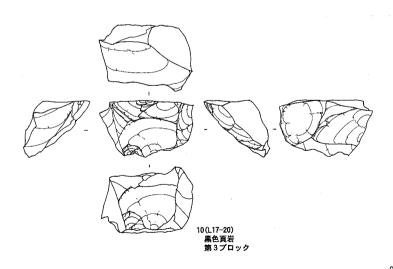
13は第1ブロックから出土した。石材は黒色頁岩 P、石刃状の縦長剝片を素材とするもので、刃部は左側縁ほぼ全体に作出しており、素材末端側が折れている。左側縁の刃部角は 68° ~ 78° である。素材剝片の打面は単剝離面であり、頭部調整を行っている。



第19図 細石刃・細石核・接合資料1







0 5cm

第20図 細石核原形·石核

14は第1ブロックから出土した。石刃状の縦長剝片を素材とするもので、素材となる剝片の打瘤が左側縁方向から取り去られている。石材は黒色安山岩 b である。刃部は素材となる剝片の右側縁ほぼ全体に作出し、その刃部角は58°~77°である。また素材末端の平坦な剝離面を打面とした打撃により、左側縁から腹面にかけて樋状剝離のような剝離が一条施されている。素材剝片の打面は単剝離面であり、頭部調整が認められる。

15は第3ブロックから出土した完形品である。石材は珪質凝灰岩、素材は石刃状の縦長剝片である。刃部は右側縁全体に作出され、その刃部角は 48° ~ 62° である。素材となった石刃状の縦長剝片の打面は単剝離面であり、頭部調整が認められる。

16は第 2 ブロックから出土した。石材は黒色頁岩 t である。素材は石刃状の縦長剝片である。刃部は右側縁に作出し、微細な剝離を腹面に施すほか、大きな抉り状の剝離を背面側にそれぞれ作出している。その刃部角は 64° $\sim 76^\circ$ である。

17は第3ブロックから出土した完形品である。石材は黒色頁岩 1、素材は石刃状の縦長剝片である。刃部は右側縁から末端右側にかけて作出され、その刃部は粗い剝離によって鋸歯状を呈している。右側縁の鋸歯状の大きな剝離の刃部角は 63° ~ 79° で、末端右側の刃部角は 53° ~ 63° である。素材となった剝片の打面は単剝離面であり、頭部調整が認められる。

18は第3ブロックから出土した。完形品である。石材は黒色頁岩、素材は石刃状の縦長剝片である。刃部は左側縁全体と末端右側の一部に作出され、左側縁は粗い剝離によって鋸歯状を呈している。左側縁の刃部角は62°~75°で、末端右側の刃部角は76°~88°である。素材の打面は単剝離面であり、頭部調整が認められる。

19は第3ブロックから出土した完形品である。石材は黒色頁岩 r、素材は横長剝片を横位に用いている。刃部は素材となる剝片の打面を左に置いた場合、左側縁基部と右側縁部全体に作出しており、右側縁の形は鋸歯状を呈している。左側縁の刃部角は 63° ~ 80° で、右側縁の刃部角は 66° ~ 85° である。素材となる剝片の打面は単剝離面であり、頭部調整が認められる。

5. 搔器 (第23図20、21)

20は第3ブロックから出土した。完形品である。黒色頁岩を石材とする縦長剝片を素材としている。刃部は素材剝片の末端部を全周せず左側縁部寄りに作出している。なお、刃部は部分的に抉るような形状を呈している。なお、素材となる剝片の打面は単剝離打面で、頭部調整が認められる。

21は第3ブロックから出土した。素材となった剝片の頭部、打瘤にかかって折れているが、接合しほぼ完形に近い形となっている。石材は黒色頁岩、素材は石刃状の縦長剝片である。刃部は素材となる剝片の末端全体に鋸歯状剝離を施している。その刃部角は45°~77°である。素材剝片末端の角度は加工によって推定できない。素材剝片の打面は単剝離面であり、頭部調整が認められる。

6. 二次加工痕を有する剝片および微細な剝離痕を有する剝片 (第24図22~第28図36)

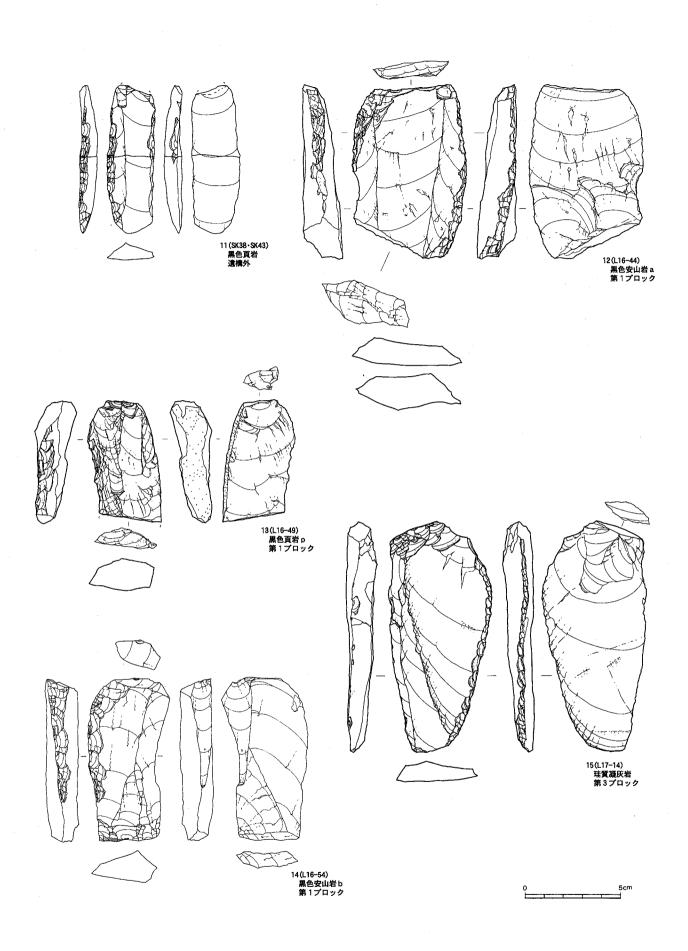
二次加工痕を有する剝片および微細な剝離痕を有する剝片を15例報告する。19点出土したが、折れた部分で接合し15点となる。縦長剝片を利用したものは14点(図中22~32、34~36)で、その中で石刃状の縦長剝片を利用したものが 7点(図中22~27・29・30・36)ある。やや幅広の剝片を利用したものは 1点(33)であるが、この剝片の背面には連続した縦長剝片の剝片剝離痕が観察される。

二次加工痕を有する剝片と微細な剝離痕との分類は明確に区分できるものではなく、ここで記述する観察所見と遺物観察表における分類とは必ずしも一致していない。ここでは二次加工痕を有する剝片12点(22~33・36)と微細な剝離痕を有する剝片2点(34~36)として事実記載を行う。これらの資料は23・34が黒色安山岩であるほかは、すべて黒色頁岩を石材としている。

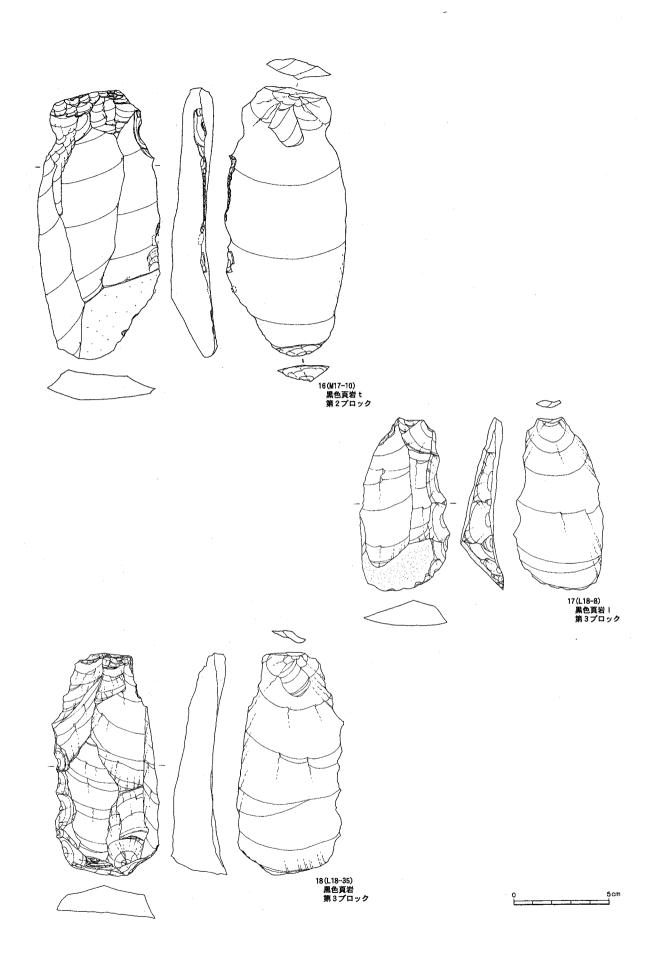
22は両側縁のそろった石刃状の剝片を利用したもので、頭部と尾部末端を欠損している。左側縁部背面には、 微細な剝離痕が連なり鋸歯縁状となっているほか、単独の小さな剝離痕が認められる。右側縁背面にも微細な剝 離痕が連続していることが観察される。

23は、左側縁部頭部寄りにいくつかの連続する剝離を行い、52~55°の角度を測る剝離を行ったとみられる。

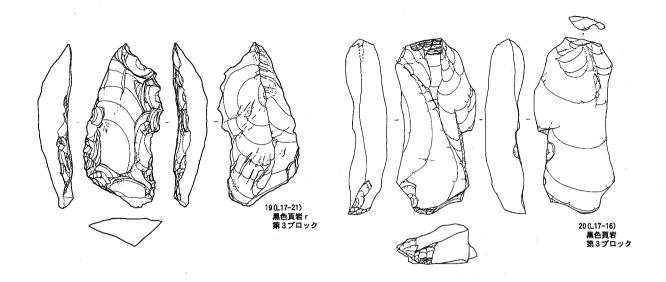
24は、黒色頁岩 a を石材としており、頭部から中間部片を残す資料と尾部資料とが接合して、ひとつの石刃状の剝片となるが、尾部の末端を欠損している。接合資料 7 を構成しているもので、表皮にスス状の炭化物が付着している。小さな剝離痕が左側縁の尾部に残されているが、剝片剝離時に偶発的についた剝離痕とも考えられる。

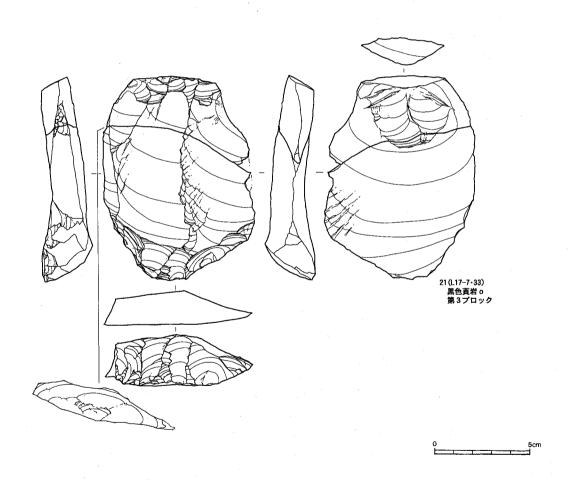


第21図 削器(1)



第22図 削器(2)





第23図 削器(3)・搔器

25は、両側縁のそろった石刃状の剝片の尾部末端から左側縁の一部にかけて、腹面に45°前後の角度を測る二次加工を施した資料である。

26はやや珪分の強い黒色頁岩×を石材としたもので、表皮に熱を受けた可能性がある。中間部で2つに折れたものが接合し1つの資料となった。微細な剝離は右側縁全体におよぶが、頭部側は角度65~88°を測る鋸歯状剝離によって加工され、中間部から尾部にかけては使用に伴うと考えられる小さな剝離が鋸歯縁状に連なっている。削器に分類される資料かもしれない。左側縁は円弧状で、背面側に小さな剝離痕がいくつか観察され、使用による微細な剝離痕ともみられる。

27は黒色頁岩 a を石材としたものである。背腹両面にスス状の炭化物が付着し、背面においては尾部から中央の稜にかけての表皮、腹面においては打瘤上の表皮が熱により剝落している。右側縁部は部分的にやや大きめで平坦な剝離がいくつか入るほか、末端に62~88°の刃角を測る二次加工が行われている。左側縁部の中間に刃こぼれ的な剝離が連続して弧状に観察される。

28は、左側縁部中央から尾部にかけて62~78°の刃角を測る二次加工が部分的に入ったものである。第3ブロック南群から出土した。

29は、左側縁の尾部に鋸歯状剝離を行ったもので68~72°の刃角を測る。完形で単剝離打面で頭部調整が顕著である。第2ブロック北群から出土した。

30は、左側縁部に1か所88°を測る剝離痕が認められるが、右側縁の頭部から中間部にかけて連続した弧状の微細な剝離痕が連なり鋸歯縁状を呈しており、微細な剝離痕を有する剝片と分類した方がよいだろう。完形で打面は単剝離打面、頭部調整を行っている。第2ブロックから出土した。

31は、左側縁部尾部に、82~88°前後の二次加工を行っている。完形で単剝離打面、頭部調整が若干行われている。表皮にスス状の炭化物が付着している。第2ブロックから出土した。

32は、黒色頁岩 t を石材とする。尾部末端に連続した小さな剝離を行っている。

33は、右側縁の腹面側中間部に連続した微細な剝離痕をとどめる。

34は、右側縁の中間部に連続した微細な剝離痕が観察される。表皮にスス状の炭化物が付着している。

35は、左側縁の中間部から尾部にかけて微細な剝離が連なり鋸歯縁状を呈している。また、右側縁部中央から 尾部にかけて、中央部においては鋸歯縁状に連なり、尾部においては不規則な大きさの微細な剝離が連なってい る。

36は、尾部末端に刃角52~78°の二次剝離痕の入る資料で、上半部を欠損している。

7. 剝片 (第29図37から第39図87)

これらの剝片は、その長さから、大まかには大形の剝片と小形の剝片に分類できる。ここでは比較的大形の剝片を中心に記載する。

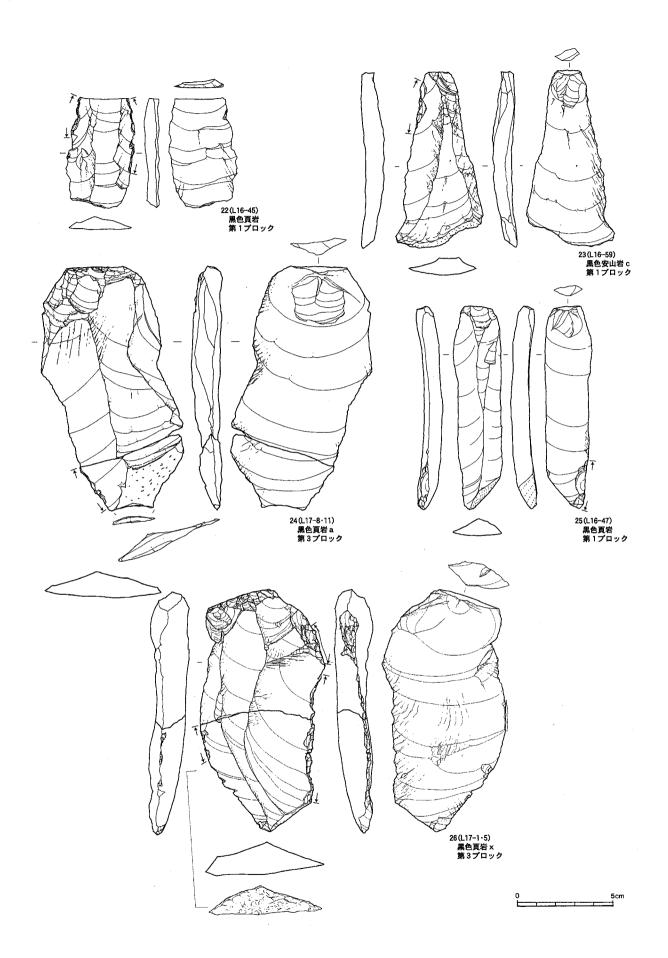
剝片のうち、縦長剝片に分類される剝片の比率は高く(第29図37から第37図77、第37図79から第39図85)、この石器群の特徴といえる。

縦長剝片の主な特徴としては、後述する接合資料でみられるように原礫を分割した際生じる大きな剝離面を打面として利用したものらしく、単剝離打面であることが多く、複剝離打面のものや打面調整を行っているものは稀少である。打面調整が行われた例は少ないが、頭部調整を行ったものが大半を占め、対照的である。

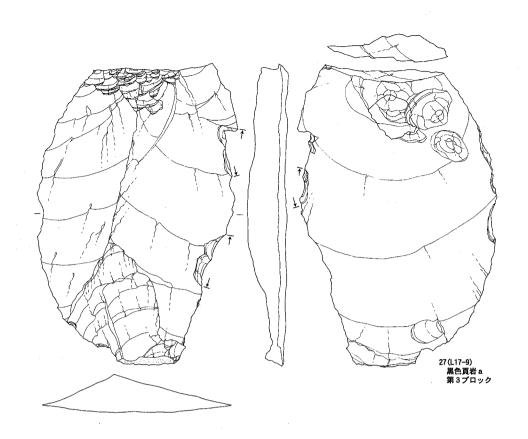
これらの剝片の背面における剝離面の構成は、打面方向から連続して剝離されたと考えられる縦に長い剝離痕を残しているものが多く、こうした剝片が目的的に剝離されたことが理解できよう。その一方、背面には自然面を残したものが多数を占め、自然面が背面の半分近くを占めるもの(39、44、49、54、58、66、69、75など一部寸詰まりの剝片を含む)や背面の大部分が自然面におおわれたもの(57、60)が存在しているように、剝片剝離工程が頭部調整以外の石核調整が積極的に行われていないことを示すものかもしれない。

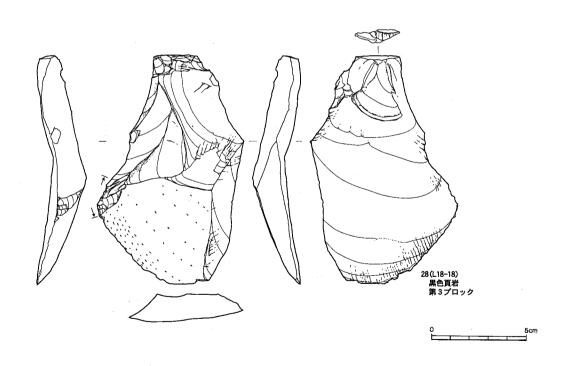
縦長剝片の中には第29図37、第31図50、52のように、両側縁が平行し、背面に規則的かつ連続的に剝離された 剝離面を持つような、石刃状の縦長剝片も存在する。それに順ずるような形状を呈している縦長剝片も多く存在 している(38、43、49、56等)。

このように形態が規則的な特徴を持つ縦長剝片が存在する一方、81、82、83、84、85に示したように、寸詰まり・幅広の剝片が存在している。これらの剝片も、打面が単剝離打面であることが多いこと、頭部調整を行った例が多いこと、背面における剝離面および自然面のあり方は前述した縦長剝片と共通した特徴を有しており、寸



第24図 二次加工痕を有する剝片(1)

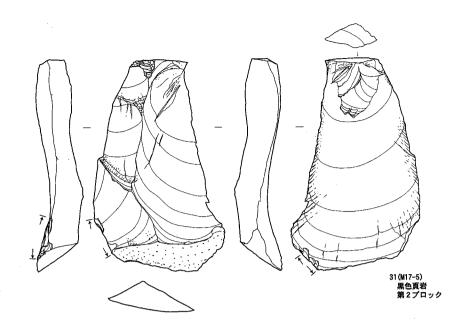


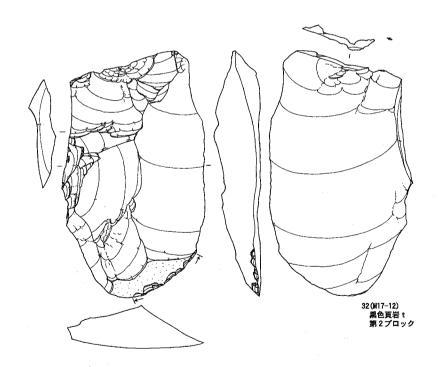


第25図 二次加工痕を有する剝片(2)



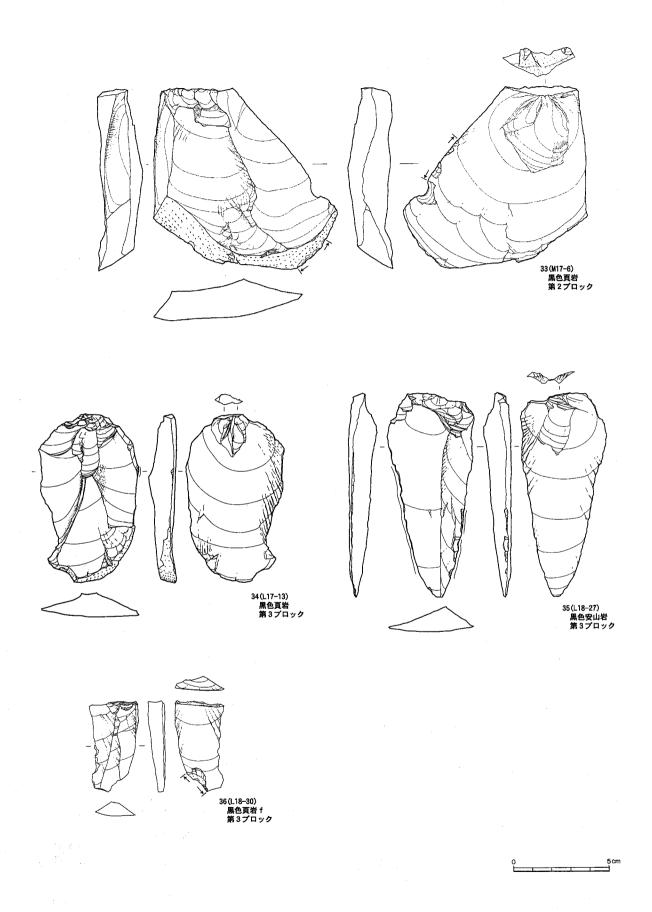
第26図 二次加工痕を有する剝片(3)



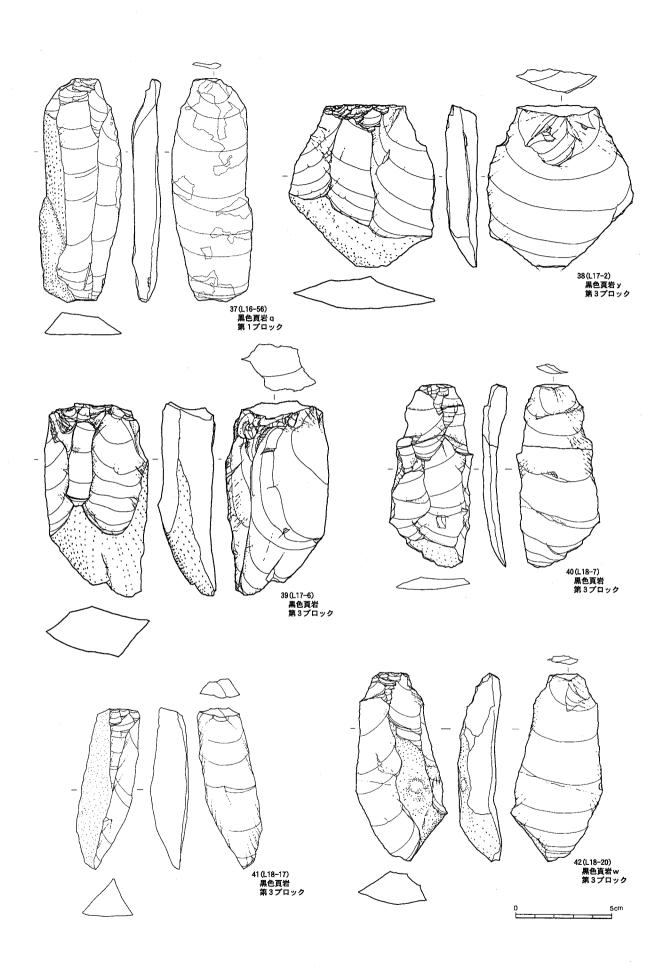


0 5cm

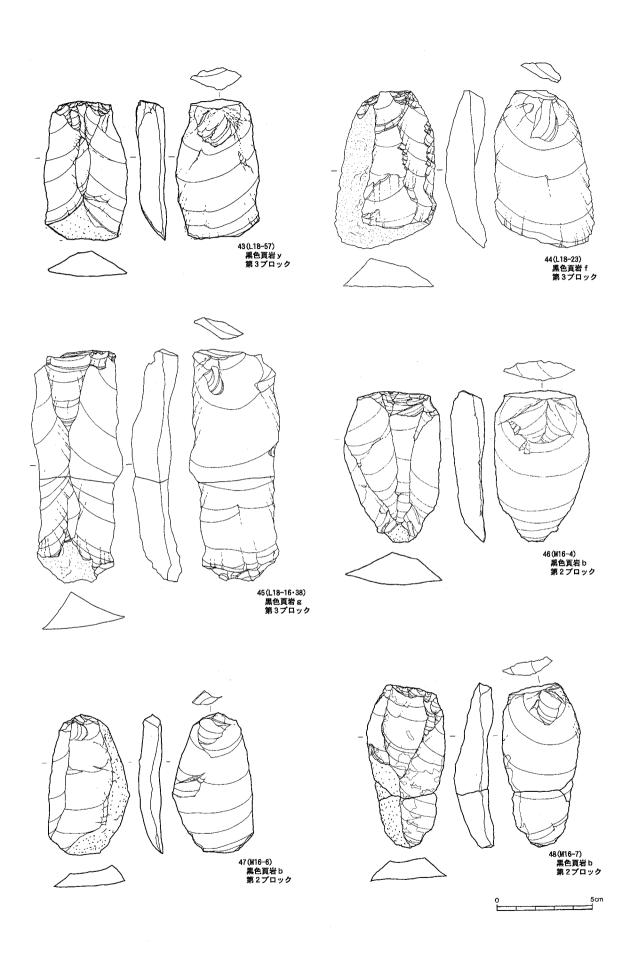
第27図 二次加工痕を有する剝片(4)



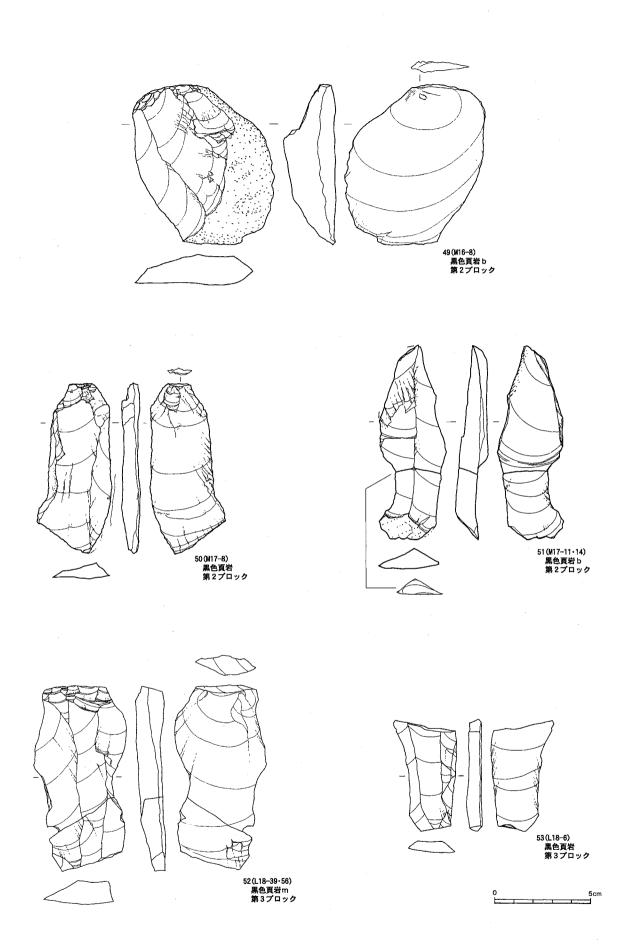
第28図 二次加工痕を有する剝片(5)・微細な剝離痕を有する剝片



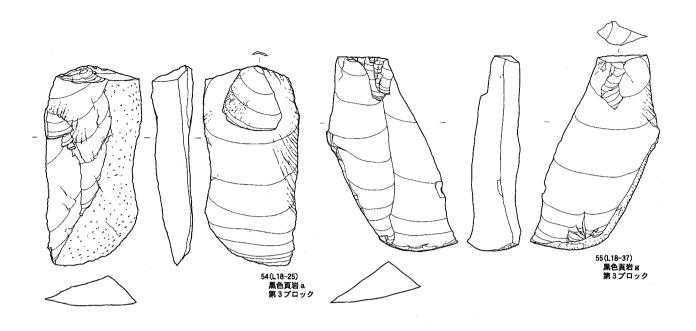
第29図 剝片(1)

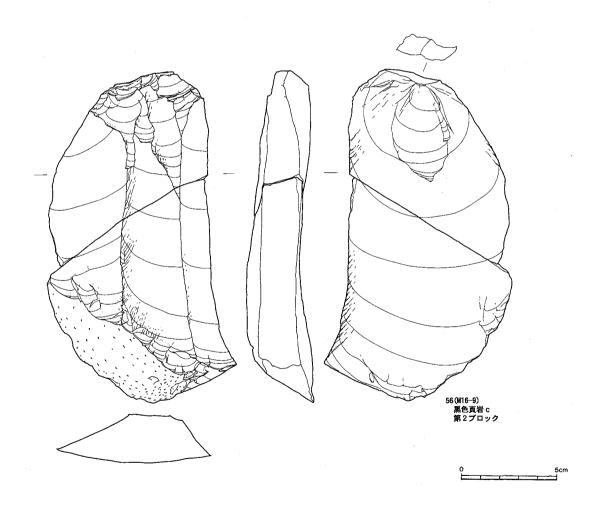


第30図 剝片(2)

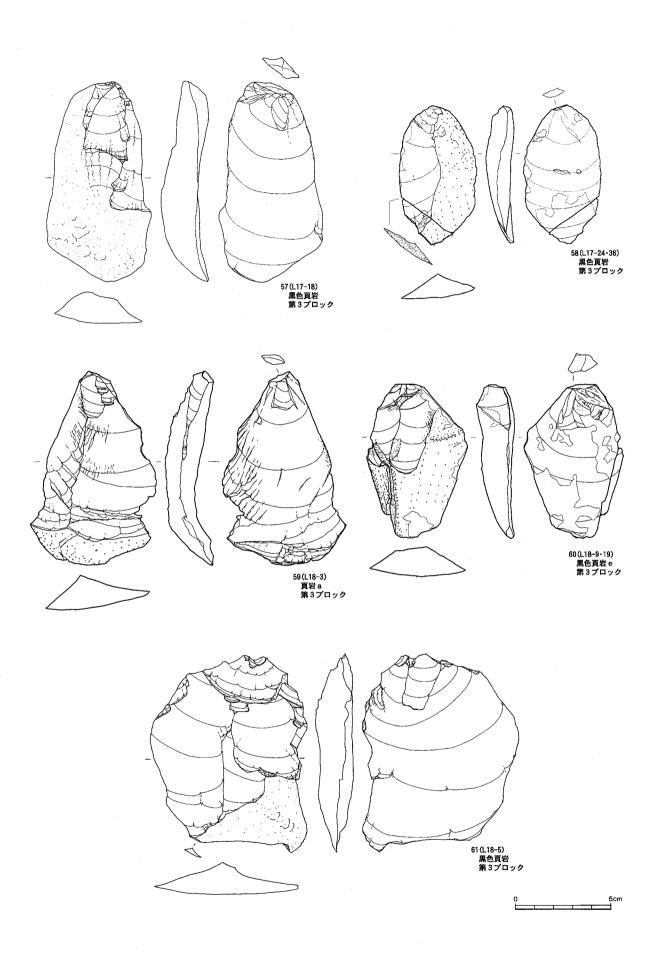


第31図 剝片(3)

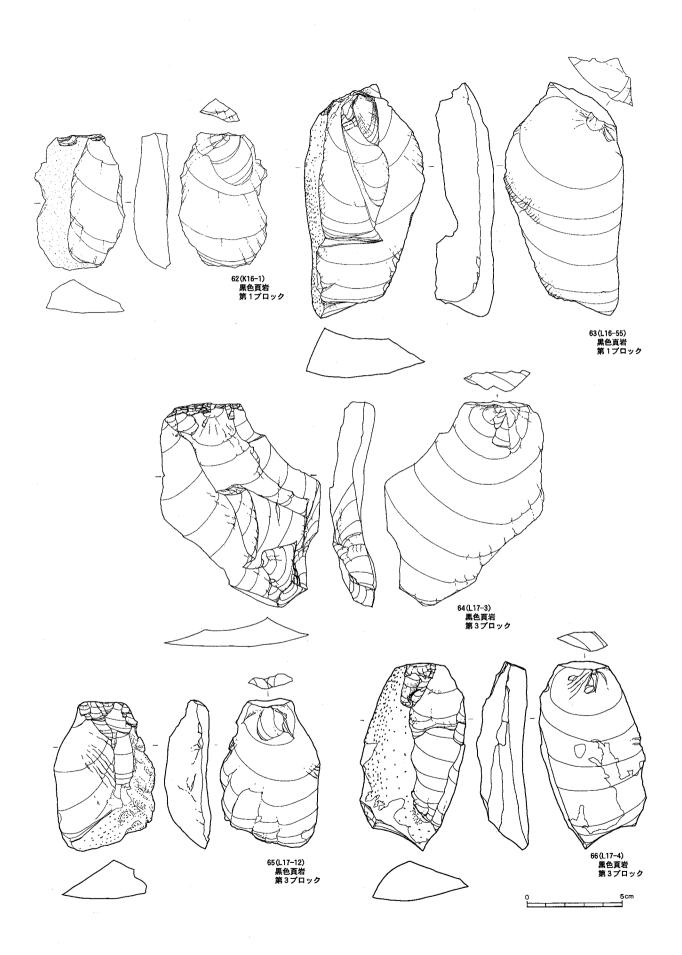




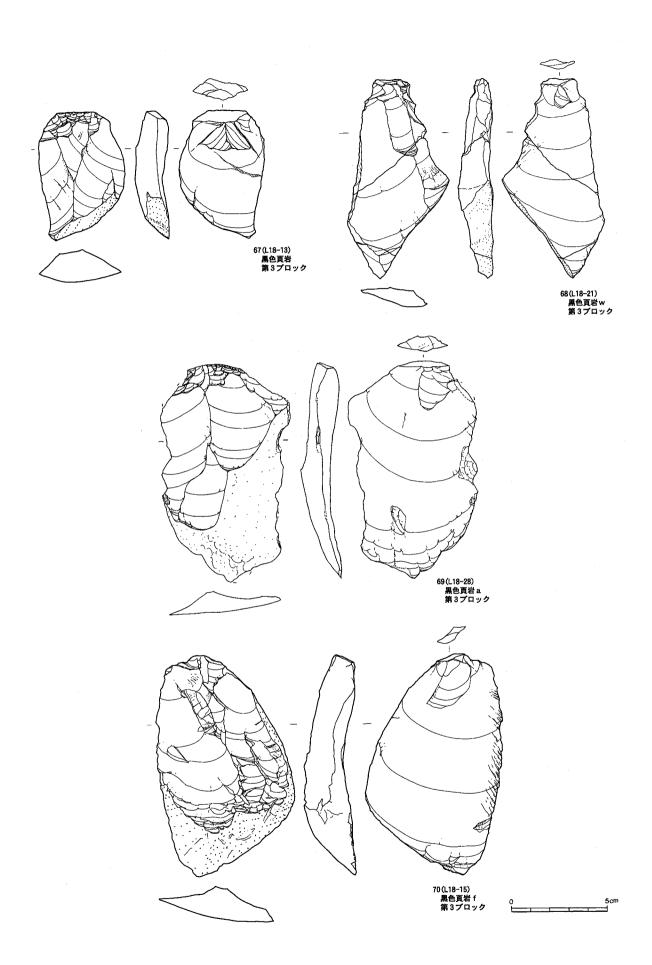
第32図 剝片(4)



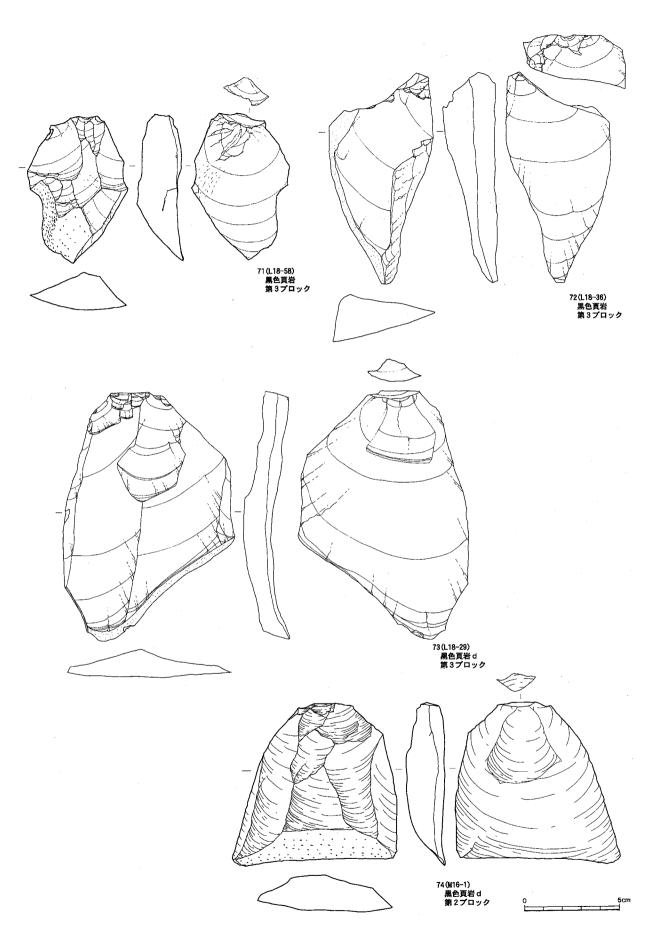
第33図 剝片(5)



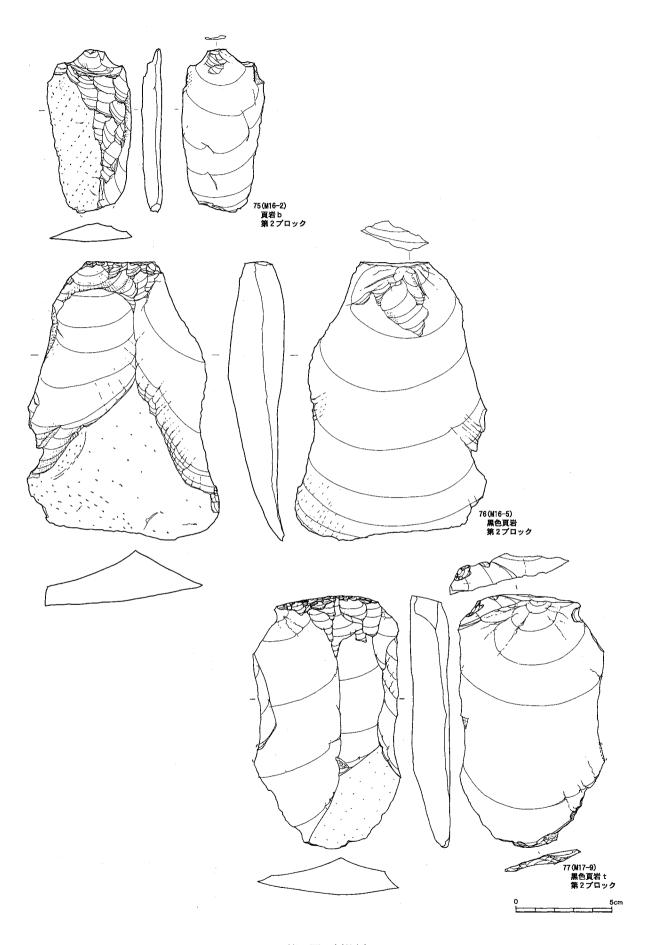
第34図 剝片(6)



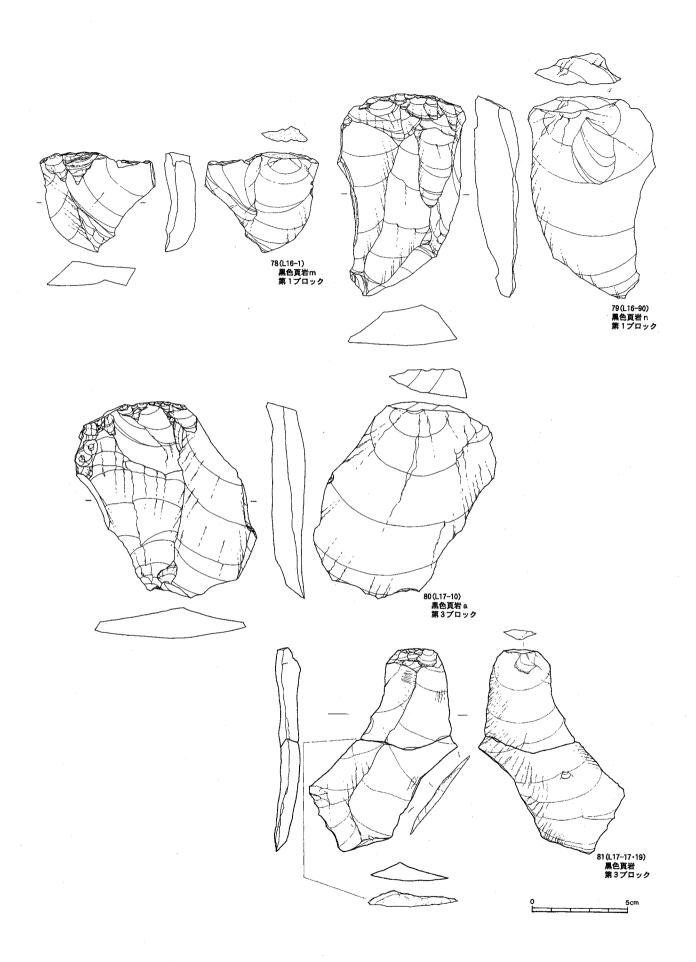
第35図 剝片(7)



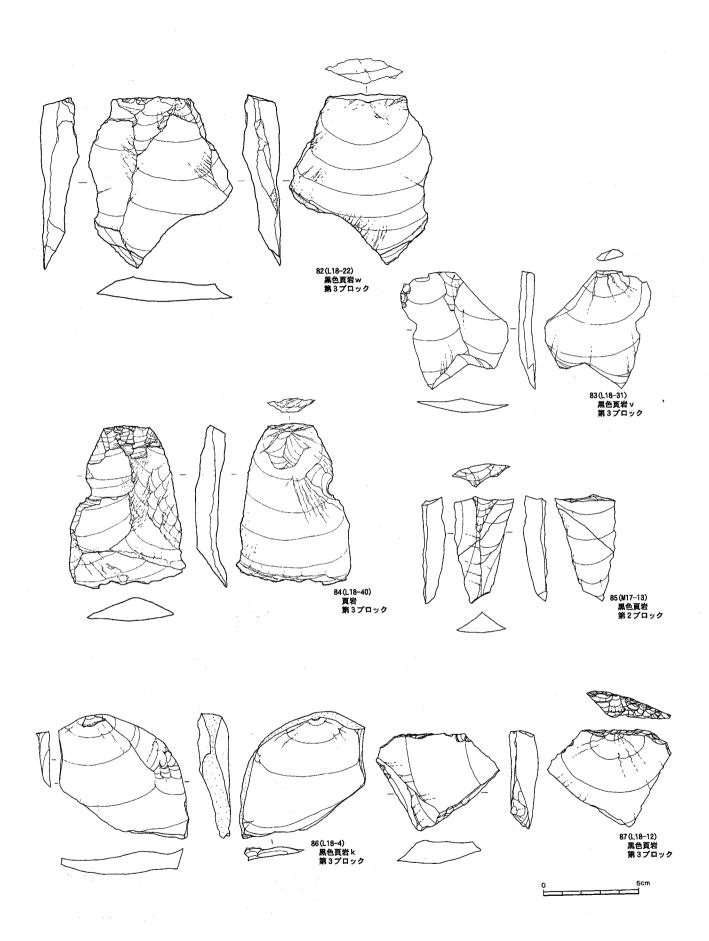
第36図 剝片(8)



第37図 剝片(9)



第38図 剝片(10)



第39図 剝片(11)

詰まりや幅広の剝片も縦長剝片と同様の剝片剝離作業により剝ぎ取られたのであろう。後述する接合資料 4 における49、接合資料 6 における38、接合資料 8 における82は、寸詰まり・幅広の剝片が縦長剝片の剝離と同一の工程により得られることを端的に示している。

なお、76は右側縁下部に小剝離面を持ち、こうした点を積極的に捉えれば二次加工痕をもつ剝片とも考えられる。また同様に、77についても、縁辺に微細な剝離を見ることができるので使用痕を有する剝片とも考えられる。本石器群における大形の剝片類は、以上のように原礫を分割した際生じる大きな剝離面を打面とし、頭部調整以外の石核調整ほとんど行わずに連続的に剝片を剝離する手法によるものが大半を占めるが、32や93のように90°方向の打面転移を行ったらしい資料や、調整打面を持つもの(87)も少数ながら存在する。これらのうち調整打面を持つものは打面再生剝片の可能性も考えられるものであり、本石器群における剝片剝離作業にはいくつかのバラエティー差があったこともうかがえる。

8. 小形の剝片および砕片

長さおよび幅の最大値20mm未満の小形剝片や砕片がある。これらは頭部調整などの石核調整、削器や搔器等の 刃部の作出、細石刃核の調整等、石器製作の一連の工程の様々な過程の中で剝離された残滓や、剝片剝離作業に おいて折れた剝片の尾部である。

9. 礫器

第1ブロックから、礫器が1点出土している。別途保管をしていたため、保管先の引っ越し等で紛れてしまい、現品を確認することができないが、メモとして残した写真から分かる範囲での記載をしておきたい。黒色頁岩の横断面が三角形となる亜角礫を素材に平坦な面を打面として鋭角的な角を剝離に必要な角度として利用し、片刃礫器状に剝片をはぎ取りながら整形したものであった。幅がおよそ9cm、高さがおよそ7cmである。ここで剝ぎ取られた剝片は寸詰まり・幅広のものであったことが予想される。

いわゆる船底形細石核に伴う礫器と呼ばれるものには、剝片石器用の石器石材と同じ石器石材を用いたものが報告されており、旧宮城村枡形遺跡(宮城村教育委員会1981)、茨城県宮脇遺跡(日立市教育委員会1997)などに類例がある。これらの資料は、原石からそのまま加工したもの、原石を分割したものを素材として利用したもので、礫器というよりもこのような縦長剝片の剝離と関係した石核あるいは石核原形として理解したほうがよいかもしれない。

10. 敲石 (第40図88・89)

第1ブロックから2点の敲石が出土している。

88は、輝石安山岩を石材とした亜円礫を用いたもので、上端左側と下端にそれぞれ敲打による潰れ痕が観察される。

89は、やや軟質の輝石安山岩の亜角礫を用いたものであり、左側縁から下端にかけて片刃の礫器状の剝離が認められるが、「刃部」は鈍く、礫器として理解してよいか判断しかねるため、下端の潰れ痕に留意し敲石として分類した。なお、同様の輝石安山岩を用いた礫器状の石器は市之関前田遺跡においても認められ、そこでは礫器として記載されている(宮城村教育委員会1991)。

11. 接合資料 (第19図 4 、 5 、第40図下~43図)

本石器群における接合資料は、折れた石器や剝片類が接合した例10例(21、24、26、51、81、93など)、剝片剝離工程等を示す接合資料が8例ある。ここでは、後者についての記載を行うが、細石刃核同士が接合した接合資料1については細石核の項において記載済みである。

接合資料 2 (第40図下 90~94)

第1ブロックから出土した剝片6点(個体別資料 黒色頁岩h)の接合資料である。剝片剝離は、自然面を打面として90、91を剝離した剝片剝離単位1と、剝片剝離単位1と同一の自然面の打面から92、93を剝離している剝片剝離単位2を行っている。ただし、90、91および92を剝離した前後関係を示すものがないので、両剝片剝離単位間の剝離が行われた前後関係については不明である。

最終的にはこれら剝片単位と同じ自然面打面からの打撃により94が剝離されている。93の背面には稜状の連続 剝離痕が認められるが、この連続剝離痕の右側の剝離面は、この接合資料の剝片剝離作業が行われる以前の打面 と考えられる。なお、この稜状の連続剝離痕は弧状に連なっているため、縦長剝片剝離作業を行うための稜調整 というよりも、90°方向の打面転移を行う以前の頭部調整であろうと思われるが、結果的には稜調整と同じ効果と なっている。

接合資料 3 (第41上 56・29)

第2ブロックから出土した石刃状の縦長剝片1点と二次加工のある剝片1点、合計2点(個体別資料 黒色頁岩c)の接合資料である。同一の大きな剝離面を打面とし、石核から頭部調整を行った後に縦長剝片(56)を剝離し、その後再び頭部調整を行い、大形の石刃状の縦長剝片(29)を連続的に剝離している。

接合資料 4 (第41図下 47・49)

第2ブロックから出土した縦長剝片2点(個体別資料 黒色頁岩b)の接合資料である。47を剝離した後、さらに剝片を連続的に剝離し、頭部調整を行った後、49を剝離している。一連の剝片剝離作業における打面は同一のもので、47が剝離されてから49が剝離されるまでに、少なくとも2回以上の剝片剝離作業が行われているが、本石器群において剝離された資料は検出されなかった。

接合資料 5 (第42図上 32・16・77)

第2ブロックから出土した縦長剝片 (77)、削器 (16)、二次加工を有する剝片 (32) の合計 3 点 (個体別資料 黒色頁岩 t) の接合資料である。これら 3 点は原礫を分割した際生じた同一の剝離面を打面とし、32、16、77の 順番で、頭部調整を行いながら連続的に剝片剝離を行っている。32を剝離して、16を剝離するまでの間、同一の 打面から縦長剝片の剝離作業が少なくとも 2 回以上行われているが、これらの剝片剝離作業による剝片は、本遺跡から出土していない。これらの剝片剝離作業を行った後、77が剝離されている。

また、32においては、左側縁部の剝離面から、この剝片の打面方向からとは90°方向に直行する剝離がいくつか 観察される。背面に残された剝離痕の切り合い関係を観察すると、打面方向からの縦長剝片の剝離後、左側面の 剝離面から剝離を行い、再び元の打面に打面転移を行い、上記の剝片剝離作業を行っている。左側面への打面転 移を行ったものの有意な剝片が得られなかったため元の打面に戻したものと思われる。

接合資料 6 (第42図下 43・38)

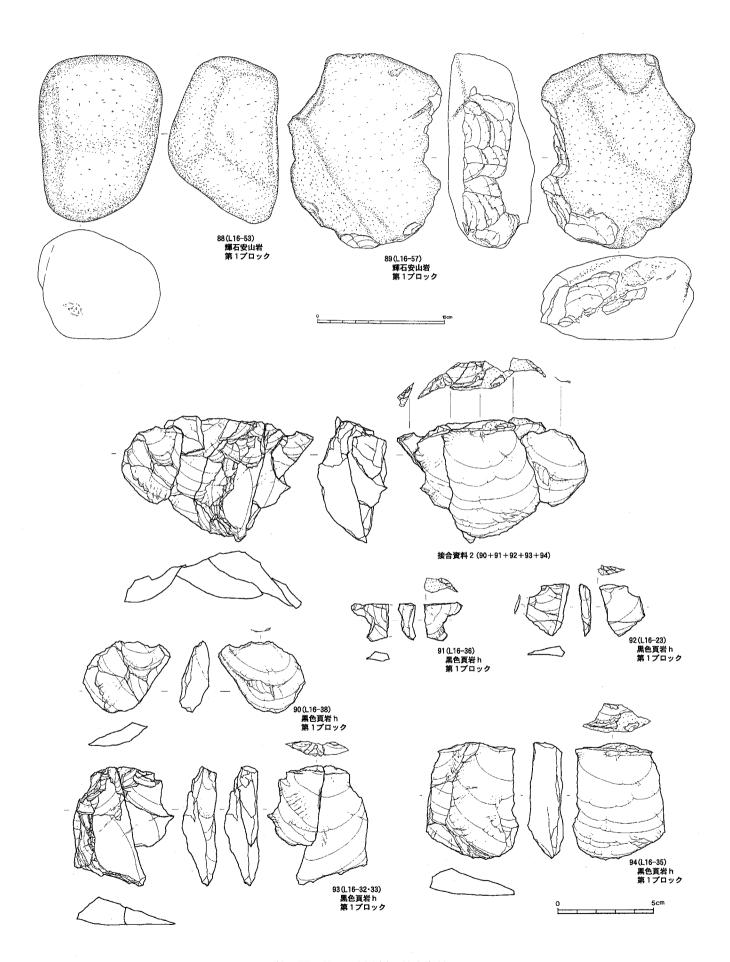
第3ブロックから出土した縦長剝片(38)と剝片(43)の2点(個体別資料 黒色頁岩У)の接合資料である。同一の剝離面を打面とし、石刃状の縦長剝片(43)を剝離した後、頭部調整を行った後、縦長剝片(38)を剝離している。この接合資料も同一の剝離面を打面として頭部調整をおこないながら剝片を連続的に剝離する作業を示すものであり、縦長剝片と幅広の剝片が同一の剝片剝離作業の中で剝ぎ取られることを示している。この接合資料においても、打面調整は認められない。なお、この2点の剝片の背面の状況から、この外にも連続的に剝片剝離作業が行われているが、本石器群からはそうした作業による剝片は、検出されなかった。

接合資料7 (第43図上 54・24)

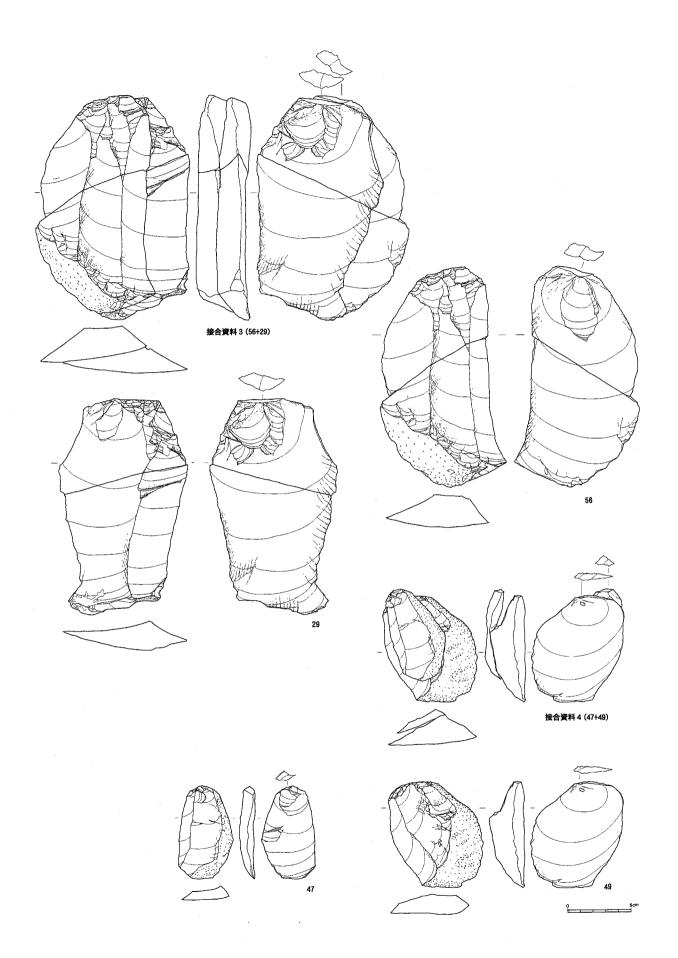
第3ブロックから出土した石刃状の縦長剝片2点(54・24 個体別資料 黒色頁岩a)の接合資料である。なお、24は折れ面で2点が接合しているので、合計3点が接合している。54が剝離された後、頭部調整を行い、石刃状の縦長剝片(24)を剝離している。両者とも同一剝離面を打面とし、打面調整は観察されない。54、24ともに背面に自然面を残しており、側面調整などの自然面除去のための石核調整は行われなかったと考えられる。なお、54が剝離され24が剝離されるまでの間に、同一の打面から縦長剝片の剝離が1回以上行われているが、ここで行われた剝片剝離による縦長剝片は本石器群からは検出されていない。

接合資料 8 (第43図下 42・68・82)

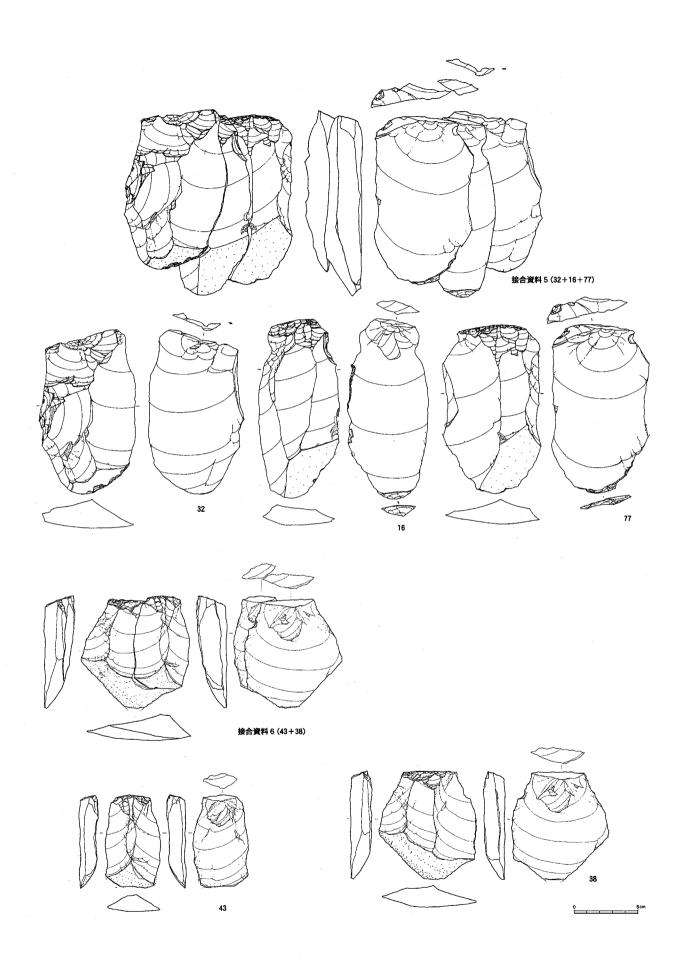
第3ブロック南群出土の縦長剝片2点(42·68)と剝片(82 個体別資料 黒色頁岩w)の3点の接合資料である。まず頭部調整を行い42が剝離され、幅狭の縦長剝片を剝ぎ取った後、68、82を剝離している。これらの剝片



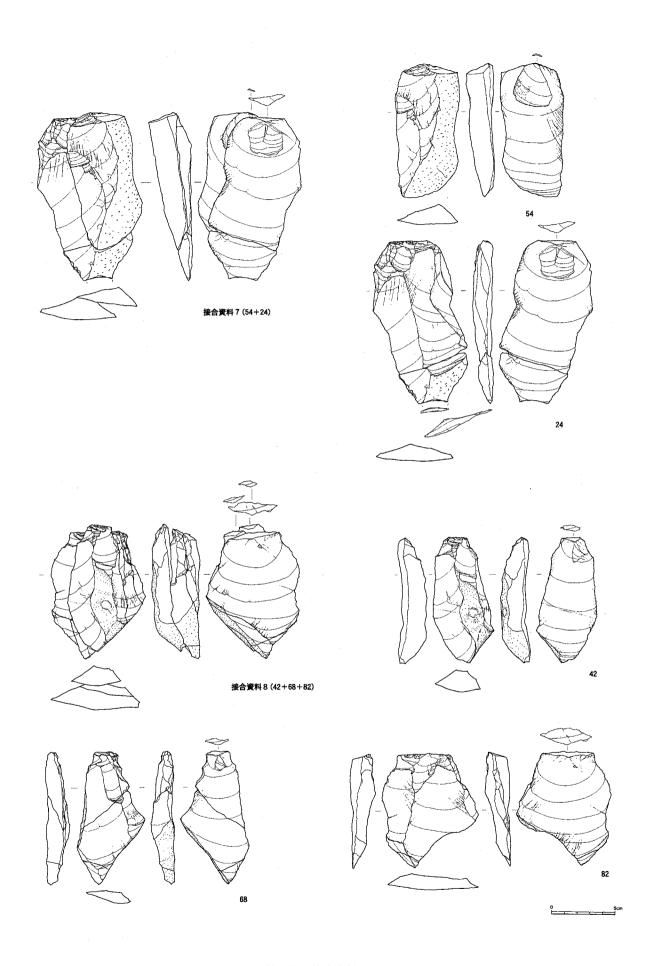
第40図 敲石・剝片(12)・接合資料 2



第41図 接合資料 3 · 4



第42図 接合資料 5 · 6



第43図 接合資料7・8

は、いずれも同一の剝離面を打面として剝離されており、打面調整は認められない。これら3点の剝片はいずれ も背面に自然面を持っており、他の接合資料と同様に自然面の除去等の石核調整を行わなかったと考えられる。 個体別資料 黒色頁岩wの資料はこの3点であり、42を剝ぎ取った後の幅狭の剝片は検出されていない。

この接合資料も、接合資料 4 ・ 6 と同様、縦長剝片と幅広の剝片が同一の剝片剝離作業の中で剝ぎ取られることを示している。

第1表 旧石器時代石器観察表①

		旧石器時	代石器観	察表①														
J 18グリ		所属ブロック	器種	石材	完形度	長さ(m)	長さ価	幅(m)	幅(m)	最大高量	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標句	Y座標(m)	Z座標(標高m)	備	考
四次田で	1	プロック外	剝片	チャート	完形	1.2	DC U	1.1	WEILER	0.7	0.74	113	医加坡 加二坡子	462		200 747	縄文時代の注	豊物の可能性が
	1.	7 11 9 2 9 1	8973	7 W - I	75.10	1.2		1.1		. 0.7	0.74	113		402	141	309.141	ある。	
K 16グリ																		
	_	所属プロック	器種	石材	完形度		長さ(11)	福(元)	幅(m)	最大高量 1.7	重量(g)	刻離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標油		ZERRISIM)	備	考
34図62		第1プロック	縦長剝片	黒色頁岩	完形	7.3		4.9		1.7	57.45	95		44	314	390.1		
K 17グ			00 of	T = 4	alle TOS MA	E = / \	E & / \	APP/ \	457)	E-1-#/)		burga cu o 1	All III also the rest of the	andraw V	Andries (randometri \	***	de
四級音写	JB物No.	所属プロック ブロック外	器 種 イモ石	石 材 輝石安山岩	完 形 度	長さ(回)	欠さ(17)	幅(m)	幅(m)	最大高量 0.5	重量(g) 1.35	刺雕門门	使用痕・加工痕等	X座標面 144		Ze標準高m) 389.813	備	考
		1/ - ///	11.5.0	1 4-11 X M 41	L	1.0		1.0		0.0	1.00	1		177	- 10	005.010		
K 18グリ 図版番号		所属プロック	器種	石 材	完形度	長さん	長さ(m)	幅(m)	福(cn)	最大高量	重量(g)	侧壁鱼(*)	使用痕・加工痕等	X座標面	Y座標山	Z座標(標高m)	備	考
ESPECIAL S							~ - ()					dramative /	BOTTON MILLIAN				水和層の生産	戊が顕著でなく
-	1	プロック外	剝片	黒曜石	尾部残	1.7	_	3.2	_	1	3.46	-		12	334	389.522	縄文時代の注 高い。	遺物の可能性が
	2	ブロック外	25.11	黒曜石	完形?	0.9	_	1.6		0.9	0.70	_		152	460	389.816	水和層の生	成が顕著でなく 遺物の可能性が
		7 1 9 2 31	砕片	無理如	元ルン:	0.9	_	1.0		0.9	0.78			152	402	309.010	高い。	直物の円形圧が
	3	ブロック外	砕片	黑色頁岩	完形	0.9	-	1.3		0.3	0.26	計測不能		14	239	389.467	mbrane a sale to to	W
-	4	プロック外	石鏃	ホルンフェルス?	完形	1.8	_	1.1	-	0.4	0.7	-		467	6	389.398	製面の素材 類しており、	列片の面が内彎 石槍の可能性は
	5	プロック外	剝片	ホルンフェルス		1.9	_	1.6		0.4	1.25	80		466	204	389.61	低い。	
_	5	プロック外	火山ガラス	-	_	- 1.0					-	-		-		-	番号重複	
_	6	ブロック外	火山ガラス	_	-	_		_		-	-	_		テータなし	データなし	389.417		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
K 19グリ	ーー ノッド																	
		所属プロック	器種	石 材	完形度		長さ(11)	幅(m)	幅(cn)	最大高山	重量(g)		使用痕・加工痕等	X座標面		Z座標標為m)	備	考
	1	ブロック外	砕片	黒色頁岩	完形	0.8	_	0.8		0.3		計劃不能		48		389.305		
+-	2	プロック外 プロック外	剝片 砕片	黒色頁岩 黒色安山岩	完形 尾部残	1.2		1.4 0.6	=	0.1	0.27	107		116 152	418			
	4	プロック外	イモ石	輝石安山岩?		0.6	_	0.4	_	0.2		計測不能		140	_	389.245		
_	5	プロック外	砕片	チャート		1	_	1		0.3	0.23	135		344		389.285		-
_	6	ブロック外	イモ石	輝石安山岩?		1.3		0.6		0.6	0.62			368	187	389.295		
K 20グリ	リッド																	
図版番号	遺物Na	所属プロック	器種	石 材	完形度	_	長さ(団)	幅(m)	幅(m)	最大高量	重量(g)	刻離角(*)	使用痕 - 加工痕等	X座標面		2盛霧高m)	備	考
	1	プロック外	砕片	チャート	尾部欠損	0.6	_	0.9	_	0.7	0.36	計測不能		206	425	389.02		
L 15グリ	リッド																	
図版番号	遺物Na		器種	石 材	完形度		長さ(m)	幅(co)	超(m)	最大高価	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標面		2座標(標高m)	備	考
+	2	ブロック外 ブロック外	イモ石 礫	輝石安山岩		15.4		0.5 10.8		0.3 8.4	0.19	_		105 280	87 25	390.045 読み値なし		
-	3	プロック外	イモ石	輝石安山岩		0.8		0.4		0.4	0.1			327	6			
	4	ブロック外	イモ石	輝石安山岩		1.1		0.6		0.4	0.27	_		230	52			
										0.4	0.21							
1.16グ	リッド									0.4	0.21							
L 16グロ 図版番号		所属ブロック	器種	石材	完形度	長さ(m)	長さ(四)	幅(m)	幅(二)	最大高油	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標油	Y座標(a)	Z性熱震能的	備	考
	遺物Na				完形(打面の		長さ(四)	幅(cn)		最大高山	重量(g)		使用痕・加工痕等				備	考
		第1プロック	剝片	石 材 黒色頁岩			長さ(m) —		幅(m)			剝離角(*) 113	使用痕・加工痕等	X座標油 31		Z座標準例 390.046	備	考
図版番号 —	遺物Na 1 2	第1プロック 第1プロック	剝片 火山ガラス	無色頁岩	完形 (打面の 大部分を欠 失)	1.7	-	福(m)	-	最大高山 0.4	重量(g) 0.75 —	113	使用痕・加工痕等	31 46	426 407	390.046 389.935	備	考
図版番号 — — —	遺物No. 1 2 3	第1プロック 第1プロック 第1プロック	剝片 火山ガラス 砕片	黑色頁岩 — 黑色頁岩	完形 (打面の 大部分を欠 失) 一 完形	1.7 — 0.9	-	幅(cn) 1.8 — 0.8	-	最大高田 0.4 — 0.2	重量(g) 0.75 - 0.13	113	使用痕・加工痕等	31 46 78	426 407 400	390.046 389.935 389.93	備	考
図版番号 —	遺物Na 1 2	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石刃	無色頁岩	完形 (打面の 大部分を欠 失)	1.7	_ 	福(m)	-	最大高山 0.4	重量(g) 0.75 —	113	使用接・加工接等	31 46	426 407 400 361	390.046 389.935	備	· 考
図版番号 	遺物No. 1 2 3 4	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石刃 イモ石	黑色頁岩 	完形 (打面の 大部分を欠 失) 一 完形	1.7 — 0.9 1,23		相(m) 1.8 0.8 0.61		最大高山 0.4 — 0.2 0.2	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16	113 — 計調不能 —	使用痕・加工痕等	31 46 78 46	426 407 400 361 351	390.046 389.935 389.93 389.957	備	考
四版番号	遺物Na 1 2 3 4 5 6 7	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	剝片火山ガラス砕片細石刃イモ石剁片火山ガラス	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 雞石安山岩 黑色安山岩	完形 (打面の 大部分を欠 失) 一 完形 上半部欠損 完形	1.7 — 0.9 1.23 0.6 1		相(m) 1.8 0.8 0.61 0.6 1.5	-	股大高山 0.4 — 0.2 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15	113 一 計調不能 一 一 104	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88	426 407 400 361 351 326 42	390.046 389.935 389.93 389.957 389.965 389.905		考
図版番号 	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	剝片火山ガラス砕片細石刃イモ石剝片火山ガラス剝片	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 輝石安山岩 黑色安山岩 黒色頁岩	完形 (打面の 大失) 一 完形 上半部欠損 完形	1.7 		概(m) 1.8 - 0.8 0.61 0.6 1.5 -	-	最大高山 0.4 — 0.2 0.2 0.3 0.3 —	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29	113 一 計算不能 — — — —	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58	426 407 400 361 351 326 42	390.046 389.935 389.93 389.957 389.965 389.905	番号重複	考
図版番号	遺物Na 1 2 3 4 5 6 7	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	剣片火山ガラス砕片細石刃イモ石剁片火山ガラス剣片砕片	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 雞石安山岩 黑色安山岩	完形 (打面の 大部分を欠 失) 一 完形 上半部欠損 完形	1.7 — 0.9 1.23 0.6 1		相(m) 1.8 0.8 0.61 0.6 1.5	-	股大高山 0.4 — 0.2 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08	113 一 計劃不能 — — — — — — — ——————————————————————	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88	426 407 400 361 351 326 42 322	390.046 389.935 389.93 389.957 389.965 389.905		考
図版番号 	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	剝片火山ガラス砕片細石刃イモ石剝片火山ガラス剝片執片剝片剝片	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色实山岩	完形 (打面の欠 大失) — 完形 上半部欠損 完形 尾部欠損? 不明 完形	1.7 	-	1.8 	-	最大高域 0.4 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.6	113 — 計劃不能 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 114 —	426 407 400 361 351 326 42 322 — 339 342	390.046 389.935 389.93 389.957 389.945 389.905 389.907 389.966 389.917	番号重複	考
図版番号 19図 2	遺物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石刃 イモ石 制片 火山ガラス 制片 砕片 発射片 砕片 発射片 砕片	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色医安山岩 黑色安山岩	完形 (打面の欠 完形 (打面の欠 完形 上半部欠損 完形 — 尾部明 — 「 尾部明 — 「 完形 — 「 完形 — 「 元子 一 一 一 元子 一 元子 一 元子 一 元子 一 元子 一 元子 一	1.7 		1.8 		最大高面 0.4 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.6 0.05	113 計製不能 104 110 112 計網不能 計調不能	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 339 342 374	390.046 389.935 389.93 389.957 389.945 389.905 389.907 389.966 389.917 389.977	番号重複	考
図版番号	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石刃 イモ石 制片 火山ガラス 制片 砕片 幹片 刺片 砕片	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色安山岩	完形 (打面の欠 完形 (打面の欠 完形 上半部欠損 完形 — 尾部呎損 ? 不明 完形 完形 完形	1.7 		1.8 		最大高油 0.4 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.66 0.05 0.83	113 計測不能 104 110 112 計調不能 	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 	390.046 389.935 389.937 389.945 389.905 389.907 389.966 389.917 389.977	番号重複	考
図版番号	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 組石刃 イモ石 制片 火山ガラス 制片 砕片 朝片 砕片 砕片 砕片 発子 砕片 砕片 砕片 砕片 発子 砕片 砕け 砕け 砕け 砕け 砕け 砕け 砕け 砕け 砕け 砕け	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色安山岩 黑色安山岩	完形 (打面の欠 完形 (打面の欠 完形 上半部欠損 完形 — 尾部明 — 「 尾部明 — 「 完形 — 「 完形 — 「 元子 一 一 一 元子 一 元子 一 元子 一 元子 一 元子 一 元子 一	1.7 0.9 1.23 0.6 1 		相(元) 1.8 		最大高面 0.4 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.6 0.05	113 —— 計劃不能 —— 110 —— 112 計劃不能 ——	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 46 72 58 88 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 339 342 374 366 394	390.046 389.935 389.957 389.945 389.905 389.907 — 389.966 389.917 389.977 389.97 389.995	番号重複	考
図版番号	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石万刃 イモ石 製片 火山ガラス 製片 砕片 製片 砕片 製片 砕片 製片 砕片 軽片 や片 製片 砕片 や片 製片 砕片 やけ をかけ をかけ をかけ をかけ をかけ をかけ をかけ をか	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色页岩 輝石安山岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色变山岩 黑色变页岩	完形 (打面の欠	1.7 		報知 1.8 		最大高面 0.4 	重量(g) 0.75 0.13 0.16 0.15 0.29 1.34 0.08 0.36 0.66 0.05 0.83	113 — 計測不能 — 104 — 110 — 112 計調不能 —	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 339 342 374 366 394	390.046 389.935 389.957 389.945 389.905 389.952 389.907 — 389.966 389.977 389.97 389.97 389.995	番号重複	考
図版番号	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	 剝片 火山ガラス 砕片 細石刃 イモ石 剝片 火山ガラス 剝片 剝片 砕片 砕片 砕片 砕片 砕片 砕片 砕片 砕片 みず みず みず みず カップス 剝片 メリカラス 剝片 	黑色頁岩 黑色頁岩 輝石安山岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色变山岩 黑色变山岩 黑色变面岩 黑色页岩	完於 (打面の欠) 一	1.7		1.8 		数大部面 0.4 0.2 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3	重量(g) 0.75 0.13 0.16 0.15 0.29 1.34 0.08 0.36 0.6 0.05 0.83 0.18	113 — 計測不能 — 104 — 110 — 112 計調不能 —	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 339 342 374 366 394 340 335	390.046 389.935 389.93 389.957 389.905 389.905 389.907 389.966 389.977 389.97 389.995 389.995	番号重複	· **
図版番号	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石刃 イモ石 製片 火山ガラス 制片 製片 製片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 をみ 料 をみ 料 をみ り をみ り を り り り り り り り り り り り り り り	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色页岩 輝石安山岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色页岩 黑色变山岩 黑色变页岩	完形 (打面の欠	1.7 		報知 1.8 		最大高面 0.4 	重量(g) 0.75 0.13 0.16 0.15 0.29 1.34 0.08 0.36 0.6 0.05 0.83 0.18	113 	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 339 342 374 366 394 340 340 340 340 340 340 340 34	390.046 389.935 389.93 389.957 389.905 389.905 389.907 389.966 389.977 389.97 389.995 389.995	番号重複	考
図版番号	遺物No. 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石万刃 イモ石 製片 火山ガラス 製片 砕片 製片 軽片 製片 砕片 製片 砕片 製片 砂片 製片 砂片 製片 砂片 砂片 製片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂	黑色頁岩 黑色頁岩 輝石安山岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色变页岩 黑色安如山岩 黑色更岩 黑色更岩	完形 (打面を欠) 一 完形 (打面を欠) 一 完形 一 完形 一 完形 一 大損 ? 元形 一 元形 一 完形 一 元形 一 完形 一 完形 一 完形 一 気形 一 気形 の 一 一 の 一 一 の 一 一 の 一 で が 一 関係 ア ー 関節 ア ト の ー で が 一 関節 ア ト ク 目 で の ー で か で 上 の 一 で が か た 月 で の ー で か で 上 の 一 で が 一 月 で か で 上 の 一 で か で 上	1.7		構(元) 1.8 0.8 0.61 0.6 1.5 1.7 0.4 1.1 1.4 0.6 0.7		数次額面 0.4 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.05 0.83 0.18	113 計算不能 104 110 112 計調不能 129	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 72 58 88 81 114 	426 407 400 361 351 326 42 322 339 342 374 366 394 340 340 340 340 340 340 340 34	390.046 389.935 389.93 389.957 389.905 389.905 389.966 389.977 389.997 389.995 389.951	番号重複	**
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石刃 イモ石 刺片 火山ガラス 刺片 刺片 刺片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁質安山出岩 黑色色变頁 岩 黑色色页 百 岩 黑色色页岩 黑色色页岩	完於 (打面を欠) 一	1.7 - 0.9 1.23 0.6 - 1.7 2.1 0.5 1.7 1.1 0.8 1.4 0.3 - 1 0.8 0.6 0.8 0.6 0.8 0.8		概句 1.8 		数大概如 0.4 	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.6 0.05 0.83 0.18	113 計測不能 110 112 計調不能 129 計湖不能	使用痕・加工痕等	31 46 78 46 78 46 72 58 88 114 160 156 156 151 143 176 176	426 407 400 361 351 326 42 322 — 399 3442 374 366 394 340 335 324 299 337 307	390.046 389.935 389.93 389.957 389.905 389.952 389.907	番号重複	**
図版番号 	遺物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石石列 細石石列 大山ガラス 製件 製片 製片 軽片 製片 軽片 製片 軽片 製片 軽片 軽片 製片 軽片 製作 軽片 製作 軽け 製作 軽け 軽け 軽け をみた をみた をみた をみた をみた をみた をみた をみた	黑色頁岩 黑色頁岩 輝色頁岩 黑色頁岩 黑色百安山岩 黑色色变安 三岩 黑色色色变变 三岩 黑色色色色 頁 三岩 黑色色面頁 百岩 黑色色面頁 百岩 黑色色面頁 百岩	完於 (打面o 欠) 一	1.7 0.9 1.23 0.6 1 - 2.1 0.5 1.7 1.1 0.8 1.4 0.3 - 1 0.8 0.6 0.8 0.8 1.1		概知 1.8 0.8 0.61 1.5 1.7 0.5 1.6 2.1 1.4 1.1 1.4 0.6 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7		#大概如 0.4 0.2 0.2 0.3 0.3 0.5 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3	重量(g) 0.75 0.13 0.16 0.15 0.29 1.34 0.08 0.36 0.65 0.83 0.18 0.11 0.15 0.11 0.15 0.11 0.19 0.09 0.60	113 計順不能 110 112 計調不能 129 計湖不能		31 46 78 46 72 58 88 81 114 116 134 136 162 179 160 156 151 143 176 186	4266 4077 40000 3611 3526 422 322 3399 3442 374 366 3944 340 345 3242 379 377 377 2477	390.046 389.935 389.957 389.952 389.907 — 389.966 389.917 389.97 389.97 389.965 389.952 389.953 389.953 389.954 389.954 389.954 389.954	番号重複	· **
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕出 細石刃 和モ石 製片 火山ガラス 制片 軽射片 軽射片 砕片 砕片 砕片 砕片 砕片 砕片 砂片 砕片 砕片 砂片 砕片 砕片 砂片 砕片 砂片 砂片 砕片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子 の子	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁質安山出岩 黑色色变頁 岩 黑色色页 百 岩 黑色色页岩 黑色色页岩	完於 (打面を欠) 一	1.7 - 0.9 1.23 0.6 - 1.7 2.1 0.5 1.7 1.1 0.8 1.4 0.3 - 1 0.8 0.6 0.8 0.6 0.8 0.8		概句 1.8 		数大概如 0.4 	重量(g) 0.75 - 0.13 0.16 0.15 0.29 - 1.34 0.08 0.36 0.6 0.05 0.83 0.18	113 計順不能 110 112 計調不能 129 計湖不能		31 46 78 46 78 46 72 58 88 114 160 156 156 151 143 176 176	426 4077 400 400 401 401 401 401 401 401 401 401	390.046 389.935 389.93 389.957 389.905 389.952 389.907	番号重複	· **
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 静田石刃 イモ石 制州 大地 ガラス 制片 砕片 製片 砕片 製片 砕片 製片 砕片 製片 砕片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色百安山岩 黑色百安山岩 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完形部分・一	1.7		解伝が 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75 	113 113 114 115 115 115 115 115 115 115 115 115		31 46 46 46 72 58 88 88 88 114 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	426 4077 400 400 401 401 401 401 401 401 401 401	390.046 389.935 389.937 389.945 389.905 389.907 389.965 389.977 389.977 389.973 389.973 389.965 389.973 389.965 389.973 389.965 389.973 389.965	番号重複	考 16-33、L16-35
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 翻石刃 イモ石 刺片 刺片 軟片 軟片 軟片 軟片 軟片 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色百岁山岩 黑色百岁山岩 黑色色更岩。 黑色色色色色, 黑色色色色色色。 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完下 (打面を欠) 一	1.7		構(元) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75 	113 一 一 104 一 110 一 1112 計劃不能 一 129 一 137 148 158 178 178 178 178 178 178 178 178 178 17		31 468 468 722 588 1144 1343 1343 1622 1799 1606 1515 1433 1766 1766 1766 1766 1766 1766 1766 17	426 407 400 361 351 352 422 322 374 366 394 340 3422 299 373 377 193 307	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.965 389.977 389.977 389.977 389.973 389.965 389.977 389.973 389.965 389.973 389.943 389.943 389.943 389.943 389.943	番号重複	
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22	第1プロック 第1プロック	制片 火山ガラス 砕片 細石万刃 イモ石 製川 大山ガラス 製門 大山ガラス 製門 大山ガラス 製門 保神片 砕片 ・ 大山ガラス ・ 大山ガー ・	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色百安山岩 黑色百安山岩 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完形部分・一 完計・一 完計・一 完計・一 完計・一 完計・一 完計・一 には、一 には、一 には、一 には、一 には、一 には、一 には、一 には、	1.7		解伝が 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 46 46 46 72 58 88 88 88 114 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	426 4077 4000 361 351 326 422 332 333 342 366 394 340 335 324 327 337 307 307 307 307 307 307 30	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.965 389.977 389.977 389.977 389.973 389.965 389.977 389.973 389.965 389.973 389.943 389.943 389.943 389.943 389.943	番号重複 番号重複 上16-32、L と接合	
図版番号	度 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 24 25 26 27 27 27 27 27 27 27 27 27 27	第1プロック 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1プロッ 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1 第1	制片 火山ガラス 砕出石刃 相石刃 和石刃 大型片 火型片 製片 製片 製片 製片 砂片 製片 砂片 製片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色頁岩 黑色百百十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	完を作り、「打面を欠り、一見を作り、一見を作り、一見を作り、一見を作り、一見を作り、一見を呼いた。」を作り、一見を呼いた。「一見を作り、一切を作りまり、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作り、一切を作りを作りまり、一切を作りを作りまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり	1.7		構(m) 1.8 		 数大調酬 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 466 768 466 722 588 888 888 1144 1334 1462 1479 1460 146	426 4077 4000 361 351 326 422 332 333 342 366 394 340 335 324 327 337 307 307 307 307 307 307 30	39.0.046 389.935 389.935 389.945 389.905 389.907 389.967 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.978 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945	番号重複 番号重複 上16-32、L と接合	
図版番号	進物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26	第1プロック 第1	制片 火山ガラス 砕出石刃 イモ石 利子 大刺片 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色百岁山岩 黑色色石安山岩 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一	1.7		構(元) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 466 788 466 722 588 1141 1341 1362 1622 1799 1600 1561 1561 1561 1676 1	426 407 400 361 351 352 422 322 374 366 394 340 341 329 393 377 193 300 344 370 300 344 370 332 300 300 300 300 300 300 300 300 30	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.965 389.977 389.977 389.977 389.977 389.973 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.947 389.947	番号重複 番号重複 L16-32、L と接合	
図版番号	進物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27	第1プロック 第1	制片 火山ガラス 砕船石刃 イモ石 利州 大刺片 一部 大利 中部 大利 中部 大川ガラス 利門 大川ガラス 利門 大川ガラス 利門 中部 大川ガラス 利川 大川ガラス 利川 イモ石 ・ 中部 大川ガラス ・ 中部 大川ガー ・ 中 ・ 中 ・ 中 ・ 中 ・ 中 ・ 中 ・ 中 ・ 中	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色百安山岩 黑色色石安山岩 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失事。一 完形部分・一 完形部分・一 完形部分・一 完形部分・ 「 完形部分・ 「 完形部分・ 「 において、 「 にはいて、 「 にはいていて、 「 にはいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて	1.7		構(m) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 466 788 466 722 588 1141 1341 1362 1492 1602 1	426 407 400 361 351 352 422 322 374 366 394 340 341 370 393 377 377 377 377 377 377 377 377 377	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.965 389.977 389.977 389.977 389.977 389.973 389.965 389.965 389.977 389.965 389.965 389.977 389.965 389.977 389.965 389.977 389.965 389.977 389.965	番号重複 番号重複 L16-32、L と接合	
図版番号	進物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26	第1プロック 第1	制片 火山ガラス 砕出石刃 イモ石 利子 火刺片 砕片 刺片 刺片 や片 刺片 や片 や片 や片 や片 や片 や片 や片 や片 や片 や	黑色頁岩 黑色百岩 黑色色石安山岩 黑色色石安山岩 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り一 一	1.7		構(元) 1.8 		 数大郷面 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 466 768 466 722 588 184 1141 1344 1366 1462 1476 14	426 407 400 361 351 326 422 322 374 366 394 340 341 3299 337 307 307 307 307 307 307 307 307 307	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.957 389.967 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945	番号重複 番号重複 L16-32、L と接合	
図版番号	遺物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 25 25 26 27 28 29	第1 プロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第2 アロック 第3 アロック 第4 アロック 第5 アロック 第6 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第8 アロック 第	制片 火山ガラス 砕出石刃 イギー 中間石刃 イギー 中間石刃 イギー 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色色石色。 原質安山安山 三角質安山安山 三角質安山東 黑馬區色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り、一 完形部分・一 完形部分・一 完形部の大 に対する。 一 に対する。 に	1.7		構(m) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 46 46 72 58 88 88 88 114 134 136 162 179 160 165 151 114 186 176 186 186 197 197 198 198 198 198 198 198 198 198	426 407 400 407 400 361 351 352 322 322 322 374 366 394 340 340 340 340 370 394 370 300 344 370 247 3322 296 240 273	39. 046 389.935 389.937 389.945 389.907 389.965 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945	番号重複 番号重複 L16-32、L と接合	
図版番号	進物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	第1プロック 第1	制片 火山ガラス 砕出石刃 イギー 中間石刃 イギー 中間石刃 イギー 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一 中間一	黑色頁岩 黑色百岩 黑色色石安山岩 黑色色石安山岩 黑色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り一 一	1.7		構(m) 1.8 		 数大調酬 0.4 	重量(g) 0.75	113		31 466 728 588 888 888 1144 1166 1566 151 1433 1766 1766 1766 1266 1267 1294 1207 1266 1262 1294 1232 1262 1262 1262 1262 1262 1262 1262	426 407 400 407 400 361 351 352 322 322 322 374 366 394 340 340 340 340 370 394 370 300 344 370 247 3322 296 240 273	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.957 389.967 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945	番号重複 番号重複 L16-32、L と接合	
図版番号	遺物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 25 25 26 27 28 29	第1 プロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第1 プロック 第2 アロック 第2 アロック 第3 アロック 第4 アロック 第5 アロック 第6 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第7 アロック 第8 アロック 第	制片 火山ガラス 砕出石刃 イ制 火地 大型	黑色頁岩 黑色頁岩 黑色色石色。 原質安山安山 三角質安山安山 三角質安山東 黑馬區色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り、一 完形部分・一 完形部分・一 完形部の大 に対する。 一 に対する。 に	1.7		構(m) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113 	折れた縦長剣片の尾	31 466 468 468 466 722 588 8188 8184 1144 1366 1622 1799 1600 1565 1561 1434 1766 1866 1866 1867 1860 18	426 407 400 407 400 407 400 407 400 407 400 407 407	39. 046 389.935 389.937 389.945 389.907 389.965 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945 389.945	番号重複 番号重複 上16-32、L 上2 接合 番号重複	16-33、L16-35 面は2条。作業
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	第1 プロック 第第1 プロック 第第1 プロッククタラ 第1 プロッククタラ	制片 火山ガラス 砕出石刃 イ制 火地 大型	黑色頁岩岩區 医白斑 医白斑 医白斑 医白斑 医白斑 医白斑虫虫 医白斑虫虫虫 医白斑虫虫虫 医白斑虫虫虫 医巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴	完大失り、一見をおいて、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	1.7		構(元) 1.8 		 数大調酬 0.4 - 0.2 0.2 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.2 0.8 0.3 0.3 0.3 0.2 0.4 0.5 0.3 0.2 0.3 0.2 0.3 0.2 0.4 0.5 0.5	重量(g) 0.75	113 		31 466 468 468 466 722 588 8188 8184 1144 1366 1622 1799 1600 1565 1561 1434 1766 1866 1866 1867 1860 18	426 407 400 407 400 407 400 407 400 407 400 407 407	390.046 389.935 389.937 389.945 389.952 389.967 389.952 389.977 389.952 389.966 389.917 389.952 389.966 389.967 389.962 389.963 389.962 389.963 389.963 389.963 389.963 389.963 389.963 389.963 389.963	番号重複 番号重複 上16-32、L を接合 番号重複 番号重複	16-33、L16-35。 面は 2 条。作業
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	第1 プロック 第第1 プロック 第第1 プロッククタラ 第1 プロッククタラ	制片 火山ガラス 砕船石刃 イモ石 砂川ガラス 砂片 製作片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂片 砂	黑色頁岩岩區 医白斑 医白斑 医白斑 医白斑 医白斑 医白斑虫虫 医白斑虫虫虫 医白斑虫虫虫 医白斑虫虫虫 医巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴巴	完大失り、一見をおいて、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	1.7		構(元) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75 	113 	折れた縦長剣片の尾索材とするの。 本材を新れ面を打面に	31 466 468 468 466 722 588 8188 8184 1144 1366 1622 1799 1600 1565 1561 1434 1766 1866 1866 1867 1860 18	426 4077 4000 361 351 326 422 332 333 3442 366 394 340 335 324 397 397 397 397 397 397 397 397	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.957 389.967 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.965	番号重複 番号重複 上16-32、L を接合 番号重複 番号重複 上16-23、L L16-23、L	16-33、L16-35 面は2条。作業
19図 2	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	第1 プロック クラ 第 第 1 プロック クラ ア 第 1 プロック クラ ア 第 1 プロック クラ ア 第 1 プロック クラ ア 第 1 プロック クラ ア 第 1 プロック クラ 第 1 プロック クラ 第 1 プロック クラ 第 1 プロック クラ ア 第 1 プロック ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	制片 火山ガラス 中部石 万 日	黑色鱼 有岩岩 是 医色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り、一年の大学・一年の一年の大学・一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一	1.7		構(m) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113	折れた縦長剣片の尾索材とするの。 本材を新れ面を打面に	31 466 72 58 466 72 58 8184 1166 1344 136 162 179 1600 1566 1443 1833 241 2407 2564 294 2323 367 262 294 164	426 407 400 361 351 352 422 374 366 394 340 340 341 370 392 247 430 433 422 430 433 433	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.965 389.967 389.965 389.977 389.965 389.967 389.965 389.967 389.965 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.966 389.967 389.968	番号重複 番号重複 上16-32、L と接合 番号重複 組石及は1.6c L16-23、L と接合。 L	16-33、L16-35。 面は 2 条。作業
図版番号	選物Na 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	第1 プロック ク	制片 火山ガラス 中部石刃 イ 利	黑色頁岩 黑色百岩 黑色色石色一頁岩 黑色色石色一頁岩岩 黑原色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	完大失り一 一	1.7		構(m) 1.8 		 数大額向 0.4 	重量(g) 0.75	113	折れた縦長剣片の。 を終しまる の に を 打力が がれ面を 打 面に	31 46 46 72 58 88 81 114 134 136 162 179 160 155 151 143 176 186 186 241 207 254 254 262 262 262 262 263 264 272 272 273 274 275 275 275 275 275 275 275 275	426 407 400 361 351 352 422 322 374 366 394 340 341 370 393 247 193 300 244 370 434 434 434 434 434 434 436	390.046 389.935 389.937 389.945 389.957 389.957 389.967 389.977 389.977 389.977 389.977 389.977 389.965	番号重複 番号重複 上16-32、L と接合 翻面石段は1.6c 上16-23、L と接合。 L16-23、L と接合	16-33、L16-35 面は 2 条。作樂 me

第2表 旧石器時代石器観察表②

L 16グリ	ッド																
図版番号	遺物No	所属プロック	器種	石 材	完形度	長さ(国)	長さ(団)	櫃(m)	幅(cm)	最大高加	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標面	Y座標金	Z座原傳m)	備考
40図94	35	第1プロック	縦長剝片	黒色頁岩 h	完形	6.3	_	5	_	1.8	50.72	112		156	382	389.88	L16-23、L16-32、L16-33 と接合。
40図91	_		剝片		右半部欠損	2	_	2	_	0.9	2.52	82		184	350	389.852	自然面打面
40231												02	稜を被加撃点とする				
_	37	第1プロック	礫	輝石安山岩	完形	30.7		21.7		13.7	11200	_	剝離あり。台石か?	398	324	389.867	台石か?
40図90	38	第 1 プロック	剝片	黒色頁岩 h	完形	4	-	4.7		1.6	17.49	115		216	321	389.94	
20図 7	39	第1プロック	細石核原形	黑色頁岩	完形	5.1	1	5.7	-	2.3	50.59	117	折れた縦長剝片の高 部を素材とする。 対のがが がが がが が が が が が が が が が が が が が が	225	354	390.04	
	40	第1ブロック	剝片	黑色安山岩	完形	0.9		1.4	_	0.3	0.39	112		236	314	389.865	
_		第1プロック	礫片	粗粒安山岩	_	6.1		2.8	_	1.3	20.01	_		205	267	389.83	
_	42	第1プロック	礫	輝石安山岩	空彩	25.8	_	17.3		11.8	4875		稜を被加撃点とする 剣雕あり。台石か?	234	272	389.895	台石か?
	42	毎1ノロック	10X:	神 石女以右	完形	20.0		17.3		11.0	4010		剝離あり。台石か?	204	212	305.053	
	43	第1プロック	剝片	黑色頁岩	左半部欠損	2.8	_	3.1	-	0.9	8.68	114		262	208	389.977	打面は連続した剝離痕のあ る複剝離打面。打面調整剝 片か?
20図12	44	第1プロック	削器	黒色安山岩 a	頭部欠損	9.6	9.6	6.6	5.2	2	117.93	_	左右両側縁に連続す る剝離を行う。	294	237	389.98	素材となる剝片の尾部にも 打溜が存在、両極打法で素 材となる縦長剝片を剝取 か?
24図22	45	第1プロック	微細な剝離痕を 有する縦長剝片	黑色頁岩	頭部/尾部末 端を欠損	5.9	_	3.6	_	0.9	19.5	_	右側縁部に連続する 微細な剝離痕あり。	346	167	389.95	
	46	第1プロック	砕片	黒色頁岩 o	部位不明	0.5	_	0.3		0.1	0.03		DEVINE OF STANSON 7 8	353	225	389.83	
0.45705			二次加工を有す									100	左側縁部腹面下半に				
24図25	47	第1プロック	る縦長剝片	黒色頁岩	完形	10.8	_	2.7	_	1.4	31.92	109	二次加工	346	237	389.95	
$\perp -1$	48	第1プロック	礫器	黑色頁岩								-		324	266	389.91	遺物行方不明に
21図13	49	第1プロック	削器	黒色頁岩 p	下半部欠損	6.3	6.9	4.3	3.5	2.2	53.09	108	左側縁部に連続する 剝離を行う。	287	282	390.025	
\vdash	50	第1プロック	砕片	黒色頁岩	完形	0.5		0.5		0.1	0.02	計算不能	かり内にてコノロ	284	293	389.852	
38図78	50	第1プロック	斜片	無色頁岩m	完形	5.7	_	0.5		1.7	41.34	訂製小能 111	 	498	293	390.077	
201710	31	2617 H 77	89/1	#OR4···	3670	3.7				1.1	41.04	111	折れた縦長剝片の尾	430	230	330.077	
20図 8	52	第1プロック	細石核原形?	黑色頁岩	完形	5.1	(奥行) 5.2	5.2	(幅) 3	3.0 (石核高) 6.2	82.17	-	部を素材とする。素 材の折れ面と左側縁 を敷ち落とす交互剝 離を行う。	284	307	389.918	作業面長は3.0cm
40図88	53	第1ブロック	敲石	輝石安山岩	_	13	-	9.2	- 1	8.8	1506 . 66	_		264	326	389.827	端部に2か所の敵打による 潰れあり。
-									<u> </u>				士伽緑部装面に一か	-			素材剝片の下端から左側縁
21図14	54	第1プロック	削器	黑色安山岩 b	完形	8.7	_	4.6	-	1.8	71.72	105	右側縁部背面に二次 加工。	246	337	389.965	部腹面側に向け樋状剝離。
34図63	55	第1プロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	10.2	12.8	9.7	6.4	3.1	218.06	112		266	359	389.875	
29図37	56	第1プロック	石刃状の縦長剝	黑色頁岩 q	尾部末端を欠	12.1	_	4.2	_	1.5	85.06	107		286	374	389.995	
\vdash			片		頂		-	<u> </u>									
40図89	57	第1プロック	敲石	輝石安山岩	完形	15.7	_	14.1		6.9	1490 . 53		_	332	358	389.937	
	58	第1ブロック	火山ガラス							_		_	+ Bulliosian or Direction	332	386	389.915	
24図23	59	第1プロック	二次加工痕を有 する縦長剝片	馬色安山岩 c	完形	9.3	_	4.7	-	1.2	35.04	105	左側面部の腹面側に 連続した微細な剝離 痕を有する。	390	398	390.11	台石の可能性があるが、つ
-	60	第1プロック	礫	輝石安山岩	完形	42.9		28.6		9.1	11600	_		372	378	389.923	ぶれや剝離は明瞭に観察されなかった。
	61	第1プロック	剝片	黒色頁岩	頭部欠損	1	_	1.7	_	0.4	0.47	計測不能		143	490	389.935	7700
					左側縁部を欠	۸.0			_					285	397	389.912	
	62	第1プロック		黒色頁岩	損	0.8		0.6		0.3	0.18	計測不能			<u> </u>		
	63		欠番		- '	_	-		_	_				497	351	389.875	遺物なし
_	64		欠番					-	_	-	-	-	<u> </u>	-			
_	65		欠番		_			_						ļ —		_	
-	66	-	欠番									_		-	- 100	-	
	67	第1プロック	砕片	黑色頁岩	部位不明	0.6		0.5		0.2	0.02	100		163 189	486	389.914 389.885	
H	68	第1プロック	剝片	黒色頁岩	尾部欠損			3.2	├	0.4	2.48	120		178		389.86	
-	69		剝片	黑色頁岩	尾部欠損 完形(尾部の	1.1	-	1.1	- -		0.43				442		*
<u>∟</u> −	70	第1プロック	剝片	黑色頁岩	一部を欠失)	4.1		3.6		1.1	13.02	108		137	372	389.83	·
-	71	第 1 ブロック		黑色頁岩	左側縁部欠失	0.6		0.8		0.2	0.06	計測不能		182		389.765	
	72	第1プロック	火山ガラス	_		_	_	_	_	_				152	302	389.76	
_	73	第1プロック	剝片	黑色頁岩	尾部の一部を 欠失	1.1	-	1.7	-	0.4	0.52	109		193	272	389.775	ļ
H	74	第1プロック	火山ガラス	_				_	-	_	_	_		153	189	389.787	
					頭部欠失•下				-			 	 		-	1	
19図3	75	第1プロック		黒色頁岩	頭部欠失・下 半部欠損	0.67	_	0.57	_	0.13				282		389.862	
	76	第1プロック		輝石安山岩		1.5		1.1		0.4		-		216		389.82	
	77	第1プロック	剝片	黒色頁岩 t	左半部欠損	4.3	_	2.8		0.8	9.68	100	<u></u>	235	389	389.823	
_	78	第1プロック	砕片	黒色頁岩	頭部と左側縁 部欠失	0.9	_	0.8		0.4	0.17	-		219	362	389.822	
<u> </u>		-		 	部次矢 尾部の一部残		-	-		-	-	_		+		-	
_	79	第1プロック	碎片	黑色頁岩	存	0.8		1.2	_	0.3	0.2	-		213	352	389.788	
	80	第1プロック		黑色頁岩	完形	0.6	_	0.8		0.2		計測不能		222		_	
_	81	第1ブロック		輝石安山岩	- "	1.5		0.8		0.4	_	_		228			被熱赤化?
1	82	第1プロック		輝石安山岩	_	1.1	_	0.8	-	0.6			<u> </u>	242			
		第1プロック		無色頁岩	完形	0.7		0.4	+	0.2	_	計測不能		194	-	389.825	
	83		1254年	黑色頁岩	中間部残存	0.7	_	1.2		0.3			_	230			
	84	第1プロック			1		-	0.8		0.4	0.32	:	1	232	237	389.765	1
	84 85	第1プロック	イモ石	輝石安山岩	make by to a	0.9	 _ _			_		_				000 0	
-	84 85 86	第1プロック 第1プロック	イモ石 砕片	輝石安山岩 黒色頁岩	頭部欠損?	2,1	_	2.9		1.3	4.15			204		389.85	
 	84 85 86 87	第1プロック 第1プロック 第1プロック	イモ石 砕片	輝石安山岩 黒色頁岩 一		2,1 —	-	2.9	-	1.3	4.15	- -		488	304	389.935	遺物不明
-	84 85 86 87 88	第1プロック 第1プロック 第1プロック 第1プロック	イモ石 砕片 イモ石	輝石安山岩 黒色頁岩 一 輝石安山岩		2,1 — 1,1	_ 	2.9 — 0.6		1.3 - 0.3	4.15 0.21	- - -	_	488 430	304 210	389.935 389.848	遺物不明
 	84 85 86 87 88 89	第1プロック 第1プロック 第1プロック	イモ石 砕片 イモ石 イモ石	輝石安山岩 黒色頁岩 一		2,1 —		2.9		1.3	4.15	- - - -		488	304 210 186	389.935	遺物不明計劃不能

L 17グリッド

図版番号	遺物No	所属プロック	器種	石 材	完形度	長さ(11)	長さ(11)	幅(m)	幅(コ)	最大高品	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標定	Y座標団	Z座標(標高m)	備考
24図26	1	第3プロック	二次加工痕を有 する剝片	黑色頁岩 x	上半部欠損	6.8	6.6	5.8	6	1.3	54.71	-	左側縁部に連続する 剝離を行う。	72	4	389.58	L17-5と接合。被熱により 折れた?
29図38	2	第3ブロック	剝片	黑色頁岩 y	尾部末端を欠 失	8.6	-	7.8	1	1.7	107.56	115		79			L18-57と接合
34図64	3	第 3 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	10.1	12.1	8.6	8.3	2.4	157.79	96		76	13	389.535	尾部に90°方向の打面転移 跡あり

第3表 旧石器時代石器観察表③

L 17グリッド

図版番号 遺物No						BIR to / N	MR 4- ()	4000	Access 1	1	205 BH ()	NIME OF IN	the COLLEGE Annual relations	77 ph 580 \	A Controller A	CONTRACTOR V	440	
o (Edga)		属プロック	器種	石材		長さ個		幅(m)	幅(m)	最大高量	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標油	Y座標面	Z唐縣(縣高m)	備	考
34図66 4	第3	3 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	10	9.9	5.6	5.3	2.7	137.93	114	- La Mar 678 viett van Nake 644 v. N. ve	86	19	389.552		Lufu de la
24図26 5	第3	3 ブロック	二次加工痕を有 する剝片	黒色頁岩 x	下半部欠損	7.5	7.1	7.2	6.7	2,1	92.82	115	左側縁部に連続する 剝離を行う。	89	14	389.534	L17-1と接合。 折れた?炭化物	仮熟により 付着?
29図39 6	第3		縦長剝片	黒色頁岩	完形	9.9	_	5.7	_	3.25	158.39	108		94	13	389.545		
23図21 7	笙 3	3 プロック	剝片	黒色頁岩の	頭部残存	4.3	_	7.6		1.3	50.28	112		146	7	389.58	L17-33と接合し	(掻器とな
DOESDY 1	799 0	0, -,,	40371	MOAA	29KH07/ATI	1.0		1.0		1.0	00.20	112	- L. Prototti dan veleskala a	140		005.00	る。	
24🖾24 8	筆 3	3 ブロック	微細な剝離痕を 有する縦長剝片	黒色頁岩 a	尾部残	3.3		5.5		1.1	16.52	_	左側縁部に連続する 微細な剣雕痕をも	147	26	389 625	L17-11と接合	
			有する縦長剥斤										つ。					
			二次加工痕を有		i								右側縁に2か所の剝				L17-34と接合。 尾部の背面と打	被熱により
25図27 9	第3	3 ブロック	する縦長剝片	黒色頁岩 a	完形	16.1	16.5	10.8	10.6	2.4	329.06	115	離を行う。	155	16	389.577	弾けている。ス:	る状の炭化
	-																物付着。	
38図80 10	第3	3 ブロック	縱長剝片	黒色頁岩 a	完形	10.6	11.3	9.3	7.5	2	151.41	115		167	18	389.604	被熱のため、頭を化している。	
24図24 11	991 2	3 ブロック	縦長剝片	黒色頁岩 a	尾部欠損	10.4	_	7.4		1.6	104.4	115	·	166	29	389,608	L17-8. L18-2	24と接合。
	-											L					スス状の炭化物	付着。
34図65 12			級長剝片	黒色頁岩	完形	8.1	_	5.4	-	2.4	91.43	108		175	27		複剝離打面	77.76
28図34 13	第3	3 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	7.9	_	5.4	_	1.5	59.43	120	右側縁部	174	34	389.65	スス状の炭化物	付着。
21図15 14	第3	3 ブロック	削器	珪質凝灰岩	完形	11.5	12.3	7.3	5.5	1.7	100.64	108	縦長剝片の右側縁部 に連続する剝離を施	186	4	389.622		
	1												す。					
- 15		3プロック		黒色頁岩	完形	7.3		4.6		1.4	40.49	113		196		389.699		
23図20 16			播器	黒色頁岩	完形	9.2	_	5	_	2.2	78.77	104	尾部末端に二次加工	212		389.644		
38図81 17		3 ブロック		黒色頁岩	下半部欠損	5.4	6.1	4.5	4.6	1.3	25.7	105		203			L17-19と接合。	
33図57 18	第3	3 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	10.3	10.6	6.2	5.6	2.5	120.19	105		200	52	389.628		
38⊠81 19	第3	3 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	上半部/右側 縁部欠損	4.8	6.2	7.8	6.1	1	33.6	–		194	51	389.665	L18-18と接合。	
20図10 20	第3	3 ブロック	石核	黑色頁岩	完形	4	_	5.2	_	2.4	34.97	<u> </u>		160	69	389.717		
	124				70,0								横長の剝片を素材と		- **			
23図19 21	第3	3 プロック	削器	黒色頁岩 r	端部欠失	5.1	8.8	7.7	4.2	1.9	50.1	104	し、端部に鋸歯縁状 の剝離を施す。	174	83	389.72		
	-		-		前郊 / 屋郊宇								V 2 8 1 阿比 で カビ 9 6		-			
19図 1 22	第3	3 ブロック	細石刃	硬質頁岩	頭部/尾部末 端欠損	2.01	_	0.61		0.18		_		110	54	389.598		
- 23	第3	3 ブロック	砕片	黑色安山岩	不明	1,4	_	0.8	-	0.6	0.6	_		48	106	389.595		
33図58 24	第3	3プロック	縦長剝片	黑色頁岩	尾部欠損	6.2	6.8	4.6	4.2	1.4	32.16	105		96	152	389.647	L17-36と接合。	
- 25	第3	3 ブロック	火山ガラス	_	-	-	_	·-	-	-		-		60	183	389.67		
- 26			火山ガラス		-	_	_		-	_		_		6	272	389.64		
- 27	第3	3 ブロック	火山ガラス		_	-	-	_	_	-				5	315	389.685		
- 28			剝片	黒色頁岩		1.7		1.7		0.4	0.65			238	363	389.875		
	_		礫	輝石安山岩	完形	18.5		12.8		10.3	2526 . 58			211	281	389.6		
- 30	第3	3 ブロック	礫	輝石安山岩	完形	21.1		13.4		10.3	3450	_		16	224	389.58		
	1	.											自然面赤化。焼土付 着。表皮荒れており				1	
- 31	第3	3 ブロック	礫	輝石安山岩	完形	17.3		11.6		9.7	2049 . 83	_	台石の可能性もあ	2	196	389.53		
\vdash	+-				Marian menn								る。		ļ			
- 32	第:	3 ブロック	砕片	黒色頁岩 a	熱によっては ねた砕片	1.6	_	0.5	-	0.1	0.2			156	6	389.585		
23図21 33	第3	3 ブロック	播器	黒色頁岩 0	完形	8.1	_	8.4	_	2.7	171.4	_		163	13	389.57	L17-7と接合。	
- 34	第3	3 ブロック	砕片	黒色頁岩 a	_	2.3	_	2.5	_	0.2	1.36			170	42	389.508	L17-9と接合。	被熱。
- 35	第3	3 ブロック	火山ガラス	_				_	_	_	_	_		175	100	_		
33図58 36	第3	3 プロック	縦長剝片	黑色頁岩	尾部残	2	2.4	2.9	2.4	0.6	2.12	-		105	156	389.675	L17-24と接合。	
- 37	第3	3プロック	砕片	黒色頁岩	_	0.9	_	0.8	_	0.4	0.2	計選不能		226	230	389.7	番号重複	
- 37	第3	3 ブロック	イモ石	輝石安山岩	-	2.1	_	1.6	_	0.7	2.16	_		_	-	_	番号重複	
38	第3	3 ブロック	イモ石	輝石安山岩		1.5		1.2		0.8	1.35	-		238	75	389.53		
- 39	第3	3 ブロック	イモ石	輝石安山岩	_	0.9	-	0.8	_	0.7	0.6	-		363	164	389.72		
- 40	第3	3 プロック	火山ガラス		-	-	-			-	_	-		366	114	389.57		
- 41	第 3	3 ブロック	火山ガラス	_								_		350	86	389.59		
- 42	第3	3 ブロック	イモ石	輝石安山岩		0.8	-	0.4		0.3	0.19	_		346	168	389.58		
- 43	第3	3 ブロック	イモ石	輝石安山岩	_	1.1	_	0.9	_	0.3	0.31	_		256	160	389.5		

L 18グリッド

L 107 .	, , ,																	
図版番号	遺物No	所属プロック	器種	石 材	完形度	長さ回	長さ(m)	福(m)	福(四)	最大高山	重量(g)	剝離角(*)	使用痕•加工痕等	X座標fin	Y座標油	Z座集標高m)	備考	,
-	1	第3ブロック	砕片	黑色頁岩	頭部欠失	0.8		0.4		0.4	0.1	_		82	489	389.504		
1	2	第3ブロック	剝片	黑色頁岩	尾部残	2.3	_	2.3	-	0.4	1.81	-		73	473	389.508		
33図59	3	第3プロック	縦長剝片	頁岩 a	完形	10	10.3	6.6	6.6	2.5	101.11	104		104	496	389.588		
39図86	4	第3ブロック	剝片	黒色頁岩 k	完形	6.8		6.7		1.7	73.06	99		152	500	389.615		
33図61	5	第 3 プロック	剝片	黑色頁岩	完形(打面な し)	10.9	_	8.4	-	2.1	155.52	_		156	473	389.582		
31図53		第 3 ブロック		黑色頁岩	下半部残/尾 部末端を欠損	5.7	_	5.7	-	3.5	18.45	_		173	175	389.63		
29図40	7	第3ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	9.8	_	4.3	_	1.3	32.66	97		184	487	389.632	自然面が赤化?	
22図17	8	第3プロック	削器	黑色頁岩 1	完形	9.3	-	5.1	-	2.3	74.3		右側縁部に鋸歯状の 剝離を施す。	204	457	389.638		
33図60	9	第3プロック	縦長剝片	黑色頁岩 e	左側縁部欠損	8.2	1	5.1		2	70.01	103		225	467	389.67	L18-19と接合。	
19図 5	10	第3プロック	細石刃核	黒色頁岩 i	完形	11.1	(奥行) 5.8	3	(幅)3. 2	3.0(石 核高3. 4)	83.93	_	石核素材。下縁に調 整剝離	267	464	389.62	2条の細石刃剝離面 面長は最大3.2cm、〕 と接合。	。作業 L17-10
19🗵 4	11	第 3 プロック	細石刃核	黑色頁岩 i	完形	7.5	(奥行) 7.3	3.7	(幅) 2.3	3.8 (石核高 3.7)	60.73	110	素材となる剝片の腹 面からの加撃により 整形	243	456	389.575	2条の細石刃剝離面 面長は最大3.3cm、 と接合。	。作業 L17-11
39図87	12	第3プロック	微細剝離を有す る剝片	黑色 頁岩	完形	5.1		6.7	-	1.8	43.36	104	右側縁に微細な剝離痕あり。	240	434	389.625	打面は連続した複 面。石核の再生剝片 性あり。	剝離打 の可能
35図67	13	第 3 プロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	6.9		4.6		1.8	52.33	110		259	423	389.645	スス状の炭化物付着	i o
20図 9	14	第3プロック	細石核原形	黑色頁岩	完形?	8.5	(奥行) 9.3	6.8	(幅) 4.7	2.8 (石核高 2.8)	104.19		左側縁から断ち割ら れた縦長剣片の尾部 を利用。	264	430	389.558	縦長剝片の末端を利 細石核原形か?細石 離面なし。	用した 刃の剝
35図70	15	第3プロック	縦長剝片	黒色頁岩 f	完形	11.6	11.7	7.7	7.1	2.7	157.84	103		293	417	389.59		
30図45	16	第3ブロック	縦長剝片	黒色頁岩 g	上半部欠損	5.9	_	4.3		1.9	49.27			494	403	389.622	L18-38と接合。	
29図41	17	第3プロック	縦長剝片	黑色頁岩	完形	8.5	8.8	3.7	2.8	2	46.2	107		281	412	389.594		
25國28	18	第3プロック	二次加工を有す る剝片	黑色頁岩	完形	12.2	-	7.9	_	2.6	154.76	102	左側縁の一部に分厚 い刃を形成する連続 剝離 。	254	406	389.628		
_	19	第3プロック	縦長剝片	黑色頁岩	左側縁部残	3.8		1.4	-	0.5	2.23			301	403	389.625	L18-9と接合。	
29図42	20	第3プロック	縦長剝片	黒色頁岩w	完形	10.2	_	4.8		2.2	89.38	113		240	383	389.594	L18-21、L18-22と	接合。
35図68	21	第3プロック	縦長剝片	黒色頁岩w	完形	10.5		5.4	_	1.8	59.32	103		263	367	389.6	L18-20, L18-22 &	接合。

第 4 表 旧石器時代石器観察表④

ı	18グ	н	**/	ĸ

22 23 24 25 26 27 28 29	所属プロック 第 3 ブロック 第 3 ブロック 第 3 ブロック 第 3 ブロック 第 3 ブロック	器 種 剝片 縦長剝片 砕片 縦長剣片	石 材 黒色頁岩w 黒色頁岩 f 黒色頁岩	完形度完形度	長さ(m) 9.2 8.2	長さ価 一	幅(m) 7.6	幅(m)		重量(g) 104.42	剝離角(*) 105	使用痕・加工痕等	X座標面 300	Y座標(元)	2座標標高m) 389.575	備 考 L18-20、L18-21と接合。
23 24 25 26 27 28 29	第3プロック 第3プロック 第3プロック 第3プロック	縦長剝片 砕片 縦長剝片	黒色頁岩 f 黒色頁岩	完形		_	7.6	-	2	104 42	105		300	340	389 575	T 19-20 T 19-21 レ総会
24 25 26 27 28 29	第 3 ブロック 第 3 ブロック 第 3 ブロック	砕片 縦長剣片	黒色頁岩		8.2					201.10	100		- 000	0.10	000.010	DIG 20, LIG 21C DED.
25 26 27 28 29	第3ブロック	縦長剝片		- to 1 to	0.2	8.7	6.1	5.3	2.1	81.18	107		305	341	389.513	
26 27 28 29	第3ブロック			尾部欠損	0.7	-	0.5		0.3	0.12	計劃不能		285	344	389.595	L17-11と接合。
27 28 29	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	イチ石	黒色頁岩 a	完形	10.8	-	5.2	-	2.3	105.68	110		252	336	389.578	スス状の炭化物付着。平坦 打面と頭部調整との接点と 打点とする。
28 29	第3プロック	· - ~-	_	_	0.5	-	0.3	_	0.1	0.07			218	319	389.564	
29		微細剝離を有す る剝片	黑色安山岩	完形	10.4	10.9	5	4.6	1.5	49.59	110	左右両側縁に連続する微細な剝離痕あ り。	197	354	389.51	
	第3ブロック	縦長剝片	黒色頁岩 a	完形	11.5	_	7.7		1.9	108.78	108		158	356	389.558	
	第3ブロック	縦長剝片	黒色頁岩 d	完形	13.1	13.4	9.3	9.1	2.5	193.32	108		129	384	389.534	
30	第3プロック	二次加工痕を有 する縦長剝片	黑色頁岩 f	下半部残	4.8		4	-	0.9	10.08	-	末端に二次加工	132	397	389.611	スス状の炭化物付着?
31	第3プロック	剝片	黒色頁岩 v	完形	6.4	_	6.6	_	1	26.05	105		142	423	389.62	
32	第3ブロック	剝片	黒色頁岩	完形	4.8	1	4	-	0.9	13.12	105		14	400		復剝離打面、稜を打点とす る。
			黒色頁岩	完形		-	2.1	_	0.3		計算不能					
34	第3プロック	土器	_	_	_	_	_	_		1.89	_		341	378	389.61	ニツ木式土器
35	第3プロック	削器	黑色頁岩	完形	12.1	-	5.8	-	3	165.46	96	左側縁部に鋸歯状の 連続する剣離。左側 縁の尾部に分厚い剝 離。搔器?	353	383	389.562	
36	第3プロック	剝片	黑色頁岩	完形	11.1	-	5.6	_	2.7	116.82	105		333	390	389.574	90°方向の打面転移跡あり。 複剝離打面。
		縦長剝片	黒色頁岩 g	完形	10.5	11.5	7	4.9			99	右側縁部に単独の二 次的な剝離痕あり。	306	387		
38	第3ブロック	級長剝片	黒色貞岩 g	下半部欠損	7.1	-	4.9		2.2	78.43	107		300	397	389.536	L18-16と接合。
39	第3プロック	7.1		下半部欠損	8	-	5	_	1.5	58.54	100		301	407		L18-56と接合。
								_		-	1				-	スス状の炭化物付着?
_						-										削器の調整剝片?
			黒色頁岩	完形		. –		_		_		,			_	
				-				-	L							
		~~~~~~~~~	黒色頁岩	完形			_		-	_	_		_			
_			_	-			_	_			_				_	
							_	_			_					
47	第3プロック	火山ガラス	_	_	_				_	_	-		170	445	389.49	
48	第3ブロック	砕片	黒色頁岩 a		1.5	-	0.9	_	0.3	0.2	_		168	443	389.489	被熱により剝落した L 17-9の一部と考えられる。
	_						_		_	_	_		_	_	_	
	-		<del>-</del> -												ļ	
	_							_			_			_		
										<del> </del>					ļ	
			_					_	_	1						*
			輝石安山岩	1						<del></del>						
55	第3ブロック		_	_	0.4	_	0.3	_	0.1	0.07			44	52	389.307	
56	第3プロック	片	黑色頁岩m	末端を欠損	3.9	_	4	_	1.2	16.4	-		288	414	ļ	L18-39と接合。
					_			-					-			L17-2と接合。
			黒色頁岩	完形	_	_		_		_	109					
60		イモ石			0.7		0.5		0.2	0.11	<u> </u>		454	202		
61	第3ブロック	砕片	黑色頁岩	頭部欠損	0.8	_	0.6	_	0.3	0.16	_		399	212		
62	第3プロック	火山ガラス			ļ					ļ	-		382	244	_	
		砕片	チャート	頭部欠損	0.6	_	0.8	_	0.2				283			削器の調整剝片?
64	第 3 ブロック	イモ石	_		0.6	_	0.6	_	0.3	0.11	_		44	52	389.415	
	33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 50 51 51 52 53 55 55 55 55 56 60 61 62 63 64	33 第3プロック 34 第3プロック 35 第3プロック 36 第3プロック 37 第3プロック 39 第3プロック 41 第3プロック 42 第3プロック 43 第3プロック 44 第3プロック 45 第3プロック 46 第3プロック 47 第3プロック 48 第3プロック 49 — 50 — 51 — 51 — 52 — 53 第3プロック 54 第3プロック 55 第3プロック 55 第3プロック 56 第3プロック 57 第3プロック 58 第3プロック 59 第3プロック 59 第3プロック 50 第3プロック 50 第3プロック 51 第3プロック 52 第3プロック 53 第3プロック 54 第3プロック 55 第3プロック 56 第3プロック 57 第3プロック 59 第3プロック 59 第3プロック 59 第3プロック 59 第3プロック 50 第3プロック 50 第3プロック 51 第3プロック 52 第3プロック 53 第3プロック 56 第3プロック 56 第3プロック 57 第3プロック 58 第3プロック 59 第3プロック 59 第3プロック 50 第3プロック	33 第3 ブロック 割片 34 第3 ブロック 計器 35 第3 ブロック 削器 36 第3 ブロック 総長 割片 37 第3 ブロック 総長 割片 38 第3 ブロック 解長 割片 39 第3 ブロック 解局 計算 が で が で が で が で が で が で で で で で で で で	33         第3プロック         製片         黒色頁岩           34         第3プロック         土器         一           35         第3プロック         製片         黒色頁岩           36         第3プロック         製房製片         黒色頁岩 8           37         第3プロック         接長剝片         黒色頁岩 8           38         第3プロック         房村         黒色頁岩 8           40         第3プロック         房井         手ャート           41         第3プロック         砂井         井を頁岩           43         第3プロック         砂井         井を頁岩           43         第3プロック         砂山ガラス         一           44         第3プロック         砂山ガラス         一           45         第3プロック         砂山ガラス         一           46         第3プロック         砂山ガラス         一           47         第3プロック         砂井         黒色頁岩           49         一         欠番         一           50         一         欠番         一           51         一         欠番         一           52         一         欠番         一           53         第3プロック         大毛石         一           56         第3プロック         大砂山	33 第 3 プロック 製片 黒色頁岩 完形	33 第3 プロック 剝片	33 第3 ブロック 剝片 黒色頁岩 完形 1.3 ―――――――――――――――――――――――――――――――――――	3 第3 プロック 剝片 黒色頁岩 完形 1.3 - 2.1 34 第3 プロック 土器	33 第3 プロック 剝片	33 第3 ブロック 親片	33       第3プロック       製片       無色頁岩       完形       1.3       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       1.89         35       第3プロック       親長       無色頁岩       完形       10.5       11.5       7       4.9       2.2       127.28         37       第3プロック       凝長剝片       無色頁岩       下半部欠損       8       -       5       -       1.5       78.43         39       第3プロック       投片       無色頁岩       下半部欠損       8       -       5       -       1.5       78.43         39       第3プロック       投上       大ャート       完形       1.3       8       -       5       -       1.5       76.2       -       1.6       <	33 第3プロック 製片	第3 プロック   製片   無色質岩   完形   1.3   一   2.1   一   0.3   0.48   計画化   注意を表す。	第3 プロック   割片   無色質者   完形   1.3   一   2.1   一   0.3   0.48   計形能   15   34   第3 プロック   土曜   一   一   一   一   一   一   一   一   一	33   第3プロック   製作   熱色質岩   完形   1.3   一   2.1   一   0.3   0.48   製料機   15   393   344   第3プロック   共勝   元   元   元   元   元   元   元   元   元	33   第3 プロック   製片   無色異響   発形   1.3   一   2.1   一   0.3   0.48   新死帳   15   393   389.508   383   383   389.508   383   70 ロック   射器   無色異常   完形   12.1   一   5.6   一   2.7   16.82   16.46   66   議談・日本記書・「「「「「「「「「「「「」」」」 「「「」」」 「「」」 「「」」 「「」」

図版	号 遺物!	No.	所属プロック	器	種	石	材	完形度	長さ伽	長さ(10)	幅(m)	幅(m)	最大高価	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標址	Y座標園	Z自黎·標為m)	備	考
_	1		プロック外	剝片		黑色頁:	岩	完形	2.3	_	3.8	_	0.6	3.95	113	·	489	229	389.3	縄文時代の り。	剝片の可能性あ
	2		ブロック外	砕片?		頁岩		尾部欠損	0.8	_	0.4	_	0.1	0.13	計劃不能		418	197	389.15	縄文時代のり。	遺物の可能性あ

# M15グリッド

図版番号	遺物Na	所属プロック		種	石材	完形度	長さ(m)	長さ(m)	幅(m)	幅(m)	最大高量	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等	X座標份	Y座標句	Z座標(標高m)	備	考
	1	プロック外	イモ石		安山岩	_	0.5	_	0.6	_	0.2	0.13	_		483	193	390.165		

図版番号	遺物No	所属プロック	器種	石材	完形度	長さ6m)	長さ(団)	幅(cm)	(E(cm)	最大高加	重量(g)	剝雞角(*)	使用痕・加工痕等	X座標面	Y座標油	Z座標標高m)	備考
36図74	1	第2プロック	剝片	黒色頁岩 d	完形	8.6	_	8.7	_	2	156.87	111		470	166	389.68	
37図75	2	第2プロック	縦長剝片	頁岩 b	完形	8.7		4.3		1.1	39.31	108		436	150	389.697	
	3	第2ブロック	砕片	<b>黒色頁岩</b>	右側縁部欠損	1.3	_	1.5	_	0.6	0.86	145		416	122	389.657	
30図46	4	第2プロック	縦長剝片	黒色頁岩 b	完形	8.2	-	5.2	_	1.8	71.63	109		345	146	389.657	
37図76	5	第2プロック	二次加工痕を有 する縦長剝片	黑色頁岩	完形	14.8	15.3	10.3	10.1	3	343.4	92	右側縁部末端に連続 する剝離痕。	354	126	389.69	
30図47	6	第2ブロック	縦長剝片	黒色頁岩 b	完形(末端の 一部を欠失)	7.4	7.5	4.3	4.3	1.2	36.4	97		308	160	389.657	MI6-8と接合
30図48	7	第2プロック	縦長剝片	黒色頁岩 b	尾部の末端を 節理により欠 損。	8.4	8.7	4.4	4.2	2.1	60.75	99		322	142	389.657	1点が2つに割れている
31図49	8	第2プロック	剝片	黒色頁岩 b	完形	8.7	9.4	7.2	6.8	2.8	152.45	103		315	130	389.648	M16-6と接合
32図56	9	第2プロック	縦長剝片	黒色頁岩 c	完形	17.2	17.5	10.2	10.1	3.6	553.1	100		376	107	389.617	M16-11と接合
-	10	第2プロック	砕片	黒色頁岩 c	尾部欠損	3.6		2.7		0.4	3.71	計測不能		344	94	389.705	M16-9 のバルバースカー
26図29	11	第 2 ブロック	二次加工痕を有 する縦長剝片	黒色頁岩 c	完形	11.9	17.2	10.9	10.3	2.6	378.59	95	右側縁部末端に連続 する剝離痕。	348	78	389.63	M16-9と接合
	12	第2ブロック	火山ガラス	_	_	-	_	-	-	_		_		286	26	389.67	

# M17グリッド

一 1 第2プロック 砕片     黒色頁岩     0.3 一 0.2 一 0.1 0.08     444 380 389.642 番号重複       一 1 第2プロック 砕片     黒色頁岩     尾部末端残存 0.6 一 1 一 0.3 0.12 一 一 一 番号重複       一 2 一 火山ガラス ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 408 326 389.58	図版番号	遺物Na	所属フロック	器種	白 材	完 形 度	長さ回	長さ畑	相(cn)	··图(cn)	最大局面	<b>重量(g)</b>	剝離用(')	使用狼・加工狼等	X座標面	YEP	Z.性原得品m)	懶 考
		1	第2プロック	砕片	黒色頁岩		0.3		0.2	_	0.1	0.08			444	380	389.642	番号重複
- 2 - 火山ガラス 408 326 389.58	_	1	第2プロック	砕片	<b>無色頁岩</b>	尾部末端残存	0.6	_	1	_	0.3	0.12	_		-			番号重複
	_	2		火山ガラス	-	_	-	_	~~~	-	_		_	·	408	326	389.58	
-   3   -  火山ガラス   -   -   -   -   -   -   -   396   300   389.617	_	3	_	火山ガラス	_	_	-	_	-	_	_	-	-		396	300	389.617	

<b>郊版番号</b>	遺物Na	所属ブロック	器種	石 材	完形度	長さ(11)	長さ(元)	幅(cu)	幅(m)	最大高山	重量(g)	<b>卵離角(*)</b>	使用痕・加工痕等	X座標面	Y座標bi	Zeigigen)	備	考
_	4	第 2 ブロック	礫	輝石安山岩		14		10.3		8.4	1104 . 75	_	自然面赤化。タール 状の炭化物付着。	496	294	389.57		
7図31	5	第2ブロック	二次加工痕を有 する剝片	黒色頁岩	完形	11.4		. 7	_	2.5	122.06	100	尾部の左側縁に連続 する微細な剝離痕お よび二次加工痕あ り。	415	495	389.607		
8図33	6	第2プロック	<b>剝</b> 片	黒色頁岩	完形	10.1	11.9	9.7	7.9	2.3	185.27	98	右側縁部に微細な剝 離痕あり。	404	490	389.635		
6図30	7	第 2 ブロック	微細な剝離痕を 有する縦長剝片	黒色頁岩 j	完形	13.5	13.7	8.3	7.7	2.1	156.23	100	右側縁部に連続する 微細な剝離痕あり。	391	401	389.368	レベル読み値エ	ラー。
1図50	8	第2ブロック	石刃状の縦長剝 片	黒色頁岩	完形(尾部の 一部を欠失)	9.1	-	3.9	_	1	31.6	100	右側縁部に微細な剝 離痕あり。	386	477	389.69		
7國77	9	第2ブロック	微細な剝離痕を 有する縦長剝片	黑色頁岩 t	完形	13.6	13.7	8.8	8.3	2.1	228.82	103		372	483	389.594	M17-10、M17-	 12と接合
2図16	10	第2プロック	削器	黒色頁岩 t	完形	14	14.5	7.4	6.8	2.5	190.22	106	頭部右側縁にノッチ 状の剝離、右側縁部 腹面に連即する剝離 を施す。	360	476	389.617	M17-9、M17-	12と接合
1図51	11	第 2 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	中間部残(右 側縁の一部を 欠失)	7	-	3.6	_	1.5	24.99		右側縁部末端付近に 連続する微細剝離痕 あり。	354	470	389.607	M17-14と接合。	
7図32	12	第 2 ブロック	縦長剝片	黒色頁岩 t	完形	12.2	13.3	8.6	7.8	2.4	207.11	108	尾部末端に連続する 剝離を施す。	370	469	389.63	M17-9、M17-	10と接合
9⊠85	13	第 2 ブロック	縦長剝片	黑色頁岩	上半部欠損、 尾部末端を欠 失	5.7	-	3	-	1.3	15.23	-		327	387	389.56		
1図51	14	第 2 ブロック		黒色頁岩 b	尾部残	2.9	_	3		1.2	9.93		右側縁部末端付近に 連続する微細剝離痕 あり。	254	386	389.615	M17-11と接合。	
_	15		イモ石			1.3	_	1.2	-	0.3	0.41	_		264	378	389.557		
	16		イモ石			0.8		0.7		0.4	0.3	_		201 157	476	389.555		
_	18	第 2 ブロック		黑色頁岩	完形(打面が 欠損してい る)	4.2	_	3.7	_	1.5	0.08			210	324 349			
<b>118グ</b>												,	,					
以版番号	遺物No	所属プロック	器種	石材	完形度	長さ伝	長さ(元)	幅(m)	幅(m)	最大高国	重量(g)	剝離角(*)	使用痕・加工痕等・	X座標油	Y座標面	2座標標高の	備	考
_	1		イモ石 火山ガラス	輝石安山岩	_	0.6	_	0.6		0.2	0.14			400	20	389.255	番号重複	
=-	2	-	イモ石	輝石安山岩	<del></del>	0.9		0.6		0.5	0.24	_		400	127	389.318	番号重複	
	3		3 644	神山メ川石		0.3		0.0		0.0	0.24			473			重複した番号の	貴物から
	L		L	L	L		L			L					000	0001210	жих отещ эт	ALL (7.3 H
<b>M</b>	스로서																備	
	含層外 遺物Na	所属プロック	器種	石 材	完形度	長さ(11)	長さ(m)	幅(m)	幅(m)	最大高向	重量(g)	<b>刻離角(*)</b>	使用痕・加工痕等	X座標bi	Y座標bil	ZEE(原基m)		考
弧番号		所属プロック	器種	石 材 黒色頁岩	完 形 度 頭部を欠失	長さ(m) 7.6	長さ(con) 7.9	幅(m) 3.8	幅(cm) 2.7	最大高(元)	重量(g) 16.87	<b>刻離角(*)</b>	使用痕・加工痕等 石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工	X座標面	Y座標局	Z唐樂傳統m)	SK38・43出土	考
物包工版番号 1図11 会合資	遺物Na 1	所属プロック	削器	黒色頁岩				3.8	2.7	1	16.87	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続	_	Y座標面	_	SK38・43出土	
版番号 1図11 合資	遺物Na 1 計 遺物Na	所属プロック					7.9					剝離角(*)	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続	X座標山	Y座標向		SK38・43出土 備	考
版番号 1図11 合資 版番号	遺物Na 1 遺物Na 上16-32/ 上16-33	_	削器	黒色頁岩	頭部を欠失	7.6	7.9	3.8	2.7	1	16.87	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工	_	-	_		
版番号 1図11 合資 版番号	遺物No. 1 遺物No. L16-32/ L16-33 L16-34/ L16-77	所属プロック	削器器種	黒色頁岩	頭部を欠失 完 形 度	7.6 長さ(m)	7.9	3.8 幅(m)	2.7	最大高知	16.87	_	石刃状の総長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工 使用痕・加工痕等	_	-	_		
版番号 1図11 合資 版番号 0図93	遺物No. 1 選物No. L16-32/ L16-33/ L16-34/ L16-77 L17-1/ L17-5	所属プロック 第1プロック	削器 器 種 総長剣片	黒色頁岩 石 材 黒色頁岩 h	頭部を欠失 完 形 度 完形	7.6 長さ(m) 6.3	7.9	3.8 幅(m) 5.3	2.7 幅(m)	最大高(m)	16.87	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工	_	-	_	備	
取番号 1図11 合資 販番号 0図93 4図26	遺物No. 1 遺物No. L16-32/ L16-33 L16-34/ L16-77 L17-1/	所属プロック 第1プロック 第1プロック	削器 器 種 総長剣片	黑色頁岩 石 材 黑色頁岩 h 黑色頁岩	頭部を欠失 完 形 度 完形	7.6 長さ(m) 6.3 4.3	7.9 長さ(cm) —	3.8 幅(m) 5.3 6.2	2.7 幅(m) —	最大高(m) 1.7 0.9	重量(g) 	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工 使用痕・加工痕等 左側縁部に連続する	X座標山 —	-	Zawwww.caww.caww.caww.caww.caww.caww.caw	備	
版番号 1図11 合資 版番号 0図93 4図26 3図21	道物No.  1  当道物No.  L16-32/ L16-33  L16-34/ L16-77  L17-1/ L17-5  L17-7/	所属プロック 第1プロック 第1プロック 第3プロック	削器 器 種 縦長剝片 剝片 削器	黑色頁岩 石 材 黑色頁岩 h 黑色頁岩 x	頭部を欠失 完 形 度 完形 完形 完形 完形	7.6 長さ頃 6.3 4.3	7.9 長さ(m) - - 13.1	3.8 幅(m) 5.3 6.2 7.7	2.7 幅(m) — — —	最大高tal 1.7 0.9 2.1	重量(g) ————————————————————————————————————	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工 使用痕・加工痕等 左側縁部に連続する	X座標山 —	-	2 盛 蔡 高 心	備	
1図11 <b>(合資</b> <b>(包</b> <b>(包</b> <b>(包</b> <b>(2</b> <b>(2</b> <b>(3</b> <b>(3</b> <b>(3</b> <b>(2</b> <b>(4</b> <b>(2</b> <b>(4</b> <b>(2</b> <b>(4</b> <b>(2</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4</b> <b>(4)</b> <b>(4)</b> <b>(4)</b> <b>(4)</b> <b>(4)</b> <b>(4)</b> <b>(5)</b> <b>(6)</b> <b>(6)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b>(7)</b> <b></b>	遺物No 1  当物No L16-32/L16-32/L16-33/ L16-77 L17-1/L17-5 L17-7/L17-33 L17-8/	所属プロック 第1プロック 第1プロック 第3プロック 第3プロック	<ul><li> 器 種</li><li> 級長剣片</li><li> 剣片</li><li> 削器</li><li> 振器</li></ul>	無色頁岩 材 無色頁岩 h 無色頁岩 k 無色頁岩 x 黒色頁岩 x	頭部を欠失 完 形 度 完形 完形 完形	天さ頃 6.3 4.3 12.4 10.8	天さ(m) 一 ー 13.1	3.8 幅句 5.3 6.2 7.7 8.4	2.7 幅(m) — — — 6.7	最大高cd 1.7 0.9 2.1 2.7	重量(g)	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工 使用痕・加工痕等 左側縁部に連続する	X座標山 —	-	2唑素高n) — — —	備	
1図11 1図11 1図5 6 資 20 20 20 3 20 4 20 4 20 4 20 4 20 4 20	遺物No.  1  当遺物No.  L16-32/ L16-33/ L16-34/ L16-77  L17-1/ L17-5  L17-1/ L17-31  L17-8/ L17-11  L17-17/ L17-12	所属プロック 第1プロック 第1プロック 第3プロック 第3プロック 第3プロック	割器 器 種 縦長剣片 剣片 削器 微細な剣雕痕を 縦型な剣剛変痕を 縦長剣片	黑色頁岩 材 黑色頁岩 h 黑色頁岩 x 黑色頁岩 c 黑色頁岩 a	頭部を欠失 完 形 度 完形 完形 完形 完形 完形 是部末端欠損 右側線~尾部	天さ(m) 6.3 4.3 12.4 10.8	天さ(m) - - 13.1 - 13.3	3.8 幅(m) 5.3 6.2 7.7 8.4 7.8	2.7 相(m) — 6.7 —	最大高元 1.7 0.9 2.1 2.7	重量(g)	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工 使用痕・加工痕等 左側縁部に連続する	X座標山 —	-	2 整 標	備	
版番号 1図11 会合資	遺物No.  1    遺物No.   L16-32/  L16-33    L16-34/  L16-77    L17-1/  L17-5    L17-8/  L17-8/  L17-11    L17-11/  L17-19    L17-24/  L17-36	所属プロック 第1プロック 第1プロック 第3プロック 第3プロック 第3プロック	削器 器 種 縦長剝片 剝片 削器 振器 微細な剝離痕を 縦長剝片 剝片	無色頁岩 材 無色頁岩 h 無色頁岩 x 黑色頁岩 c 黑色頁岩 a 黑色頁岩 a 黑色頁岩 a	頭部を欠失 完 形 度 完形 完形 完形 完形 完形 是部末端欠損 右側線~尾部	天さい 6.3 4.3 12.4 10.8 12.9	7.9 長さ(m) 一 13.1 - 13.3 11.9	3.8 Macon 5.3 6.2 7.7 8.4 7.8 12.8	名.7 幅(m) — 6.7 — 6.6 6.9	最大高cm 1.7 0.9 2.1 2.7 1.6 1.3	重量(g)	_	石刃状の縦長剝片の 左側縁の背面に連続 する二次加工 使用痕・加工痕等 左側縁部に連続する	X座標山 —	-	2 整 標	備	

# 第2節 縄文時代

### 第1項 住居址

住居址は4軒検出され、全て柏倉芳見沢遺跡1区で検出されている。いずれも縄文時代前期前半の所産と考えられる。これらの住居址は、柏倉芳見沢遺跡1区の、北東一南西方向にのびた台地に占地し、台地を取り囲むように配置されている。標高は388~391mほどのところに立地している。

#### 第1号住居址 (第44·45図)

位置 柏倉芳見沢遺跡1区西側のM~N-12~13グリッドに位置し、標高は391m程である。北東方向で第48号土坑に隣接し、また南西方向約14m程のところには第2号住居址が所在する。重複関係 第40号土坑と重複し、これを切っているとみられる。遺存状態 良好である。規模・形状 北東―南西方向に主軸をとり、主軸方位はN-13°-Eである。規模は長軸4.06m・短軸2.95mを測り、検出された4軒の中でもっとも小型の住居址である。平面形は北西隅の張り出した隅丸長方形を呈する。壁・壁周溝 壁高は北壁で54~58㎝、南壁で28~41㎝程で、外傾して立ち上がっている。壁周溝は検出されなかった。柱 穴 壁面に沿って壁柱穴が検出されている(P1~P27)。また南壁の壁柱穴の内側にも柱穴列が検出され(P30~P34)、P19・P30・P33・P34は他の柱穴に比べて深度を有する点に特徴が見られる。主柱穴となるべき柱穴の配置は判然とせず、壁立ちの構造を想定した。炉 址 石組炉である。住居址中央部北寄りのところで検出された。掘り方は、長軸99㎝・短軸41㎝、床面からの深さは西壁で6~11㎝・東壁で9~23㎝を測り、平面形はいびつな逆台形を呈する。中央に扁平な石を敷き、その西側側面にも2個の礫を配す。配石の南側は皿状に窪み、配石北側にも掘り込みがみられる。また北西隅にはピットを有する。遺物出土状況 住居址全体にまばらに分布するものの、住居址南側にやや集中する傾向が窺える。また垂直分布から住居址下層から床面直上付近に集中して分布する様子が看取される。遺 物 遺物量はあまり多くなく、土器15点・石器6点を図示し得た。土器の器種は全て深鉢である。いずれも胎土に繊維を含む。1は胴部下半~底部の復元個体である。若干上げ底状の底部から直線的に外反して立ち上がる器形を呈する。

1は胴部下半〜底部の復元個体である。若干上げ底状の底部から直線的に外反して立ち上がる器形を呈する。 外面には閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段ループ文を施し、底面にはRLループ文を 乱雑ながら弧状に施す。

2・3 は内外面に条痕文を施す胴部片で、3の内面の器面は荒れて不明瞭である。4 は口縁部文様帯の一部とみられ、矢羽状を呈する斜位の沈線を施した2条1対の隆帯により口縁部文様帯を区画する。文様帯内には有刻の平行沈線による弧状文や円形刺突文を施す。胴部には閉端環付RL単節斜縄文(0段多条)を施す。5 は爪形の刻みを施した有刻の平行沈線による幾何学文を施した口縁部片である。6~12は多段のループ文を施した胴部片で、6・7 は閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段のループ文、8~10は閉端環付のRL(0段多条)、11・12は閉端環付のLR(0段多条)による多段のループ文を施す。13・14は羽状構成をとるLR・RL単節斜縄文(0段多条)を施す胴部片で、13は結束により羽状構成をとる。15はLR単節斜縄文(0段多条)を施す胴部片である。

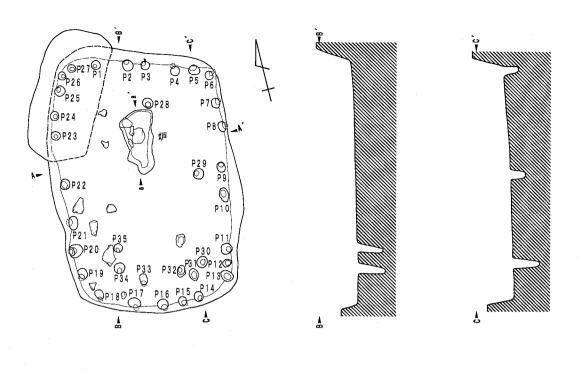
石器類としては、石鏃(16~18)、スクレイパー(19)、打製石斧(20)、磨石(21)が出土している。

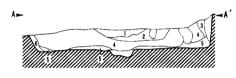
第6表 第1号住居址ピット深度計測表

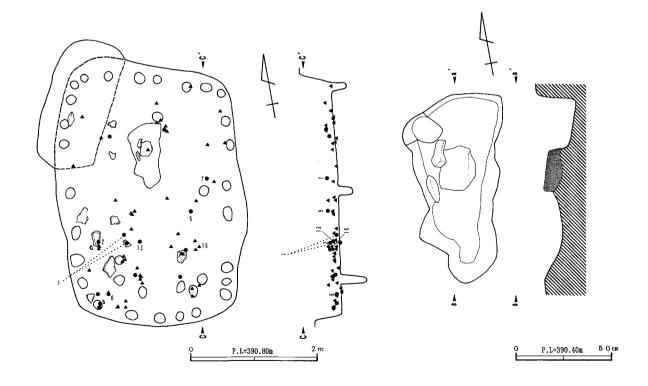
P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P 12	P13	P14	P 15	P16	P17	P18	P 19	P 20
21.0	26.5	28.0	36.5	22.5	33.0	41.0	28.5	12.5	7.0	21.5	14.5	20.0	26.5	21.0	24.0	31.0	28.0	46.5	52.5
P21	P 22	P 23	P 24	P 25	P26	P 27	P 28	P 29	P 30	P31	P 32	P33	P34	P 35					
25.0	19.5	21.5	20.0	14.0	11.0	24.0	32.0	24.0	40.5	25.5	27.0	42.5	41.5	39.0					

# 第2号住居址(第46~51図)

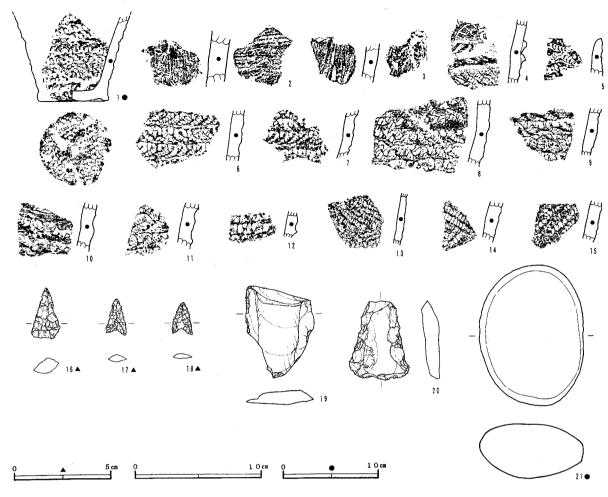
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央西側のN~O-14~16グリッドに位置し、標高は390m程である。東側で第74号 土坑と、西側で第31号土坑とそれぞれ隣接し、北東方向約14m程のところには第1号住居址が所在する。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好である。規模・形状 北西一南東方向に主軸を取り、主軸方位はN一8°一Wである。規模は長軸5.16m・短軸3.62mを測り、北西隅と西壁中央部が張り出した隅丸長方形を呈する。壁・壁周溝 壁高は西壁で8~12cm、東壁で26~31cm程で、外傾して立ち上がっている。壁周溝は検出されなかった。柱 穴 壁







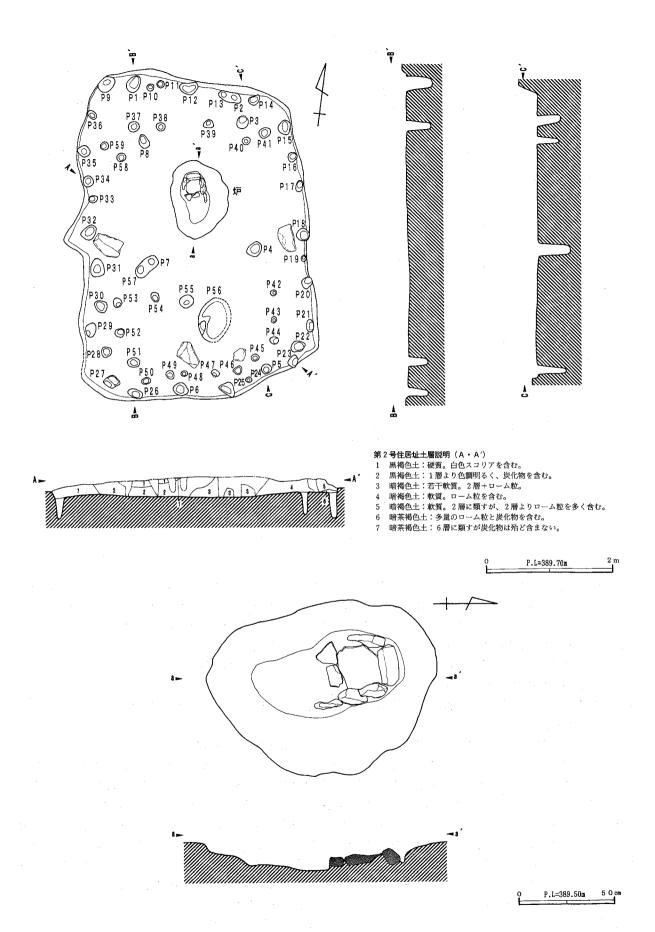
第44図 第1号住居址



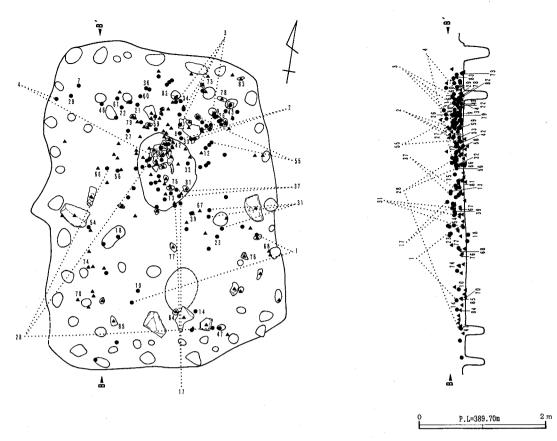
第45図 第1号住居址出土遺物

面に沿って壁柱穴が検出され( $P1 \cdot P2 \cdot P5 \cdot P6 \cdot P9 \sim P36$ )、更にこの柱穴列の内側にも柱穴列が巡っている( $P3 \cdot P4 \cdot P37 \sim P39 \cdot P41 \sim P53 \cdot P57 \sim P59$ )。主柱穴配置は判然としないが、 $P1 \cdot P2 \cdot P4 \sim P7$ ないし $P3 \sim P806$  本柱を想定した。**炉** 址 石組炉である。住居址中央部やや北寄りのところで検出された。掘り方は、長軸121cm、短軸93cm、床面からの深さ14cmを測り、平面形は不整楕円形を呈する。炉の北側には南方を開けた「コ」字状に礫を配し、その中央に扁平な石を敷く。**遺物分布状況** 住居址全面にまばらに分布するが、住居址中央部から北壁付近にかけて遺物が集中する。垂直分布は住居址上層から床面直上にかけて分布する傾向が窺える。**遺物** 土器60点・土製品 1点・石器24点を図示し得た。土器の器種は全て深鉢で、いずれも胎土に繊維を含む。

1~5は復元個体である。1は口縁部から胴部上半で、直立して立ち上がる器形を呈する。平縁で口唇部は丸みを帯びた内削ぎ状を呈する。2条1対の隆帯を巡らせて口縁部文様帯を区画し、文様帯内には撚糸側面圧痕による蕨手文を施す。蕨手文の基点と渦巻中央には円形竹管による刺突を施し、余白には横羽状の刺切文を充填する。胴部にはL2本・R2本の羽状構成をとる結節縄文を施す。2は底部を欠損する小型の深鉢で、胴部下半に若干の膨らみを持ち、胴部中位で括れて、外反して開く器形を呈する。平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部~胴部中位は先端の尖った円形貼付文を多段に貼付し、閉端環付LR単節斜縄文(0段多条)を施す。3は底部を欠損する大型の深鉢で、底部から外反して立ち上がって胴部下半で屈曲し、胴部中位と口縁部直下に緩い括れを持って外反して立ち上がる器形を呈する。平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部直下には部分的に浅い刻み(?)を施した2条1対の隆帯を巡らせる。以下はLとRによる結節縄文を施す。4・5は若干上げ底状を呈する底部片で、4は外面に閉端環付のLR・RL(0段多条)による多段のループ文を、底面には閉端環付のLR(0段多条)によるループ文を重弧状に施す。5は外面・底面とも閉端環付のRL(0段多条)によるループ文を施す。6は内外面とも条痕を施す胴部片。7~9は撚糸側面圧痕により文様を施すもので、いずれも口縁部ないし口縁



第46図 第2号住居址①

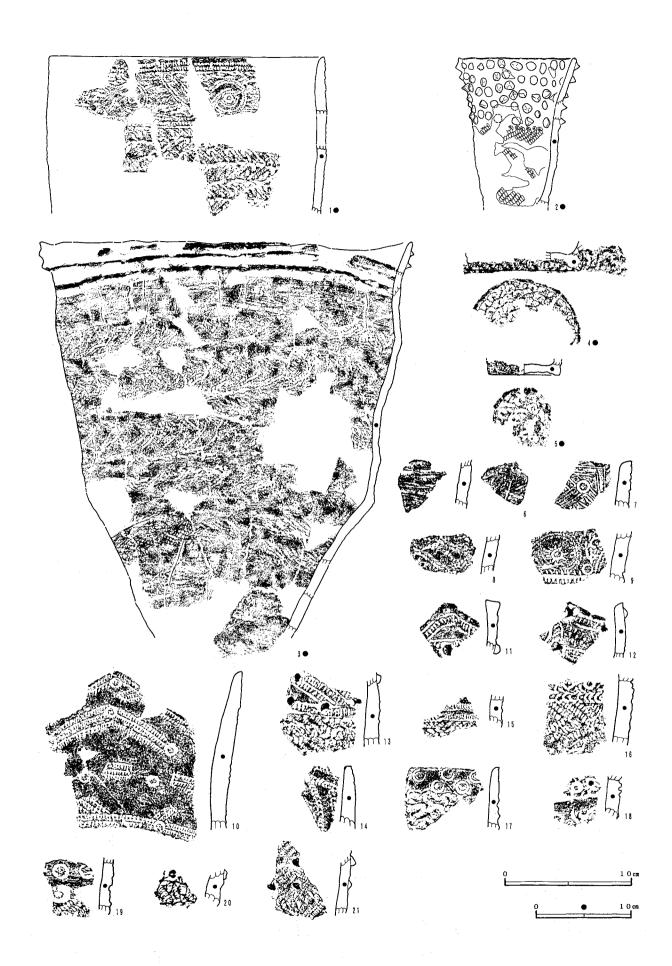


第47図 第2号住居址②

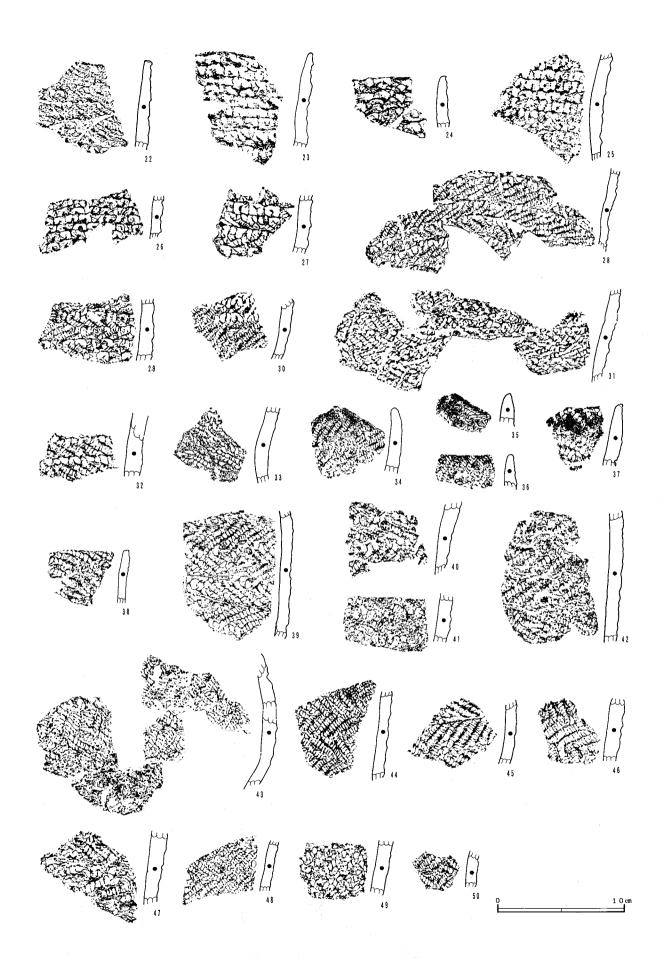
第7表 第2号住居址ピット深度計測表

P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12	P13	P14	P 15	P16	P17	P18	P19	P 20
38.0	31.0	36.0	48.0	44.0	44.0	35.0	61.0	39.0	29.0	26.0	36.0	27.0	33.0	40.0	28.0	21.0	40.0	19.0	33.0
P21	P 22	P 23	P24	P25	P26	P 27	P28	P 29	P 30	P31	P 32	P 33	P34	P 35	P 36	P37	P 38	P 39	P 40
32.0	28.0	31.0	13.0	36.0	30.0	38.0	36.0	17.0	25.0	39.0	44.0	24.0	32.0	40.0	29.0	37.0	31.0	24.0	34.0
P 41	P 42	P 43	P 44	P 45	P 46	P 47	P 48	P 49	P 50	P51	P 52	P 53	P 54	P 55	P 56	P 57	P 58	P 59	
21.0	26.0	15.0	35.0	43.0	21.0	35.0	23.0	33.0	23.0	30.0	39.0	18.0	28.0	35.0	9.0	23.0	26.0	31.0	

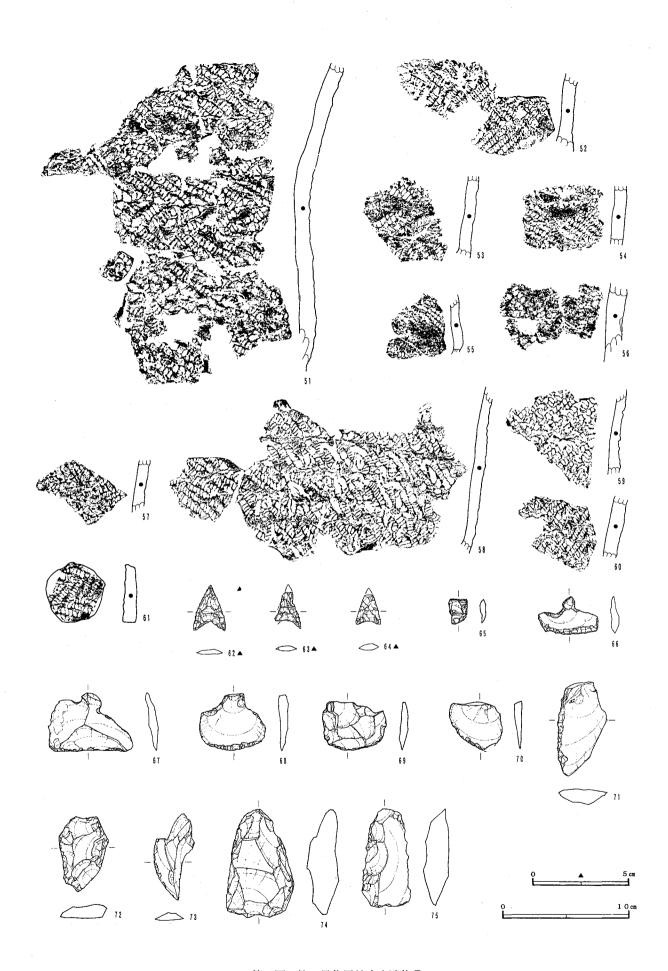
部付近の破片とみられる。7は平縁で、口唇部は内削ぎ状を呈する。2条1対の撚糸側面圧痕を斜位に施し、その基点には円形刺突文を施す。その他2条1対の平行沈線により斜位・逆「L」字状の文様を施す。8は撚糸側面圧痕により菱形等の幾何学文を施す。9は2条1対の有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画し、文様帯内には撚糸側面圧痕による渦巻文や円形刺突文・刺切文を施す。渦巻文中央に施された円形刺突文には放射状の刻みを加える。10~16は有刻の平行沈線により文様を施すもので、いずれも口縁部ないし口縁部付近の破片とみられる。10は波状を呈し、口唇部は内削ぎ状を呈する。数条1対の有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画し、文様帯内には3条1対の有刻の平行沈線により「へ」字状等の幾何学文を施し、波頂部や文様の基点等には円形刺突文を施す。11は台形状を呈する波状縁で、波頂部は平坦である。有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画し、波頂下を直線的に連結する。その他円形貼付文を付す。12も波状口縁部片で、有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画し、文様帯内には同様の平行沈線により弧状等の幾何学文や円形貼付文を施す。また余白には刺突文を充塡する。13は有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画し、数条1対の平行沈線を斜位に施して、円形貼付文を付す。以下は閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段のループ文を施す。14は爪形の刻みを施した有刻の平行沈線により弧状等の幾何学文を施す。15は2条1対の爪形文を施した有刻の平行沈線により弧状等の幾何学文を施す。16は2条1対の爪形文を施した有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画しているとみられ、以下は LR 単節斜縄文(0段多条)を施す。16は2条1対の爪形の刻



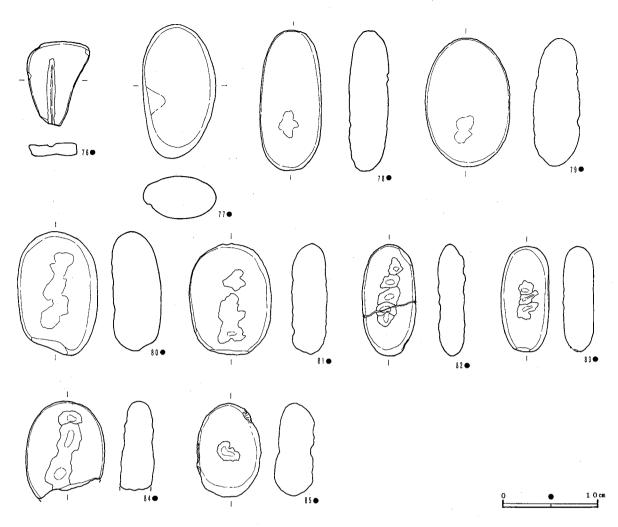
第48図 第2号住居址出土遺物①



第49図 第2号住居址出土遺物②



第50図 第2号住居址出土遺物③

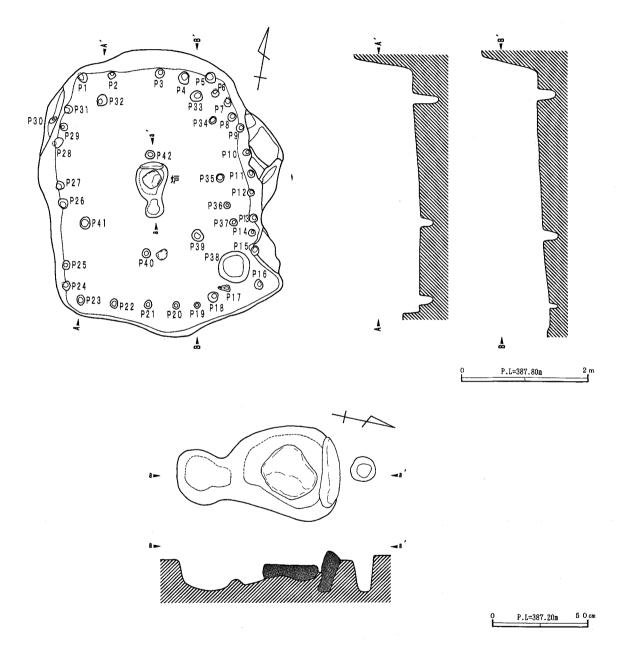


第51図 第2号住居址出土遺物④

みを施した有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画しているとみられ、文様帯内には円形刺突文を施す。以下 は羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文 (0段多条)を施す。17~19は円形刺突文を施すもので、17は口縁部片、 18・19は胴部片である。17は平縁で、口唇部は丸みを帯びた内削ぎ状を呈する。口縁部直下には2条1対の円形 刺突列を施し、以下は閉端環付の LR・RL (0段多条) により羽状構成をとる多段のループ文を施す。18は平行 沈線による区画内に円形刺突文を施す。19は数段の円形刺突列を施し、以下は結束により羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文(0段多条)を施す。20·21は円形貼付文を施す胴部片で、20は閉端環付の RL(0段多条) によるルー プ文を、21は結束により羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文 (0段多条) をそれぞれ地文とする。22~33は多段 のループ文を施すもので、 $22\sim24$ は口縁部片、 $25\sim33$ は胴部片である。口唇部形状は22が角頭状、 $23\cdot24$ が丸頭 状を呈する。地文は、25~29が閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段のループ文、30が閉 端環付の LR (0 段多条) による多段のループ文、22・31~33は閉端環付の RL (0 段多条) による多段のループ 文である。また $23 \cdot 24$ の原体の撚りの方向は不明である。 $34 \sim 56$ は単節斜縄文を施すものである。 $34 \sim 38$ は口縁 部片で、34・35は波状縁、36~38は平縁である。口唇部形状は、34・36が丸頭状を、35・37・38は内削ぎ状を呈 する。39~56は胴部片で、52・53は底部付近の破片である。器形としては、胴部に膨らみを持つもの(43)や膨 らみを持つ胴部からいったん括れて外反して開くもの(51)、直線的に開くもの(39・42)等がある。地文は、羽 状構成をとる LR·RL 単節斜縄文 (0段多条) を施すもの (39~53)、LR 単節斜縄文 (0段多条) を施すもの (34・ 36)、RL 単節斜縄文(0段多条)を施すもの(35・37・38・54~56)がある。39・40は結束による羽状構成をと るもので、34・39は端部に所謂自縛痕が看取される。また51は括れ部の一部のみ羽状構成をとる。55の下半には 地文を施さず無文である。57~60は結節縄文を施す胴部片で、L2本とR2本により羽状構成をとる結節縄文を 施すもの(57)、L2本の結節縄文を施すもの(58・59)、R2本の結節縄文を施すもの(60)がある。また60は

所謂自縛痕が看取される。61は羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文(0 段多条)を施した胴部片を用いた土器片製円盤で、重さは59.4gを測る。

石器類としては石鏃( $62\sim64$ )・楔形石器(65)・石匙( $66\sim68$ )・スクレイパー( $69\sim73$ )・打製石斧( $74\cdot75$ )・有溝砥石(76)・磨石(77)・凹石( $78\sim85$ )等が出土している。



第52図 第3号住居址

第8表 第3号住居址ピット深度計測表

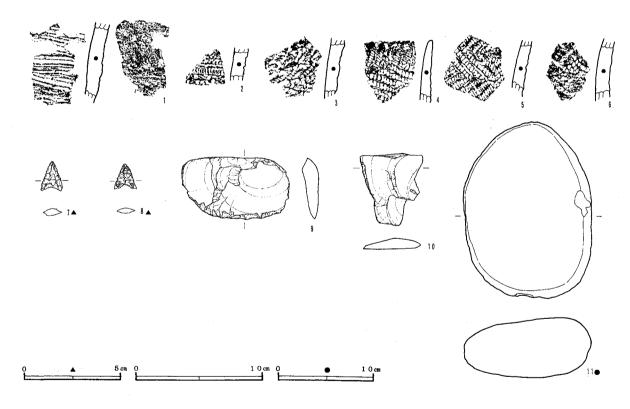
200	প্র	o JIL	/D 4T C	7 1 1	N/X 011	2122													
P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P 12	P 13	P14	P 15	P16	P17	P18	P 19	P 20
20.0	27.0	30.0	28.0	19.0	22.0	22.0	18.0	21.0	19.0	19.0	19.0	18.0	19.0	30.0	23.0	11.0	24.0	15.0	19.0
P 21	P 22	P23	P24	P 25	P26	P27	P 28	P 29	P 30	P31	P 32	P 33	P34	P 35	P 36	P 37	P 38	P 39	P 40
21.0	15.0	22.0	16.0	23.0	21.0	22.0	20.0	19.0	10.0	18.0	40.0	29.0	23.0	21.0	18.0	13.0	7.0	22.0	17.0
P 41	P 42	1													-				
20.0	21.0																		

# 第3号住居址(第52・53図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央東側の  $F-17\sim18$  グリッドに位置し、標高は388m程である。北側で第61・62号土坑に隣接する。重複関係 なし。遺存状態 良好である。規模・形状 北西一南東方向に主軸を取り、主軸方位は  $N-17^\circ$ —Wである。規模は長軸4.51m・短軸3.25mを測り、平面形は東壁の張り出したいびつな隅丸長方形を呈する。壁・壁周溝 壁高は南壁で  $4\sim24$ cm、北壁で67~90cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁周溝は検出されなかった。柱 穴 壁面に沿って壁柱穴が検出され  $(P\ 1\sim P31)$ 、南壁では柱穴列が壁面から若干離れている。東壁の壁柱穴の内側にも柱穴列が検出されている  $(P33\sim P37)$ 。主柱穴配置は判然とせず、壁立ち構造を想定した。また北壁付近に位置する 3 基のピット  $(P4\cdot P32\cdot P33)$  が他よりも深さを有していることが特徴的である。f 址 石組炉である。住居址中央部で検出された。掘り方は、長軸86cm、短軸49cm、床面からの深さ10cmを測り、平面形はいびつな分銅形を呈する。炉の北壁に石を 1 個配し、その南に扁平な石を敷く。配石の南側には不整円形を呈する掘り込みを有する。遺 物 出土遺物は少なく、土器 6 点・石器 5 点を図示し得た。土器の器種は全て深鉢である。いずれの土器も胎土に繊維を含む。

1 は内外面に条痕を施す胴部片で、内面の条痕は不明瞭である。 2 は 2 条 1 対の爪形の刻みを施した有刻の平行沈線を巡らせた胴部片で、口縁部文様帯の一部とみられる。以下は多段のループ文を施す。 3 は閉端環付の LR・RL (0 段多条) により羽状構成をとる多段のループ文を施す胴部片。  $4\sim6$  は羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文 (0 段多条)を施すもので、 4 は口縁部片、  $5\cdot6$  は胴部片である。

石器類としては、石鏃 (7・8)・スクレイパー (9・10)・磨石 (11) 等が出土している。



第53図 第3号住居址出土遺物

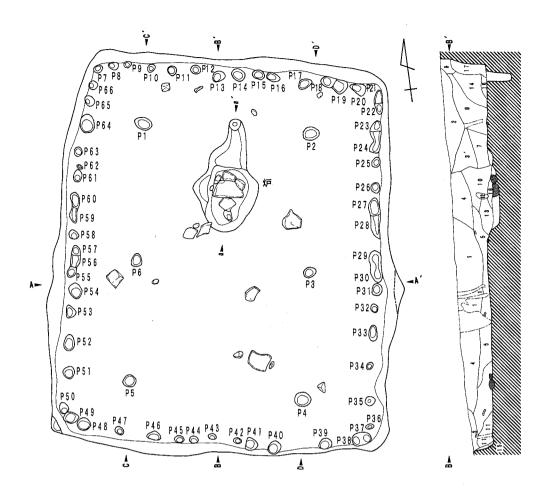
#### 第 4 号住居址 (第54~60図)

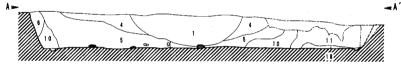
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南側の K~L ー21~22グリッドに位置し、標高は388.5m程である。北側で第26・27・36・55号土坑と、また南側で第43号土坑とそれぞれ隣接する。重複関係 なし。遺存状態 良好である。規模・形状 北東一南西方向に主軸を取り、主軸方位はN ー10° ー E である。規模は長軸6.21 m・短軸5.11 mを測り、検出された 4 軒の中でもっとも大型の住居址である。平面形は長方形を呈する。壁・壁周溝 壁高は南壁で21~45 cm、北壁で59~80 cm程で、外傾して立ち上がっている。壁周溝は検出されなかったものの、壁柱穴の数が多く壁柱穴同士が連結している箇所がみられる。柱 穴 主柱穴は P 1~ P 6の6 本柱と想定される。この他壁際に沿って柱穴列が検出された (P 7~ P 66)。炉 址 石組炉である。住居址中央部やや北寄りのところで検出された。掘り方は、長軸178 cm、短軸102 cm、床面からの深さ20 cmを測り、平面形は不整楕円形を呈する。炉の南側には南方を開けた「コ」状に礫を配し、その中央~南側に扁平な石を2個敷く。配石南側には浅い楕円形の掘り込みを持つ。また配石北側および西側にも掘り込みを持つ。遺物分布状況 住居址全面にまばらに分布するが、南壁付近および炉の周辺にややまとまって分布する傾向が窺える。垂直分布は住居址中層から下層にかけて分布する傾向が伺える。遺 物 該期の住居址で最も遺物出土量が多く、土器79点・土製品2点・石器19点を図示し得た。土器の器種は深鉢を主体とし、11を除き、いずれも胎土に繊維を含む。

第9表 第4号住居址ピット深度計測表

P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12	P 13	P14	P 15	P16	P17	P18	P 19	P 20
48.0	44.0	47.0	47.0	52.0	36.0	26.0	35.0	35.0	43.0	38.0	35.0	37.0	31.0	25.0	31.0	34.0	32.0	22.0	37.0
P21	P 22	P23	P24	P 25	P26	P 27	P28	P 29	P30	P31	P 32	P 33	P 34	P 35	P36	P37	P38	P 39	P 40
32.0	47.0	35.0	26.0	39.0	43.0	35.0	10.0	32.0	35.0	43.0	23.0	23.0	33.0	54.0	29.0	42.0	43.0	33.0	38.0
P 41	P 42	P 43	P 44	P 45	P 46	P 47	P 48	P 49	P 50	P 51	P 52	P 53	P54	P 55	P56	P57	P58	P 59	P 60
48.0	30.0	37.0	40.0	35.0	33.0	23.0	23.0	15.0	28.0	28.0	35.0	47.0	30.0	37.0	28.0	36.0	39.0	25.0	32.0
P61	P 62	P 63	P 64	P 65	P 66														
40.0	12.0	36.0	39.0	30.0	47.0														

1~10は復元個体である。1は口縁部~胴部上半で、外反して開く器形を呈する。波状縁で、口唇部は内削ぎ 状を呈する。口縁部文様帯は2条1対の刻みを施した隆帯により区画され、波頂下の口縁部文様帯下端には同様 の隆帯により三角文を施す。文様帯内には撚糸側面圧痕により蕨手文や弧状文を施し、その中心部や三角文の内 側には円形刺突文を施す。また三角文の中央とその両脇には円形貼付文を付す。文様帯内の余白には刺切文を充 塡する。胴部には撚りの方向が不明ながらループ文を施す。その他口縁部文様帯内の三角文脇には焼成後の穿孔 がみられる。2は26・27と同一個体で、口縁部~胴部上半まで遺存し、外反して開く器形を呈する。平縁で、口 唇部は内削ぎ状を呈する。口縁部文様帯は、その上端を3条1対の有刻の平行沈線を施した隆帯により、その下 端を2条1対の有刻の平行沈線により区画する。文様帯内は3条1対の有刻の平行沈線により縦位区画し、縦位 区画内には1~2条1対の有刻の平行沈線により弧状・「X」字状等の幾何学文を施す。余白には円形刺突文を充 塡する。胴部には閉端環付の LR・RL ( 0 段多条) により羽状構成をとる多段のループ文を施す。 3 は口縁部〜胴 部下半で、底部から外反して開いて胴部中位が張り、若干内湾気味に開く器形を呈する。平縁で、口唇部は丸頭 状を呈する。口縁部直下に円形刺突列を1条巡らせ、以下は結束により羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文(0 段多条)を施す。4は口縁部~胴部上半まで遺存する小型の深鉢である。平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口 縁部直下には棒状貼付文を付し、閉端環付 RL ( 0 段多条) により多段のループ文を施すとみられる。 5 は口縁部 ~胴部下半で、球状の胴部から内湾気味に開く器形を呈する。平縁で、口唇部は丸みを帯びた内削ぎ状を呈する。 口縁部直下より、閉端環付の LR・RL(0 段多条)により羽状構成をとる多段のループ文を施す。 6 は胴部下半 ~底部で、上げ底状の底部から直立して立ち上がる器形を呈する。外面には閉端環付の LR・RL( 0 段多条)に より羽状構成をとる多段のループ文を施す。底部にもループ文を弧状に施す。7は底部片で、上げ底状の底部か ら直線的に立ち上がる器形を呈する。外面には閉端環付の LR (0 段多条) により多段のループを施す。 8 は口縁 部~胴部上半まで遺存する小型の深鉢である。平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部直下より、結束により 羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文(0段多条)を施す。9は口縁部~胴部中位で、ほぼ直線的に開く器形を呈 する。平縁で、口唇部は内削ぎ状を呈する。口縁部直下には幅狭の無文帯を有し、以下はL2本の結節縄文とR





第4号住居址土層説明(A・A′/B・B′)

黒色土:硬質。やや粘性あり。白色スコリアを含む。 黒褐色土:硬質。4層に類似するが、やや砂質。

黒褐色土:硬質。4 層に類似するが、やや砂質。 暗褐色土:砂質。締まりなし(攪乱か?)。 暗褐色土:硬質。3 層+炭化物。 黒褐色土:1 層より色調明るい。硬質。白色スコリアを含む。 暗褐色土:硬質。焼土粒・炭化物・白色スコリアを含む。 暗褐色土:やや軟質。ロームブロック(YP・SP)を含む(漸移層)。 暗褐色土:硬質。10層+ロームブロック。

暗褐色土:やや砂質。硬質。10層に類すが10層より白色スコリアを多く含む。

黒褐色土:硬質。17層より色調暗く、炭化物を含む。

暗褐色土:硬質。5層に類すが、色調明るく、ローム粒・炭化物を含む。 暗褐色土:硬質。5層に類するが5層より軟質で、焼土粒を含まない。 10

黒褐色土:硬質。16層に類し、16層より色調暗い。

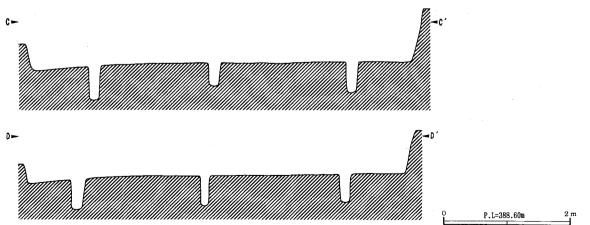
黒褐色土:硬質。多量のローム粒・ロームブロック・炭化物と、若干の焼土粒を含む。

無物已工・使員。夕重のローム社・ロームプロック・灰化物と、岩・暗褐色土:便質。7層に類すが、ロームプロックの割合が少ない。 暗茶褐色土:ロームプロック主体(漸移層)。 暗褐色土:やや砂質。硬質。ローム粒を多量に含む。 暗褐色土:硬質。16層に類し、16層よりローム粒を多く含む。

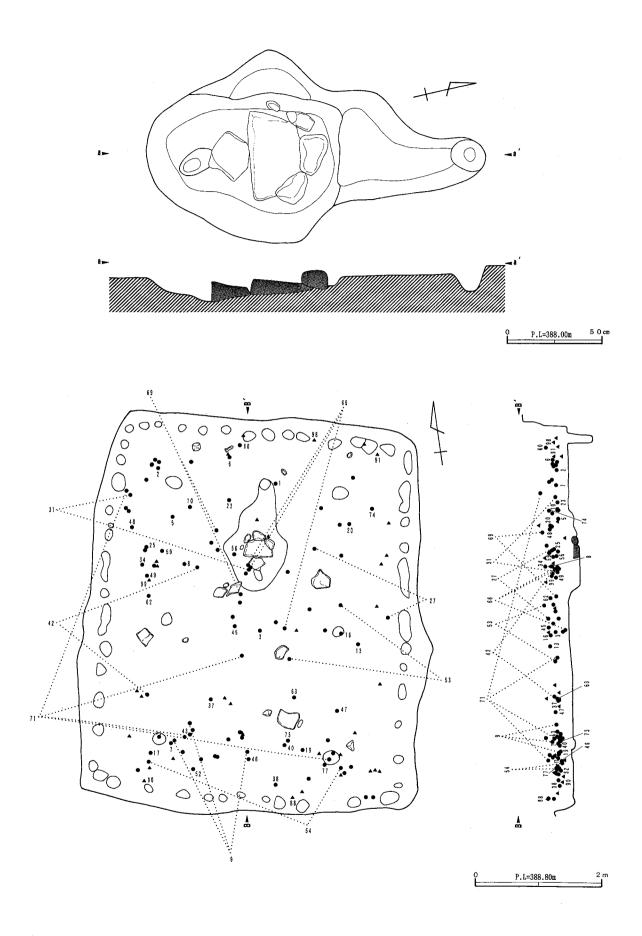
15

16

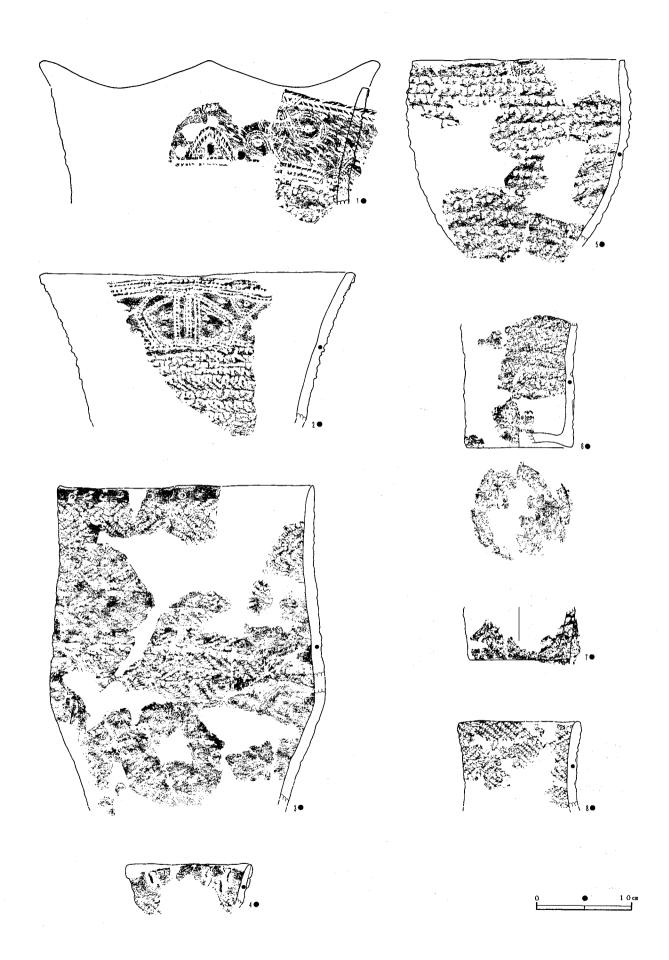
18 暗褐色土:色調明るい。硬質。ローム粒・焼土粒を含む。



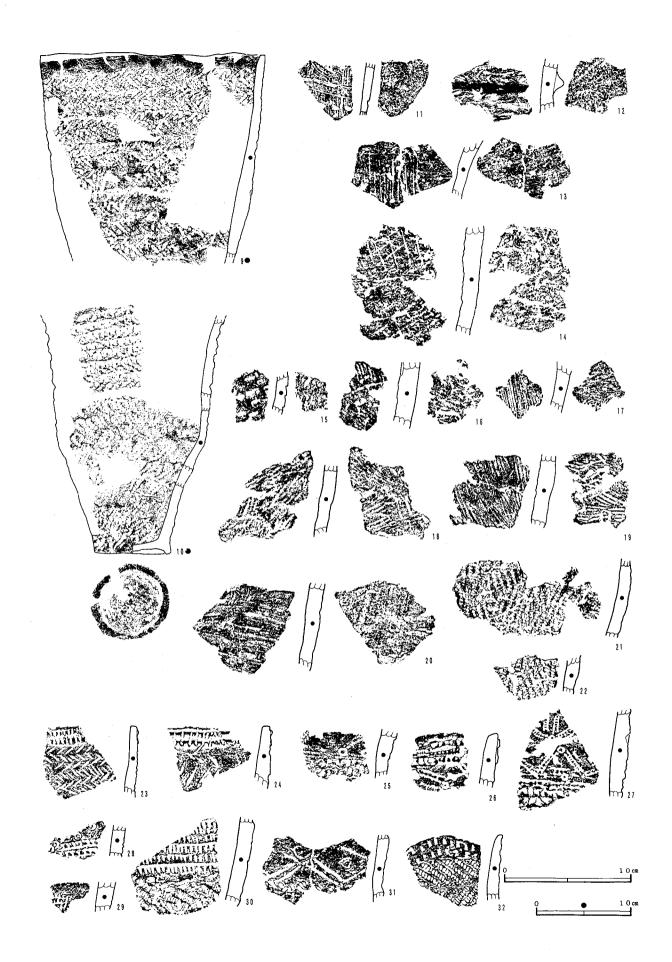
第54図 第4号住居址①



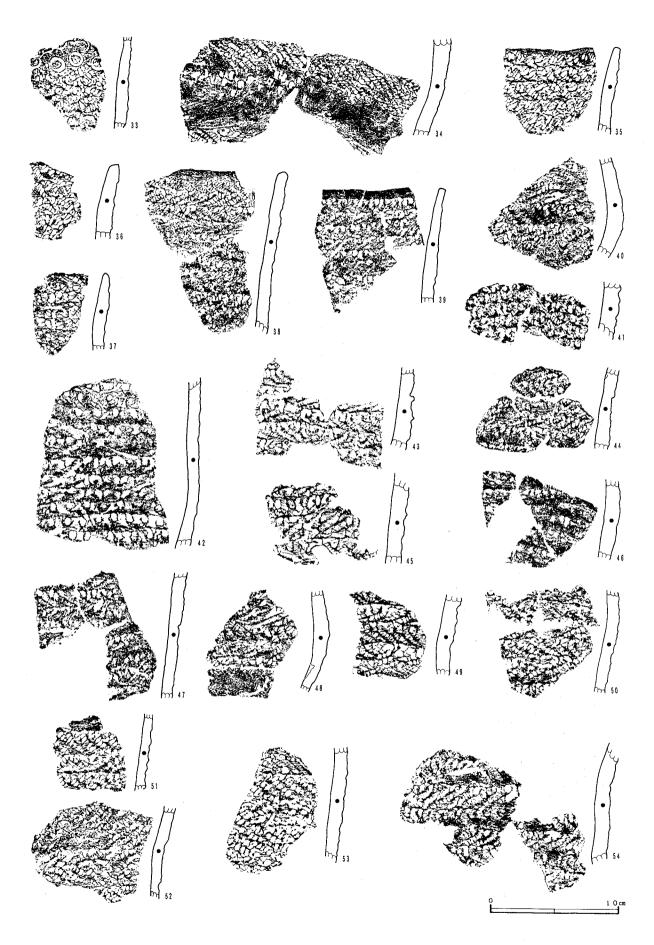
第55図 第4号住居址②



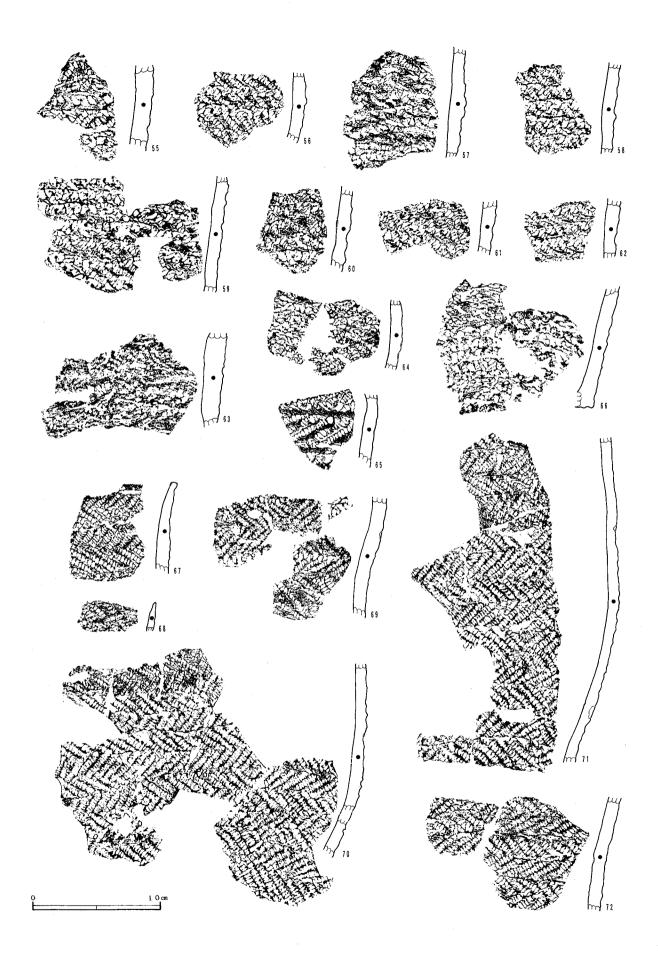
第56図 第4号住居址出土遺物①



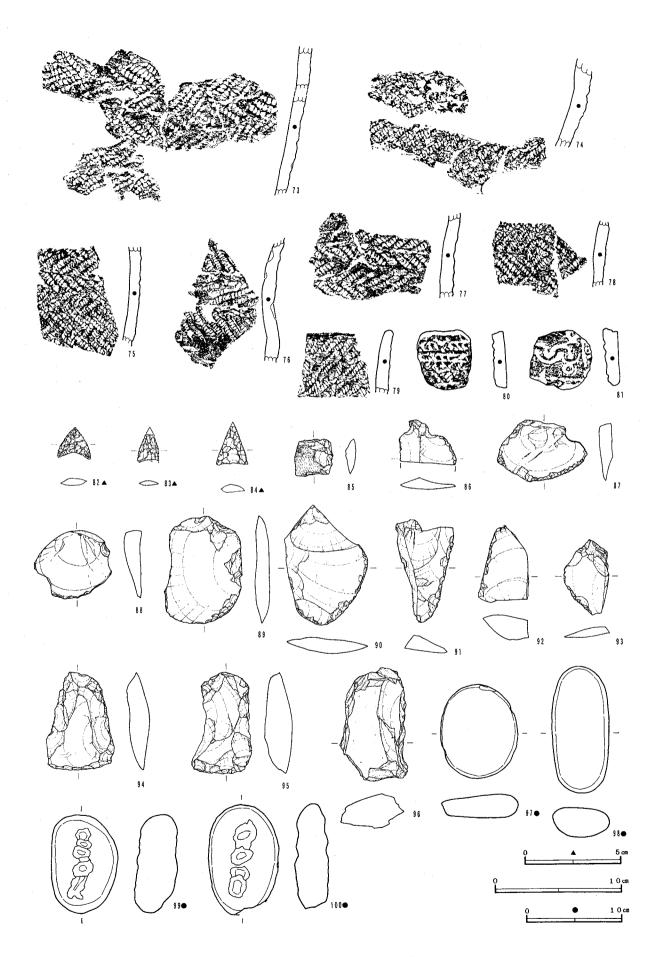
第57図 第4号住居址出土遺物②



第58図 第4号住居址出土遺物③



第59図 第4号住居址出土遺物④



第60図 第4号住居址出土遺物⑤

2本の結節縄文により羽状構成をとる。10は底部〜胴部上半で、上げ底状の底部からほぼ直線的に立ち上がり、 胴部中位で屈曲して外反して開く器形を呈する。胴部上半〜中位には閉端環付の LR・RL (0段多条) により羽 状構成をとる多段のループ文を施し、胴部下半及び底部にはR2本の結節縄文を施す。結節縄文の端部には所謂 自縛痕が看取される。

11~20は条痕文を施すものである。11は胴部片で、条痕を地文とし、竹管状工具による斜位・弧状の幾何学文を施し、下半には1条の刺突列を有する。内面には丁寧なナデ調整が施され、部分的に横位の条痕(?)が看取される。胎土には砂粒を含み、繊維を含まない。12は内外面に条痕を施し、上面に竹管状工具による弧状の刺突文を施した断面三角形の隆帯を1条巡らせる。13は半截竹管腹による縦位の集合沈線を施す胴部片で、内外面に条痕を施す。胎土には繊維の他結晶片岩を含む。14は先端の尖った工具により斜格子文を施すもので、外面には条痕が施されるものの、内面に器面は荒れていて調整は不明である。15は外面に刺突をランダムに施す胴部片で、条痕は外面のみで、内面はナデ調整である。16~20は条痕文のみを施す胴部片で、いずれも内外面に施す。16・17は細かく密な条痕、18~20は太めの条痕である。

21・22は同一個体とみられ、縦長の羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文(0段多条)を施す。

23~33は地文の他に文様を持つ口縁部ないし口縁部付近の破片である。23~25は撚糸側面圧痕により文様を施すものである。23は内削ぎ状の口唇部を有し、2条1対の有刻の隆帯により口縁部文様帯を区画する。文様帯内には撚糸側面圧痕を弧状に施し、余白には刺切文を矢羽状に充塡する。24も内削ぎ状の口唇部を有し、2条1対の有刻の隆帯により口縁部文様帯を区画する。文様帯内には撚糸側面圧痕を弧状・斜位に施し、崩れた矢羽状を呈する刺切文を充塡する。25は撚糸側面圧痕により口縁部文様帯の下端を区画し、文様帯内には斜位の撚糸側面圧痕や円形刺突文を施す。以下は閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段のループ文を施す。28は爪形の刺突を施した2条1対の有刻の平行沈線により口縁部文様帯を区画し、文様帯内には円形刺突文を施す。29は3条ほどを1対とする有刻の平行沈線を横位に施し、その端部には縦位の短沈線を施す。30は有刻の平行沈線を横位多段に施文したもので、以下は結束により羽状構成をとるLR・RL単節斜縄文(0段多条)を施す。31は平行沈線により菱形文を施すもので、数形文中央には円形刺突文を施す。以下は閉端環付のLR(0段多条)により多段のループ文を施す。32は波状縁で、口唇部は内削ぎ状を呈する。口縁部直下には刺突列を施し、波頂部には2条施される。33は円形刺突文を横位多段に施文し、以下は判然としないものの結節縄文を施すとみられる。34は胴部片で、RL単節斜縄文(0段多条)を地文とするが、地文間に地文を施さない部分を設け、斜位の刺突列を施す。

35~79は地文のみを施すものである。35~66は多段のループ文を施すもので、35~39は口縁部で、38・39は同一個体である。口縁部は波状縁(35・36)と平縁(37~39)がある。口唇部形状は内削ぎ状(38・39)や丸頭状(37)、角頭状(35)がある。40~65は胴部で、58~61は同一個体である。胴部に膨らみを持つもの(40・48)やいったん括れて外反して立ち上がるもの(52・54)、直線的に立ち上がるもの(47・59)等がある。66は底部で、平底から直線的に外反して立ち上がる器形を呈する。地文は、閉端環付の LR・RL(0 段多条)により羽状構成をとる多段のループ文(38~54・66)や、閉端環付の RL(0 段多条)による多段のループ文(35~37・55~63)、閉端環付の LR(0 段多条)による多段のループ文(64・65)がある。67~78は羽状構成をとる単節斜縄文を施すものである。67・68は口縁部で、68はミニチュア土器である。いずれも平縁とみられ、口唇部形状は丸みを帯びた内削ぎ状を呈する。69~78は胴部で、胴部に膨らみを持つもの(70・71)や、いったん括れて外反して開くもの(69・76)、直線的に立ち上がるもの(72・73)等がある。地文はいずれも羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文(0 段多条)で、69は結束により羽状構成をとるものである。また70は端部に所謂自縛痕が看取される。79は R 2 本の結節縄文を施した口縁部片で、口唇部は丸頭状を呈する。また結節縄文の端部には所謂自縛痕が看取される。80・81は土器片製円盤である。80は隅丸の逆台形を呈し、爪形の刻みを施した 2 条 1 対の有刻の平行沈線および RL 単節斜縄文(0 段多条)を施した胴部片を用いている。重さは21.0 g を測る。81は不整円形を呈し、半截竹管によるコンパス文や円形竹管文を施した胴部片を用いている。重さは27・2 g を測る。

石器類としては、石鏃 (82~84)・楔形石器 (85)・石匙 (86)・スクレイパー (87~93)・打製石斧 (94~96)・磨石 (97・98)・凹石 (99・100) 等が出土している。

第10表 住居址出土石器観察表①

遺物番	番号	種類	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	備 考
1住	16	石鏃	チャート	2.7	1.5	0.8	2.1	
	17	石鏃	チャート	1.9	1.1	0.4	0.5	脚部一部欠損。
	18	石鏃	黒曜石	1.7	1.1	0.3	0.3	
	19	スクレイパー	黒色頁岩	7.2	5.4	1.3	41.4	側面に刃部。
	20	打製石斧	黒色頁岩	6.3	4.7	1.5	42.0	
	21	磨石	粗粒安山岩	14.8	11.1	5.8	1200	
2住	62	石鏃	チャート	2.4	1.7	0.3	0.9	
	63	石鏃	チャート	(1.8)	(1.4)	0.3	0.6	先端部及び脚部を欠損。
	64	石鏃	凝灰岩	(1.6)	1.3	0.4	0.5	先端部を欠損。
	65	楔形石器	チャート	2.0	1.5	0.6	1.6	
	66	石匙	黒色安山岩	2.9	4.7	0.8	6.8	
	67	石匙	黒色頁岩	4.6	6.6	1.1	19.6	
	68	石匙	黒色頁岩	4.5	5.2	0.8	17.4	
	69	スクレイパー	黒色頁岩	3.9	5.0	0.8	15.6	4.00
	70	スクレイパー	黒色頁岩	3.8	4.1	0.6	9.4	
	71	スクレイパー	黒色頁岩	7.4	4.0	1.5	34.4	
	72	スクレイパー	黒色頁岩	7.2	3.9	1.4	25.6	
	73	スクレイパー	黒色頁岩	6.9	3.1	0.7	10.8	,
	74	打製石斧	黒色頁岩	8.5	5.4	2.7	120	
	75	打製石斧	黒色頁岩	7.8	3.8	2.2	63.5	
	76	有溝砥石	砂岩	8.9	6.7	1.4	75.0	両面に溝。
	.77	磨石	粗粒安山岩	14.1	7.2	4.5	626	両面に磨面。
	78	凹石	粗粒安山岩	14.8	6.5	4.1	. 522	両面に凹部。
	79	凹石	粗粒安山岩	13.5	9.0	5.0	778	両面に凹部。
	80	凹石	粗粒安山岩	13.0	8.5	5.2	776	
	81	凹石	粗粒安山岩	11.7	8.6	3.7	562	両面に凹部。
	82	凹石	粗粒安山岩	11.8	5.6	2.9	256	接合資料。
	83	凹石	粗粒安山岩	11.1	5.0	3.2	296	
	84	凹石	粗粒安山岩	(10.2)	8.2	3.5	371	下半部欠損。
	85	凹石	粗粒安山岩	9.9	6.8	4.3	251	側面にも凹部。
3 住	7	石鏃	黒色安山岩	1.6	1.1	0.4	0.5	
	8	石錐	黒曜石	(1.3)	(1.0)	0.3	0.3	脚部欠損。
	9	スクレイパー	黒色頁岩	4.9	8.4	1.5	66.0	
	10	スクレイパー	黒色頁岩	5.7	4.9	1.2	25.8	
	11	磨石	粗粒安山岩	18.6	13.4	6.3	1740	
 4 住	82	石鏃	黒曜石	1.7	1.7	0.4	0.7	完形。
. —	83	石鏃	チャート	(1.5)	1.1	0.3	0.5	先端部及び脚部欠損。
	84	石鏃	黒色安山岩	(2.1)	(1.6)	0.4	1.1	先端部及び脚部欠損。
	85	楔形石器	チャート	2.9	3.0	1.0	9.7	
	86	石匙	黒色頁岩	(3.5)	4.4	1.0	13.4	刃部欠損。
	87	スクレイパー	黒色頁岩	4.9	7.1	1.2	34.0	
	88	スクレイパー	黒色頁岩	5.4	6.0	1.4	38.2	
	89	スクレイパー	黒色頁岩	8.4	6.1	1.2	75.5	
	90	スクレイパー	黒色頁岩	9.4	6.6	1.7	i	

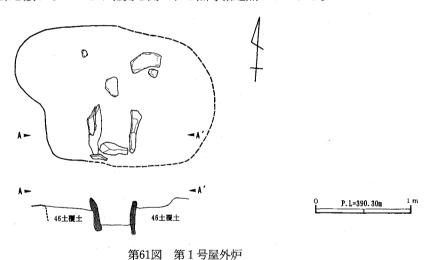
第11表 住居址出土石器観察表②

遺物番号		種 類	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	備	考
4 住	91	スクレイパー	黒色頁岩	8.1	4.5	1.4	35.8		
	92	スクレイパー	黒色頁岩	6.1	4.0	2.0	47.8		
	93	スクレイパー	黒色頁岩	5.9	3.5	0.9	17.6		
	94	打製石斧	黒色頁岩	7.7	5.3	2.0	73.5		
	95	打製石斧	黒色頁岩	7.9	4.7	2.3	83.5		
	96	打製石斧	黒色頁岩	(8.9)	(5.3)	2.9	145	刃部欠損か。	
	97	磨石	粗粒安山岩	9.9	7.3	3.5	368		
	98	磨石	粗粒安山岩	13.3	6.0	3.2	444		
	99	凹石	粗粒安山岩	10.4	6.9	4.6	422	両面に凹部。	
	100	凹石	粗粒安山岩	(11.6)	7.3	3.5	368	端部欠損。	

# 第2項 屋外炉

# 第1号屋外炉(第61図)

位置 柏倉芳見沢遺跡1区中央部のK~L-16グリッドに位置し、南側を第32~34・45・47号土坑に囲まれる。 重複関係 第46号土坑と重複し、これを切っていると考えられる。規模・形状 南北120cm・東西80cmほどの範囲 に大小の礫が点在し、その南部にて扁平な礫3点を、北側をあけた「コ」字状に配置し、西側の礫の南側にも小 礫1点を配する。この石囲部の規模は東西・南北とも約50cmほどである。また石囲部内は15cmほど掘り凹められ る。遺物 なし。備考 本遺構はその形状が柏倉芳見沢遺跡にて検出された住居址のものと類似するものの、 石囲部の中央に扁平な礫を敷かないことや北側を開口する点等相違点がみられる。



# 第3項 土坑

本遺跡では、柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡合わせて106基の土坑が検出された。形状や規模等様々なものがあるが、主体となるのは所謂陥し穴状土坑である。陥し穴状土坑は、開口部の形状に楕円形や分銅型・隅丸長方形等様々な形状が見られるが、底面の形状は分銅型を呈するものが多い。そしてほとんどのものが底面にピットを有する。その分布は柏倉落合・芳見沢両遺跡全体に濃密に広がる。また所謂Tピットは陥し穴状土坑に比べて遺構数は少なく、その分布も柏倉芳見沢遺跡1区に集中している。開口部の形状は長楕円形を呈し、底面形状は溝状を呈する。これらの土坑どうしは、ほとんど重複関係をもたないことも特徴的で、苗ヶ島大畑遺跡にも見られる特徴である。その他袋状土坑や楕円形・円形等を呈する、用途の判然としない土坑は規模・形状等各種あり、その分布も陥し穴状土坑同様柏倉落合・芳見沢両遺跡全体に散漫に分布している。

土坑からの出土遺物としては、早期~中期と多岐にわたるものの、遺物量としては少量である。これは本遺跡で検出された土坑の内、主体となるのが陥し穴状土坑であったことに起因しよう。

本報告では調査時に土坑として認定したものすべてを土坑として報告を行う。なお土坑の遺構番号は、発掘調

査時に柏倉落合遺跡・柏倉芳見沢遺跡を通じて通し番号を付しており、本報告でもこれを踏襲する。また出土遺物がなく、全体図にのみ図化されている土坑については、土坑一覧表(第14・15表)及び写真図版を参照されたい。

### A. 遺 構

#### 第1号土坑 (第62図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部中央の H-29~30グリッドに位置し、東側で第23号土坑に隣接する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸208cm・短軸76cmを測る。上面の平面形は西壁と南西隅の張った不整隅丸長方形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは62cmを測り、北東隅は一部オーバーハングするものの断面形は箱状を呈する。底面では径・深さとも約20cmを測るピット 2 基が、長軸方向に列んで検出された。遺 物 剝片 1 点が出土したものの図化には至らなかった。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第2号土坑 (第62図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区南部西側の F-29グリッドに位置し、北側で第3号土坑に隣接する。重複関係 なし。 規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸174cm・短軸120cmを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは104 cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面はほぼ平坦だが、北東隅が若干落ち込む。また底面では径16cm・深さ36 cmほどのピット 2 基が、長軸方向に列んで検出された。遺物 剝片 1 点が出土したものの図化には至らなかった。 備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第3号土坑 (第62図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区南部西側の F-29グリッドに位置し、南側で第 2 号土坑に隣接する。重複関係 なし。 規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸206cm・短軸99cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分 銅形を呈する。深さは94cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面では径10~14cm・深さ26~34cmを測るピット 2 基が、長軸方向に列んで検出されている。また底面東側から東壁にかけて地山に含まれる大型礫が露出している。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第 4 号土坑 (第62図)

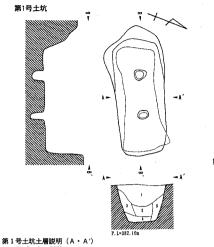
位置 柏倉落合遺跡 2 区南部西側の F-27~28グリッドに位置し、北側で第7号土坑に、東側で第114号土坑に それぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸214cm・短軸108cmを測り、上面の平面形は東壁が内側にせり出した楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは73cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面南側は不整形に落ち込み、径18~42cm・深さ15~40cmを測るピット 4 基が長軸方向に列んで検出された。また底面中央では地山に含まれる大型礫が露出している。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

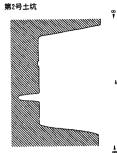
### 第5号土坑 (第62図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南端部、I-31グリッドに位置し、北側で第 6・22号土坑に隣接する。重複関係 なし。 規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸187cm・短軸78cmを測り、平面形は分銅形を呈する。深さは57cmを測り、 断面形は箱状を呈する。底面では径20cmほど・深さ25cmほどを測るピット 2 基が、長軸方向に列んで検出された。 また底面では地山に含まれる礫が露出している。遺 物 早期~中期の土器が少量出土し、この内土器 2 点を図 示し得た。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第6号土坑 (第62図)

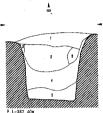
位 置 柏倉落合遺跡 2 区南端部、I-31グリッドに位置し、東側で第22号土坑に、南側で第5号土坑にそれぞれ 隣接する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸172cm・短軸85cmを測る。上面の平面形は 楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは77cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央やや東寄りの ところには不整形の掘り込みを有し、西壁及び底面には径8~15cm、深さ6~21cmのピット6基が検出されてい る。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。







- 第2号上坑土層説明(A・A) 1 黒色 土:硬質、締まりあり。 2 黒色 土:1層+ローム粒。 3 黒色 土:やや締まりなし。ローム粒を多量に含む。 4 黒褐色土:軟質。ローム粒を多量
  - だ含む。 黒褐色土:締まりあり。4層より ローム粒が少ない。



Ÿ

0

0

第3号土坑土層説(A・A')
 1 黒色土:硬質。締まりあり。若干ローム粒を含む。
 2 黒褐色土:1層+ローム粒。
 3 黒褐色土:2層より若干ローム粒を多く含む。
 4 黒褐色土:ローム数・ロームブロックを多量に含む。
 5 褐色土:ロームブロック主体。
 6 黒褐色土:締まりあり。ロームブロックを多量に含む。

0

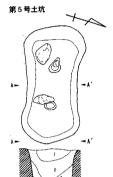
-1

第3号土坑

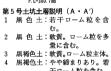
第9号土坑



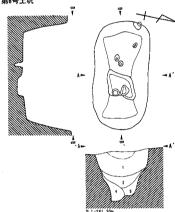
- 第4号土坑土層説明 (A・A')
  1 黒色 土:硬質。締まりあり。
  2 黒色 土:日層より色調やや明るい。若干 ローム粒を含む。
  3 黒褐色土:2層+ローム粒。
  4 黒褐色土:ロームブロックを多量に含む。



- 干ローム粒を含む。



# 第6号土坑

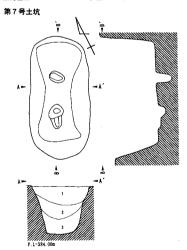


- 第6号土坑土層説明(A・A) 1 黒 色 土:硬質。締まりあり。 2 黒 色 土:若干ローム粒を含む。 3 黒褐色土:色調噌く。2層+ロームブロック。 4 黒褐色土:3層に頼すが、ローム粒を多量に含み、ロームブロックを殆ど含まない。

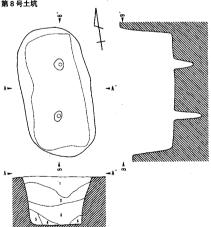


0

#### 第8号土坑



- 第7号土坑土層説明 (A・A') 1 黒色 土:硬質。締まりあり。 2 黒色 土: 層・ローム粒。 3 黒褐色土: やや軟質。 ローム粒・ロームブロックを含む。



- 第8号土坑土層説明(A・A)

  1 無 色 土:硬質。締まりあり。若干ローム粒を含む。

  2 無褐色土:硬質。締まりあり。若干ローム粒を含む。

  3 無褐色土:硬質。終まりあり。1層より若干色調明るく、ローム粒を多く含む。

  3 無褐色土:硬質。2層より色調明なく、ローム粒・ロームブロックを含む。

  4 褐色 土:やや締まりなし。ロームブロック主体(編移層)。

  5 褐色 土:ロームブロックを90%程度含む(織移層)。

# 第9号土坑土層説明 (A・A')

- 1 黒色土:硬質。締まりあり。
- 黒 色 土:1層+ローム粒。
- 黒褐色土:4層+ロームブロック。 4 黒褐色土:軟質。ローム粒を多量に含む。



#### 第 7 号土坑 (第62図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部西側の F-27グリッドに位置し、北側で第8号土坑に、南側で第4・114号土坑に それぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸196cm・短軸93cmを測る。 上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは91cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面で は径25cm・深さ4~24cmほどのピット3基が長軸方向に列んで検出され、南側のピット2基は連結している。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第8号土坑 (第62図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部西側の F-26~27グリッドに位置し、東側で第9号土坑に、南側で第7号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 南北方向に長軸を有し、長軸207cm・短軸109cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は不整隅丸長方形を呈する。深さは84cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径約18cm・深さ30~43cmを測るピット 2 基が検出されたが、長軸方向とは若干軸がずれる。遺 物 なし。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第9号土坑 (第62図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部中央の F-26~27グリッドに位置し、東側で第10号土坑に、西側で第8号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸207cm・短軸104cmを測り、平面形は上面・底面とも分銅形を呈する。深さは99cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面南側にて径16cm・深さ18cmのピット 1 基が検出された。また底面中央から北側にかけて地山に含まれる大型礫が露出している。遺 物なし。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第10号土坑 (第63図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部中央の G-27グリッドに位置し、東側で第24号土坑に、西側で第9号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北西—南東方向に長軸を有し、長軸213cm・短軸138cmを測る。東壁南側から南壁東側にかけてテラスを持つため、上面の平面形は不整隅丸長方形を、底面の平面形は隅丸長方形を呈する。深さは80cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及び底面南側にて、径16~21cm・深さ10~36cmのピット 2 基が検出された。また底面北側西壁寄りのところでは地山に含まれる大型礫が露出している。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第11号土坑 (第63図)

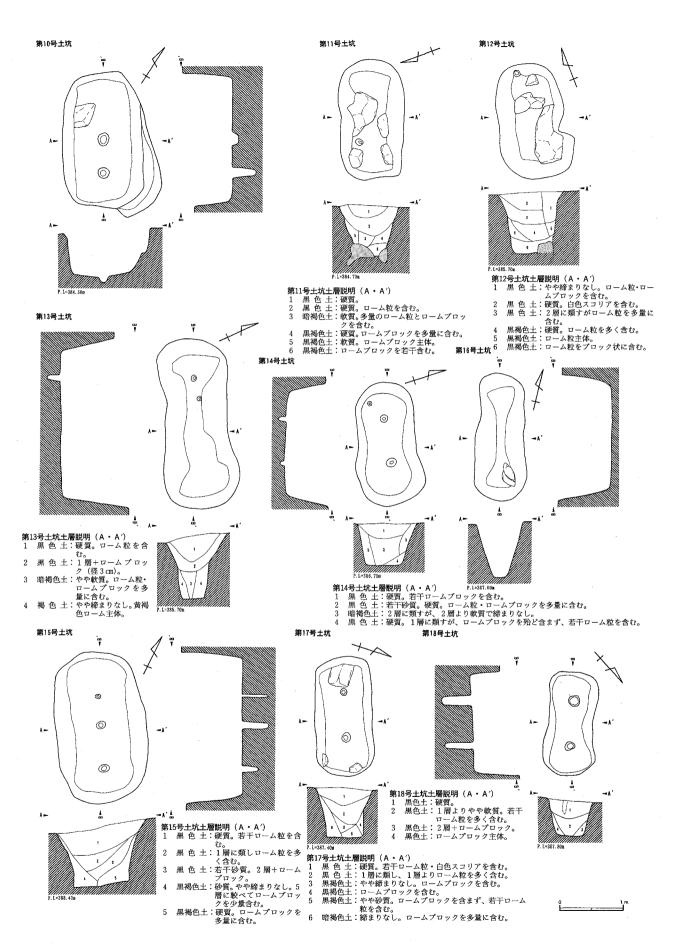
位 置 柏倉落合遺跡 2 区中央部西側の F-25~26グリッドに位置し、北側で第12・13号土坑に、南側で第115号 土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸187cm・短軸99cmを測る。 上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは82cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面西 側北壁寄りのところで径12cm・深さ34cmのピット1基が検出された。また底面及び壁面には地山に含まれる礫が 露出している。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第12号土坑 (第63図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区中央部西側の F-25グリッドに位置し、西側で第13号土坑に隣接する。**重複関係** なし。 規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸181cm・短軸106cmを測る。上面の平面形は東壁南側の張り出した不整隅丸長方形を、底面の平面形は隅丸長方形を呈する。深さは108cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面北西隅にて、径10cm・深さ 1 cmの非常に浅いピット 1 基が検出された。また底面には地山に含まれる大型礫が露出している。 遺物 なし。 備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第13号土坑 (第63図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区中央部西側の E~F-25グリッドに位置し、東側で第12号土坑に隣接する。**重複関係**なし。**規模・形状** 東西方向に長軸を有し、長軸271cm・短軸97cmを測り、平面形は上面・底面とも分銅形を呈するが、底面はややいびつである。深さは108cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面西側にて径約10cm・深さ10~20



第63図 土坑(2)

cmのピット2基が検出された。遺物なし。備考本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第14号土坑 (第63図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区中央部の G~H-24グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸195cm・短軸91cmを測り、平面形は上面・底面とも分銅形を呈する。深さは69cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径12~17cm・深さ27~32cmのピット 2 基が、長軸方向と若干軸を違えて検出されたほか、径・深さとも 7 cmほどの小型のピットが西壁南寄りのところで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第15号土坑 (第63図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区中央部の F-21~22グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸239cm・短軸142cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は隅丸長方形を呈する。深さは109cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその南北には、径10~18cm・深さ26~44cmのピット 3 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第16号土坑 (第63図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区中央部西側の F-23グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸201cm・短軸77cmを測る。上面の平面形は不整楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは88cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面南側では地山に含まれる礫が露出している。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第17号土坑 (第63図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区北部西側の D~E-19~20 グリッドに位置し、北側で第18号土坑に隣接する。**重複関係**なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸188cm・短軸89cmを測る。平面形は上面・底面とも隅丸長方形を呈する。深さは92cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央では径10~16cm・深さ25~34cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。また東壁及び西壁の底面付近には地山に含まれる礫が露出している。遺 物 なし。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第18号土坑 (第63図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区北部西側の D~E-19グリッドに位置し、北側で第19号土坑に、南側で第17号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸165cm・短軸69cmを測り、平面形は上面・底面とも分銅形を呈する。深さは79cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径約17cm・深さ約45cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる

# 第19号土坑 (第64図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区北部西側の D-18グリッドに位置し、北側で第20号土坑と、南側で第18号土坑とそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸120cm・短軸97cmを測り、平面形は上面・底面とも不整円形を呈する。深さは71cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央にて径・深さとも約20cmのピット1 基が検出された。遺 物 なし。

### 第20号土坑 (第64図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区北部西側の D-17~18グリッドに位置し、南側で第19号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸198cm・短軸105cmを測り、平面形は上面・底面とも隅丸長方形を呈する。深さは100cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径15~19cm・深さ30cmほどのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。また北側のピット付近では地山に含まれる礫が露出している。遺 物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第21号土坑 (第64図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区中央部東側の I -26グリッドに位置する。**重複関係** なし。**規模・形状** 北西一南東方向に長軸を有し、長軸211cm・短軸118cmを測り、平面形は上面・底面とも隅丸長方形を呈する。深さは68cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径約14cm・深さ26~29cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第22号土坑 (第64図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南端部の I -31グリッドに位置し、西側で第5・6 号土坑に隣接する。**重複関係** なし。 規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸102cm・短軸79cmを測り、平面形は上面・底面とも楕円形を呈する。深 さは77cmを測り、断面形は箱状を呈する。**遺 物** なし。

#### 第23号土坑 (第64図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部中央のH-30グリッドに位置し、西側で第1号土坑に隣接する。**重複関係** なし。 規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸85cm・短軸58cmを測り、平面形は上面・底面とも楕円形を呈する。深さは77cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物 なし。

#### 第24号土坑 (第64図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部中央のH-27グリッドに位置し、西側で第10号土坑に隣接する。**重複関係** なし。 規模・形状 東西方向に長軸を有し、上面よりも底面の方が大きく、上面は長軸129cm・短軸74cm、底面は長軸170 cm・短軸69cmを測る。平面形は上面・底面ともいびつな楕円形を呈する。深さは59cmを測り、南壁以外の壁面は オーバーハングして立ち上がっているため、断面形は袋状を呈する。底面中央北壁際で1基、底面東寄り南壁際 で2基の浅いピットが検出され、その規模は径約15cm・深さ3~5cmほどである。遺 物 なし。

# 第26号土坑 (第64図)

位置 柏倉芳見沢遺跡1区南部中央のJ〜K-20グリッドに位置し、北側で第37・38号土坑に、南〜西側で第4号住居址及び第27・36号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸236cm・短軸148cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは122cmを測り、断面形は箱状を呈するが、南壁及び北壁には小さなテラスを有するため、部分的に段状の断面形を呈する。底面中央及びその南側では、径約12cm・深さ28〜42cmを測るピット2基が検出されたが、ピット列は主軸方向と若干軸を違える。遺物 早期・前期の土器片や石器類が若干出土し、この内土器2点・石器1点を図示し得た。備考本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第27号土坑(第64図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南部中央の $K-20\sim21$ グリッドに位置し、北側で第 $26\cdot36\cdot55$ 号土坑に、南側で第 4 号住居址にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸127cm・短軸124cmを測り、平面形は上面・底面とも不整円形を呈する。深さは37cmを測り、断面形は箱状を呈する。また東壁では径 14cm・確認面からの深さ47cmほどのピット 1 基が検出された。遺 物 剝片が出土したものの図示には至らなかった。

# 第28号土坑 (第64図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部西側の O-19グリッドに位置し、東側で第42号土坑に、西側で第29・30号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸82cm・短軸77cmを測り、平面形は上面・底面とも円形を呈する。深さは74cmを測り、南壁以外の壁面は垂直ないしオーバーハングしているため、断面形は部分的に袋状を呈する。遺 物 早期・前期の土器片及び多量の石器類(自然礫含む)が出土し、この内土器 3 点・石器 1 点を図示し得た。

#### 第29号土坑 (第64図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央西壁際の $P-18\sim19$ グリッドに位置し、東側で第 $28\cdot30\cdot42$ 号土坑に隣接する。 **重複関係** なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸239cm・短軸110cmを測り、平面形は上面・底面とも隅丸長方形を呈する。深さは110cmを測り、断面形は箱状を呈するが、北壁及び南壁がオーバーハングするため、断面形は部分的に袋状を呈する。底面では $217\sim25$ cm・深さ $30\sim35$ cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。その他西壁北側でも215cm・確認面からの深さ23cmのピット 2 基が検出された。 遺 物 前期の土器が出土し、この内土器 3 点を図示し得た。また石器類が出土したものの図示には至らなかった。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第30号土坑 (第65図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部西側の P-18グリッドに位置し、東側で第28・42号土坑に、南側で第29号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸216cm・短軸140cmを測り、平面形は上面・底面とも隅丸台形を呈する。深さは30cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央南壁際で深さ17cmほどの隅丸方形の落ち込みが検出された。遺 物 前期~中期の土器や石器類が出土したが、主体となるのは前期である。この内土器 6 点・石器 1 点を図示し得た。

# 第31号土坑 (第65図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部西側のQ-16グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西 方向に長軸を有し、長軸236cm・短軸111cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は不整隅丸長方形を呈する。深さは123cmを測り、断面形は箱状を呈するが、南壁及び北壁がオーバーハングするため、部分的に袋状の断面形を呈する。底面中央及びその北側にて、径約13cm・深さ35~41cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺物 少量の早期・前期の土器及び多量の石器類(自然礫含む)が出土し、この内土器 1 点を図示し得た。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第32号土坑 (第65図)

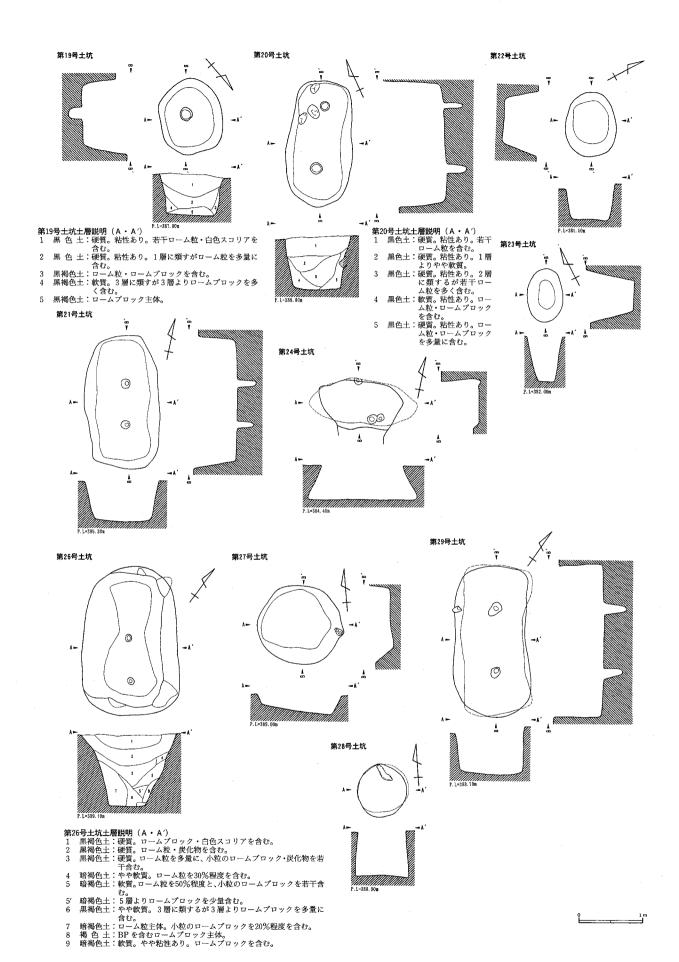
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の  $K\sim L-17$ グリッドに位置し、第33・34・37・38・45~47・75号土坑に周囲を囲まれる。**重複関係** なし。**規模・形状** 北東一南西方向に長軸を有し、長軸251cm・短軸158cmを測り、平面形は上面・底面とも楕円形を呈する。深さは134cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその南北では、径  $7\sim11$ cm、深さ31~44cmを測るピット 3 基が長軸方向に列んで検出された。その他北壁際にて径  $6\sim8$  cm・深さ  $7\sim10$ cmのピット 2 基が検出された。遺 物 前期及び中期の土器や石器類が少量出土し、土器 1 点を図示し得た。

#### 第33号土坑 (第65図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の K-17グリッドに位置し、周囲を第32・34・37・38・45・46号土坑に囲まれる。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸180cm・短軸102~141cmを測り、平面形は不整形を呈する。底面は 2 段に掘り込まれ、上段の深さは22cm、下段の深さは55cmを測る。このため断面形は段状を呈する。また下段は壁際を中心として多数の掘り込みが見られる。遺 物 前期の土器及び石器類が少量出土し、この内土器 1 点を図示し得た。

# 第34号土坑 (第65図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の K-17グリッドに位置し、西側で第32・33・45・46号土坑に隣接する。重複 関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸224cm・短軸130cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは109cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径12cm・深さ27cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 前期及び中期の土器や石器類が出土し、この内土器 2 点を図示し得た。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。



第64図 土坑③

#### 第35号土坑 (第65図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の $H \sim I - 15$ グリッドに位置し、北側で第59号土坑に、西側で第41号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸256cm・短軸165cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは115cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央に1 基と、その南北に2 基ずつの計 5 基のピットが検出された。規模は径約10cm・深さ30cm前後である。遺 物ややまとまった量の早期・前期の土器及び少量の石器類(自然礫含む)が出土し、この内土器 4 点・石器 1 点を図示し得た。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第36号土坑 (第65図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南部中央の K~L-20グリッドに位置し、東側で第26号土坑に、南側で第4号住居址・第27号土坑に、西側で第55号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸191cm・短軸91cmを測り、平面形は上面・底面とも分銅形を呈するが、上面の括れは弱い。深さは106cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面南壁の西側にて径 7 cm・深さ 2 cmの小ピット 1 基が検出された。遺物 前期の土器や石器類(自然礫含む)が出土し、この内土器 2 点・石器 3 点を図示し得た。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第37号土坑 (第66図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央のJ-18グリッドに位置し、西側で第38号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸225cm・短軸112cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは128cmを測り、断面形は箱状を呈するが、北西隅及び南西隅にテラスを有するため、断面形は部分的に段状を呈する。底面には中央に2基、その両脇に1基ずつの径4基のピットが検出された。その規模は径 $10\sim14$ cm・深さ $5\sim26$ cmを測る。遺 物 前期の土器や石器類(自然礫含む)が出土し、この内土器1点を図示し得た。本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第38号土坑 (第66図)

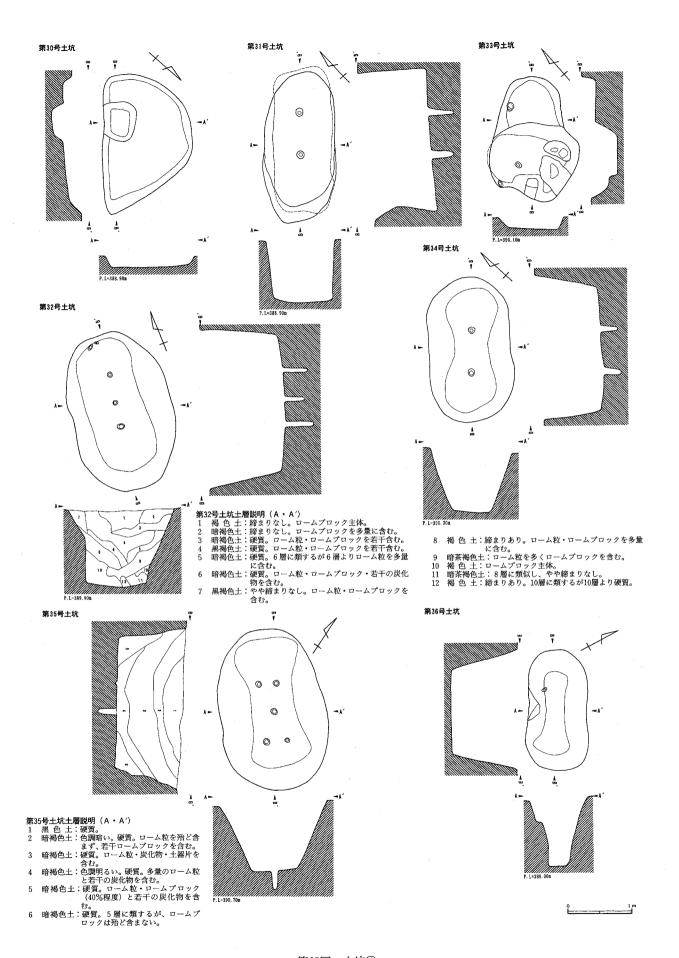
位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の K-18~19グリッドに位置し、北側で第32・33号土坑に、東側で第37号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸210cm・短軸141cmを測り、上面の平面形は隅丸長方形を、底面の平面形は分銅型を呈する。深さは99cmを測り、断面形は箱状を呈する。また北壁西側~南壁西側にかけてはテラスを有するため、一部断面形は段状を呈する。底面では径11~19cm・深さ36~41cmを測るピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。また西壁と北壁に西側では、壁面の段に連結するようなピットが 1 基ずつ検出されている。遺物 前期の土器片と石器類(自然礫含む)が出土し、この内土器 2 点を図示し得た。備考本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

# 第40号土坑 (第66図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央西側のN-12グリッドに位置する。重複関係 第 1 号住居址と重複し、これに切られていると考えられる。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸212cm・短軸101cmを測り、上面・底面とも平面形は隅丸長方形を呈する。深さは93cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径18cm・深さ35cm前後のピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

# 第41号土坑 (第66図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の  $I \sim J$  -15グリッドに位置し、東側で第35号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸270cm・短軸86~123cmを測る。南壁及び北壁の西側にはテラスを有するため、上面の平面形はいびつな長楕円形を、底面の平面形は溝状を呈する。深さは147cmを測り、断面形は「V」字状ないし段状を呈する。遺 物 なし。備 考 本土坑は所謂「T ピット」と考えられる。



第65図 土坑④

#### 第42号土坑 (第66図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央西側のN~O-18~19グリッドに位置し、西側で第28~30号土坑に隣接する。重 複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸229cm・短軸145cmを測り、上面の平面形は楕円 形を、底面の平面形は隅丸長方形を呈する。深さは97cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央では径16~21 cm・深さ37~44cmを測るピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 土器 1 点・石器 2 点を図示し得た。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第43号土坑 (第66図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南部西側の L-22~23グリッドに位置し、北側で第 4 号住居址に隣接する。**重複関係**なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸321cm・短軸110~126cmを測る。北壁東側にテラスを有するため、上面の平面形はいびつな長楕円形を、底面の平面形は溝状を呈する。深さは41cmを測り、断面形は「V」字状を呈するが、西壁及び南壁がオーバーハングするため、一部袋状を呈する。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から所謂「Tピット」と考えられる。

#### 第44号土坑 (第67図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南端部の $K\sim L-26$ グリッドに位置する。**重複関係** なし。**規模・形状** 東西方向に長軸を有し、長軸198cm・短軸141cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は隅丸長方形を呈する。深さは140cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面では24cm・深さ37cmほどのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。**遺 物** なし。**備 考** 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

#### 第45号土坑 (第67図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の K-16グリッドに位置し、周囲を第32~34・46号土坑に囲まれる。**重複関係**なし。**規模・形状** 東西方向に長軸を有し、長軸195cm・短軸122cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは86cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面では径約20cm・深さ40cm前後のピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

# 第46号土坑 (第67図)

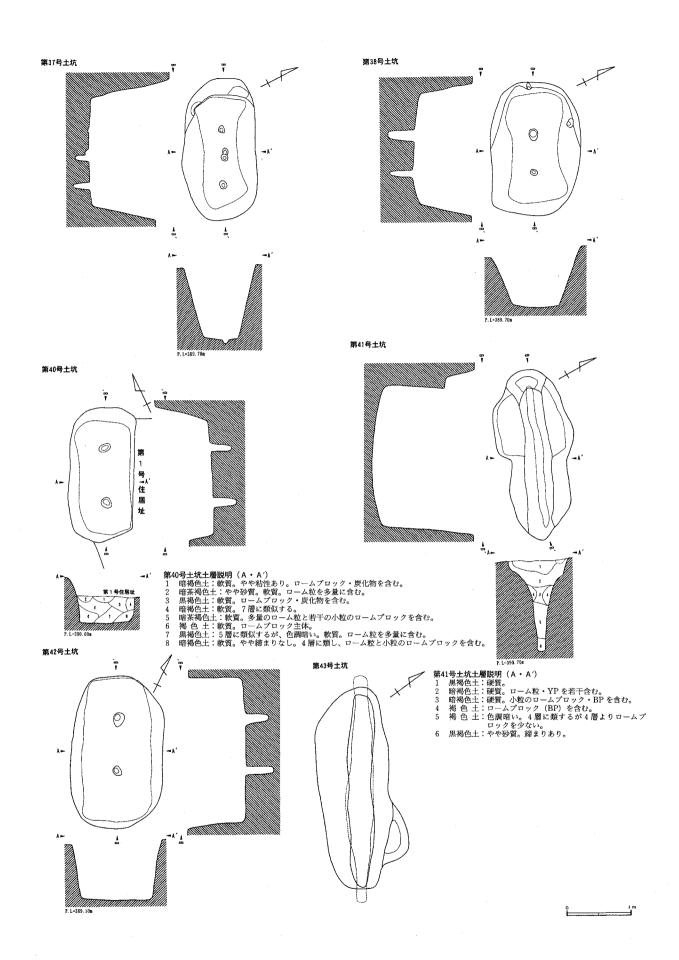
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の  $K\sim L-16$ グリッドに位置し、周囲を第 $32\sim34\cdot45\cdot47$ 号土坑に囲まれる。 **重複関係** 第1 号屋外炉と重複し、これに切られていると考えられる。規模 $\cdot$ 形状 ほぼ東西方向に長軸を有し、長軸約210cm  $\cdot$  短軸140cm  $\epsilon$ 測り、平面形は不整形を呈する。南壁沿いに掘り込みを有し、上段の深さは24cm、下段の深さは上段の掘り込みから78cm  $\epsilon$ 測り、断面形は段状を呈する。また土坑東側の規模 $\cdot$ 形状は不明である。 遺 物 なし。

### 第47号土坑 (第67図)

位置 柏倉芳見沢遺跡1区中央部のL~M-16~17グリッドに位置し、北側で第74号土坑に、東側で第32・46号土坑に、西側で第75号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸202cm・短軸121cmを測る。上面の平面形はややいびつな楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは84cmを測り、断面形は箱状を呈するが、東壁中央にテラスを有するため、断面形は部分的に段状を呈する。底面では径15~19cm・深さ34~39cmを測るピット2基が長軸方向に列んで検出された。遺物 前期の土器1点が出土し、これを図示し得た。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第48号土坑 (第67図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部西側の  $L\sim M-11\sim 12$  グリッドに位置し、東側で第49号土坑に、西側で第 1 号住居址及び第40号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸 295cm・短軸58cmを測る。上面の平面形は長楕円形を、底面の平面形は溝状を呈する。深さは146cmを測り、断面 形は  $\lceil V \rceil$  字状を呈するが、北壁がオーバーハングしているため、部分的に袋状を呈する。遺 物 なし。備 考本土坑はその形状から所謂  $\lceil T$  ピット  $\rceil$  と考えられる。



第66図 土坑⑤

### 第49号土坑 (第67図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の K-11~12グリッドに位置し、西側で第48号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 南北方向に長軸を有し、長軸236cm・短軸140cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は隅丸長方形を呈する。深さは100cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその南北では、径17~24cm・深さ30~39cmを測るピット 3 基が長軸方向に列んで検出された。また西壁南側にて、径11cm・確認面からの深さ39cmのピット 1 基が検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第50号土坑 (第68図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部のH-12~13グリッドに位置し、北側で第51~53号土坑に隣接する。**重複関係**なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸283cm・短軸128cmを測る。上面の平面形は長楕円形を、底面の平面形は溝状を呈する。深さは138cmを測り、断面形は「V」字状を呈するが、東壁がオーバーハングするため、断面形は部分的に袋状を呈する。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から所謂「Tピット」と考えられる。

# 第51号土坑 (第67図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の $H\sim I$  -12グリッドに位置し、東側で第52 $\cdot$ 53号土坑に、南側で第50号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模 $\cdot$ 形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸170cm $\cdot$ 短軸97cmを測り、上面の平面形は隅丸長方形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは80cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径10 $\sim$ 24cm $\cdot$ 深さ16 $\sim$ 28cmのピット 3 基が長軸方向に列んで検出され、南側のピット 2 基は一部重複している。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

## 第52号土坑 (第68図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部のG〜H-12グリッドに位置し、北側で第53号土坑に、西側で第50・51号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北西―南東方向に長軸を有し、長軸205cm・短軸88cmを測る。上面の平面形は隅丸長方形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは96cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径12cm・深さ34cm前後のピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第53号土坑(第68図)

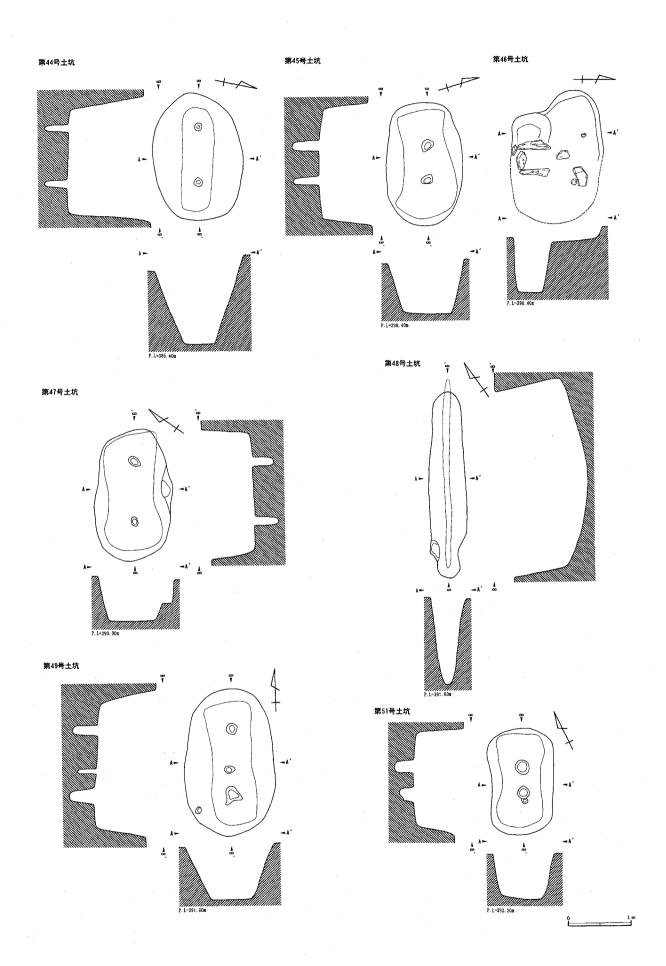
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部の $G\sim H-11\sim 12$  グリッドに位置し、南側で第50 $\sim 52$  号土坑に隣接する。**重複** 関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸266cm・短軸121cmを測る。上面の平面形は不整長楕円形を、底面の平面形は溝状を呈する。深さは156cmを測り、断面形は「V」字状を呈するが、東壁がオーバーハングするため、断面形は部分的に袋状を呈する。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から「T ピット」と考えられる。

### 第54号土坑 (第68図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部部東側の  $F\sim G-11$ グリッドに位置し、北側で第56・57号土坑に、西側で第52・53号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸228cm・短軸129 cmを測り、平面形は上面・底面とも隅丸長方形を呈する。深さは86cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径 $14\sim21$ cm、深さ $28\sim33$ cmを測るピット2 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第55号土坑 (第68図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南部西側の L-20グリッドに位置し、東側で第27・36号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 長軸112cm・短軸111cmを測り、平面形は上面・底面とも円形を呈する。深さは30cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央には径・深さとも 5 cmほどの小型のピット 1 基が検出されたほか、南壁にて径10 cm・確認面からの深さ24cmのピット 1 基が検出された。 遺 物 なし。



第67図 土坑⑥

### 第56号十坑 (第68図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部東側の  $F\sim G-10$  ブリッドに位置し、北側で第57号土坑に、南側で第54号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸231cm・短軸160cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは116cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面では径約15cm・深さ27cmのピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 早期及び前期の土器が各1 点出土し、これを図示し得た。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第57号土坑 (第68図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部東側の F-10グリッドに位置し、西側で第56号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸215cm・短軸121cmを測り、平面形は上面・底面とも隅丸長方形を呈する。深さは88cmを測り、断面形は箱状を呈するが、南壁がオーバーハングしているため、断面形は部分的に袋状を呈する。底面では径約20cm・深さ25~39cmを測るピット 2 基が長軸方向に列んで検出された。遺物なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第58号土坑 (第68図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部東側の $E-12\sim13$ グリッドに位置する。**重複関係** なし。**規模・形状** 東西方向に長軸を有し、長軸207cm・短軸110cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは91cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその東西には、径約20cm・深さ $41\sim52$ cmのピット 3 基が長軸方向に列んで検出された。**遺 物** 剝片 1 点が出土したが、図示には至らなかった。**備 考** 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第59号土坑 (第69図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部のG〜H-14グリッドに位置し、東側で第60号土坑に、南側で第35号土坑に隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸220cm・短軸103cmを測り、平面形は上面・底面とも分銅形を呈するが、底面に較べて上面の括れは弱い。深さは121cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその南北には、径約12cm・深さ26〜35cmのピット 3 基が長軸方向に列んで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### **第60号土坑** (第68図)

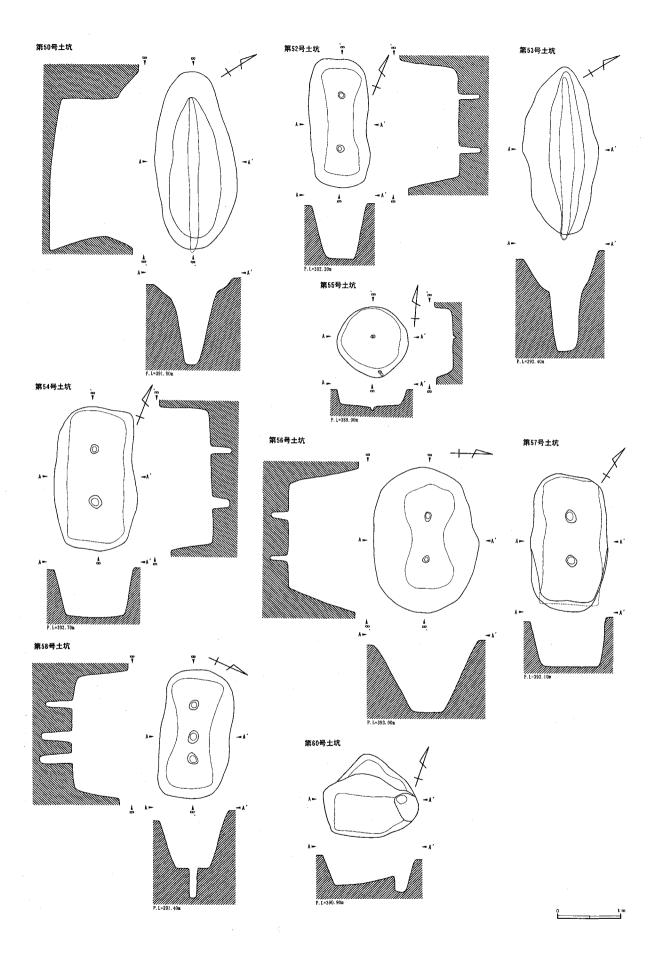
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部東側の G-14グリッドに位置し、東側で第61号土坑に、西側で第59号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸149cm・短軸131cmを測り、平面形は上面・底面とも不整形を呈する。上段・下段の 2 段に掘り込まれ、上段の深さは18cm・下段の深さは53cmを測り、断面形は段状を呈する。また東壁には円形の掘り込みを有し、下段の床面からの深さは26cmを測る。遺 物なし。

# 第61号土坑 (第69図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部東側の E-14~15グリッドに位置し、西側で第60号土坑に隣接する。**重複関係**なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸200cm・短軸97cmを測り、上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは98cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央にて、径13cm・深さ24cmのピット 1 基が検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

# 第62号土坑 (第69図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部東側のG-16グリッドに位置し、東側で第3号住居址に隣接する。**重複関係**なし。規模・形状 北西一南東方向に長軸を有し、長軸168cm・短軸130cmを測り、平面形は上面・底面とも楕円形を呈する。深さは67cmを測り、断面形は箱状を呈する。**遺 物** なし。



第68図 土坑⑦

## 第63号土坑 (第69図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区北部中央のD-7 グリッドに位置する。**重複関係** なし。**規模・形状** 平面形は長楕円形を呈するとみられる。長短軸の規模は不明である。深さは121cmを測り、断面形は $\lceil V \rfloor$ 字状を呈する。**遺 物**なし。**備 考** 本土坑はその形状から  $\lceil T$  ピット」と考えられる。

### 第66号土坑 (第69図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区北部東側のA-8 グリッドに位置し、北側で第65号土坑に、東側で第68•69号土坑に、南側で第67号土坑にそれぞれ隣接する。**重複関係** なし。**規模・形状** 平面形は楕円形を呈するとみられる。長短軸の規模は不明である。深さは78cmを測り、断面形は箱状を呈する。**遺 物** なし。

### 第68号土坑 (第69図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区北端部の D~E-14グリッドに位置し、東側で第69号土坑に、西側で第66・67号土坑に それぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 平面形は円形を呈するとみられる。長短軸の規模は不明である。深さは75cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺物 なし。

### 第70号土坑 (第69図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区北端部の E-15グリッドに位置し、東側で第71号土坑に、西側で第68・69号土坑に隣接する。**重複関係** なし。**規模・形状** 平面形は不整楕円形を呈するとみられる。長短軸の規模は不明である。底面は 2 段に掘り込まれているとみられ、最深部の深さは54cmを測り、断面形は段状を呈する。**遺** 物 剝片 1 点が出土したものの図化には至らなかった。

### 第72号土坑 (第70図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区北端部の F-15グリッドに位置し、東側で第73号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 平面形は楕円形を呈するとみられる。長短軸の規模は不明である。深さは120cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物 なし。備 考 平面図がなく判然としないが、確認面からの深さや断面形状から本土坑は陥し穴の可能性がある。

# **第74号土坑** (第70図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部のM-15グリッドに位置し、南側で第47号土坑に、西側で第2号住居址にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸123cm・短軸105cmを測り、平面形は上面・底面とも不整円形を呈する。深さは32cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物 前期・中期の土器片及び剝片が少量出土している。この内土器 2 点を図示し得た。

### 第75号土坑 (第70図)

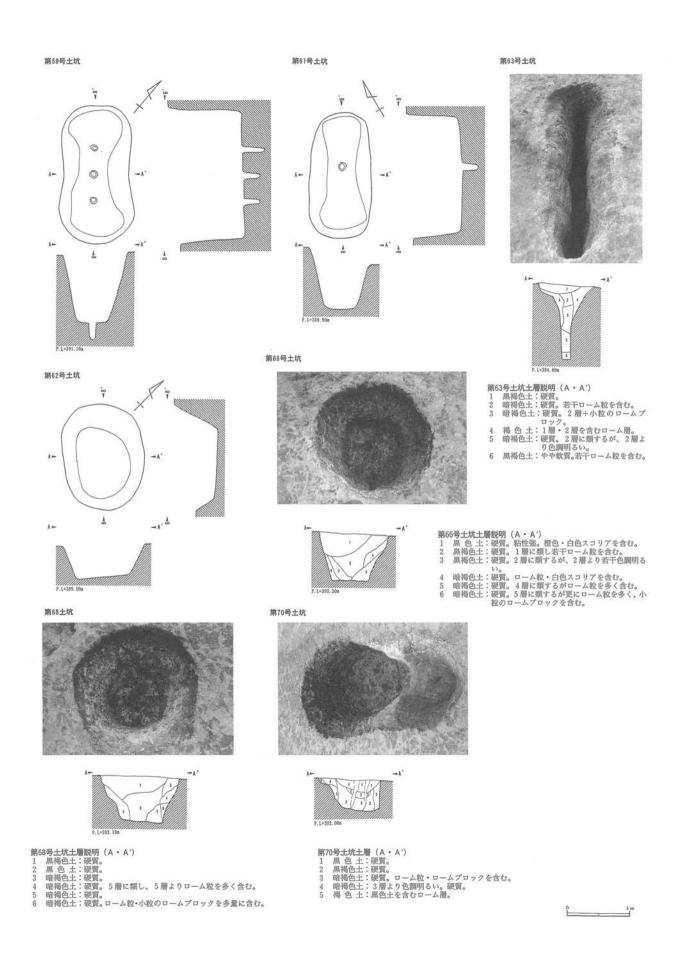
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区中央部のM-17~18グリッドに位置し、東側で第32・47号土坑に隣接する。**重複関係**なし。**規模・形状** 東西方向に長軸を有し、長軸82cm・短軸71cmを測り、平面形は円形を呈する。深さ及び断面形状は不明である。**遺 物** 石器類が少量出土し、石器 1 点を図示し得た。

# 第90号土坑 (第70図)

位置 柏倉芳見沢遺跡 2 区南端部、R-40グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 北東一南西方向に長軸を有し、長軸181cm・短軸76cmを測る。上面の平面形は隅丸長方形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは64cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその東西には、径 9 cm・深さ23~32cmを測るピット 3 基が長軸方向に列んで検出された。遺物 なし。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

## 第91号土坑 (第70図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 3 区中央部の f -30グリッドに位置する。**重複関係** なし。**規模・形状** 北西一南東方向に長軸を有し、長軸206cm・短軸115cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さ



は97cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央部及びその南北には、径11~16cm・深さ30~35cmのピット 3 基が、東壁に沿うように弧状に列んで検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

# 第100号土坑 (第71図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区南部中央の G-10 ブリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 平面形は隅丸長 方形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。また底面を挟んで両脇にはピット 2 基が長軸 方向に列んで検出された。遺 物 前期の土器 1 点が出土し、これを図示し得た。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第101号土坑 (第71図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区中央部の F-7~8 グリッドに位置し、北側で第102号土坑に隣接する。**重複関係** なし。**規模・形状** 平面形は楕円形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。底面中央及びその両脇に数基ずつのピットが検出された。**遺 物** 早期の土器片が少量出土し、この内土器 2 点を図示し得た。 **備 考** 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第102号土坑 (第70図)

位置 柏倉落合遺跡1区中央部のF-7グリッドに位置し、北側で第109号土坑に、南側で第101号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 土層断面図より、本土坑埋没後に土器を多量に含む1層が掘り込まれていることが看取される。また出土遺物も数個体に及ぶことから、本土坑埋没後に埋甕を設置しているものと捉えた。規模・形状東西方向に長軸を有し、長軸295cm・短軸198cmを測る。上面の平面形は楕円形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは134cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央及びその東西にて、径12cm・深さ30cm前後のピット3基が長軸方向に列んで検出された。遺物 上記の通り埋甕と見られる中期後半の土器が多量に出土したが、埋甕の形状や位置が不明瞭なため、本土坑の出土遺物として土器10点を図示した。備考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第103号土坑 (第71図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区中央部の C~D-5 グリッドに位置し、西側で第104号土坑に、南側で第81号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 平面形は不整円形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。遺 物 早期の土器が出土し、この内 2 点を図示し得た。

# 第104号土坑 (第71図)

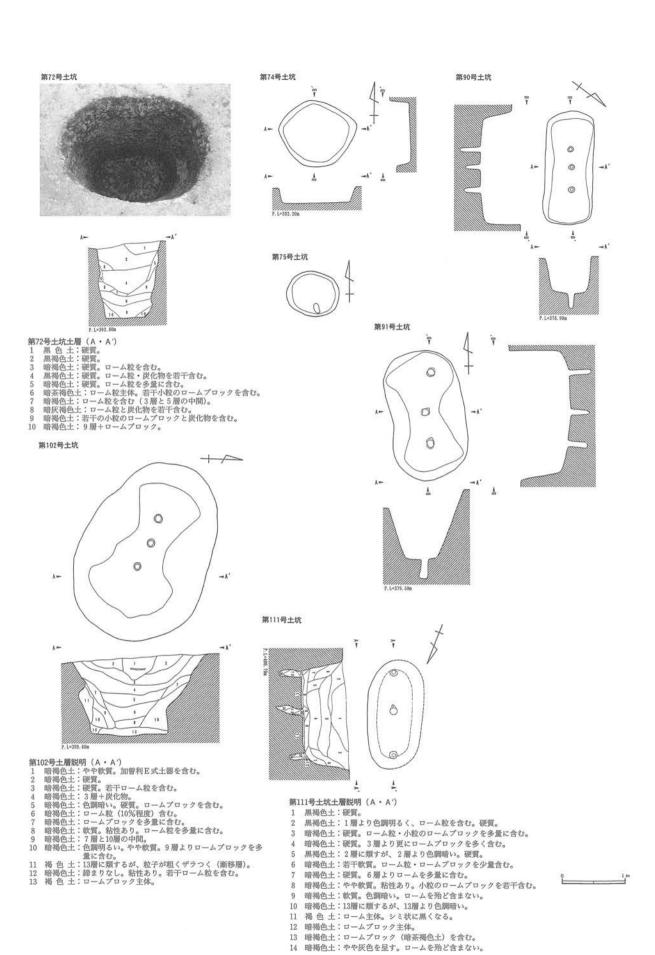
位 置 柏倉落合遺跡1区中央部のD-5グリッドに位置し、西側で第103号土坑に隣接する。**重複関係** なし。 規模・形状 平面形は楕円形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。**遺 物** 早期の土器 が出土し、この内土器2点を図示し得た。

## 第105号土坑 (第71図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区北部西側の B - 4 グリッドに位置し、北側で第78・112号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 平面形は東壁中央が張り出した不整形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。遺 物 早期の土器 2 点が出土し、これを図示し得た。

### 第106号土坑(第71図)

位 置 柏倉落合遺跡1区北部西側のA-3グリッドに位置し、南側で第78号土坑に隣接する。**重複関係** なし。 規模・形状 ほぼ南北方向に長軸を有し、平面形は分銅形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明 である。底面のピットは看取されない。遺 物 中期の土器及び自然礫が出土し、この内土器1点を図示し得た。 備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。



### 第70図 土坑⑨

### 第107号土坑 (第71図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区北端部の B-0 グリッドに位置し、南側で第77号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 平面形は分銅形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。遺 物 早期~中期の土器及び石器類(自然礫含む)が少量出土し、この内土器 2 点・石器 3 点を図示し得た。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

### 第108号土坑 (第71図)

位 置 不明。**重複関係** 不明。**規模・形状** 平面形は長方形を呈するとみられるが、主軸方向・長短軸・深さ・ 断面形状は不明である。**遺 物** 中期の土器片及び剝片が少量出土し、この内土器1点を図示し得た。

### 第109号土坑 (第71図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区中央部東側の F-6 グリッドに位置し、北側で第110号土坑に、南側で第102号土坑にそれぞれ隣接する。重複関係 なし。規模・形状 平面形はほぼ円形を呈するとみられる。長短軸・深さ・断面形状は不明である。遺 物 中期の土器片 1 点が出土し、これを図示し得た。

### 第110号土坑 (第72図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区中央部東側の F-6 グリッドに位置し、南側で第109号土坑に隣接する。**重複関係** なし。規模・形状 東西方向に主軸を有し、長軸約235cm・短軸約160cmを測り、平面形は楕円形を呈するとみられる。深さは114cmを測り、断面形は箱状を呈する。断面図より長軸方向に列んだ、深さ20cm前後のピット 4 基が看取される。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる

### 第111号土坑 (第70図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区中央部の E-6 グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 南北方向に長軸を有し、長軸約170cm・短軸約90cmを測り、平面形は楕円形を呈するとみられる。深さは75cmを測り、断面形は箱状を呈する。断面図より長軸方向に列んで、深さ26~42cmピット 3 基が看取され、南北のピットは壁面に接する。 遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と考えられる

### 第112号土坑 (第72図)

位 置 柏倉落合遺跡 1 区北部中央の B~C-3 グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 北西―南東 方向に長軸を有し、長軸約230cm・短軸135cmを測り、平面形は楕円形を呈するとみられる。深さは145cmを測り、 断面形は箱状を呈する。底面には若干凹凸がみられる。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴と 考えられる。

### 第113号土坑 (第72図)

位置 柏倉落合遺跡 2 区中央部の F-25グリッドに位置する。重複関係 なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸183cm・短軸162cmを測る。平面形は不整円形を呈する。底面は各方向から段状に掘り込まれて、最深部では深さ126cmを測り、断面形は段状を呈する。底面のいたるところでは地山に含まれる礫が露出している。遺物 早期の土器が出土し、土器 1 点を図示し得た。

## 第114号土坑 (第72図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区南部中央の F-27グリッドに位置し、北側を第 4・7~10号土坑に囲まれる。重複関係なし。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸146cm・短軸127cmを測る。上面の平面形はややいびつな円形を、底面の平面形は不整形を呈する。底面中央は更に掘り込まれて最深部の確認面からの深さは79cmを測り、断面形は段状を呈する。底面中央では地山に含まれる礫が露出している。遺 物 なし。

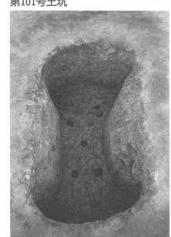
# 第115号土坑 (第72図)

位 置 柏倉落合遺跡 2 区中央部西側の E-26グリッドに位置し、北側で第11号土坑に隣接する。**重複関係** なし。

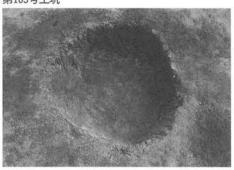
第100号土坑



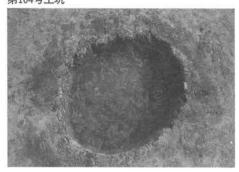
第101号土坑



第103号土坑



第104号土坑



第105号土坑



第106号土坑



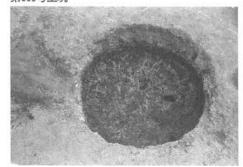
第107号土坑



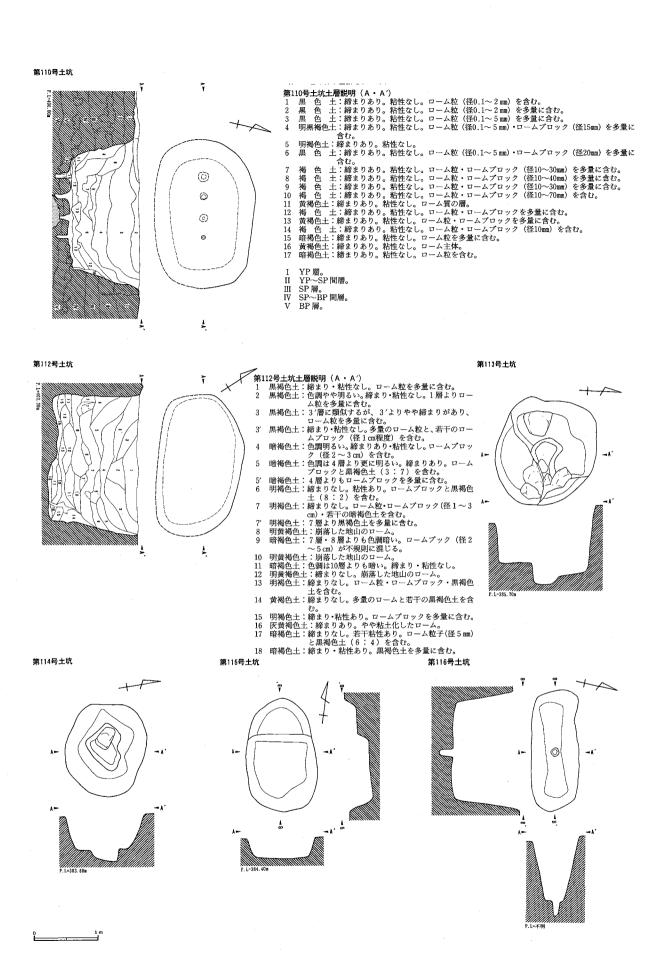
第108号土坑



第109号土坑



第71図 土坑⑩



第72図 土坑(1)

規模・形状 北西-- 南東方向に長軸を有し、長軸179cm・短軸108cmを測り、平面形は楕円形を呈する。南側に向かって段状に掘り込まれ、上段の深さは22cm・下段の深さは45cmを測り、断面形は段状を呈する。遺物 なし。

### 第116号土坑 (第72図)

位 置 不明。重複関係 不明。規模・形状 東西方向に長軸を有し、長軸190cm・短軸76cmを測り、上面の平面 形はいびつな隅丸長方形を、底面の平面形は分銅形を呈する。深さは106cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面 中央にて、径15cm・深さ24cmのピット1基が検出された。遺 物 なし。備 考 本土坑はその形状から陥し穴 と考えられる。

# B. 遺 物

# 第5号土坑出土遺物(第73図)

1 は波状を呈するとみられる口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈し、口唇部外面には刻みを施す。口唇部直下には幅狭の無文帯を持つ。細沈線により区画された口縁部文様帯内は、同じく細沈線により縦位区画し、区画内には押引き文を充填する。区画文の交点には円形刺突を施す。内外面とも条痕を施し、外面の条痕は軽く磨り消す。胎土には繊維を含む。2 も波状を呈する口縁部片で、内湾して開く器形を呈する。口唇部直下には幅広の沈線によって下端区画された幅狭の無文帯を持つ。以下は同様の沈線により弧状に区画し、RL単節斜縄文を施す。

### **第26号土坑出土遺物**(第73·76図)

1・2は条痕文を施す胴部片である。1は内外面に条痕を施すものの、2は内面が剝落して条痕の有無は不明である。いずれも胎土には繊維を含む。3は砂岩製の打製石斧である。

### 第28号土坑出土遺物 (第73・76図)

1 は擦痕を施す胴部片で、内面の調整は不明である。 2 は口縁部文様帯の一部とみられる。文様が不明瞭で判然としないが、刺突列を斜位・弧状に施しているとみられる。 3 は羽状構成をとる  $LR \cdot RL$  単節斜縄文(0 段多条)を施す胴部片である。  $1 \sim 3$  は胎土に繊維を含み、  $1 \cdot 2$  は砂粒も多く含む。 4 は黒色頁岩製のスクレイパーである。

### 第29号土坑出土遺物 (第73図)

1は RL 単節斜縄文(0 段多条)を横位施文する胴部片である。2 は波状を呈する口縁部片で、波頂部には、中央に円形の凹みを持つ突起を付す。以下は R 2 本の結節縄文を多段施文し、端部には所謂自縛痕が看取される。3 は原体が判然としないものの、羽状構成をとる結節縄文を施しているとみられる胴部片である。いずれも胎土に繊維を含む。

### 第30号土坑出土遺物(第73・76図)

1は波状を呈する口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈する。口縁部に沿って2条1対の有刻の平行沈線を巡らせて口縁部文様帯の上端を区画する。区画内には撚糸側面圧痕を弧状等に施し、放射状の刻みを伴う円形刺突文を施す。2も口縁部文様帯の一部とみられ、2条1対の平行沈線により幾何学文を施す。3・4は多段のループ文を施した胴部片で、3は閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段のループ文を、4は閉端環付のLR(0段多条)による多段のループ文を施す。5は羽状構成をとるLR・RL単節斜縄文(0段多条)を施した胴部片。6は羽状構成をとる結節縄文を施した胴部片である。いずれも胎土に繊維を含む。7は粗粒安山岩製の凹石である。

# 第31号土坑出土遺物(第73図)

1は外面に条痕を施す胴部片で、胎土に繊維を含む。

### 第32号土坑出土遺物(第73図)

1は沈線により縦位区画した胴部片で、RL単節斜縄文を施す縄文帯と無文帯を交互に持つとみられる。

# 第33号土坑出土遺物 (第73図)

1は緩やかな波状を呈する口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈する。横位の短沈線により口縁部文様帯を区画 し、区画内には沈線による縦位・斜位・弧状の文様を施す。胎土には繊維を含む。

### 第34号土坑出土遺物 (第73図)

1・2は沈線により縦位区画した胴部片で、RL単節斜縄文を施す縄文帯と無文帯を交互に持つとみられる。

### **第35号土坑出土遺物**(第73·76図)

 $1 \sim 3$  は条痕を施す胴部片で、 $2 \cdot 3$  は同一個体とみられる。1 は内外面に、 $2 \cdot 3$  は外面のみに条痕を施すが、1 の内面の条痕はまばらである。また  $2 \cdot 3$  の内面にはナデ調整を施す。4 は小型の鉢形土器の復元個体で、平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。器面が荒れて判然としないが、外面は多段のループ文を施しているとみられる。いずれも胎土には繊維を含む。5 は粗粒安山岩製の石皿である。

### 第36号土坑出土遺物 (第73・76図)

 $1 \cdot 2$  は同一個体とみられ、閉端環付の RL(0 段多条)により多段のループ文を施した胴部片である。胎土には繊維を含む。3 は頁岩製、4 はホルンフェルス製のスクレイパーで、4 は大型である。5 はデイサイト製の大型の打製石斧である。

### 第37号土坑出土遺物(第73図)

1は器面が荒れて判然としないが、多段のループ文を施しているとみられる胴部片である。胎土には繊維を含む。

### 第38号土坑出土遺物(第73図)

1 は結束により羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文 (0 段多条)を施した胴部片である。 2 は RL 単節斜縄文 (0 段多条)を施した胴部片である。 2 は RL 単節斜縄文 (0 段多条)を施した胴部片である。 いずれも胎土には繊維を含む。

# 第42号土坑出土遺物(第73·76図)

1 は羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文 (0 段多条) を地文とし、円形貼付文を付した胴部片である。胎土には繊維を含む。 2 は黒色頁岩製のスクレイパー、 3 は黒色頁岩製の打製石斧である。

### 第47号土坑出土遺物 (第73図)

1は結束により羽状構成をとるLR・RL単節斜縄文(0段多条)を施す胴部片で、胎土には繊維を含む。

### 第56号土坑出土遺物 (第73図)

1は外面に擦痕を、内面に条痕を施した胴部片である。2は閉端環付のLR・RL(0段多条)により羽状構成をとる多段のループ文を施した胴部片である。いずれも胎土には繊維を含む。

### 第74号土坑出土遺物(第73図)

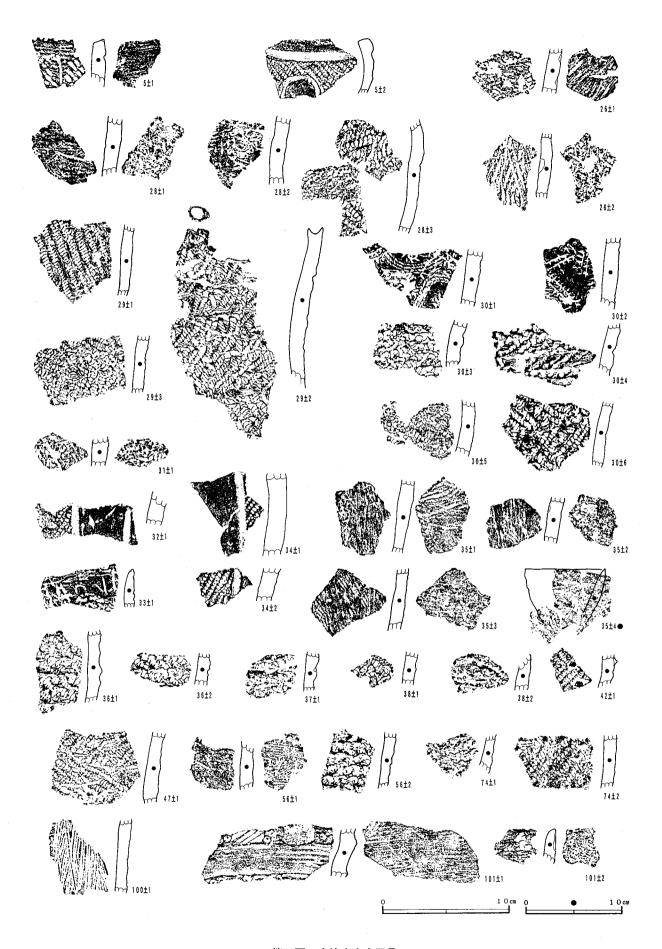
1 は器面が荒れて判然としないが、多段のループ文を施した胴部片である。 2 は LR 単節斜縄文 (0 段多条)を施した胴部片である。いずれも胎土には繊維を含む。

# 第75号土坑出土遺物(第76図)

1は粗粒安山岩製の凹石である。

# 第100号土坑出土遺物 (第73図)

1は集合沈線により鋸歯状文を施す胴部片である。



第73図 土坑出土土器①

### 第101号土坑出土遺物 (第73図)

1は口縁部〜胴部の文様帯の破片とみられ、上位の文様帯に下端は括れにより、下位の文様帯の上端は細隆線により区画する。上下の文様帯とも細隆線により区画文を施し、沈線を充塡する。また区画文の交点には円形刺突を施す。2は内外面に条痕を施した口縁部片で、口唇部はやや内削ぎ状を呈する。いずれも胎土には繊維を含むが、1は微量である。

### 第102号土坑出土遺物 (第74図)

上述のとおりいずれも第102号土坑を切って構築された埋甕とみられる。1~3は復元個体である。1は胴部中位で、浅い幅広の沈線により縦位区画し、RL 単節斜縄文を施した縄文帯と無文帯を交互に持つ。2は口縁部~胴部中位で、キャリパー形の器形を呈する。波状縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部~胴部上半は隆帯により渦巻や弧状等の区画文を、胴部下半は逆「U」字状の区画文を垂下させる構成とみられる。区画内には RL 単節斜縄文を施す。3は底部片で、沈線を垂下させて縦位区画し、縦位施文された RL 単節斜縄文が部分的に看取される。4は波状を呈する口縁部片で、太沈線により区画文を施し、区画内に RL 単節斜縄文を横位施文する。5~7は同一個体で、沈線により縦位区画し、RL 単節斜縄文を縦位施文したやや幅広の縄文帯と、懸垂文を垂下させた無文帯を交互に持つ胴部片である。8~10は同一個体で、2条1対の隆帯を垂下させ、縦位区画内に RL 単節斜縄文を施す。

### 第103号土坑出土遺物(第74図)

1 は胴部片で、括れにより文様帯の下端を区画しているとみられる。文様帯内には円形刺突を伴う縦位の細隆線を施す。 2 は波状を呈する口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈し、口唇部外面には刻みを施す。内外面とも擦痕が看取される。いずれも胎土には繊維を含む。

# 第104号土坑出土遺物 (第75図)

1は口縁部〜胴部下半の復元個体で、丸底とみられる底部から若干丸みを持って立ち上がり、口縁部直下でわずかに内湾する器形を呈する。口縁部直下に幅狭の無文帯を有し、口縁部〜胴部上半にかけての幅広の文様帯を持つ。文様帯は細隆線により区画し、文様帯内は円形刺突を伴う3条一対の細隆線により四単位に縦位区画される。更に縦位区画内は、細隆線により襷状・「く」字状等に区画される。区画内には沈線や押引き文を充填し、区画文の交点には円形刺突を施す。内外面とも条痕を施すが、文様を施文する箇所は磨り消される。2は胴部片で、無文帯直下を細隆線により区画し、円形刺突を伴う細隆線を3条垂下させて縦位区画する。縦位区画内も更に区画文を施しているとみられ、沈線の充填が看取される。いずれも胎土には繊維を含む。

### 第105号土坑出土遺物(第75図)

1・2は内外面に条痕を施す胴部片で、胎土には繊維を含む。

# 第106号土坑出土遺物(第75図)

1は隆帯により弧状の区画文を施す胴部片で、区画内に単節斜縄文を施す。

### 第107号土坑出土遺物 (第75・76図)

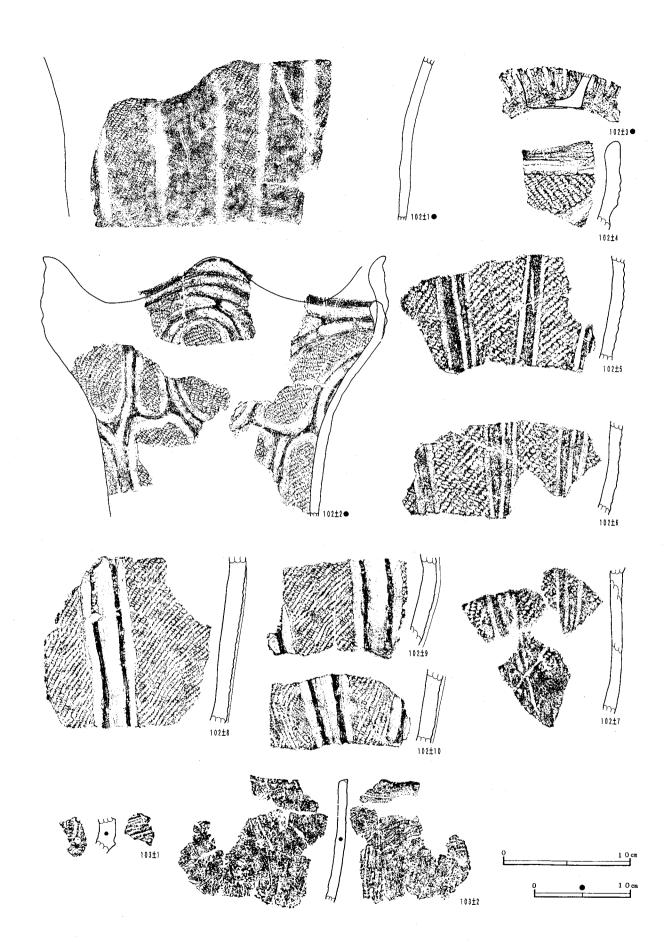
1 は内外面とも条痕を施す胴部片で、胎土には繊維を含む。2 は RL 単節斜縄文を施す胴部片で、胎土には砂粒を多く含む。  $3\sim5$  は黒色頁岩製のスクレイパーである。

### 第108号土坑出土遺物 (第75図)

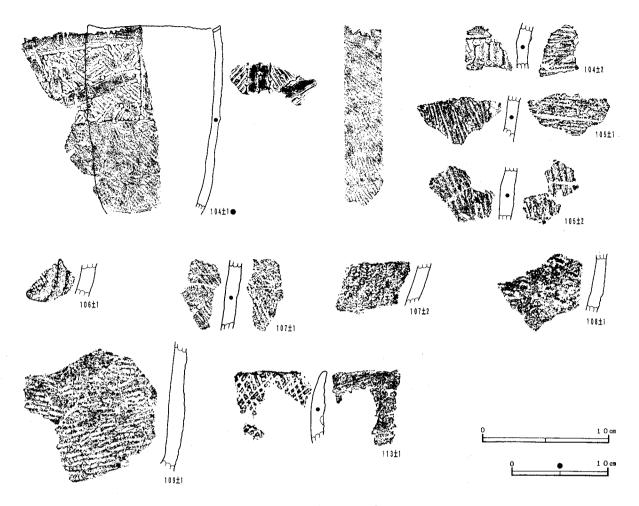
1は縄文を施した胴部片だが、施文が浅く器面も荒れているため原体は判別できない。

# 第109号土坑出土遺物 (第75図)

1は無節 L 縄文を全面に施文した胴部片である。



第74図 土坑出土土器②



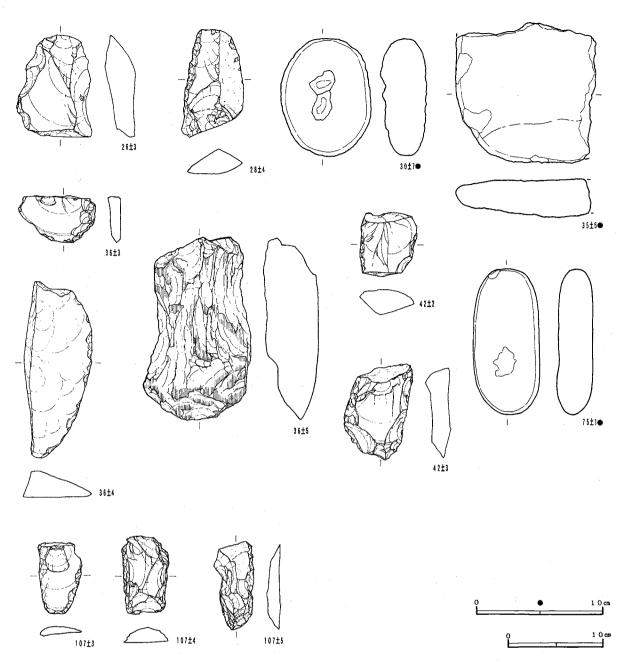
第75図 土坑出土土器③

# 第113号土坑出土遺物 (第75図)

1は平縁の口縁部片で、口唇部は丸みを帯びた内削ぎ状を呈する。口唇部直下より半截竹管を用いた平行沈線により斜格子文を施す。内面は擦痕が看取される。胎土には繊維及び砂粒を多く含む。

第12表 土坑出土石器観察表①

遺物	遺物番号		類	石	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	備	考
26土	3	打製石斧	打製石斧			8.0	5.9	2.5	123		
28土	4	スクレイパー		黑色頁岩	4	8.5	4.9	2.2	76.5		
30土	7	凹石		粗粒安山	岩	12.4	9.6	4.9	682	両面に凹部。	
35土	5	石皿		粗粒安山	岩	(14.8)	(14.7)	4.1	1086	破片資料。	
36土	3	スクレー	イパー	頁岩		3.7	6.0	1.2	27.6		
	4	スクレー	イパー	ホルンフ	フェルス	13.9	5.3	2.2	145	大型。	
	5	打製石斧	 斧	デイサイ	了 <b>卜</b>	14.4	8.4	4.3	570	大型。	
42土	2	スクレー	イパー	黒色頁岩	<u>.</u>	5.0	4.5	2.1	55.5		
	3	打製石斧	<b>*</b>	黒色頁岩	7	7.5	5.4	2.0	79.0		
75土	1	磨石		粗粒安山	冶岩	15.3	6.9	3.8	628		



第76図 土坑出土石器

第13表 土坑出土石器観察表②

遺物番号		種	類	石	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	備	考
107土	3	スクレ	イパー	黒色頁岩		5.6	3.4	1.0	17.6		
	4	スクレ	イパー	黒色頁岩		6.2	3.7	1.3	34.0		
	5	スクレ	イパー	黒色頁岩		6.9	3.2	1.2	20.8		

第14表 土坑一覧表(1)

第14表	土坑一覧	表(1)				
遺構番号	図版 番号	写真 図版	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ (cm)	備考
01	第62図	PL-4	H-29~30	不整隅丸長方形	$208 \times 76 \times 62$	底面は分銅形。陥し穴。
02	第62図	PL-4	F -29	楕 円 形	$174 \times 120 \times 104$	陥し穴。
03	第62図	PL- 4	F -29	楕 円 形	$206 \times 99 \times 94$	底面は分銅形。陥し穴。
04	第62図	PL-4	F -27~28	楕 円 形	$214 \times 108 \times 73$	底面は分銅形。陥し穴。
05	第62図	PL-4	I -31	分 銅 形	$187 \times 78 \times 61$	陥し穴。
06	第62図		I -31	楕 円 形	$172 \times 85 \times 77$	底面は分銅形。陥し穴。
07	第62図		F -27	楕 円 形	196× 93× 91	底面は分銅形。陥し穴。
08	第62図		E-26~27	精 円 形	$207 \times 109 \times 84$	底面は不整隅丸長方形。陥し穴。
09	第62図	PL-5	G-26~27	分 銅 形	$207 \times 104 \times 99$	陥し穴。
10	第63図		G-27	不整隅丸長方形	213× 138× 80	底面は隅丸長方形。陥し穴。
11	第63図	PI - 5	F -25~26	精 円 形	$187 \times 99 \times 82$	底面は分銅形。陥し穴。
12	第63図		F -25	不整楕円形	$181 \times 106 \times 108$	陥し穴。
13	第63図	PL-5	E~F-25	分 銅 形	$\frac{181\times 100\times 100}{271\times 97\times 108}$	陥し穴。
14	第63図	PL-5	G~H-24	分 銅 形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	陥し穴。
15	第63図		F-21~22	精 円 形	$\begin{array}{c c} 193 \times & 91 \times & 09 \\ \hline 239 \times & 142 \times 109 \end{array}$	底面は隅丸長方形。陥し穴。
			F -21~22	不整楕円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	底面は分銅形。陥し穴。
16	第63図					
17	第63図	PL-6	D~E-19~20	隅丸長方形	188× 89× 92	陥し穴。
18	第63図	PL-6	D~E-19	分 銅 形	165× 69× 79	陥し穴。
19	第64図		D-18	不整円形	120× 97× 71	陥し穴?
20	第64図		D-17~18	隅丸長方形	198× 105×100	陥し穴。
21	第64図	PL-6	I -26	隅丸長方形	211× 118× 68	陥し穴。
22	第64図		I -31	楕 円 形	102× 79× 77	
23	第64図		H-30	楕 円 形	$85 \times 58 \times 77$	Ph
24	第64図		H-27	楕 円 形	$129 \times 74 \times 59$	陥し穴?
25		欠	番			
26		PL-7	J ∼K-20	楕 円 形	$236 \times 148 \times 122$	底面は分銅形。陥し穴。
27	第64図		K-20∼21	不 整 円 形	$127 \times 124 \times 37$	
28	第64図	_	O-19	円 形	$82 \times 77 \times 74$	袋状土坑。
29	第64図	PL-7	P-18~19	隅丸長方形	$239 \times 110 \times 79$	陥し穴。
30	第65図	_	P-18	隅丸台形	$202 \times 136 \times 30$	
31		PL-7	Q-16	楕 円 形	$236 \times 111 \times 123$	底面は不整隅丸長方形。陥し穴。
32	第65図	PL- 7	K~L-17	楕 円 形	$251 \times 158 \times 134$	陥し穴。
33	第65図		K-17	不整楕円形	180× 141× 55	
34	第65図	PL- 7	J ~K-16~17	楕 円 形	$224 \times 130 \times 109$	底面は分銅形。陥し穴。
35	第65図	PL- 7	H∼ I -15	楕 円 形	$256 \times 165 \times 115$	底面は分銅形。陥し穴。
36	第65図	PL-8	K~L-20	楕 円 形	$191 \times 91 \times 110$	底面は分銅形。陥し穴。
37		PL-8	J -18	精 円 形	$225 \times 112 \times 128$	底面は分銅形。陥し穴。
38	第66図		K-18~19	隅丸長方形		底面は分銅形。陥し穴。
39	3700M	欠	番	MA JULIC JJ IV	21071 14171 33	
40	笠のの図	PL-8	田 N=19	阻力長方形	212× 101× 93	路上党
41	第66図		$I \sim J - 15$	不整長楕円形	$270 \times 123 \times 147$	底面は溝状。Tピット。
			$1 \sim 1 - 13$ $1 \sim 0 - 18 \sim 19$	精 円 形	$239 \times 145 \times 97$	底面は隅丸長方形。陥し穴。
42	第66図		$\frac{N \sim 0^{-18} \sim 19}{L^{-22} \sim 23}$	不整長楕円形	$321 \times 110 \times 164$	底面は隣状。Tピット。
43		PL-8			$\frac{321 \times 110 \times 164}{198 \times 141 \times 140}$	底面は隅水。1cット。   底面は隅丸長方形。陥し穴。
44	第67図		K~L-26		$198 \times 141 \times 140$ $195 \times 122 \times 86$	
45	第67図	PL-9	K-16		$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	底面は分銅形。陥し穴。 第1号屋外によ重複
46	第67図	- DI 0	K~L-16	不整楕円形か?		第1号屋外炉と重複。
47	第67図	PL-9	L~M-16~17	精 円 形	202× 121× 84	底面は分銅形。陥し穴。
48	第67図	PL- 9	L~M-11~12	長楕円形	295× 58×146	底面は溝状。Tピット。
49	第67図	PL-9	K-11~12	精 円 形	236× 140×100	底面は隅丸長方形。陥し穴。
50	第68図		H-12~13	長楕円形	283× 128×138	底面は溝状。Tピット。
51	第67図		H∼ I -12	隅丸長方形	$170 \times 97 \times 80$	底面は分銅形。陥し穴。
52	第68図		G∼H-12	隅丸長方形	$205 \times 88 \times 96$	底面は分銅形。陥し穴。
53	第68図		G~H-11~12	不整長楕円形	$266 \times 121 \times 156$	底面は溝状。Tピット。
54	第68図	PL-10	F∼G-11	隅丸長方形	$228 \times 129 \times 86$	陥し穴。
55	第68図		L-20	円 形	$112 \times 111 \times 30$	
56	第68図	PL-10	F~G-10	楕 円 形	$231 \times 160 \times 116$	底面は分銅形。陥し穴。
57	第68図		F-10	隅丸長方形	$215 \times 121 \times 88$	陥し穴。
58	第68図		E-12~13	楕 円 形	207× 110× 91	底面は分銅形。陥し穴。
59	第69図	PL-10	G∼H-14	分 銅 形	$220 \times 103 \times 121$	陥し穴。
60	第68図	_	G-14	不 整 形	$149 \times 131 \times 53$	
61	第69図		E-14~15	精 円 形		底面は分銅形。陥し穴。
62	第69図		G-16	精 円 形		7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
02	71702	1	0 10	1 113 13 10	1 200 . 200	1

第15表 土坑一覧表(2)

NITUAL	エクロ 兄・	/				
遺構番号	図版 番号	写真 図版	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ (cm)	備考
63	第69図	PL-10	D-7	長楕円形?	$-\times-\times121$	Tピット。
64	— N20053	PL-10	B-5	分銅形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
65			A- 7	精 円 形 ?	$-\times-\times-$	HII O / Co
66	第69図	PL-10	A-8	円 形 ?	$-\times-\times$ 78	
67	— N100E	PL-10	A-9	円 形?	$-\times-\times-$	
68	第69図	PL-11	D∼E-14	円 形 ?	$-\times-\times75$	
69	— N200Ed		E-14~15	精 円 形 ?	$-\times-\times-$	
70	第69図	PL-11	E -15	不整楕円形?	$-\times-\times$ 54	
71	7,002	_	E~F-14	精 円 形 ?	$-\times-\times-$	
72	第70図	PL-11	F-15	精円形?	$-\times-\times$ 120	陥し穴?
73		PL-11	F-15	円 形 ?	$-\times-\times-$	114 0 7 0 0
74	第70図		M-15	不整円形	123× 105× 32	·.
75	第70図	PL-11	M-17	円 形	$82 \times 71 \times -$	
76		PL-11	A - 0	円 形 ?	$-\times-\times-$	
77		PL-11	B-0	長楕円形?	$-\times-\times-$	<b>Tピット?</b>
78	_	PL-11	A-3	長楕円形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
79		PL-12	B-5	精 円 形 ?	$-\times-\times-$	714 0 7 10
80		PL-12	D-2~3	隅丸長方形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
81		PL-12	C~D-6	楕円形?	- x - x -	陥し穴。
82		PL-12	E-7	不整円形?	$-\times-\times-$	114 0 7 10
83		PL-12	G∼H-8	楕円形?	- × - × -	陥し穴。
84	_	PL-12	G-8~9	楕円形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
85		PL-12	F-8	楕円形?	- x - x -	陥し穴。
86		PL-12	D-9	楕円形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
87		PL-13	F-9	隅丸長方形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
88	_	PL-13	不明	楕円形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
89		PL-13	F-10	楕円形?	$-\times-\times-$	陥し穴。
90	第70図	PL-13	R-40	隅丸長方形	$181 \times 76 \times 64$	底面は分銅形。陥し穴。
91	第70図	PL-13	f -30	楕 円 形	$206 \times 115 \times 110$	底面は分銅形。陥し穴。
92		欠	番			
93	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	欠	番			
94		欠	番			
95	**-*	欠	番			
96		欠	番			
97		欠	番			·
98	7	欠	番			
99		欠	番			
100	第71図	PL-13	G-10	隅丸長方形?	$-\times-\times-$	
101	第71図	PL-13	F-7~8	楕円形?	$-\times-\times-$	
102	第70図	PL-13	F-7	楕 円 形	$295 \times 198 \times 134$	底面は分銅形。陥し穴。
103	第71図	PL-14	C~D-5	不整円形?	$- \times - \times -$	
104	第71図	PL-14	D-5	円 形 ?	$ -\times-\times- $	
105	第71図	PL-14	B-4	不整形?	$-\times-\times-$	
106	第71図		A-3	分 銅 形 ?	$-\times-\times-$	陥し穴。
107	第71図	PL-14	B-0	分 銅 形 ?	$- \times - \times -$	陥し穴。
108	第71図	PL-14	不 明	隅丸長方形?	$-\times-\times-$	
109	第71図	PL-14	F-6	円 形 ?	$-\times-\times-$	
110	第72図		F-6	楕円形?	$235 \times (160) \times 114$	陥し穴。
111	第70図	PL-14	E-5	楕円形?	$173 \times (90) \times 75$	陥し穴。
112	第72図	PL-15	B∼C-3	楕円形?	$(230) \times (135) \times 145$	陥し穴。
113	第72図		F -25	円 形	$183 \times 162 \times 126$	
114	第72図		F -27	円 形	146×127× 63	底面は不整形。
115	第72図		E -26	楕 円 形	179×108× 45	
116	第72図		不 明	隅丸長方形	$190 \times 76 \times 106$	底面は分銅形。陥し穴。
h			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•	<del></del>	• —

# 第4項 遺物包含層・遺構外出土遺物

柏倉落合遺跡1区北部にて遺物包含層が検出され、本項に掲載した遺物のほとんどがこの遺物包含層より出土したものである。遺物出土量はテンバコ6箱ほどで、早期~中期の土器が出土している。中でも早期後葉の条痕文土器の出土量が最も多く、前期後半~中期初頭の土器がこれに次ぐ。また柏倉芳見沢遺跡1区にて前期前半の住居址が検出されているがその出土量は少ない。その他柏倉落合遺跡・柏倉芳見沢遺跡内にて若干の遺構外出土遺物が出土しているため、併せて報告を行う。

### 第1群土器(第77図1~3)

早期前半の撚糸文土器を一括する。該期の遺構は検出されていない。いずれも口縁部直下で外反して開く器形で、口唇部は丸頭状を呈する。1・2は同一個体で、器面のアバタ状剝離が著しく原体は判然としないが、口唇部及び外面には単節縄文を施文しているとみられる。内面には丁寧なナデ調整を施す。3は撚糸Rを施すもので、口唇部は横位、口縁部以下は縦位に施文される。

## 第2群土器 (第77~82図 4~153)

早期後半の条痕文系土器を一括する。柏倉落合遺跡の遺物包含層出土遺物の主体を占め、含有量の多寡はあるものの、ほとんどのものが胎土に繊維を含む。施文方法や文様の有無により I ~IV類に大別する。

### **Ⅰ類** (第77・78図4~42)

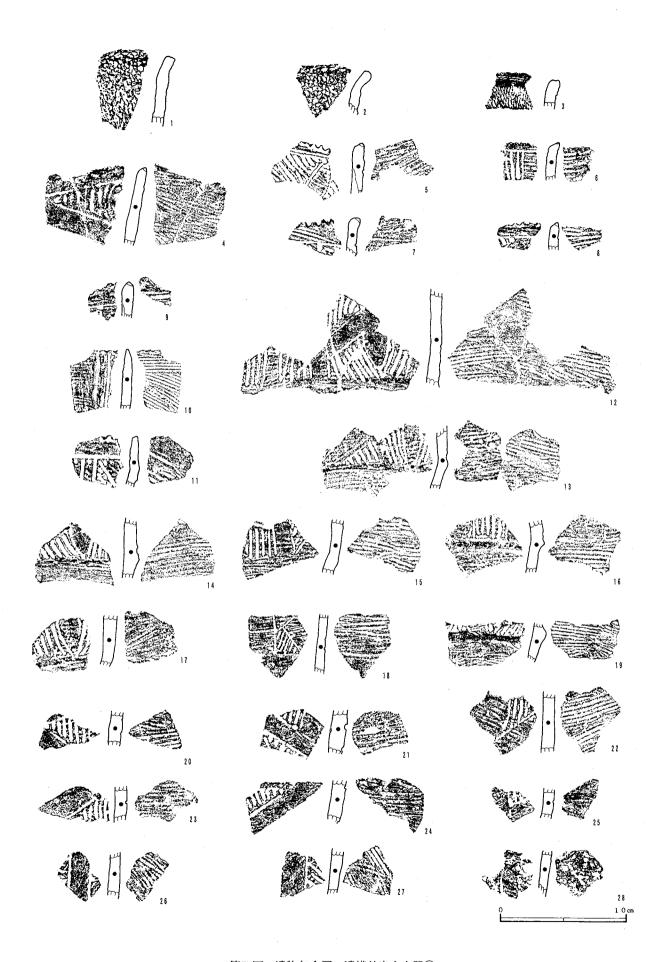
区画内充塡文手法をとり、区画文の交点に刺突を施すもので、鵜ガ島台式に比定される。文様要素や施文方法・ 胎土・焼成等の特徴から、10個体ほど存在すると見られる。 4~34は沈線による区画文内に沈線を充塡するもの である。4~9・12~18・20~29は細沈線により区画し、太沈線を充塡する。判然としないものも含まれるが、 多くが同―個体となるようである。波状縁で、口唇部は内削ぎ状を呈し、外面には刻みを施す。口縁部及び胴部 文様帯の二帯構成で、各文様帯の上端は沈線により、下端は屈曲部により区画されているとみられる。各文様帯 は縦位区画され、縦位区画内には更に区画文を施す。破片資料のため区画文の構成は判然としないが、4や5・ 12・14・17等から(蕨手) 襷状構成の区画文を施し、更に「い」字状等に細分割しているとみられる。区画文の 交点には円形刺突を施す。10・19は同一個体で、口唇部は丸頭状を呈し、上面には刻みを施す。区画文と充填文 は同一の工具により施されているとみられる。文様帯の下端を区画する屈曲部には隆帯を貼付している。11・ 30~34は同一個体で、口唇部は内削ぎ状を呈し、上面には刻みを施す。あまり屈曲を持たず、直線的に立ち上が る器形を呈するとみられる。このため口縁部及び胴部文様帯の区画は、上端・下端とも横位の沈線により行われ る。文様帯構成は不明だが、3条ほどの沈線を垂下させて縦位区画し、縦位区画内は斜位・弧状等の幾何学構成 の区画文を施し、沈線を充塡する。区画文・充塡文とも同一の工具で施されるほか、区画文の交点への刺突も、 同一の工具を斜位に押しつけることによって施される。35は下端に屈曲部を有する胴部片で、文様帯を区画して いるとみられる。浅い沈線により縦位・斜位の文様を施すものの、充填文は施されない。36~39は細隆線による 区画文と沈線による充塡文を施すものである。36は双頭の波状縁とみられる口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈 し、刻みは施されない。細隆線による縦位・斜位の区画文を施し、区画内には沈線を充塡する。区画文の交点に は円形刺突を施す。37~39は同一個体で、37は口縁部片、38・39は胴部片である。文様帯構成は不明ながら、3 条ほどを一対とする細隆線により文様帯内を縦位区画し、縦位区画内には同じく細隆線による幾何学構成の区画 文を施す。区画内には沈線による充塡文を施し、区画文の交点を中心に円形刺突を施す。40は文様帯の上端を細 隆線により区画し、文様帯内には4条ほどを一対とする集合沈線による山形文を施す。山形文には部分的に円形 刺突を施す。41は口縁部片で、内削ぎ状の口唇部を有する。文様帯の上端を細隆線により区画し、文様帯内には 細隆線による半円形等の区画文を施し、刺突を充塡する。器面が荒れていて判然としないが、区画文の交点が若 干盛り上がっており、区画文交点への刺突が小型の円形貼付文に置き換わっている可能性がある。42は括れ部分 の胴部片で、口縁部及び胴部文様帯の二帯構成を持つとみられる。各文様帯は器形上の屈曲及び刺突列により区 画され、文様帯内は刺突列による斜位の区画文を施す。

### Ⅱ類(第78図43~48)

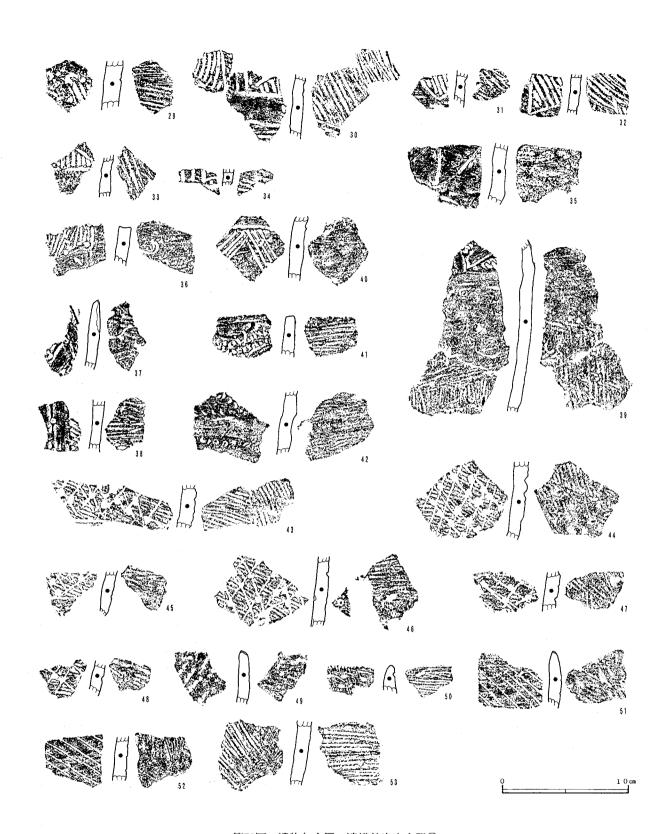
沈線による斜格子文を施し、交点に刺突を施すもので、全て同一個体とみられる。直線的に立ち上がる器形を 呈するとみられ、文様帯の下端は横位の沈線を巡らせて区画する。鵜ガ島台式に比定されよう。

### Ⅲ類 (第78図49~53)

貝殻腹縁文や刺突・沈線を施す条痕文土器を一括する。49は丸頭状の口唇部を有する口縁部片で、口唇部及び



第77図 遺物包含層・遺構外出土土器①



第78図 遺物包含層・遺構外出土土器②

外面には斜位の貝殻腹縁文を施す。内外面とも擦痕状の調整を施し、胎土には結晶片岩を含む。50は丸みを帯びた内削ぎ状の口唇部を有する口縁部片で、口唇部上面に縦位の刻みを施す。口唇部直下より横位の刺突列を数段施す。51・52は同一個体で、51は口縁部片、52は胴部片である。口唇部は丸頭状を呈し、上面には斜位の刻みを施す。外面には斜位の集合沈線を施す。内外面とも擦痕状の調整を施す。53は胴部片で、先端の鋭利な工具により斜位の集合沈線を浅く施す。

#### Ⅳ類(第79~82図54~153)

条痕や擦痕のみ施したものを一括する。条痕のみ施した個体のほか、 $I \sim III$ 類の無文部分を含むと考えられる。なお $54\sim56$ 、 $61\cdot62$ 、 $67\sim70$ 、 $122\cdot123$ 、 $126\cdot127$ 、 $144\cdot145$ はそれぞれ同一個体である。

54・153を除き全て破片資料で、54~71は口縁部片、153は底部片、72~152は胴部片だが、148~152は底部付近の破片とみられる。口縁部は全て平縁とみられ、口唇部形状は丸頭状(54~56等)や内削ぎ状(57・58・67~70等)・角頭状(64等)がある。口唇部に刻みを施すものも多く、口唇部外面に刻みを施すもの(57・58等)や、口唇部上面に斜位の刻みを施すもの(61・62等)、口唇部上面に縦位の刻みを施すもの(54~56・67~70等)、口唇部上面に櫛歯状工具による縦位の刻みを施すもの(65)等がみられる。底部の形状は153のような上げ底状を呈する平底の他、148のように丸底へと移行するとみられるものも含まれる。胴部片では器形上の屈曲を持つものはみられず、直線的に立ち上がる器形を呈するとみられるものも含まれる。胴部片では器形上の屈曲を持つものはみられず、直線的に立ち上がる器形を呈するとみられる。内外面に擦痕を施した63・132や外面にナデ調整を施した71を除きほとんどが条痕による器面調整を施すもので、内外面に条痕を施すものが主体だが(54~59・61・62・64~70・72~125・148~153)、片面のみに条痕が看取されるものもみられ、外面のみに条痕が看取されるもの(62・126~143)や内面のみに条痕が看取されるもの(144~147)もある。また条痕は、57や81・83・149・150等の条間隔の広いものが主体的だが、目の細かい施文具を用いて条間隔の狭い条痕を施したもの(96~98・101・126・127等)もみられる。

胎土は砂粒及び繊維を含むものが主体的で、更に結晶片岩を含むもの( $67\sim70\cdot122\cdot123\cdot140\cdot141$ 等)もみられる。その他71と $126\cdot127$ (同一個体)は胎土に繊維を含まず、第2 群土器の中で異質である。特に後者は砂粒も少なく、外面に条痕を施すものの内面には丁寧なナデ調整を施すなど特徴的で、これらは異なる時期の所産である可能性がある。

# 第3群土器 (第83図154~161)

前期前半の土器を一括した。柏倉芳見沢遺跡1区にて該期の住居址4軒が検出されているにもかかわらず出土 量は少ない。いずれも胎土に繊維を含む。

### **| 類** (第83図154)

燃糸側面圧痕や竹管文により文様を施すもので、1点のみである。波状を呈する口縁部片で、口唇部は丸みを帯びた内削ぎ状を呈する。口縁部文様帯は隆帯により区画され、多段構成をとるものとみられる。上段の波頂部直下には対弧状の隆帯が施され、下位の弧状隆帯の中央には突起を有する。口縁部文様帯は施文帯毎に文様要素を違え、上段の施文帯には撚糸側面圧痕により菱形・渦巻等の幾何学文を、下段の施文帯には半截竹管による菱形文等を施す。花積下層式に比定されよう。

### 11類 (第83図155~161)

縄文による地文のみが施されるものである。 $155\sim160$ は LR・RL 単節斜縄文(0 段多条)を、161は組紐を施すものである。 $155\sim157$ は羽状構成をとり、155は結束により羽状構成をとるものである。

### 第4群土器 (第83図162~200)

前期後半〜前期末の土器を一括した。該期の遺構は検出されていない。文様要素や文様構成により9類に大別した。

# **| 類**(第83図162~165)

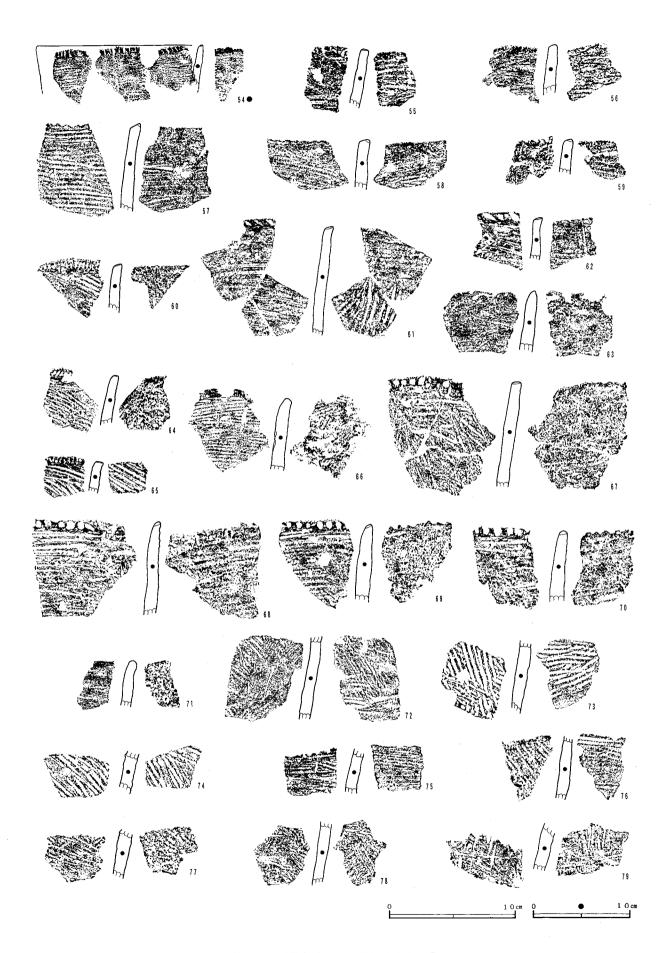
縄文を地文とし、数条 1 対の平行沈線により文様を施すものである。162は口縁部片、163~165は胴部片で、口縁部には突起を有する。施される文様は横位・斜位・弧状等がある。諸磯 b 式に比定されよう。

### Ⅱ類 (第83図166)

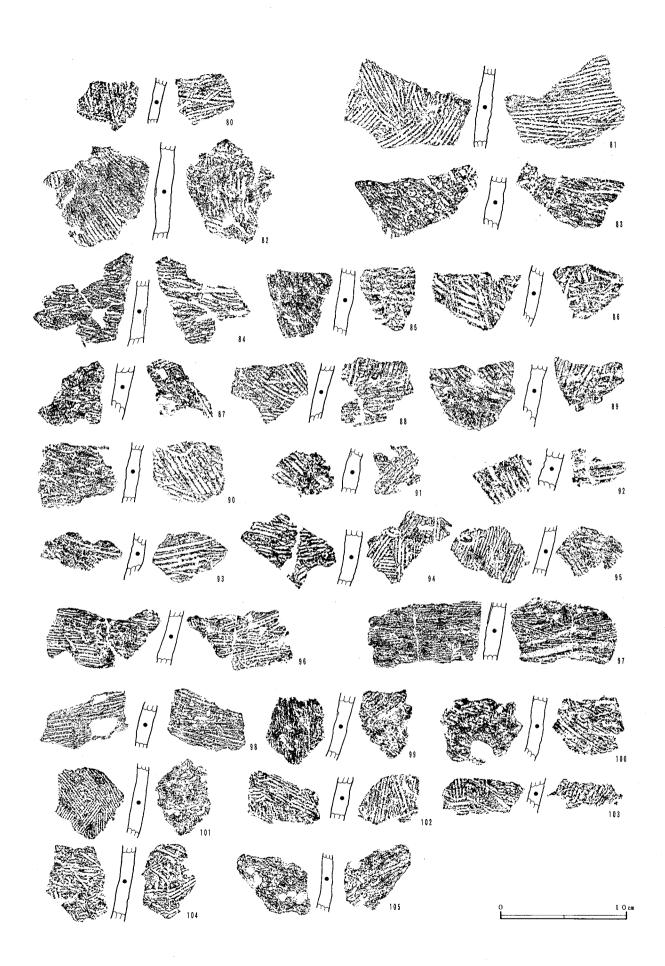
斜位の集合平行沈線を地文とし、ボタン状等の貼付文を施すもので、1点のみである。諸磯c式に比定されよう。

# Ⅲ類 (第83図167)

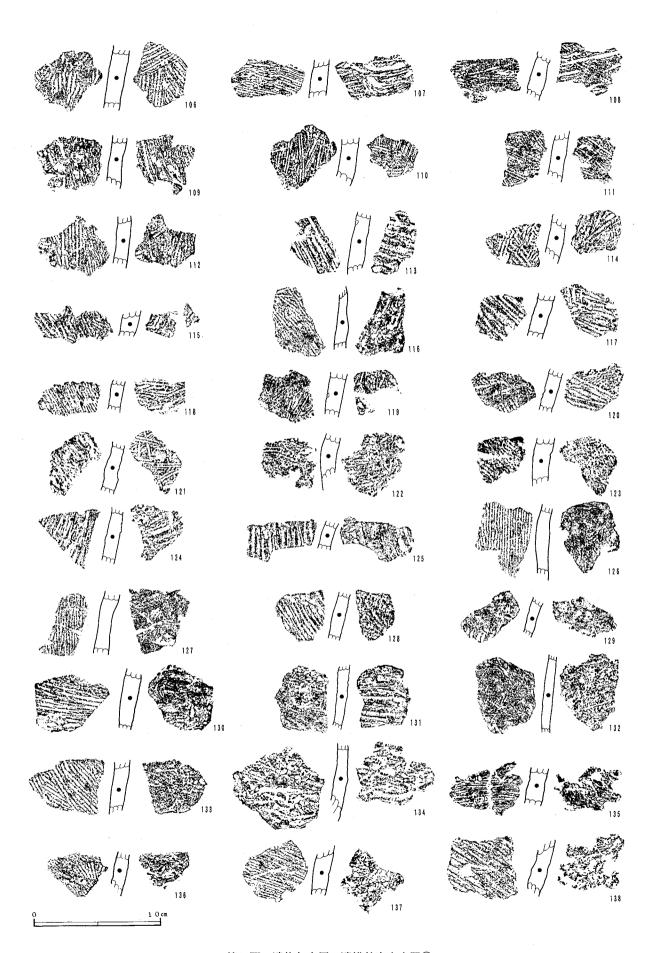
斜位の貝殻腹縁文を施すもので、1点のみである。



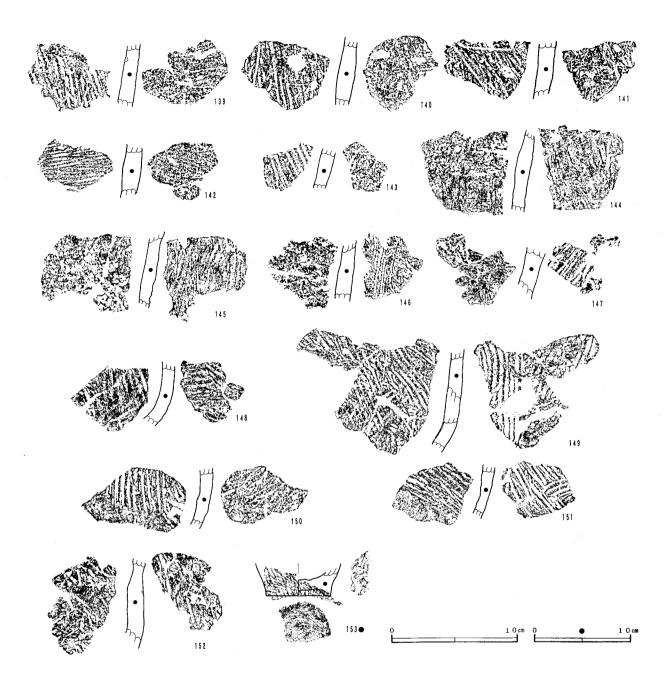
第79図 遺物包含層・遺構外出土土器③



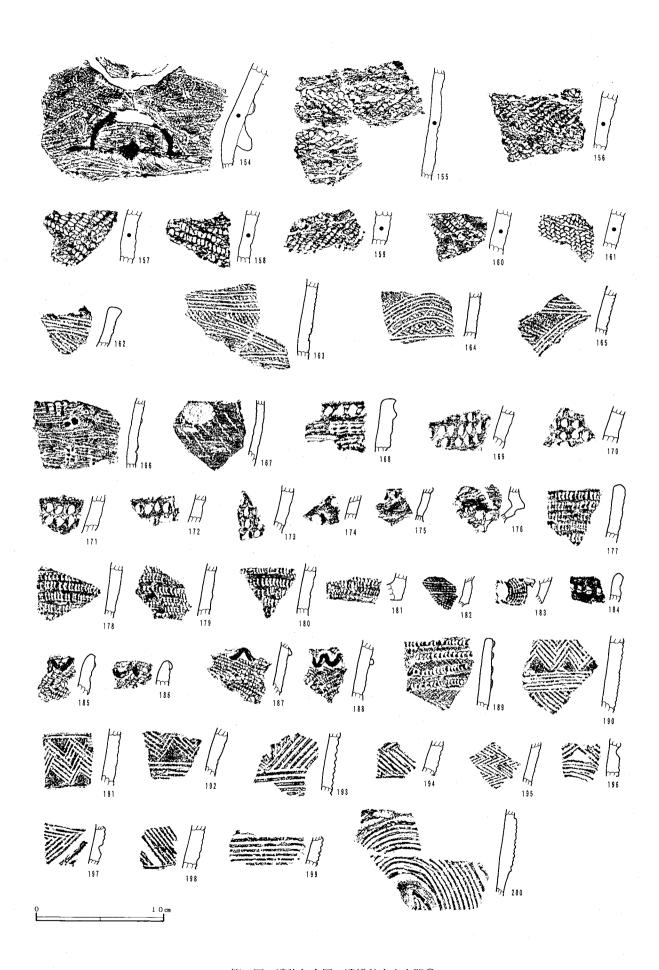
第80図 遺物包含層·遺構外出土土器④



第81図 遺物包含層・遺構外出土土器⑤



第82図 遺物包含層・遺構外出土土器⑥



第83図 遺物包含層・遺構外出土土器⑦

### IV類 (第83図168)

横位多段の押引文を地文とし、口縁部直下に三角形の印刻を施すもので、1点のみである。肥厚した口唇部は 丸頭状を呈する。

### **Ⅴ類**(第83図169~176)

半月状の刺突を施すものである。169~173は同一個体で、半月状の刺突を横位多段に施す。174も同様な構成をとるものであろう。175は薄手で、下位に無文部を有する。176は中位が大きく張り出し、屈曲部上位には平行沈線を、下位には半月状の刺突を施す。これらは169~173とは器形・文様構成が異なり、他群に位置づけられるものが含まれている可能性がある。

### VI類(第83図177~184)

連続刺突文を施すものである。177~181は同一個体とみられ、平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部直下 ~底部直上まで、押引状の連続刺突列を横位多段に施すものである。182は器壁が薄く、数条 1 対の連続刺突文を 横位・斜位に施す。183も薄手で、数条 1 対の弧状の連続刺突文を施し、中央には円形印刻を施す。184は平縁の 口縁部片とみられ、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部直下に横位の連続刺突文を 1 条施す。

### VII類 (第83図185~188)

縄文を地文とし、波状の貼付文を施すもので、185・186(同一個体)は口縁部片、187・188は胴部片である。いずれも結束縄文を地文とし、横位の羽状構成をとるもの(185・188)と羽状構成をとらないもの(187)がある。 VII類(第83図189)

縄文を地文とし、結節浮線文を施すもので、1点のみである。平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。口縁部直下より4条の結節浮線文を横に巡らせる。地文は羽状構成をとるLR・RL単節斜縄文で、端部には所謂自縛痕が看取される。

#### IX類 (第83図190~200)

集合平行沈線により鋸歯状文や渦巻文を施すものである。190~194は横位区画内に鋸歯状、195・197は矢羽状、196は鋸歯+弧状、198は横位+斜位、199は横位、200は渦巻状に施す。また190~192に較べて、193~200の施文は深く、196~200は無文部分に印刻を施す。

### 第5群土器 (第84図201~219)

前期終末~中期初頭の土器を一括する。やはり該期の遺構は検出されていない。

### **1類** (第84図201)

横位の沈線で区画された口縁部直下の文様帯に縦位の短沈線を施すもので、1点のみである。平縁で、口唇部 は丸頭状を呈する。内面口縁部直下に弱い稜を持つ。

# ||類(第84図202)

三角刺突を伴う沈線を横位に巡らせるもので、1点のみである。平縁で、口唇部は丸頭状を呈する。

### Ⅲ類 (第84図203~207)

無文の口縁部片を一括した。203は波状縁とみられ、波頂部には半円形の突起を有する。突起部内面には円形の刺突を施す。また内面には突起部下に稜を有する。204~207は内湾気味に立ち上がる口縁部片で、204~206は同一個体である。いずれも平縁で、口唇部には縦位の刻みを施す。また207は弱いながらも内面に稜を有する。

### Ⅳ類 (第84図208~215)

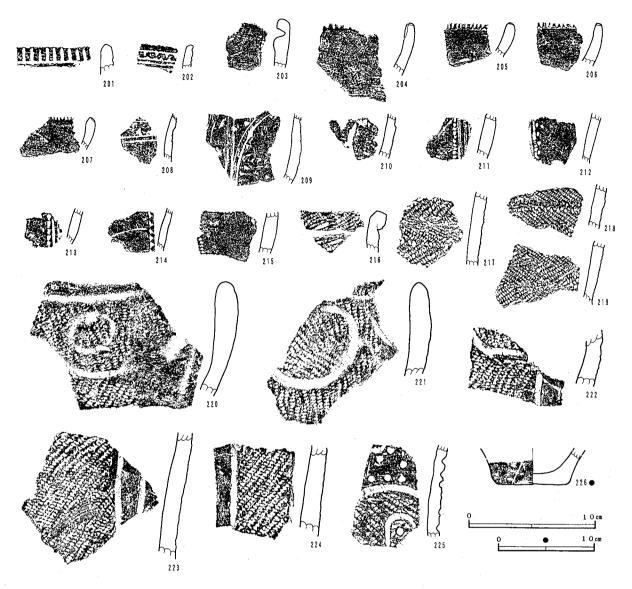
沈線により文様を施す胴部片を一括した。208は半截竹管による沈線を横位に数条施し、沈線間には三角刺突を施す。209・210は半截竹管による沈線を縦位・弧状に施し、部分的に三角刺突ないし三角印刻を施す。211~215は三角刺突を伴う縦位の沈線を垂下させるものである。

### V類(第84図216~219)

縄文を施すものを一括した。216は折り返し状口縁で、平縁で、口唇部は角頭状を呈する。外面には LR 単節斜縄文を施す。217~219は胴部で、いずれも羽状構成をとる LR・RL 単節斜縄文を施し、217・218は結束による羽状構成をとる。

### 第6群土器 (第84図220~226)

中期後半の加曽利E式土器を一括する。該期の遺構としては、第102号土坑を切って構築された埋甕1基のみである。220~222は口縁部ないし口縁部付近の破片で、口縁部に弧状の区画文を施し、胴部は沈線を垂下させて縦位の区画文を持つ。区画内には RL 単節斜縄文を施す。223~225は胴部片で、縦位ないし弧状に区画し、区画内に



第84図 遺物包含層・遺構外出土土器⑧



第85図 遺物包含層・遺構外出土土製品

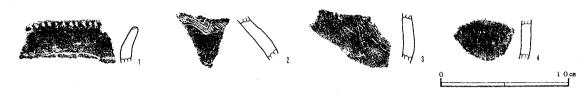
RL 単節斜縄文を施す。また225は無文部に円形刺突文を施す。226は無文の底部片で、平底の底部から外傾して開く器形を呈する。

# 土製品 (第85図227)

227は土器片製円盤で、第2群IV類土器片の周囲を研磨している。重さは59.4gを測る。

# 第3節 弥生時代

本遺跡では該期の遺構は検出されなかったものの、他時代の遺構の覆土より土器片が少量出土した(第86図)。 1~4は甕形土器の口縁部~胴部片で、同一個体とみられる。胴部上半に最大径を有し、頸部で括れて、外反 して開く器形を呈するとみられる。丸頭状を呈する口唇部には縦位の刻みを施し、頸部には等間隔止めの簾状文 を時計回りに施す。その下位には櫛描の波状文を施す。胴部中位~下半は無文とみられる。また内外面ともヘラ ナデによる器面調整を施す。焼成は良好で、胎土には砂粒や白色粒を含む。これらは文様や器形等から中期後半 の所産とみられ、本村では初見の資料である。



第86図 弥生時代の遺物

# 第4節 古 代

本遺跡で検出された該期の所産とみられる遺構は炭窯2基のみで、いずれも柏倉芳見沢遺跡1区東側の、柏倉落合遺跡との間を隔てる谷に面した斜面地に占地する。また炭窯からの出土遺物や遺構外出土遺物として該期の遺物が検出されているものの、いずれも図示し得なかった。

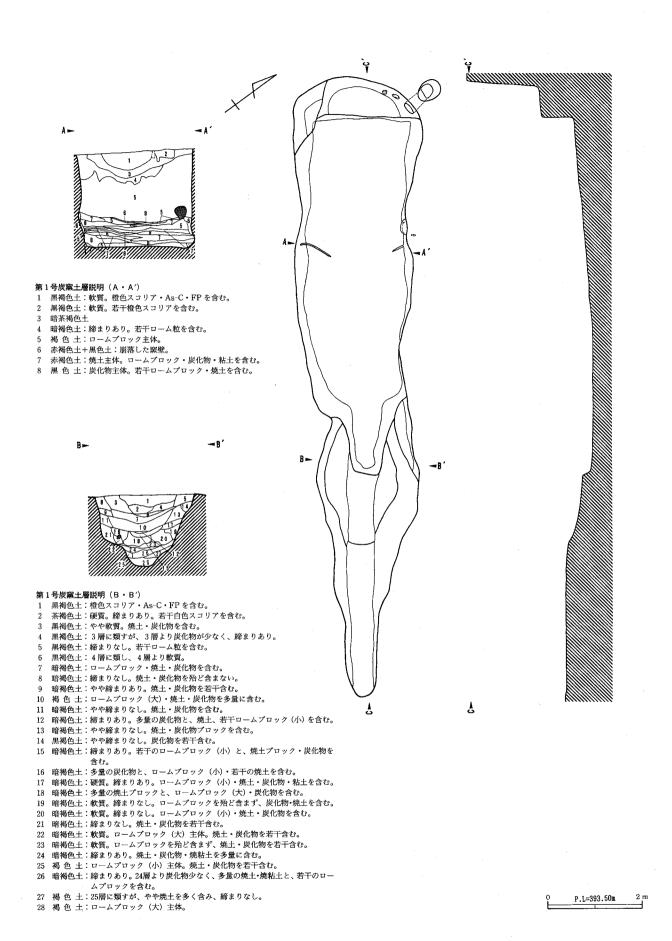
### 第1項 炭窯

### 第1号炭窯(第87図)

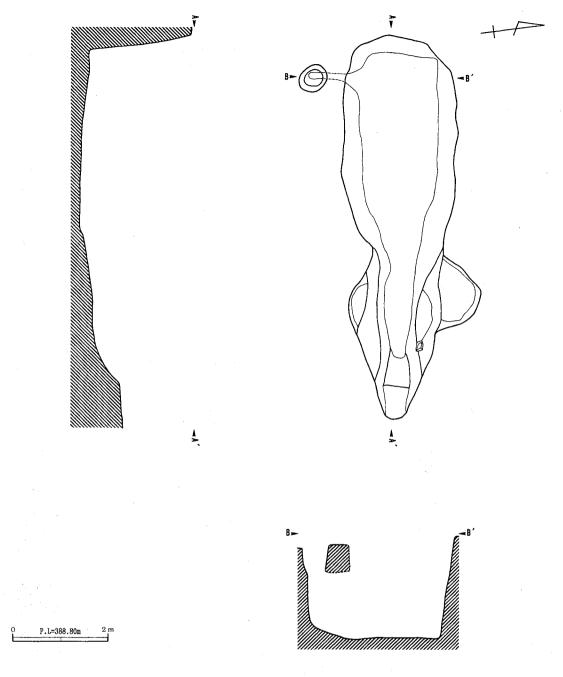
位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区北部東側の、南東方向に傾斜してゆく斜面地である C~E ー 9~12グリッドに位置し、南西方向に55mほど隔てて第 2 号炭窯が所在する。また西側で第54・56・57号土坑に隣接する。重複関係 なし。規模・形状 北西一南東方向に主軸をとり、主軸方位はN-36°-Wである。平面形状は羽子板状を呈し、第 2 号炭窯と比較して規模は大きい。全長12.18m、入口部~焚口部6.13m、窯体6.08mを測る。焚口部幅は1.91m、窯体は奥壁付近に最大幅を有し、2.55mを測る。奥壁西側には幅2.1m・奥行き0.8m・確認面からの深さ75cmほどの半円形のテラスを有し、窯体底面からの比高差は70cmほどである。煙 道 奥壁西側のテラス北壁に付設され、壁面から北へ30cm程のところに長軸約50cmの楕円形を呈する煙出を持つ。床 面 入口部付近はほぼ平坦ながら、入口部から3.2m程のところで緩やかに傾斜し、4.3m程のところで比高差16cmほどの段を有する。そして焚口部付近で最深部をとる。窯体では奥壁に向かって非常に緩やかに立ち上がり、70cm程の比高差を持って奥壁西側のテラスへと続いてゆく。壁 入口部~焚口部にかけては階段状に立ち上がり、確認面からの深さは0.24~1.68mを測る。一方窯体の壁面はほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは1.7~2.1mを測る。覆 土窯体の土層堆積をみてゆくと、床面から下層にかけて焼土主体の土層と炭化物主体の土層、ロームブロック主体の土層が互層をなして堆積しており、複数次の操業が想定される。また上層~中層にかけて層 1 m以上のロームブロック主体の土層が観察され、天井部の崩落土とみられる。遺 物 縄文時代の土器や石器類が出土しているものの、図示し得なかった。備 考 窯体中央の南北両壁にて地割れ痕が検出されている。

# 第2号炭窯(第88図)

位 置 柏倉芳見沢遺跡 1 区南部東側の東方向に傾斜してゆく斜面地である H~ J ー20~21グリッドに位置し、 北東方向55mほどのところに第 1 号炭窯が所在する。また西側で第 4 号住居址及び第26・27・36号土坑に隣接する。**重複関係** なし。**規模・形状** ほぼ東西方向に主軸をとり、主軸方位はN-85°-Wである。平面形はいびつな羽子板状を呈し、第 1 号炭窯と比較して規模はやや小さく、全長8.06m、入口部~焚口部長3.17m、窯体4.89mを測る。焚口部幅は1.36m、窯体はその中央やや西寄りのところに最大幅を有し、2.39mを測る。また入口部~焚口部付近にかけて、南北両壁に縦長で幅狭のテラスを有し、北壁には更にその外側に半円形のテラスを有す



第87図 第1号炭窯



第88図 第2号炭窯

る。煙 道 奥壁付近の南壁に付設され、壁面から40cmほど南側に、径約60cmの円形を呈する煙出を持つ。壁 入口部~焚口部は上述のとおり南北両壁にテラスを有するため、断面形状は段状を呈し、確認面からの深さは $0.25\sim1.46$ mを測る。また窯体はほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは $1.62\sim2.14$ mを測る。覆 土 調査所見から、窯体の床面~下層には焼土主体の土層と炭化物主体の土層、ロームブロック主体の土層が互層をなして堆積しており、第1号炭窯と同様に複数次の操業が想定される。遺 物 土釜の胴部片が出土している。その他縄文土器片・石器類が出土しているものの、いずれも図示し得なかった。

# 第4章 自然科学分析

# 柏倉芳見沢遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

# はじめに

柏倉芳見沢遺跡は、赤城山南麓に広がる火山麓扇状地の扇頂部付近に位置する。発掘調査の結果、9世紀前半と考えられる炭窯等が検出されている。炭窯内からは、焼成された木炭の一部と考えられる炭化材が出土している。また、尾根状の台地およびそれを刻む谷部で火山灰土の堆積が認められた。とくに石器が大量に検出された台地部では、多くの降下テフラ層が断面で確認された。一方、谷部では黒ボク土の下位に黒色有機質粘土層の堆積が認められた。

本報告では、台地部において肉眼では確認されなかった姶良 Tn 火山灰(AT:町田・新井,1976)を軽鉱物分析により検出し、ローム層序を確立すること、谷部の堆積物についてテフラ分析を行い指標テフラの降灰層準を求め、その堆積層序を確立すること、また黒色有機質粘土層の堆積年代を放射性炭素年代測定により推定すること、さらに谷部の黒色有機質粘土層について微化石分析を行い当時の水域の有無や古植生など古環境に関する情報を得ることを目的に分析を実施する。また、炭窯で焼成された木材の樹種を明らかにするため、炭窯内から出土した炭化材の樹種同定を実施する。

# I. 柏倉芳見沢遺跡の台地部のテフラ層序

### 1. 台地部のテフラ層序

柏倉芳見沢遺跡では、厚いローム層とそれを覆う黒ボク土が認められた(図1)。後述する軽鉱物分析により検

出された AT を含めて、本遺跡では合わせて 7 層のテフラが存在する。これらのテフラを、ここでは下位より柏倉芳見沢第  $1 \sim 7$  テフラ (Ky  $-1 \sim 7$ )と呼ぶことにする。以下、各降下テフラの層相を記載する。

# (1) 柏倉芳見沢第1テフラ (Ky-1)

層厚54cm以上の黄色風化軽石層。軽石および石質岩片の最大径は、各々29mm、17mm。層相から本テフラは、約5万年前に榛名火山から噴出した榛名一八崎軽石層(Hr-HP:新井,1962;町田・新井,2003)に対比される。

### (2) 柏倉芳見沢第2テフラ (Ky-2)

暗色帯の上位にあり、色調の薄い暗色帯の下位にある褐色火山灰土に認められるガラス質テフラ。後述される軽鉱物分析により、その層位が確かめられた。透明で平板状のいわゆるバブル型火山ガラスに富むことから、約2.6-2.9万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT:町田・新井,1976;町田・新井,2003)に対比される。

# (3) 柏倉芳見沢第3テフラ (Ky-3)

パッチ状に認められる層厚 4 cmの橙色軽石層。軽石および石質岩片の最大径は、各々 7 mm、2 mm。層相から約2.0-2.5万年前に浅間火山から

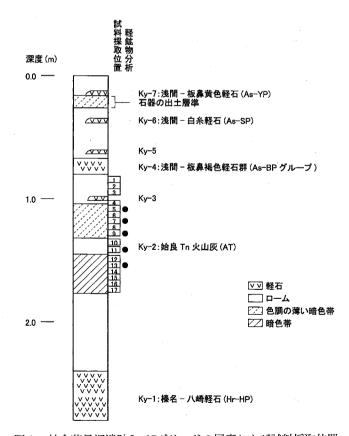


図1 柏倉芳見沢遺跡 L-17グリッドの層序および試料採取位置

噴出した浅間一板鼻褐色軽石群(As-BP グループ:新井, 1962;町田ほか, 1984;早田, 1990;町田・新井, 2003) の一つに対比される。

## (4) 柏倉芳見沢第4テフラ (Kv-4)

層厚13cmの赤味がかった橙色軽石層。含まれる軽石および石質岩片の最大径は、各々9 mm、2 mm。層相から上述の As-BP グループの一つに対比される。

(5) 柏倉芳見沢第5テフラ (Ky-5)

パッチ状に認められる層厚3cmの橙色軽石層。黒色粗粒火山灰に富む。軽石および石質岩片の最大径は、各々3mm、2mm。層相から上述のAs-BPグループの一つに対比されると考えられる。

(6) 柏倉芳見沢第6テフラ (Ky-6)

パッチ状に認められる層厚 4 cmの黄色軽石層。軽石は、よく発泡している。軽石および石質岩片の最大径は、各々 6 mm、2 mm。層相から1.5-2.0万年前に浅間火山から噴出した浅間一白糸軽石(As-SP:町田ほか,1984;町田・新井,2003) に対比される。

### (7) 柏倉芳見沢第7テフラ (Kv-7)

# 2. ローム層 (L-17グリッド) の AT 降灰層準 推定

### (1) 試料

群馬県域においては、As-BP Groupの下位の暗色帯上部にATの層位があることが一般に知られている(たとえば早田,1990)。そこでAs-BP groupの下位の暗色帯について軽鉱物分析を行い、バブル型ガラスに富むATの降灰層準を求めることにした。分析に用いた試料は5cm連続で採取された試料のうち、試料番号5、7、9、11、13の5点である(図1)。

# (2) 分析方法

分析は、次の手順により行われた。

- 1) 試料40gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により、泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により、1/4-1/8 mmの粒子を篩 別。
- 5) テトラブロモエタン (比重2.96) により、 比重分離。
- 6) 軽鉱物250粒について、偏光顕微鏡下で同 定。

# (3) 結果

分析結果をダイヤグラムにして図2に、その内訳を表1に示す。火山ガラスの占める割合は、試料番号7で最も大きい。とくにバブル型が、全体の66.8%を占める。しかしその下位の試料でも、バブル型ガラスの占める割合が大きい。バブル型ガラスの割合は、試料番号9で56.8%、

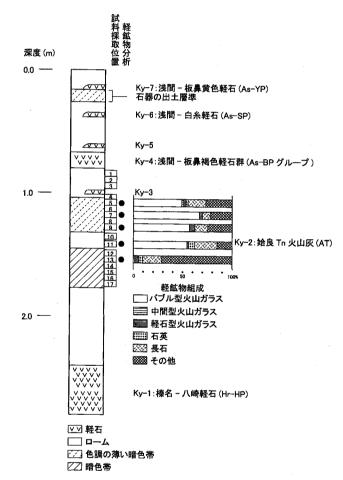


図2 柏倉芳見沢遺跡 L-17グリッドの軽鉱物組成

表1 柏倉芳見沢遺跡L-17グリッドの軽鉱物組成

試料 番号	バブル 型火山 ガラス	中間型 火山ガ ラス	軽石型 火山ガ ラス	石英	長石	その他	合計
5	122	5	6	5	45	67	250
7	167	1	8	2	21	51	250
9	142	1	13	1	33	60	250
11	136		4	15	57	38	250
13	3	3	8	10	47	179	250

試料番号11で54.4%である。試料番号13では急激にその割合が減少する(1.2%)。このことと、層相を合わせて 考えると、透明バブル型で特徴づけられる AT の降灰層準は、試料番号11付近にあるものと推定される。

## II. 谷部堆積層の堆積年代と古植生の推定

柏倉芳見沢遺跡の谷部では、黒ボク土の下位に黒色有機質粘土層の堆積が認められた。黒色有機質粘土層には、 堆積当時の植生や堆積環境を反映している微化石が保存されている可能性がある。そこで、ここでは黒ボク土と 黒色有機質粘土層の堆積年代を調べるために、テフラ分析により示標テフラ検出を行い、黒色有機質粘土層については¹⁴C年代測定を行った。また黒色有機質粘土層について花粉分析を行い、古植生の復元を試みた。

## 1. テフラ分析

## (1) 試料

分析の対象とした試料は、基本的に5 cmおきに採取された3、5、7、9、11、13、15、17、19の9 点である(図3)。

## (2) 分析方法

分析は、次の手順により行った。

- 1) 試料20gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により、泥分を除去。
- 3)80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子を観察。

### (3) 結果

分析結果を、表2に示す。いずれの試料にも、火山ガラスが比較的多く認められる。火山ガラスはいずれも透明で、繊維東状やスポンジ状に発泡した軽石型ガラスのほか、バブル型ガラスが認められる。しかし、とくに火山ガラスが多く含まれたり、特徴的な火山ガラスが認められる試料はなく、指標テフラを検出することはできなかった。

## 2. 14 C 年代測定

## (1) 試料

14C年代測定の対象とした試料は黒色有機質粘土層下部より採取した試料番号14C-2・14C-3の2点である(図3)。

## (2) 分析方法

測定は、学習院大学放射性炭素年代測定室に依頼した。

## (3) 結果

谷部の有機質粘土層の¹⁴C年代測定結果を表 3 に示す。¹⁴C年代測定値に基づくと、谷部埋積物下部の有機質粘土の堆積は約1.1万年前頃、すなわち完新世初頭の堆積と推定される。

## 3. 花粉分析

## (1) 試料

分析の対象とした試料は、テフラ分析・放射性炭素 年代測定を行った地点と同一地点の黒色有機質粘土層

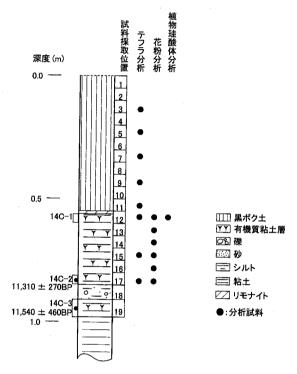


図3 柏倉芳見沢遺跡谷部の層序および試料採取位置

表 2 柏倉芳見沢遺跡谷部のテフラ分析結果

J. 2	1/41/3/2010 (2020)	1 HP-2 / / / / / /	TAMPIN
試料	火山ガラ ス の 量	火山ガラ スの色調	火山ガラ スの形態
3	+++	透明	pm>bw
5	++	透明	pm>bw
7	++	透明	pm>bw
9	++	透明	pm>bw
11	++	透明	pm>bw
13	++	透明	pm>bw
15	++	透明	pm > bw
17	++	透明	pm > bw
19	+++	透明	pm>bw

pm:軽石型。bw:バブル型。 pm:軽石型。bw:バブル型。

表3 谷部埋積物の14 C 年代測定結果

番号	試料の質	年代 (BP)	CodeNo.
¹⁴ C - 1	黒色有機質粘土	$11310\!\pm\!270$	GaK-15501
¹⁴ C - 2	黒色有機質粘土	$11540 \pm 460$	GaK-15502

- 1) 年代は、1950年を基点とした年数
- 2) ¹⁴Cの半減期は LIBBY の5570年を使用した

から採取された13~17・19の6点である(図3)。

#### (2) 分析方法

湿重約15gの試料について、HF処理、重液分離(ZnBr2:比重2.2)、アセトリシス処理、KOH処理の順に物理・化学処理を行い花粉化石を分離・濃集し、得られた残渣をグリセリンで封入しプレパラートを作成した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類(Taxa)の同定・計数を行った。

## (3) 結果

黒色有機質粘土層の各試料における 花粉化石の産状を、表4に示す。花粉・ 胞子化石は、全試料で保存が悪く、化 石数が少なかった。

## (4) 考察

黒色有機質粘土層中の花粉化石の保存状態は悪く、堆積後に何等かの腐蝕作用の影響を受けていることが示唆される。花粉は堆積物中に取り込まれた後、多少の腐蝕作用の影響を受けることが知られており、一般に還元状態で堆積した泥炭層や湖成堆積層では花粉化石の保存が良く、逆にロームや黒ボク土などの酸化状態のもとで堆積した土壌では花粉化石の保存が悪い傾向がある(ただ、現時点では堆積物中の花粉化石の腐蝕作用の影響については不

明な点が多い)。今回の谷を埋積する黒色有機質粘土層は、肉眼的特徴からは酸化分解の影響を受けた黒泥土、あるいは黒ボク土の再堆積物と考えられたが、その判別は肉眼観察だけでは困難であった。そこで、本層についてリン酸吸収係数を測定したところ、その係数は黒ボク土の識別基準である1500を越えた1640を示しており、本層が黒ボク土に由来することが判明した。したがって、谷を埋積している黒色有機質粘土層は黒ボク土の流れ込みに比較される可能性があり、本層において花粉化石の保存が悪かったことも、このような堆積物の性質と関係しているように思われる。いずれにせよ、今回の結果から当時の植生について推定することは困難であり、今後、黒ボク土中の花粉の腐蝕作用による影響に関する研究を含めて、黒ボク土の花粉分析の方法について検討する余地がある。

今回の調査では、上記したように花粉化石から当時の植生に関する情報が得られなかった。そこで、花粉化石より腐蝕に対する抵抗性が強く、黒ボク土中でも良好に保存されている植物珪酸体の分析を黒色有機質粘土層上部の1試料(試料番号13)について追加実施した。その結果、本層上部の植物珪酸体組成は短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体ともにタケ亜

表 4 柏倉芳見沢遺跡谷部の花粉分析結果

種類     試料番号     13     14     15     16     17     19       木本花粉     -     -     1     -     -     -       立ナラ属コナラ亜属     -     -     -     -     -     -       草本花粉     -     -     -     -     1     -       サナエタデ節ーウナギツカミ節     -     -     -     1     -       キンポウゲ科     -     -     -     1     -       セリ科     -     -     -     1     -       ヨモギ属     -     -     -     9     -       他のキク亜科     -     -     -     -     -     -       タンポポ亜科     1     -     -     -     1     -       不明花粉     -     -     -     1     92     1       合計     -     -     -     1     0     0     18     0       不可花粉     0     0     0     0     1     0     0     1     0       文グ類胞子     0     0     0     0     1     92     1       総計(不明を除く)     1     0     1     1     1     1     1     1     1     1     1     1     1     1 <t< th=""><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></t<>									
スギ属       -       -       1       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       - <td>種</td> <td>類</td> <td>試料番号</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>19</td>	種	類	試料番号	13	14	15	16	17	19
コナラ属コナラ亜属       7 - 7 - 7         草本花粉       2 - 1         イネ科       1 - 1         サナエタデ節ーウナギツカミ節       1 - 1         キンポウゲ科       1 - 1         セリ科       1 - 1         ヨモギ属       9 - 1         他のキク亜科       4 - 4         タンポポ亜科       1 12 - 12         不明花粉       1 92 1         合計       **         木本花粉       0 0 1 0 7 0         草本花粉       1 0 0 0 18 0         不明花粉       0 0 0 12 0         ジダ類胞子       0 0 0 12 0         ジダ類胞子       0 0 0 1 92 1	木本	花粉							
草本花粉       2 -         イネ科       1 -         サナエタデ節ーウナギツカミ節       1 -         キンポウゲ科       1 -         セリ科       1 -         ヨモギ属       9 -         他のキク亜科       4 -         タンポポ亜科       1 12 -         不明花粉       12 -         シグ類胞子       1 92 1         合計       **         木本花粉       0 0 1 0 7 0         草本花粉       1 0 0 0 18 0         不明花粉       0 0 0 12 0         シグ類胞子       0 0 0 12 0         シグ類胞子       0 0 0 1 92 1	ス	ギ属		_		. 1	_	_	
イネ科       -       -       -       2       -         サナエタデ節ーウナギツカミ節       -       -       -       1       -         キンポウゲ科       -       -       -       1       -         セリ科       -       -       -       1       -         ヨモギ属       -       -       -       9       -         他のキク亜科       -       -       -       4       -         タンポポ亜科       1       -       -       -       -       -         不明花粉       -       -       -       1       92       1         合計       -       -       -       1       0       0       18       0         不可花粉       0       0       0       0       12       0         シダ類胞子       0       0       0       0       1       92       1	コ	ナラ属コナラ	亜属		<u>-</u>	_	_	7	
サナエタデ節ーウナギツカミ節       -       -       -       1       -         キンポウゲ科       -       -       -       1       -         セリ科       -       -       -       1       -         ヨモギ属       -       -       -       9       -         他のキク亜科       -       -       -       4       -         タンポポ亜科       1       -       -       -       -       -         不明花粉       -       -       -       1       92       1         合計       -       -       -       1       0       0       18       0         不本花粉       0       0       0       0       12       0         下明花粉       0       0       0       0       12       0         シダ類胞子       0       0       0       0       1       92       1	草本	· 花粉							
キンポウゲ科       -       -       -       1       -         セリ科       -       -       -       1       -         ヨモギ属       -       -       9       -         他のキク亜科       -       -       -       4       -         タンポポ亜科       1       -       -       -       -       -         不明花粉       -       -       -       1       92       1         合計       -       -       -       1       0       7       0         草本花粉       1       0       0       0       18       0         不明花粉       0       0       0       0       12       0         シダ類胞子       0       0       0       0       1       92       1	イ	ネ科		_		_	_	2	_
セリ科     -     -     -     1     -       ヨモギ属     -     -     9     -       他のキク亜科     -     -     4     -       タンポポ亜科     1     -     -     -     -       不明花粉     -     -     -     12     -       シダ類胞子     -     -     -     1     92     1       合計     -     -     -     1     0     7     0       草本花粉     1     0     0     0     18     0       不明花粉     0     0     0     0     12     0       シダ類胞子     0     0     0     1     92     1	サ	ナエタデ節―	ウナギツカミ節		_	***		1	
ヨモギ属       -       -       9       -         他のキク亜科       -       -       4       -         タンポポ亜科       1       -       -       -       -         ・フリグ類胞子       -       -       -       1       92       1         合計       -       -       -       1       0       7       0         草本花粉       1       0       0       0       18       0         不明花粉       0       0       0       0       12       0         シグ類胞子       0       0       0       1       92       1	キ	ンポウゲ科		_	_	_	_	1	_
他のキク亜科 タンポポ亜科     1     -     -     4     -       不明花粉     -     -     -     12     -       シダ類胞子 シダ類胞子     -     -     1     92     1       合計 木本花粉     0     0     1     0     7     0       草本花粉     1     0     0     18     0       不明花粉     0     0     0     0     12     0       シダ類胞子     0     0     0     1     92     1	セ	:リ科		_	_	_		1	_
タンポポ亜科     1     ー     ー     ー     ー       不明花粉     ー     ー     ー     ー     ー     ー       シダ類胞子     ー     ー     ー     ー     1     92     1       合     計       木本花粉     0     0     1     0     7     0       草本花粉     1     0     0     0     18     0       不明花粉     0     0     0     0     12     0       シダ類胞子     0     0     0     1     92     1				_	_			9	_
不明花粉     ー ー ー 12 ー       シダ類胞子     ー ー ー 1 92 1       合 計     本本花粉     0 0 1 0 7 0       草本花粉     1 0 0 0 18 0       不明花粉     0 0 0 0 12 0       シダ類胞子     0 0 0 1 92 1	他	2のキク亜科		_		_	_	4	_
シダ類胞子     一     一     一     1     92     1       合計     木本花粉     0     0     1     0     7     0       草本花粉     1     0     0     0     18     0       不明花粉     0     0     0     0     12     0       シダ類胞子     0     0     0     1     92     1	タ	ンポポ亜科		1			_	_	
シダ類胞子     ー ー ー 1 92 1       合計     ***       木本花粉     0 0 1 0 7 0       草本花粉     1 0 0 0 18 0       不明花粉     0 0 0 0 12 0       シダ類胞子     0 0 0 1 92 1	不	明花粉		_		_	_	12	_
合計     水本花粉     0     0     1     0     7     0       草本花粉     1     0     0     0     18     0       不明花粉     0     0     0     0     12     0       シダ類胞子     0     0     0     1     92     1	シダ	*類胞子							
木本花粉     0     0     1     0     7     0       草本花粉     1     0     0     0     18     0       不明花粉     0     0     0     0     12     0       シダ類胞子     0     0     0     1     92     1	シ	/ダ類胞子		_	_	_	1	92	1
草本花粉1000180不明花粉0000120シダ類胞子0001921	合	計							
不明花粉0000120シダ類胞子0001921	木	本花粉		0	0	1	0	7	0
シ <b>ダ類</b> 胞子 0 0 1 92 1	草	本花粉		1	0	0	0	18	0
				0	0	0	0	12	0
総計(不明を除く) 1 0 1 1117 1	シ	ダ類胞子		0	0	0	1	92	1
	終	計(不明を除	( )	1	0	1	1	117	1

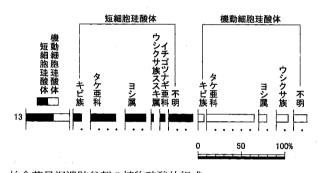


図 4 柏倉芳見沢遺跡谷部の植物珪酸体組成 (出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体 の総数を基数として百分率で算出した。)

表 5 植物珪酸体分析結果

20	超的红欧什么。	11/11/1				
種	類	試料番号	13			
イネ	イネ科葉部短細胞珪酸体					
丰	ビ族		22			
タ	ケ亜科		64			
Ξ	シ属		53			
ウ	シクサ族ススキ	属	6			
イ	チゴツナギ亜科		13			
不	明キビ型		38			
不	明ヒゲシバ型		15			
不	明ダンチク型		9			
イネ	科葉身機動細胞	珪酸体				
キ	ビ族		9			
タ	ケ亜科		71			
3	シ属		12			
ウ	シクサ族		18			
不	明		20			
合	計					
イ	ネ科葉部短細胞	珪酸体	220			
イ	ネ科葉身機動細	胞珪酸体	130			
総	計		350			

科が多い。また、短細胞珪酸体ではヨシ属の産出が目立った(表 5・図 4)。この結果から、当時の谷内あるいはその付近にはタケ亜科やヨシ属などのイネ科植物が生育していた可能性がある。今後、植物珪酸体の産状について層位的変化を捉えることにより、本層堆積時の植生に関する情報の一端が得られるものと思われる。

## Ⅲ、炭窯から出土した炭化材の樹種

#### 1. 炭化材同定

## (1) 試料

試料は、柏倉芳見沢遺跡第2号炭窯から出土した炭化材である。炭化材は一袋中に一括採取された状態でまとめられていた。そのため、各試料の接合関係を確認した上で、比較的大きい炭化材を中心に18点を選択した。

## (2) 分析方法

木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

#### (3) 結果

炭化材は、全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。以下に、試料の主な解剖学的特徴や 現生種の一般的な性質を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris.) ブナ科

炭化材はいずれも硬く、各断面を作成するのが困難な状況で、木口面のみの観察。環孔材で孔圏部は1列、孔 圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。放射組織は、単列のものと複合放射組 織とがある。

## (4) 考察

炭窯から出土した炭化材は、全てクヌギ節であった。日本に生育するクヌギ節には、クヌギとアベマキの2種がある。アベマキは、主に西日本に多く生育しており、関東地方にはほとんど生育していない。一方、クヌギは、関東地方の二次林(雑木林)の主構成種であり、関東平野および周辺の低山地に普通にみられる種類である。したがって、今回のクヌギ節についてもクヌギの可能性が高い。クヌギの木材は、重硬で強度が高く、薪炭材としては国産材の中でも特に優良な種類の一つとされる(平井,1979)。点数は少ないが、同定した全点がクヌギ節であることから、製炭する種類を選択していた可能性がある。

赤城山南麓では、二之宮千足遺跡の花粉分析結果で、古代に相当する層でコナラ亜属を主とする組成が得られている(パリノ・サーヴェイ株式会社、1992)。本遺跡周辺では、市之関前田遺跡で花粉分析を行っているが、本遺跡と同様に花粉化石がほとんど検出されていない。僅かながら検出された花粉化石を見ると、二之宮千足遺跡の分析結果と矛盾しない種類であり、二之宮千足遺跡と同様の植生が見られた可能性が指摘されている。このことから、本遺跡周辺にもコナラ亜属(クヌギ節・コナラ節)が生育しており、薪炭材としてこれらを入手していたが可能性がある。

製炭した木炭は、何らかの生産活動に伴う燃料材等としての利用が考えられる。赤城山南麓では、古代の製鉄関連遺跡が広く分布している(群馬県勢多郡町村教育委員会事務研究会社会教育部会文化財分会編,2003)。本遺跡に比較的近い大胡町乙西尾引遺跡でも製鉄炉と炭窯が検出されており、製鉄燃料材として木炭が利用されていたことが窺われる。この木炭の樹種同定結果ではクヌギ節が多くを占め、製鉄燃料材として主としてクヌギ節の木炭が利用されていたことが推定されている(山下ほか,1994)。この結果から、本遺跡で製炭された木炭も、近隣の製鉄遺跡等に供給されていた可能性がある。ただし、赤城山南麓では、乙西尾引遺跡を除くと生産遺構で使用された燃料材の木材利用の分析事例が少ないため、今後さらに資料を蓄積し検証する必要がある。

## 引用文献

新井房夫(1962) 関東盆地北西部の第四紀編年、群馬大学紀要自然科学編,10,p.1-79。

群馬県勢多郡町村教育委員会事務研究会社会教育部会文化財分会編(2003) 勢多郡文化財ニュース,№5.

平井信二 (1979) 木の事典 第2巻。かなえ書房。

町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰一姶良 Tn 火山灰の発見とその意義一。科学, 46, p.339-347.

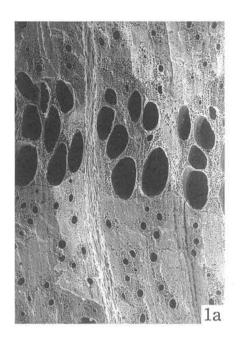
町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス。東京大学出版会, p.336.

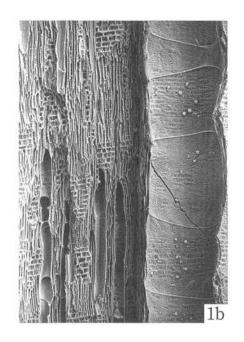
町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学―考古学研究と関係するテフラのカタログ―. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.

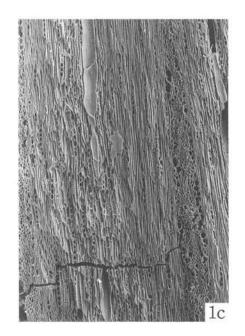
パリノ・サーヴェイ株式会社(1992) 二之宮千足遺跡の古環境解析、「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第125 集 二之宮千足遺跡 一般国道17号(上部道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(自然科学・分析編)」,建 設省・群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団,p.61-109。

早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312。

早田 勉 (1990) 群馬県の自然と風土。群馬県史編纂委員会編「群馬県史 通史編1 原始古代1」, p.37-129, 群馬県・鈴木正男 (1976) Fission Track 年代測定法の人類遺跡への二,三の応用例。日本第四紀学会講演要旨集,№5, p.24。山下 歳信・藤坂和延・高橋 敦・鶴原 明 (1994) 大胡西北部遺跡群 乙西尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡 「県営 ほ場整備事業大胡西北部地区」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集。大胡町教育委員会, p.117。







コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (a:木口×35, b:柾目×70, c:板目×70)

図版 1 柏倉芳見沢遺跡第 2 号炭窯出土炭化材

## 第5章 まとめ

## 第1節 旧石器時代

柏倉芳見沢遺跡において出土した石器群は、船底形の細石刃核に、石刃状の縦長剝片を素材とした削器・搔器等が伴う細石刃石器群である。同様の石器組成をもつ細石刃石器群は1951年・1973年に相澤忠洋氏によって調査された前橋市苗ヶ島町(旧宮城村大字苗ヶ島)に所在する枡形遺跡が学史的に著名であったものの、その後類例がなかなか見つからなかったことによりその位置づけが困難なものであった。1990年本遺跡の発掘調査により、これらの石器群が浅間板鼻黄色軽石層直下の関東ローム層最上部に出土層位をもつことが明らかにされた。

1987年には削片系細石核に荒屋型彫器・角二山形搔器などの豊富な石器群をもつ前橋市荒子町頭無遺跡が本遺跡同様、浅間板鼻黄色軽石層直下の関東ローム層最上部に出土層位をもち、また1989年には前橋市市之関町(旧宮城村大字市之関)に所在する市之関前田遺跡において稜柱形細石核に不定形な削器類を伴う石器群が、浅間白糸軽石混じり層から出土し、浅間板鼻褐色軽石群を含む層よりも確実に上位に包含され、石器群の構成の異なった各石器群が段階差をもって展開していたことがあいついで判明した。

こうした1980年代後半からの赤城山南麓における細石刃石器群の調査成果は、先行して1980年代前半から研究の進んだ厚い関東ローム層の堆積条件に恵まれた神奈川県相模野台地における層位的な細石刃石器群の出土例とともに、日本列島内における細石器文化の編年的な研究はもとより、旧石器時代終末から縄文時代の開始をめぐる研究に大きく寄与した。

このような意義をもつ本遺跡における調査の調査成果を記述することは紙数が尽きないが、石器群の特徴と遺跡に残された石器群のあり方、そして今後の研究課題の一部を列挙することによりまとめに代えたい。

## (1) 石器群の構成と石器製作

細石刃・細石刃核の剝片石器は、横長の剝片を素材とした削器 1 点を除いてすべてが、石刃状の縦長剝片を素材としたもの、縦長剝片そのものを石器として使用したものである。出土したその他の剝片類も、縦長剝片の剝片剝離と関連するものと考えられるものである。

細石刃核および細石刃核原形には2つのあり方がある。一方は船底形のもので、出土した2点は接合関係にあり、1点は縦長剝片を素材とし素材の腹面を細石核調整時の打面および細石刃剝離のための加撃面としたものであるが、素材剝片の剝片剝離作業を行った際の作業面を残しており、接合するもう1点の細石刃核は縦長剝片剝離を行った残核を素材としている。もう一方の細石刃核は分割された縦長剝片の尾部や頭部を素材とし、折れ面や折れ面を取り去ったものを加撃面として石核原形を準備するというものである。両者の素材準備は石刃状の縦長剝片剝離に求められよう。

## (2) 縦長剝片の剝離

本石器群の主体となる部分は、縦長剝片の連続剝離技法のもとにあるものと考えられるが、第1ブロック以外において石核調整にかかる剝片・砕片類に乏しく、縦長剝片用の残核は認められず、剝片剝離工程の全容を明らかにすることは困難であるが、接合資料や個々の資料の観察により、ある程度の剝片剝離工程については言及が可能である。

本遺跡から出土した縦長剝片類は、頭部調整が顕著に行われ、背面に原石の自然面を何らかの形で残した例が大半を占める。背面に残された剝片剝離作業痕は打面方向からの一方向のものが大半を占めている。接合資料2において打面転移を行った可能性が認められるものの、打面転移を行った例は稀少である。一部打面再生剝片とおぼしき資料が存在するものの、打面は平坦打面のものが多く、複剝離打面のもの、打面調整を行ったものは稀少である。

以上の観察所見から、本遺跡出土の縦長剝片は、原石を粗割りしたものを石核として利用し、粗割りした際の 剝離面を打面として頭部調整を盛んに行いながら剝片剝離作業を繰り返す工程により大半が得られたであろうこ とが想定できよう。稜調整や側面調整などの石核調整は本石器群から見出すことは困難である。

## (3) 遺跡に残された石器をめぐる問題

剝片剝離作業によって生じた多数の小剝片や砕片類が配石や台石とともに出土した第1ブロック、石器の搬入が行われた第2ブロック、ブロックを構成する複数の遺物集中核の間で石器の移動が認められ、火を受けた痕跡が認められる石器も出土した第3ブロックというように、各ブロック間の石器の出土状況はそれぞれ対照的なも

のであったが、狭義の石器とされるものは各集中部において周辺部に出土する点では共通していた。また、狭義 の石器や目的的な剝片である縦長剝片は個体別資料において単独のものも多く、搬入品と考えられるものである。

第1ブロック以外のブロックでは、何らかの石器製作が行われた可能性は排除できないものの、積極的に剝片 剝離作業を行った証拠が乏しい。接合資料の分析を行っても、接合資料2以外は、本遺跡以外の場所で剝片剝離 作業が行われたものが搬入されたと考えてもおかしくない資料である。接合資料の観察所見では直径が数十cmに およぶ原石が想定されるものがあり、こうした原石の産出地は利根川水系の上流部が予想され、

本遺跡の黒色頁岩製の石器はそうした場である程度の加工が行われたものが持ち込まれたものとの理解が可能であるう。

各ブロックの分析を行い、場を想定するにはいくつかの解釈が可能であり、ここでは措くとしても、各ブロックにおける石器の遺存状態からは、本遺跡に石器群を残した人が滞在した期間は短かったことが予想される。

#### (4) 柏倉芳見沢遺跡の細石刃石器群の位置づけをめぐって

柏倉芳見沢遺跡の石器群はその出土層位から、稜柱形細石刃核をもつ細石刃石器群である市之関前田遺跡より も新しい段階の石器群として理解され、削片系細石核をもつ細石刃石器群である頭無遺跡出土の石器群との時間 的な関係が併存か先行か後出かをめぐっていくつかの意見が出されてきた。

火山灰編年より市之関前田遺跡と柏倉芳見沢遺跡・頭無遺跡との時間的な位置関係は確定しているが、最近調査された群馬県新田郡笠懸町馬見岡遺跡においては黒曜石の稜柱形細石刃核をもつ石器群と東北系の硬質頁岩のスキー状削片と角二山形掻器とが供伴した可能性が高いと概報されている(小菅2004)。

柏倉芳見沢遺跡で出土した細石刃には東北系の硬質頁岩を石材としたものがあり、この細石刃を剝離した細石 刃核の形態がいかなるものか注意される。時期的に先行する細石刃石器群である市之関前田遺跡の細石刃にも東 北系硬質頁岩を石材とするものがあり、稜柱形・船底形・削片系の細石刃核をそれぞれもつ細石刃石器群をめぐっ て、時間的な前後関係や併存の問題、石器群を残した集団あるいは集団間の問題など新たな論点を迎えるにいたっ ている。

また、柏倉芳見沢遺跡の発掘調査以降、関東ローム層最上部から出土しながら位置づけが不明だった笠懸町北山遺跡の石器群が柏倉芳見沢遺跡・枡形遺跡との石器群の類似性が指摘されるようになってきた。北山遺跡の石器群は縦長剝片素材の搔器を主体とし、削器を主体とする柏倉芳見沢遺跡とは対照的な石器組成である。多彩な石器組成の枡形遺跡の石器群との比較から、船底形細石刃核をもつ石器群における人々の行動に迫れる可能性も出てきた。

発掘調査から15年を経て、細石刃石器群の研究は新たな段階を迎えている。細石刃石器群研究の深まりとともに、柏倉芳見沢遺跡の石器群をめぐる問題は重要性を深めるものとなろう。

## 第2節 縄文時代

第2章第2節にて述べたとおり、宮城村西部の市之関・柏倉地区には縄文時代前期前半〜中葉の集落が点在している。学史上著名な市之関遺跡をはじめ、市之関前田遺跡や柏倉大沢遺跡、そして本報告の柏倉芳見沢遺跡などがある。ここでは、各遺跡で検出された住居址や出土遺物の比較を通して、宮城村域における前期集落の変遷をみてゆきたい。

## A. 出土遺物

- ①柏倉芳見沢遺跡 刻み隆帯や有刻の平行沈線により区画された口縁部文様帯内に、撚糸側面圧痕による蕨手文や有刻の平行沈線による幾何学文を施し、余白に刺切文や円形刺突文を施す。地文は羽状構成をとる単節斜縄文を主体とし、結束縄文を伴う。これら出土遺物の様相から遺跡の主体となるのは二ツ木式期である。
- ②市之関遺跡 有刻ないし無刻の平行沈線により区画された口縁部文様帯内に、同様の工具による幾何学文を施し、余白には円形貼付文を充塡する。地文は単節斜縄文を主体とし、口縁部ないし胴部には半截竹管によるコンパス文を施すなど、遺跡の主体となるのは関山式期である。
- ③市之関前田遺跡 有刻ないし無刻の平行沈線により区画された口縁部文様帯内に鋸歯状等の幾何学的文を施し、胴部にも平行沈線による文様を施した文様帯を持つものもみられる。地文は単節斜縄文のほか正反の合や附加条縄文・組紐文がみられるようになる。また文様体内にも地文を施し、磨り消さないものも見られる。口縁部や胴部には半截竹管による崩れたコンパス文を施すものが多いが、櫛歯状工具による施文も見られる。これら文様上の特徴から遺跡の主体は市之関遺跡同様関山式期であるが、市之関遺跡に比べて後出的な要素が顕著と言え

よう。

④柏倉大沢遺跡 括れにより区画された口縁部文様帯内には、有刻ないし無刻の平行沈線による菱形等の幾何学文を施す。地文は羽状構成をとる単節斜縄文が主体で、文様帯を持たずに地文のみを施すものも多いなど、遺跡の主体は黒浜式期である。

このように、宮城村域の前期集落は、柏倉芳見沢遺跡→市之関遺跡→市之関前田遺跡→柏倉大沢遺跡と時期毎に場所を違えて構築される様子が認められる。

#### B. 住居址

①規模 一定の規模毎にまとまりが見られ、ここでは長軸3.2m・短軸2.8m以下のものを小型、長軸8m以上・短軸5m以上の大形、この中間に位置するものを中型とする。さらに中型も規模の大小がみられるため二分し、長軸4.5m・短軸3.5m前後のものを中型A・長軸6.5m・短軸4.5m前後のものを中型Bとする。

柏倉芳見沢遺跡では中型Aが3軒で中型Bが1件のみ、市之関遺跡では大型が1軒、市之関前田遺跡では中型B3軒・中型A2軒・小型1軒、また柏倉大沢遺跡では中型Bが2軒・中型Aが1軒である。各遺跡とも規模の大小が見られるが、柏倉芳見沢遺跡では中型Aが主体を占めるのに対し、市之関前田遺跡では小型・中型A・中型Bとそれぞればらつきが見られる点が特徴的であろう。

②平面形 いずれの遺跡でも平面形状は長方形ないし隅丸長方形を基本とするが、柏倉芳見沢遺跡・市之関遺跡・市之関前田遺跡では長短軸比1:1.5付近に集中して長方形状に近いものが多いのに対し、柏倉大沢遺跡では方形を基調とする住居址2軒が長短軸比1:1付近にあり、方形に近い形状を主体とすること確認される。また市之関前田遺跡でみられるように、小型の住居址や中型Aでも規模の小さいものは方形に近い形状を呈する傾向が窺える。

③柱穴 主柱穴配置は判然としないものも多いが、主柱穴配置のたどれるものを見てゆくと、柏倉芳見沢遺跡・市之関遺跡・市之関前田遺跡では6本柱のものが主体となるのに対し、柏倉大沢遺跡のみ4本柱とみられるものが検出されている(1住)。また壁柱穴や周溝も前者のみに見られるが、周溝を持つものは市之関遺跡・市之関前田遺跡のみで検出されており、柏倉芳見沢遺跡では検出されていない。

このように、主柱穴配置は柏倉芳見沢遺跡~市之関前田遺跡までは6本柱が主体をなし、柏倉大沢遺跡の段階で4本柱のものが出現するようである。また壁注穴は柏倉芳見沢遺跡~市之関前田遺跡の段階まで見られるが、柏倉大沢遺跡では姿を消す。また壁周溝は市之関遺跡~市之関前田遺跡の関山式段階のみ確認され、本村域では柏倉大沢遺跡では認められない。

④炉 いずれの遺跡でも石組炉が主体となるが、石組の形状から 3 大別され、A)炉中央に扁平な石を敷いて底石とし、底石の周囲 3 方向に「コ」字状に石を配置するものと、B)底石を敷き、その周囲の 1 ないし 2 方向に石を配置するもの、C)底石を持たずに炉壁面に石を配置するものなどが見られる。これらの内、A タイプは柏倉芳見沢遺跡・市之関遺跡・市之関前田遺跡のいずれにもみられるため、炉の基本形状の一つとみられるが、柏倉大沢遺跡では検出されていない。また B ・ C タイプの炉に関しては、住居廃絶後の破損(石の抜き取り等)を想定する必要があるものの、底石を敷き、奥壁方向にのみ石を配置するものは柏倉芳見沢遺跡 3 住・市之関前田遺跡12住に見られ、底石も奥壁に配置する石もそれぞれ 1 点のみと共通しており、炉の形状パターンの一つと捉えられる可能性がある。また炉に土器を埋設するものは市之関前田遺跡32住と柏倉大沢遺跡 1 住にみられるが、前者は石組炉に併設された土器埋設石組炉であり、後者は単独の土器埋設炉と相違点が見られる。

このように、A・Bタイプのように、底石を敷き周囲に礫を配置する炉は柏倉芳見沢遺跡〜市之関前田遺跡にかけてみられるものの、柏倉大沢遺跡では姿を消すなど、炉の構造が柏倉大沢遺跡段階に転換することが認められる。

⑤分布 市之関遺跡・柏倉大沢遺跡では調査範囲が限られているため判然としないものの、柏倉芳見沢遺跡・市 之関前田遺跡ではいずれも、台地中央部を避けて縁辺部に構築される傾向が窺われ、等高線に平行ないし直交す るように長軸をとるものが多い。これは集落の位置する台地内の位置や台地の幅とも関連があろう。

これらのことから、宮城村域は前期前半〜中葉にかけて、集落域として連綿と活発に利用されていたことが確認される。また住居の構造は柏倉大沢遺跡の段階で大きな転機を迎えるものの、柏倉芳見沢遺跡〜市之関前田遺跡にかけては基本的な構造が共通するとともに漸移的な変遷をたどることができ、大規模な集落が展開する市之関遺跡・市之関前田遺跡の段階の祖形として柏倉芳見沢遺跡があることが看取される。

本稿では遺跡内の集落構造の分析や周辺地域との比較を行うことができなかったため、今後の検討課題とした

注1) 市之関前田遺跡 II (小川2005) では用語が不統一であったが、ここでは炉の構築にあたり石が用いられているものや炉とみられる範囲内にて礫が検出されているものは石組炉とした。市之関遺跡・柏倉大沢遺跡も同様に扱う。

## 参考文献

柿沼恵介 1986 『分郷八崎遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

谷藤保彦・小野和之 1986 『中畦遺跡 諏訪西遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

谷藤保彦·小野和之 1987 『三原田城遺跡 八崎城址·八崎塚 上青梨子古墳』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 尾崎喜佐雄編 1988 『市之関遺跡』

水田 稔 1991 『柏倉大沢遺跡』群馬県教育委員会

谷藤保彦 1997 『神保植松遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

谷藤保彦 1997 「北関東地域における前期中葉土器群の実相」『第10回縄文セミナー 前期中葉の所様相』縄文セミナー の会

石坂 茂・大工原豊 2001 「群馬県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の所様相』縄文時代文 化研究会

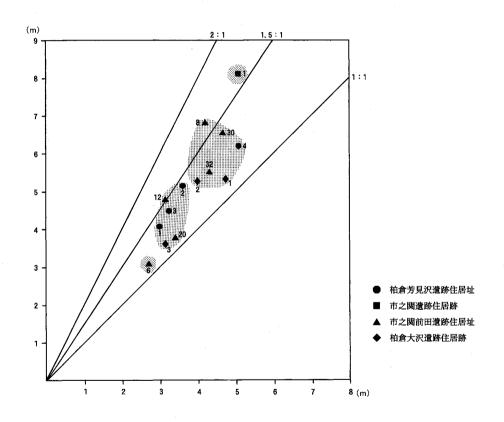
大工原豊ほか 2001 『安中市史 第4巻 原始古代中世資料編』安中市市史刊行委員会

山下歳信 2002 『堀越丁二本松B地点遺跡 大胡神社前遺跡 養林寺裏遺跡』大胡町教育委員会

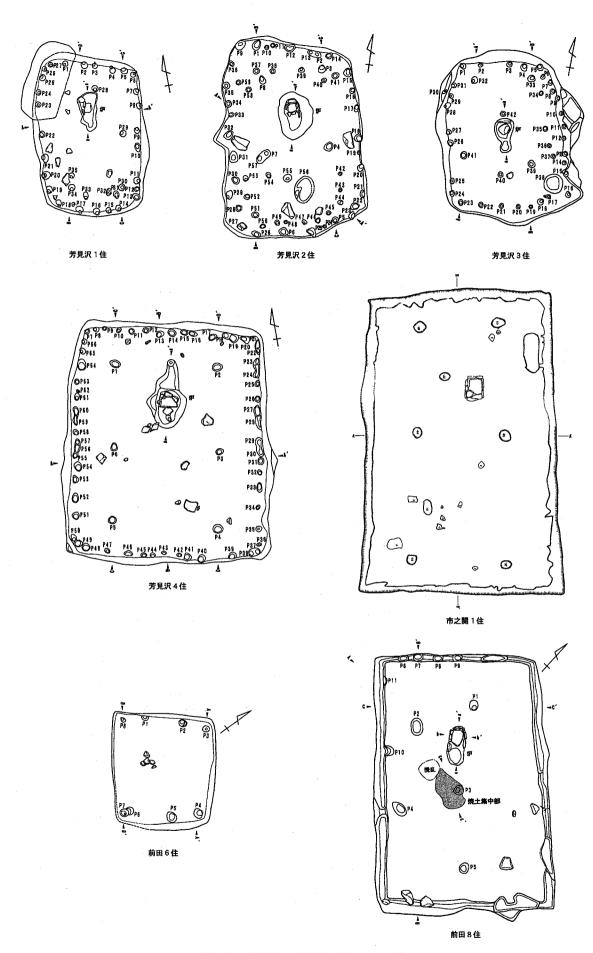
小川卓也 2005 『市之関前田遺跡II』前橋市教育委員会

第16表 縄文時代前期住居址計測表

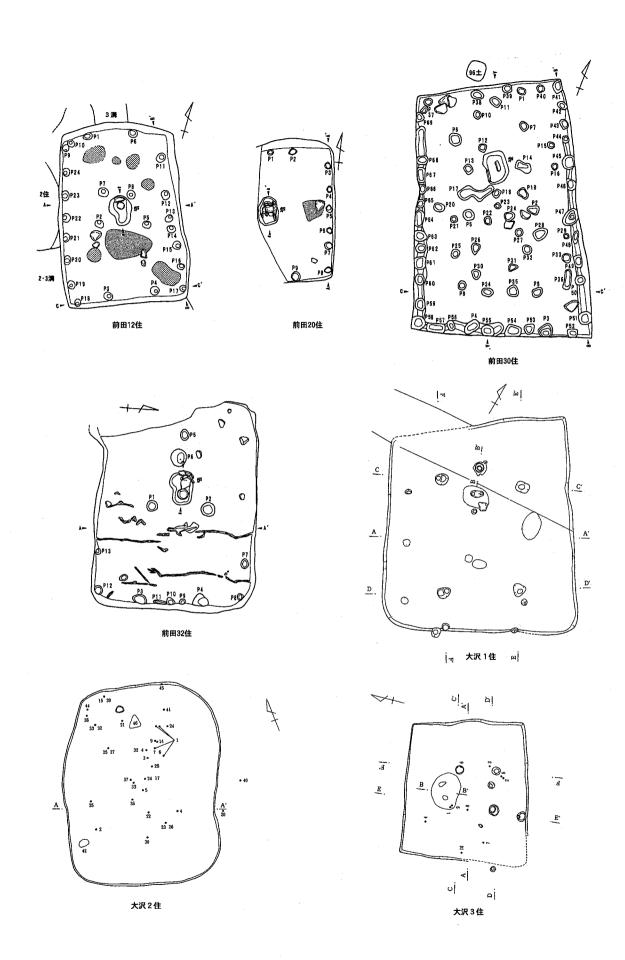
遺跡名	遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	長短比	主軸方位	主柱穴	壁柱	穴	周溝	炉 (注1)	備考	Î
	1 住	4.06	2.95	1.38	N-13°-E	不 明	あ	り	なし	石組炉		
柏倉芳見沢遺跡	2 住	5.16	3.62	1.43	N-8°-W	6本?	あ	ŋ	なし	石組炉		·
怕息万克水嘎哟	3 住	4.51	3.25	1.39	N-17°-W	不 明	あ	ŋ	なし	石組炉		
	4 住	6.21	5.11	1.22	N-10°-E	6 本	あ	り	なし	石組炉		
市之関遺跡		約8.1	約5.1	1.59	N-33°-W	6 本	あ	ŋ	あり	石組炉		
	6 住	3.07	2.71	1.13	N-54°-W	6本?	な	し	なし	なし		
	8 住	6.83	4.18	1.63	N-43°-W	不明	な	し	あり	石組炉		
	12 住	4.77	3.16	1.51	N-19°-W	6 本	あ	り	なし	石組炉		
市之関前田遺跡	20 住	3.77	約3.4	1.11	N-6°-W	不 明	あ	り	なし	石組炉		
	30 住	6.54	4.64	1.41	N-20°-E	6 本	あ	り	あり	石組炉?		
	31 住	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	あ	り	なし	石組炉?		
	32 住	5.5	4.28	1.29	N-87°-W	6本?	な	し	なし	土器埋設石組炉		
	1 住	5.32	4.75	1.15	N-30°-W	4 本	な	し	なし	土器埋設炉・石組炉		
柏倉大沢遺跡	2 住	5.25	3.98	1.32	N-21°-E	不 明	な	し	なし	なし	住居址ではない可能性	生あり。
	3 住	3.61	3.15	1.15	N-77°-E	不 明	な	し	なし	石組炉		



第89図 縄文時代前期住居址の規模



第90図 村内縄文時代前期住居址集成①

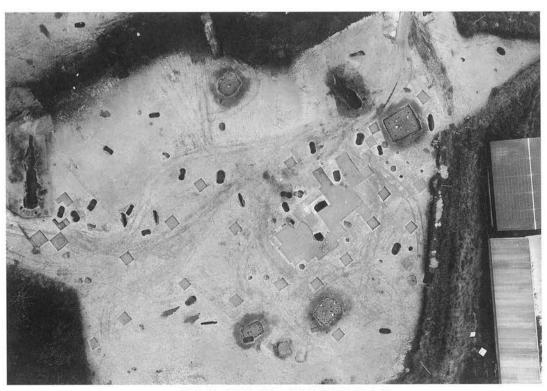


第91図 村内縄文時代前期住居址集成②

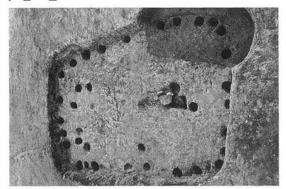
# 写 真 図 版



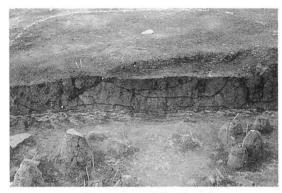
1. 柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡全景



2. 柏倉芳見沢遺跡旧石器時代調査区全景



1. 第1号住居址



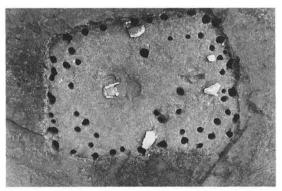
2. 第1号住居址土層観察状況



3. 第1号住居址遺物出土状況



4. 第1号住居址炉址



5. 第2号住居址



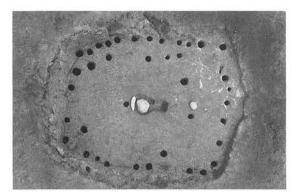
6. 第2号住居址土層観察状況



7. 第2号住居址遺物出土状況



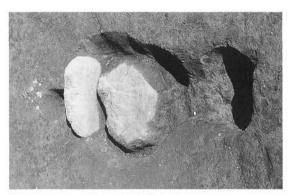
8. 第2号住居址炉址



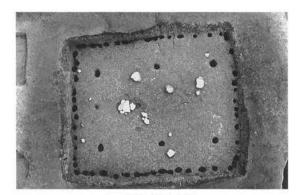
1. 第3号住居址



2. 第3号住居址土層観察状況



3. 第3号住居址炉址



4. 第4号住居址



5. 第4号住居址土層観察状況①



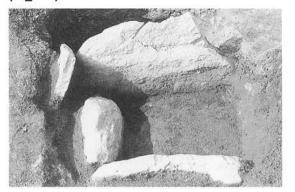
6. 第4号住居址土層観察状況②



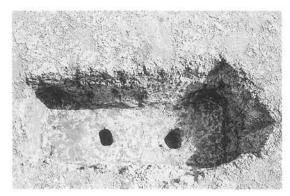
7. 第4号住居址遺物出土状況



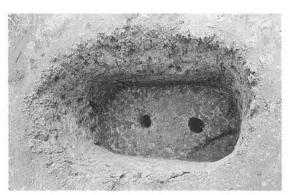
8. 第4号住居址炉址



1. 第1号屋外炉



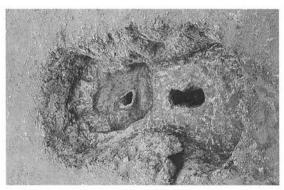
2. 第1号土坑



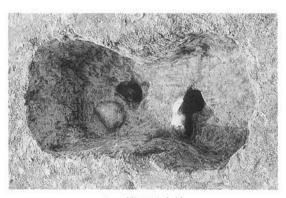
3. 第2号土坑



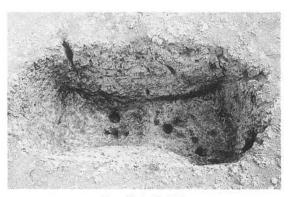
4. 第3号土坑



5. 第4号土坑



6. 第5号土坑



7. 第6号土坑



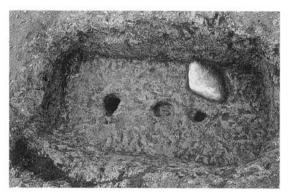
8. 第7号土坑



1. 第8号土坑



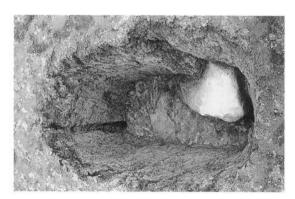
2. 第9号土坑



3. 第10号土坑



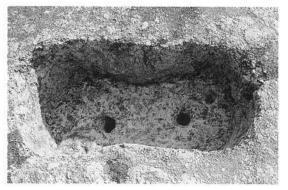
4. 第11号土坑



5. 第12号土坑



6. 第13号土坑



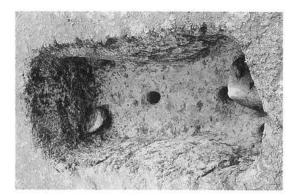
7. 第14号土坑



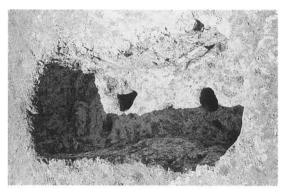
8. 第15号土坑



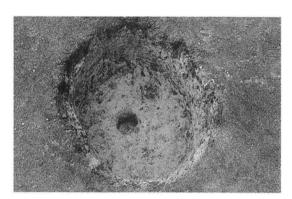
1. 第16号土坑



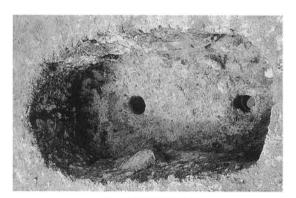
2. 第17号土坑



3. 第18号土坑



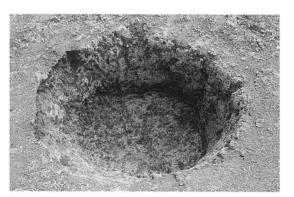
4. 第19号土坑



5. 第20号土坑



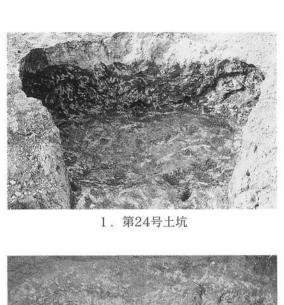
6. 第21号土坑

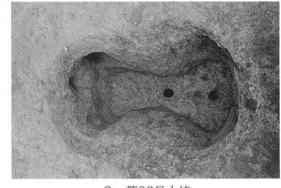


7. 第22号土坑

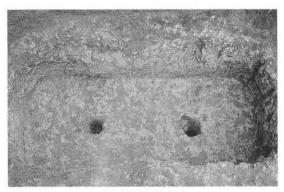


8. 第23号土坑

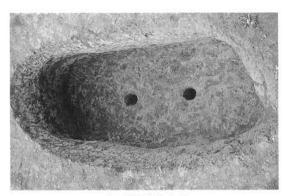




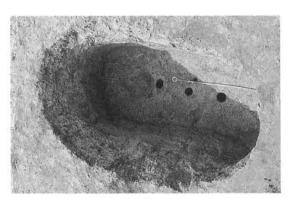
2. 第26号土坑



3. 第29号土坑



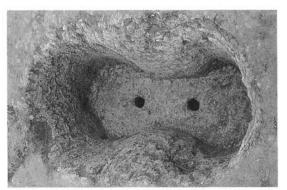
4. 第31号土坑



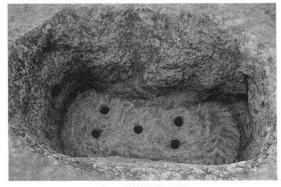
5. 第32号土坑



6. 第33号土坑



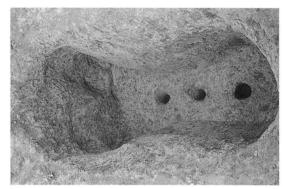
7. 第34号土坑



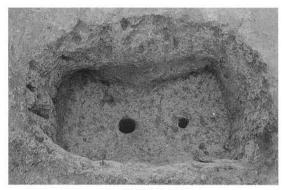
8. 第35号土坑



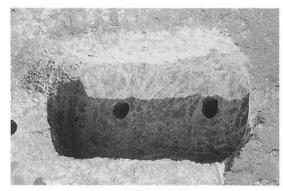
1. 第36号土坑



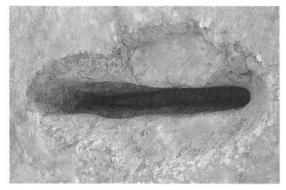
2. 第37号土坑



3. 第38号土坑



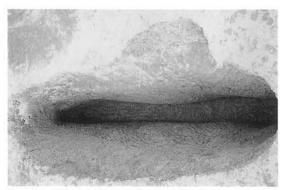
4. 第40号土坑



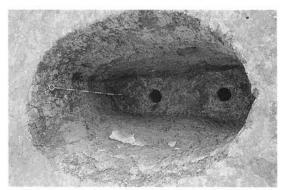
5. 第41号土坑



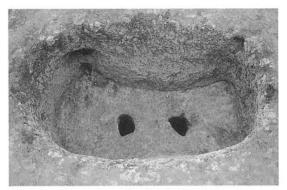
6. 第42号土坑



7. 第43号土坑



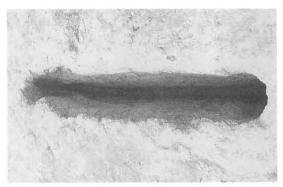
8. 第44号土坑



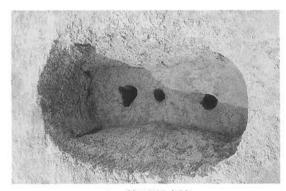
1. 第45号土坑



2. 第47号土坑



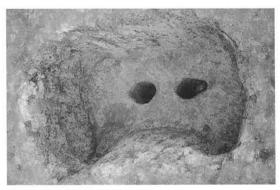
3. 第48号土坑



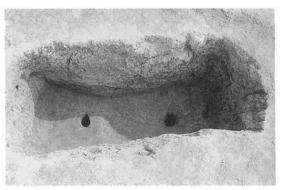
4. 第49号土坑



5. 第50号土坑



6. 第51号土坑



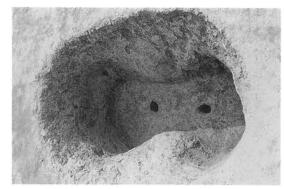
7. 第52号土坑



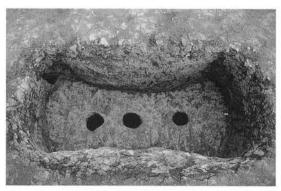
8. 第53号土坑



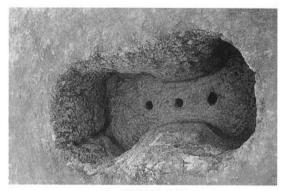
1. 第54号土坑



2. 第56号土坑



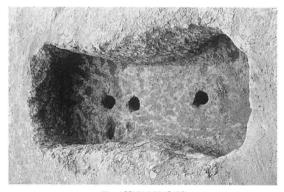
3. 第58号土坑



4. 第59号土坑



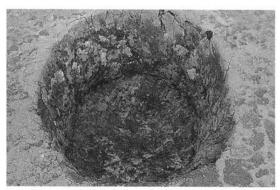
5. 第63号土坑



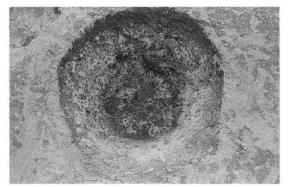
6. 第64号土坑



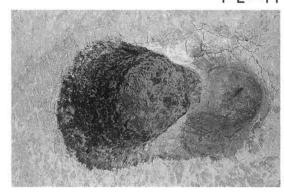
7. 第66号土坑



8. 第67号土坑



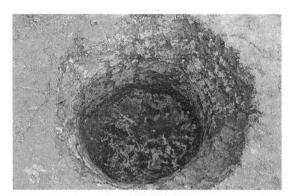
1. 第68号土坑



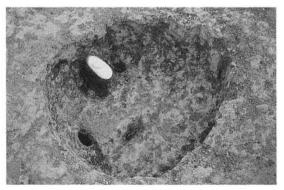
2. 第70号土坑



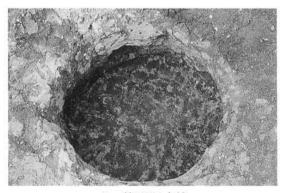
3. 第72号土坑



4. 第73号土坑



5. 第75号土坑



6. 第76号土坑



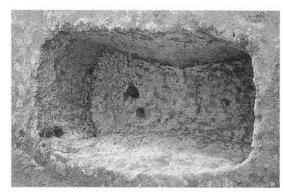
7. 第77号土坑



8. 第78号土坑



1. 第79号土坑



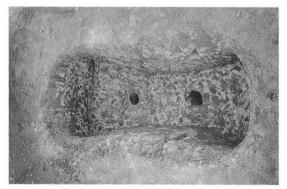
2. 第80号土坑



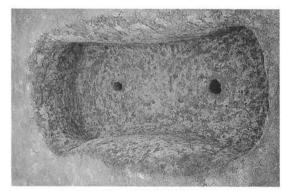
3. 第81号土坑



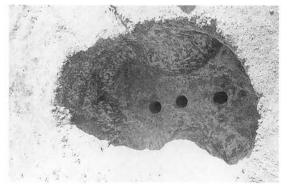
4. 第82号土坑



5. 第83号土坑



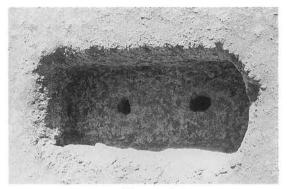
6. 第84号土坑



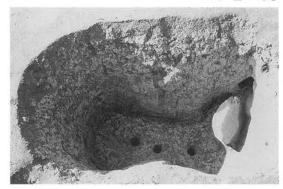
7. 第85号土坑



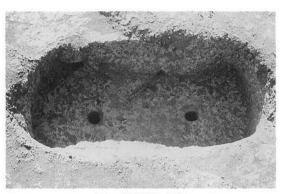
8. 第86号土坑



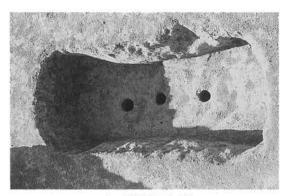
1. 第87号土坑



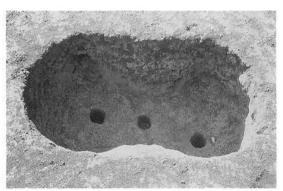
2. 第88号土坑



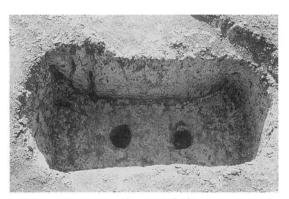
3. 第89号土坑



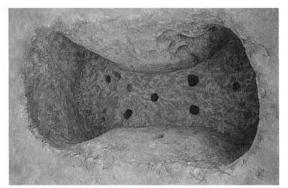
4. 第90号土坑



5. 第91号土坑



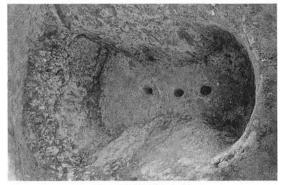
6. 第100号土坑



7. 第101号土坑



8. 第102号土坑土層観察状況



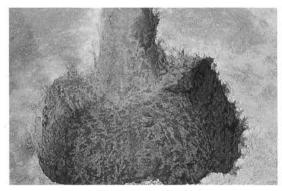
1. 第102号土坑



2. 第103号土坑



3. 第104号土坑



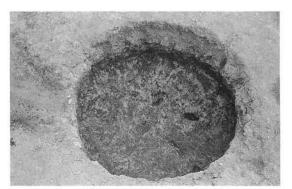
4. 第105号土坑



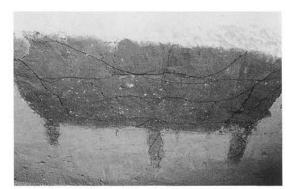
5. 第107号土坑



6. 第108号土坑



7. 第109号土坑



8. 第111号土坑土層観察状況



1. 第112号土坑



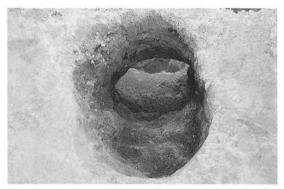
2. 第1号炭窯



3. 第1号炭窯土層観察状況①



4. 第1号炭窯土層観察状況②



5. 第1号炭窯煙道



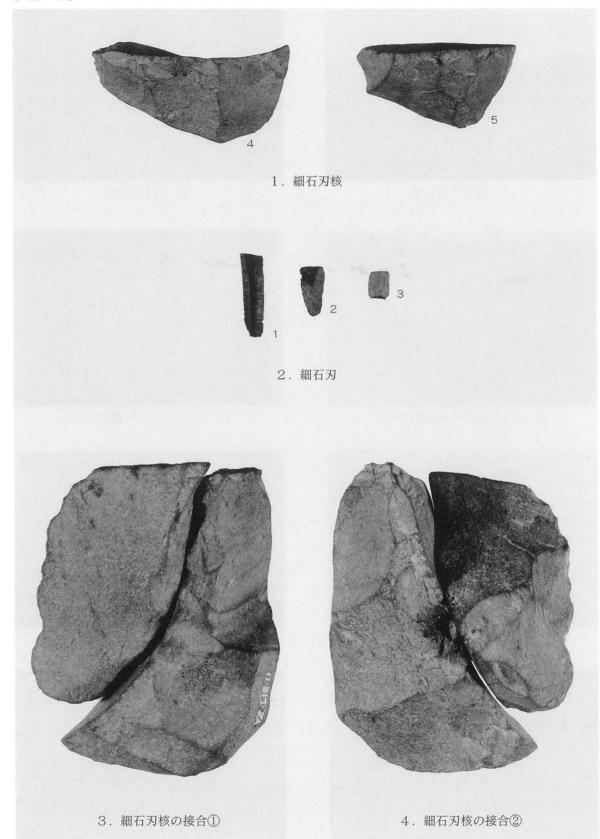
6. 第1号炭窯壁面地割れ痕

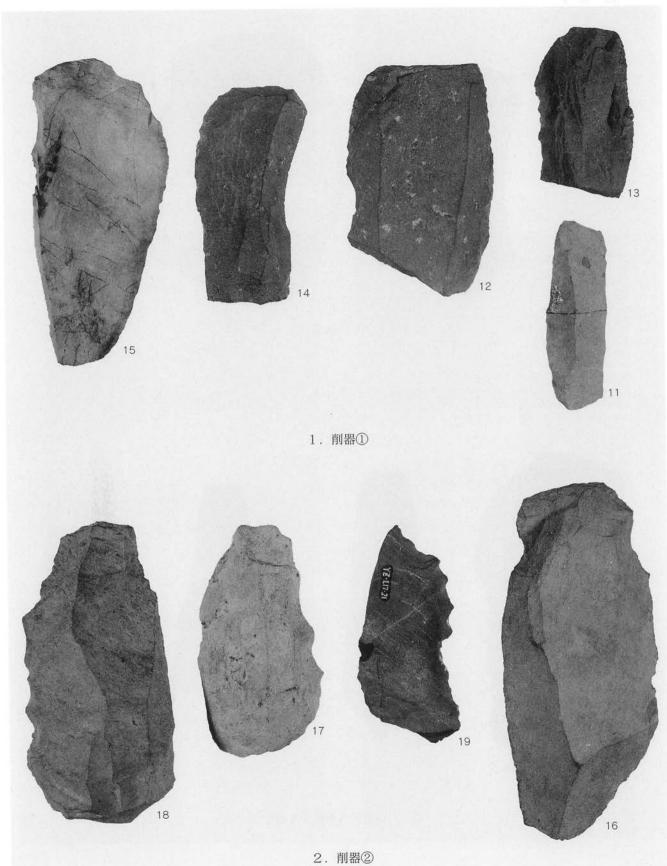


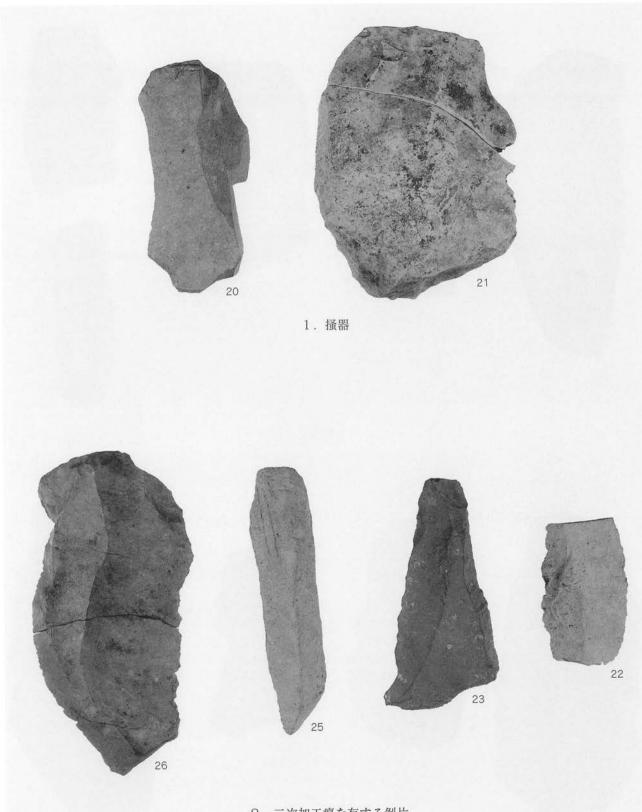
7. 第2号炭窯



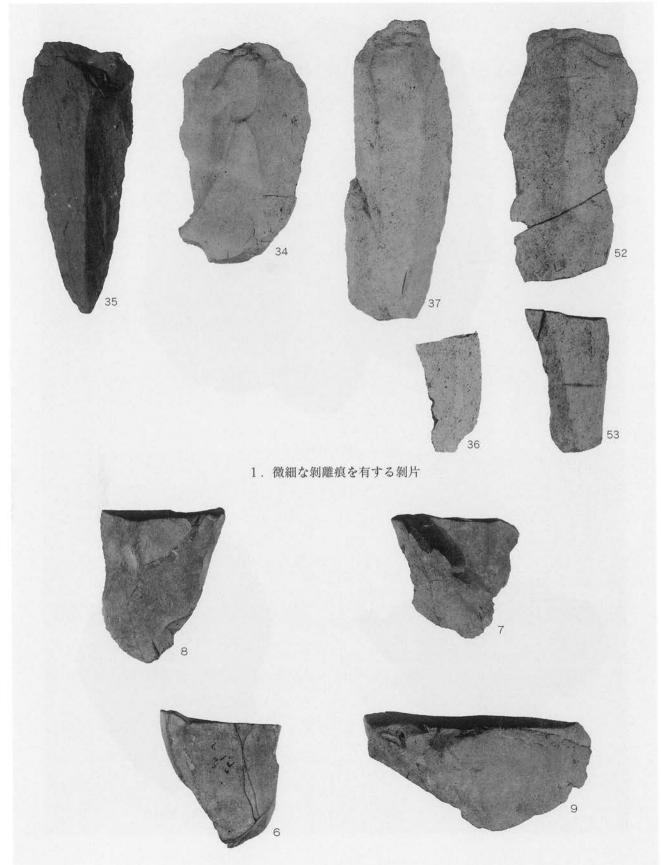
8. 第2号炭窯土層観察状況



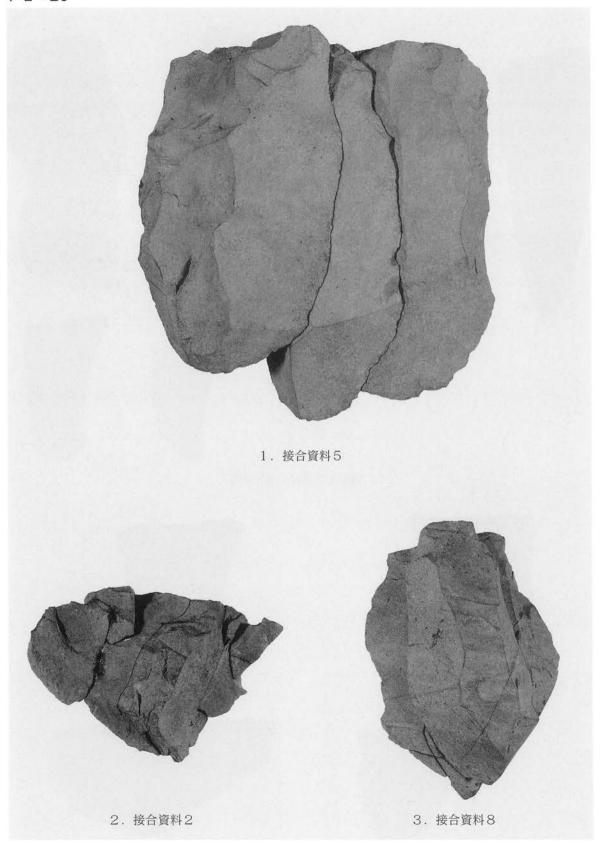


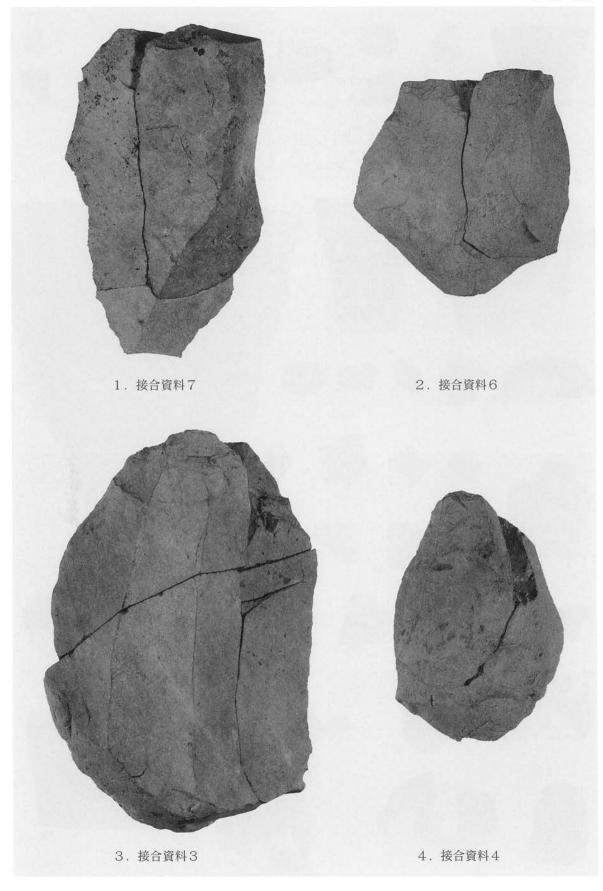


2. 二次加工痕を有する剝片



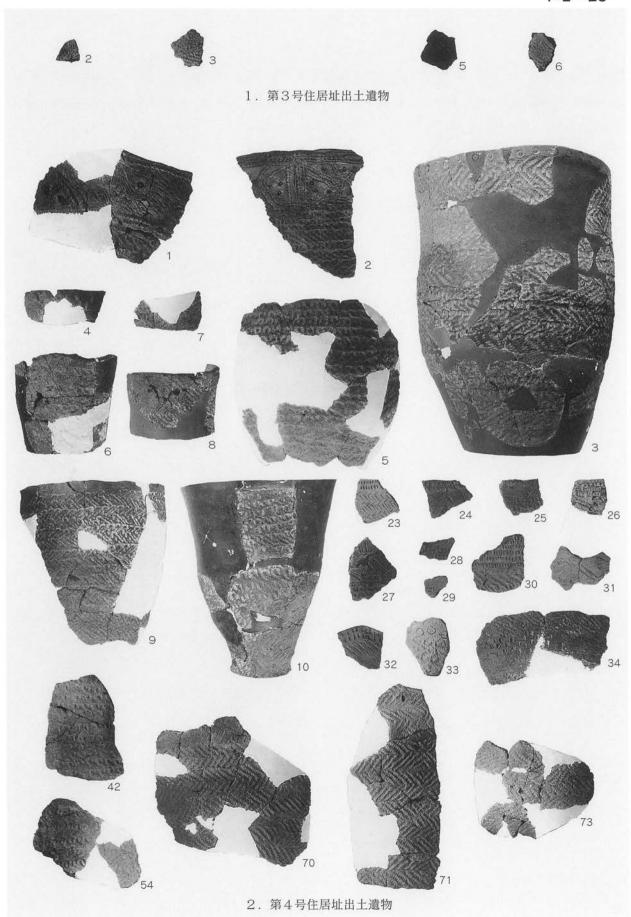
2. 細石核原形







2. 第2号住居址出土遺物



# 柏 倉 芳 見 沢 遺 跡柏 倉 落 合 遺 跡

2005年3月20日印刷 2005年3月25日発行

編集発行 前橋市教育委員会文化財保護課

群馬県前橋市三俣町2-10-2 〒371-0018 電話 027-231-9875

